して自由鑄造制度に就ては明治三十年の幣制改革の前後に於て多大の變遷あるを以て、以下項を分ちて之を說述すべし。

## 第一項　貨幣法施行前の自由鑄造制度

明治四年五月新貨條例を發布して金本位制度を採用するや、本位貨幣に就ては自由鑄造制度を採用することとし、同條例と相竝びて造幣規則を制定し、廣く內外人民の要望に應じて、其の輸納する金銀地金又は舊貨幣、外國貨幣を以て新貨を鑄造交付することとせり。同規則に於ける自由鑄造の要領は次の如し。

(一)　輸納を許すは品位竝に價格共詳明なる金地金及外國金貨幣は百五十オンス・トロイ（凡一貫二百四十二匁）以上とす（第三條）。

(二)　同前の銀地金は二千オンス・トロイ（凡十六貫五百六十匁）以上とす。此の場合は純銀十六に付純金一の割合を以て本位金貨を交付するも、若し一圓銀貨を望む者に對しては、造幣寮の都合に依り之を交付すべし（第四條）。但し後明治六年太政官布告第四百十二號を以て、原則として一圓銀貨を以て拂渡すこととせり。

(三)　品位竝價格詳明ならざる金銀地金等は假に受納し、試驗溶解の上分析して其の品位價格を明にし、若し造幣に適當する場合は(一)及(二)に準じて金銀貨を交付す（第五條）。又若し不適當の場合は輸納者に之を返却すると共に、別に定むる分析手數料を徵す（第六條）。

(四)　本位金貨の鑄造手數料は當分の內百分の一、一圓銀貨は同じく百分の二とす（第九條第十條）。

後ち明治七年九月太政官布告第九十五號を以て一圓銀の鑄造手數料は百分の一半に低減す。

(五)　磨損せし本位金貨幣は千分の五、一圓銀貨幣は千分の十の手數料を以て再鑄に應ず（第十二條）。

(六)　二千オンス・トロイ（凡十六貫五百六十匁）以上の一分銀、百オンス・トロイ（凡八百二十八匁）以上の墨西哥弗の再鑄希望者あるときは開港場に於て受納す（第十三條）。

斯くして造幣寮は明治四年六月差當つて政府所要の貨幣を鑄造し終へたるを以て、同月十六日より同寮を公開し、翌七月貨幣の拂渡竝に地金受取の業務を御用爲替座三井次郎右衞門及同八郎右衞門の兩人に命じ、又同月造幣寮及開港場に於ける一分銀の受取方を定め、以て廣く內外人民の希望に應じて其の輸納地金を以て盛に新貨の鑄造を行ひたり。

右造幣規則は制定以後必要に應じて數次の改正を見しが、殊に工業の進步、金融機關の發達等造幣上にも影響を及ぼすものありしを以て、明治八年四月太政官布告第六十二號を以て其の全文を改正したり。新規則に於ては地金の輸納は內地人民は在大阪の三井組、外國人民は在神戶の東洋銀行の手を經るものとしたる外、自由鑄造又は品位證明に關する實質的改正は多からずして、單に金銀地金の輸納制限量を金五十オンス（凡四百十四匁）、銀千オンス（凡八貫二百八十匁）に低下したるに過ぎず、造幣手數料等は舊率の儘としたり。然るに本規則も亦十一年五月に至り一部改正せられ、銀輸納制限量は五百オンス（凡四貫百四十匁）に低下せられ、更に貿易銀（二圓銀）の鑄造手數料竝に磨損再鑄手數料は夫々百分の一及千分の五に低減せられ、本位金貨と同一となれり（太政官布告第十三號）。之れ卽ち我幣制上に於ける銀の地位向上に伴ふものにして、金本位制度より事實上の金銀複本位制度への轉移を示すものに外ならざるなり。尙ほ改正造幣規則第七條には、造幣不適當の金銀竝に金銀混合地金の精製

に關して規定せるも、其の實際の手續竝に手數料等に關する規定存せざりしを以て、同十一年七月大藏省甲第二十四號布達を以て新に精製分析所規則を定め、又翌十二年に至り大藏省は時勢の要求に應じ、內外人民の便益を圖るの目的を以て、同省內に造幣局出張所を設置し、金銀地金輸納の事務を行ふこととし、同年十月同省甲第百一號布達を以て造幣地金受取方規則を公布し、翌十三年二月五日より其の事務を開始したり。斯くの如く精製分析所規則造幣地金受取方規則等、造幣規則附隨の諸規則漸次制定せられしのみならず、明治八年制定の造幣規則中に於ても時日の經過と共に改正を要する點を多く生ずるに至り、殊に明治十六年には我國中央銀行として日本銀行の創立を見るに至りしを以て、同年五月前記の二規則を包含統一したる造幣規則を新に制定し、之と同時に右兩規則を廢止したり。新造幣規則の全文左の如し。

造幣規則（明治十六年五月二十六日太政官布達第十五號）

第一條　大阪造幣本局若クハ東京該出張所ニ輸入スル內外人民ノ金銀地金ハ左記ノ日ヲ除キ每日之レヲ受取ル可シ但時限ハ本局ニ於テハ午前九時ヨリ正午十二時迄トス出張所ニ於テハ同九時ヨリ正午一時迄トス

每日曜日　大祭日　臨時休暇　一月一日ヨリ三日マテ　一月五日　九月一日ヨリ十月三十一日マテ　十二月二十九日ヨリ三十一日マテ

第二條　非常ノ事アリテ休業スルトキハ速ニ其旨ヲ布達シ地金受取方ヲ止ム可シ

第三條　輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサル可シ但出張所ニ於テハ輸入高工程ニ超過スルトキハ受取方ヲ拒ムコトアル可シ

金地金　三拾ヲンス（トロイ）（凡貳百四拾八匁四分）

銀同地金　三百ヲンス（トロイ）（凡貳貫四百八拾四匁）

不純粹金銀地金　舊金銀貨幣　金銀混合地金　價格貳百圓

第四條　品位詳明ナル外國金銀貨幣ハ其品位ニ據テ受取ル可シ若シ試驗鎔解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ但出張所ニ於テハ其試驗鎔解ヲ要スル者ノ外ハ之ヲ受取ラサル可シ

第五條　品位詳明ナル金銀地金ハ照査試驗ヲ爲シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ若シ試驗鎔解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ

第六條　品位詳明ナラサル金銀地金或ハ內外國金銀貨幣ハ試驗鎔解ノ上試驗分析シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ

第七條　金銀地金若クハ內外國金銀貨幣ノ試驗鎔解ヲ要スル者其鎔解減ハ輸入人ノ負擔タル可シ

第八條　凡テ輸入ノ金銀地金ハ輸入人若クハ其代理者ヲ立會シメテ秤量シ本局ニ於テハ地金課長出張所ニ於テハ所長ノ假受取證ヲ交付シ試驗分析濟ノ上勘定書ニ試驗分析表ヲ添ヘ之ヲ輸入人ニ送付ス可シ

第九條　輸入人地金勘定書ノ旨ヲ承諾シ之ニ捺印シテ回付スルトキハ輸入地金ノ價額ニ對スル貨幣拂渡證書ヲ輸入人ニ交付シテ假受取證ト交換ス可シ但勘定書送付ノ日ヨリ三日以內ニ勘定書ヲ回付セサルトキハ承諾シタルモノト爲ス可シ

第十條　代リ貨幣ハ地金ヲ本局ニ輸入シタルトキハ日本銀行大阪又ハ神戶支店（若クハ代理店）出張所ニ輸入シタルトキハ日本銀行本店又ハ橫濱支店（若クハ代理店）ニ於テ左ノ期日ニ至リ之ヲ拂渡ス可シ但期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ日本銀行本店又ハ其大阪支店ニ於テ一日萬分壹ノ割引ヲ以テ前渡ヲ爲ス可シ

試驗濟ノ日ヨリ

本局ニ輸入シタルモノ　十日目

出張所ニ輸入シタルモノ　二十五日目

同



造幣適當金銀地金

| | | | |
|---|---|---|---|
| 精製分析ヲ要スル地金 | 壹萬圓未滿 | 同 | 十五日目 |
| | | 同 | 三十日目 |
| 同 | 三萬圓未滿 | 同 | 二十日目 |
| | | 同 | 三十五日目 |
| 同 | 七萬圓未滿 | 同 | 二十五日目 |
| | | 同 | 四十日目 |
| 同 | 七萬圓以上 | 同 | 三十日目 |
| | | 同 | 四十五日目 |

但右期日休暇ニ當ルトキハ翌日拂渡ス可シ

第十一條　鑄造料ハ金貨幣ハ千分ノ七銀貨幣壹圓ハ千分ノ拾ヲ收入ス可シ若シ試驗鎔解ヲ要スル地金ナレハ更ニ千分ノ壹ヲ收入ス可シ

第十二條　精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其地金千分中金銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セス

| | | |
|---|---|---|
| 不純粹金地金 | | |
| 千分中金九百分以上 | 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金壹圓 |
| 同　金八百五十分以上 | 同 | 金壹圓拾貳錢七厘 |
| 同　金八百分以上 | 同 | 金壹圓貳拾五錢四厘 |
| 同　金七百五十分以上 | 同 | 金壹圓三拾八錢壹厘 |
| 不純粹銀地金 | | |
| 千分中銀九百分以上 | 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金貳拾六錢三厘 |
| 同　銀八百五十分以上 | 同 | 金貳拾九錢 |
| 同　銀八百分以上 | 同 | 金三拾壹錢七厘 |
| 同　銀七百五十分以上 | 同 | 金三拾四錢四厘 |
| 金銀混合地金 | | |
| 千分中金銀九百分以上 | 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金壹圓 |
| | 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金貳拾六錢三厘 |
| 同金銀八百五十分以上 | 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金壹圓拾貳錢七厘 |
| | 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金貳拾九錢 |
| 同金銀八百分以上 | 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金壹圓貳拾五錢四厘 |
| | 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金三拾壹錢七厘 |
| 同金銀七百五十分以上 | 純金拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金壹圓三拾八錢壹厘 |
| | 純銀拾ヲンス「トロイ」ニ付 | 金三拾四錢四厘 |

第十三條　出張所ニ地金又ハ內外國金銀貨幣ヲ輸入シテ貨幣鑄造ヲ請求スル者ハ運賃竝保險料トシテ成貨壹萬圓ニ付金六拾五圓ヲ納ム可シ但大阪ニ於テ成貨拂渡ヲ乞フ者ハ其半額ヲ減ス

第十四條　輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サスシテ返却スルトキハ左ノ費用ヲ收入ス可シ

試驗鎔解料

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 五百ヲンス「トロイ」未滿 | 金壹圓 |
| 金銀混合地金（千分中金分百分以上ノモノ） | 五百ヲンス「トロイ」以上 千ヲンス「トロイ」未滿 | 金貳圓 |
| 同 | 以上之ニ準ス | |
| 銀地金 | 千ヲンス「トロイ」未滿 | 金壹圓 |
| 金銀混合地金（千分中金分百分未滿ノモノ） | 千ヲンス「トロイ」以上 貳千ヲンス「トロイ」未滿 | 金貳圓 |
| 同 | 以上之ニ準ス | |

試驗分析料
　金地金　壹塊ニ付
　金銀混合地金　壹塊ニ付
　銀地金　金壹圓
照査試驗料
　試驗分析料ニ準ス

第十五條　流通不便ノ貨幣ハ本局若クハ出張所ニ於テ鑑定シ左ノ量目以上ナレハ左ノ手數料ヲ收入シテ之ヲ受取リ其翌日代リ貨幣ヲ拂渡ス可シ

金貨幣量目五ヲンス「トロイ」（凡四拾壹匁四分）　千分ノ三半
壹圓銀貨幣量目五拾ヲンス「トロイ」（凡四百拾四匁）　千分ノ五
補助銀銅貨幣　量目ニ制限ナシ　無手數料

錆破目アリ又ハ音響惡キ貨幣ト雖モ全體ヲ失ハス量目減少セサル者ハ金銀共一枚ヲ以テ一枚ト交換シ手數料ハ受取ラサル可シ

第十六條　金銀地金及ヒ金銀混合地金ニ含有スル雜物ハ渾テ返却セサルヘシ

造幣規則は右の如く明治十六年に於て改正せられしが，爾後明治三十年貨幣法の制定に至る迄，必要に應じ數次の改正あり，今之を順次列擧すべし。

（一）第一回改正

大藏省令第十六號（明治十九年四月十五日）

明治十六年五月第十五號布達造幣規則第十條及第十三條ヲ左ノ通リ改正ス

第十條　輸入地金ニ對スル代リ貨幣ハ日本銀行本店及ヒ其大阪支店又ハ横濱神戸ノ代理店ニ於テ左ノ區別及ヒ期日ニ依リ之ヲ拂渡スヘシ但期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ日本銀行本店又ハ其大阪支店ニ於テ期日マテ一日萬分一ノ割合ヲ以テ前渡ヲ爲スヘシ

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大阪本局ニ輸入シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 造幣適當金銀地金 | 價額ニ關セス | 大阪及神戸ニ於テハ | 五日目 |
| | | | 東京及横濱ニ於テハ | 十日目 |
| 東京出張所ニ輸入シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | | | 東京及横濱ニ於テハ | 二十日目 |
| | | | 大阪及神戸ニ於テハ | 十日目 |
| 同上 | 精製分析ヲ要スル地金 | 五千圓未滿 | 同上 | 同上 |
| 同上 | 同上 | 壹萬圓未滿 | 同上 | 同上 |
| 同上 | 同上 | 三萬圓未滿 | 同上 | 同上 |

同　上　七萬圓未滿　同　同　上
同　上　七萬圓以上　同　同　上

但右期日休暇ニ當ルトキハ翌日拂渡スヘシ

第十三條　金銀地金又ハ內外國金銀貨幣ヲ大阪本局ニ輸入シテ東京又ハ橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡シヲ望ム　同　同　上
モノ又ハ東京出張所ニ輸入シテ東京橫濱又ハ大阪神戶ニ於テ其拂渡シヲ望ムモノハ左ノ區別割合ヲ以テ　同　同　上
運賃保險料ヲ納ムヘシ　同　同　上

大阪本局ニ地金ヲ輸入シ東京又ハ橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ　同　同　上　二十日目
東京出張所ニ地金ヲ輸入シ大阪又ハ神戶ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ　同　同　上　二十五日目
東京出張所ニ地金ヲ輸入シ東京又ハ橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ　同　同　上　三十日目

## (二)　第二回改正

大藏省令第三十三號（明治十九年十二月二日）

明治十九年四月大藏省令第十六號造幣規則第十三條左ノ通リ改正ス

第十三條　金銀地金類ヲ大阪本局ニ輸入シテ東京又ハ橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ又ハ東京出張所ニ輸入シテ東京又ハ橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ　同　上　四十日目
時々之ヲ定メ告示スヘシ　同　上　三十日目

## (三)　第三回改正

大藏省令第二號（明治二十二年一月二十六日）

明治十六年五月第十五號布達造幣規則中左ノ通改正明治二十二年四月一日ヨリ實施ス

第一條　末項九月一日ヨリ三月十六日ヨリ十月三十一日マテヲ三月三十一日マテト改ム

第三條　輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサルヘシ但一口ノ輸入高巨額ニシテ工程ニ超過シ　成貨壹萬圓ニ付　運賃保險料　金參拾貳圓五拾錢
第十條期日ニ代リ貨幣ヲ拂渡シ得サルトキハ輸入人ト商議ノ上更ニ拂渡ノ期日ヲ定メ受入ルヘシ　同　金六拾五圓

第十條　但期日前以下ヲ「但シ期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ造幣局成貨拂渡證書ニ對シ其證書面ニ指定シタル
日本銀行本店又ハ大阪支店ニ於テ年四歩ノ歩合ヲ以テ割引スヘシ」ト改ム

第十三條　初行「橫濱」ノ下ニ「神戶」ノ二字ヲ加フ

第十五條　第一項中「補助銀銅貨幣量目ニ制限ナシ無手數料」ノ十七字竝第二項ヲ削除ス

## (四)　第四回改正

勅令第二百三十八號（明治二十四年十二月二日）

造幣規則中左ノ通改正ス

第十二條　精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但
其地金千分中金銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セス

精製料　精製料

一千分中金銀九百五十分以上（純金拾オンス「トロイ」ニ付　金六拾參錢
純銀拾オンス「トロイ」ニ付　金拾七錢

同　金銀九百分以上　同
同　金銀八百五十分以上　同
同　金銀八百分以上　同
同　金銀七百五十分以上　同

附　則

本令ハ明治二十四年十二月七日ヨリ施行ス

## (五) 第五回改正

勅令第百六號（明治二十五年十一月三十日）

造幣規則中左ノ通改正ス

第三條　輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサルヘシ但一口ノ輸入高巨額ニシテ工程ニ超過シ第十條期日ニ代リ貨幣ヲ拂渡シ得サルトキハ輸入人ト商議ノ上更ニ拂渡ノ期日ヲ定メ受入ルヘシ

金　地　金　貳百五拾匁
銀　地　金　貳貫五百匁
不純粋金銀地金
舊金銀貨幣　価格貳百圓
金銀混合地金

第十二條　精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但

金六拾九錢
金拾　九　錢
金七拾六錢
金貳拾貳錢
金八拾四錢
金貳拾六錢
金九拾參錢
金參拾壹錢



其地金千分中金銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セス

精製スヘキ地金　精製料

一千分中金銀九百五十分以上（純金百匁ニ付　純銀百匁ニ付）

同　金銀九百分以上　同
同　金銀八百五十分以上　同
同　金銀八百分以上　同
同　金銀七百五十分以上　同

金七拾六錢
金貳拾錢
金八拾參錢
金貳拾參錢
金九拾壹錢
金貳拾七錢
金　壹　圓
金參拾貳錢
金壹圓拾錢
金參拾八錢

第十四條　輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サスシテ返却スルトキハ左ノ費用ヲ收入スヘシ

試驗鎔解料

金地金　四貫匁未滿金壹圓
金銀混合地金（千分中金分百分以上ノモノ）　四貫匁以上八貫匁未滿金貳圓
同　八貫匁未滿金壹圓
銀地金　八貫匁以上拾六貫匁以上金貳圓
金銀混合地金（千分中金分百分未滿ノモノ）　以上之ニ準ス
同　以上之ニ準ス

試驗分析料

金地金　　壹塊ニ付　金貳圓
金銀混合地金
銀地金　　壹塊ニ付　金壹圓

照査試驗料
試驗分析料ニ準ス

第十五條　流通不便ノ貨幣ハ本局若クハ支局ニ於テ鑑定シ左ノ量目以上ナレハ左ノ手數料ヲ收入シテ之ヲ受取リ其翌日代リ貨幣ヲ拂渡スヘシ

金貨幣量目四拾匁　千分ノ參半
壹圓銀貨幣量目四百匁　千分ノ五

附　則

本令ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

## 第二項　貨幣法施行後の自由鑄造制度

### 第一目　造幣規則等の制定

先に述べたるが如く、我國貨幣制度は、當初金本位制度を標榜したりと雖も、漸次其の實は名に伴はず、金銀複本位制度より實質上の銀本位制度に推移せしが、明治三十年三月に至り新に貨幣法の制定あり、玆に始めて名實伴ふ金本位制度樹立せられたり。仍て造幣局は同法實施に先だち同年四月新金貨鑄造地金を日本銀行より購入し、漸次新金貨の鑄造に著手したるが、一方本位貨幣の自由鑄造制度は新貨幣法の實施と共に、益、其の重要性を加ふるに至りしを以て、政府は從來の造幣規則を廢して新法に基づく新なる造幣規則を制定することとし、明治三十年五月勅令第百三十八號を以て之を公布したり。而して既述の如く舊造幣規則は其の中に貨幣の鑄造に關する規定と、金銀地金の精製に關する規定との二者を包含せしが、今回の改正に際しては此の兩者を區別して夫々別個の規則を以て制定することとし、造幣規則と竝びて別に金地金精製及品位證明規則を公布したり。新造幣規則の全文左の如し。

造幣規則（明治三十年五月四日勅令第百三十八號）

第一條　金貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ金地金ヲ造幣局ニ輸納スヘシ

第二條　貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ品位一千分中金九百九十以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造幣ニ障害ナキモノニ限ル但シ含有物銅ノミナルトキハ金九百以上トス

第三條　貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ其ノ量目一百匁以上トス但シ金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ貨幣ノ製造ヲ請フトキハ此ノ限ニアラス

第四條　輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第五條　地金ノ品位及性質ハ試驗ノ上之ヲ定ム

第六條　地金ノ試驗了リタルトキハ勘定書ニ試驗表ヲ添ヘ之ヲ輸納人ニ送付スヘシ

第七條　輸納人前條書類ノ送付ヲ受ケ異議ナキトキハ預リ證書ヲ提出シテ貨幣拂渡證書ヲ請求スヘシ但シ異議アル者ハ三日以内ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ此ノ期間内ニ異議ノ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ輸納地金ヲ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ手數ト見做スヘシ

第八條　輸納人前條ニ依リ異議ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ申告ヲ爲ササルトキハ承諾シタルモノ料トシテ地金四貫匁及其ノ端數毎ニ金三圓ヲ徵收ス

第九條　輸納地金ノ鎔解減ハ輸納人ノ負擔トス

第十條　輸納地金ノ取扱ハ一般休暇日ノ外三月十六日ヨリ同三十一日マテノ間之ヲ停止ス但シ臨時停止ヲ要スルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

右の造幣規則を從來の造幣規則と比較するに、其の全般に亙りて改正せられたるもの多々あれども、其の最も著しきもの二あり。一は卽ち既述の如く從來の造幣規則中より地金の精製に關する規定を獨立せしめたること之にして、他は卽ち造幣手數料を廢止せしこと之なり。我國は維新以後貨幣の自由鑄造の制度を設けしも、其の鑄造には手數料徵收の方針を採り、既述の如く明治四年五月の造幣規則に於ては、其の鑄造料を本位金貨は百に付一、一圓銀は百に付二と定めたり。爾後漸次鑄造料減額の方針を採り、明治七年九月の改正には一圓銀の鑄造料を百分の一半に、又十一年五月の改正には同じく一圓銀の鑄造料を本位金貨と同樣百分の一に減額し、十六年五月の改正に於ては更に減額して本位金貨の鑄造料を千分の七、一圓銀を千分の十と定めしが、なほ鑄造料徵收の主義は之を撤廢するに至らざりき。然るに右改正造幣規則に於ては此の從來の方針を改め、本位貨幣の鑄造料は總て之を國家の負擔とし、金地金を輸納して造幣を請ふ者に對しては無手數料を以て之に應ずることと爲し、茲に自由鑄造の主義を徹底せしむるに至りしなり。

右の造幣規則の制定に伴ひ、造幣希望者の輸納する地金の受取及び鑄造貨幣の拂渡に關する詳細なる手續を規定する必要あり、卽ち同年五月五日大藏省告示第二十七號を以て、造幣地金及成貨受渡取扱順序（明治三十年五月五日大藏省告示第二十七號）

造幣地金及成貨受渡取扱順序

第一條　造幣規則ニ依リ輸納ノ地金ハ輸納人ノ便宜ニヨリ大阪造幣局又ハ東京造幣局ニ於テ之ヲ受取リ其代リ貨幣ハ日本銀行本店又ハ大阪同行支店ニ於テ之ヲ拂渡スヘシ

第二條　輸納地金受取ノ場所及成貨拂渡ノ場所ニヨリ左ノ割合ニヨリ運賃保險料ヲ仕拂フヘシ

大阪造幣局ニ地金ヲ輸納シ東京ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ　百圓ニ付　金九錢五厘
東京造幣局ニ地金ヲ輸納シ大阪ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ

東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ大阪ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ　百圓ニ付　金拾九錢

第三條　輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂渡スヘシ但輸納ノ地金輻輳スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲナスヘシ

| | | |
|---|---|---|
| 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 五 | 日目 |
| 大阪ニ於テハ | | |
| 東京ニ於テハ | 十 | 日目 |
| 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十 | 日目 |
| 東京ニ於テハ | | |
| 大阪ニ於テハ | 十 | 日目 |
| 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 五 | 日目 |
| 大阪ニ於テハ | | |
| 東京ニ於テハ | 十 | 日目 |
| 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十 | 日目 |
| 東京ニ於テハ | | |
| 大阪ニ於テハ | 十 | 日目 |
| 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | | |

造幣適當地金　　價格ニ關セス

精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格五千圓未滿

| | | | |
|---|---|---|---|
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格一萬圓未滿 | 大阪ニ於テハ | 十　日目 | |
| | 東京ニ於テハ | 十五日目 | |
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格三萬圓未滿 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十五日目 | |
| | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 十五日目 | |
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格三萬圓未滿 | 大阪ニ於テハ | 十五日目 | |
| | 東京ニ於テハ | 二十日目 | |
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格七萬圓未滿 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 三十日目 | |
| | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十日目 | |
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格七萬圓未滿 | 大阪ニ於テハ | 二十日目 | |
| | 東京ニ於テハ | 二十五日目 | |
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格七萬圓以上 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 三十五日目 | |
| | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十五日目 | |
| 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格七萬圓以上 | 大阪ニ於テハ | 二十五日目 | |
| | 東京ニ於テハ | 三十日目 | |



右取扱順序に於ては輸納地金の代り貨幣は日本銀行本店又は大阪同行支店に於て拂渡すことと定めたるが故に、之に從ひ同年五月大藏大臣は造幣局及日本銀行に對し左の如く造幣局成貨拂渡手續を示達したり。

造幣局成貨拂渡手續

第一條　大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ輸納シタル地金ノ成貨ハ造幣局又ハ造幣支局ヨリ交付シタル貨幣拂渡證書ニ照シ日本銀行本店又ハ同行大阪支店ニ於テ期日ニ至リ證書持參人ヘ拂渡スヘシ

第二條　造幣局又ハ造幣支局ニ於テ貨幣拂渡證書ヲ地金輸納人ヘ交付シタル時ハ卽日日本銀行本店又ハ同行大阪支店ニ通知スヘシ

第三條　造幣局ハ貨幣拂渡ノ爲メ前以テ成貨ヲ日本銀行ヘ預ケ入ヘシ

第四條　日本銀行本店又ハ同行大阪支店ハ毎月受拂計算書ヲ造幣局ヘ送付スヘシ

第五條　成貨拂渡取扱ノ爲メ手數料ヲ交付セス

## 第二目　造幣規則等の改正

前記造幣規則は其の制定後大正末年迄に二回の改正行はれ、又造幣地金及成貨受渡取扱順序は制定以來明治四十年の廢止迄に三回の改正ありたり。今之を分說すべし。但し造幣局成貨拂渡手續の改正に關しては第三款第二項第二目を參照すべし。

### 第一　造幣規則の改正

**(一)　第一回改正**

明治三十二年二月勅令第三十六號を以て、左の如く本規則を改正し、造幣地金の中、銅のみを含有するものの品位を低下し、以て地金の吸收を圖れり。

勅令第三十六號（明治三十二年二月十四日）

造幣規則中左ノ通改正ス

第二條　貨幣製造ノ爲受取ル地金ハ品位一千分中金九百九十以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造幣ニ障害ナキモノニ限ル但シ含有物銅ノミナルトキハ金八百九十八以上トス

**(二)　第二回改正**

第二回改正は大正四年十二月に行はれしが、其の目的は、造幣適當地金として受取るべき地金の範圍を改め、工業上の不便を除かんとするに在り。卽ち本規則第二條の規定に依れば、造幣地金として造幣局の受取るべき地金は、其の品位千分中金九百九十以上にして、其の含有物の性質造幣に障害なきものに限られ、唯例外として、含有物が銅のみなるときは金位八百九十八迄は造幣適當地金と認められたり。而して從來造幣局に輸納せられし造幣地金は概ね右の品位内に該當し、實際上の不都合を生ぜしことなかりしが、大正三年度に至りて造幣地金として支那金塊の輸納せらるるもの極めて多額に上り、尙ほ將來も續々輸納せらるべき情勢を呈したり。而して此の支那金塊は、其の品位九百七十内外にして、其の含有物は銅のみなるものもあれども、往々銅の外幾分の銀を含有するものあり從て此の金は實際上造幣適當地金として直ちに受取るも工業上何等の缺陷を存せざるにも拘らず造幣規則第二條の規定に適合せざるが爲に、之を精製して品位を昂上せしめたる上、造幣適當地金として取扱ひ、以て無用の手數と費用を爲さざるべからざるなり。而も地金の精製には多大の費用と日數とを要するが故に、斯かる地金の輸納が多額に上りたる結果、造幣局及日本銀行は共に多大の不便を感ずるに至れり。茲に於て本規則第二條を左の如く改正して、此等の地金をも造幣適當地金として取扱ひ、以て無用の手數と費用を省くこととせり。

勅令第二百三十四號（大正四年十二月二十七日）

造幣規則中左ノ通改正ス

第二條　貨幣製造ノ爲受取ル地金ハ品位一千分中金八百九十八以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造幣ニ障害ナキモノトス但シ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以内ニ限ル

造幣規則は本改正以後何等の改正を見ずして大正年間を經過したり。

**第二**　造幣地金及成貨受渡取扱順序の改正及廢止

**(一)　第一回改正**

明治三十年九月運賃保險料の低減及造幣設備の擴張に伴ひ、本取扱順序を左の如く改正したり。

大藏省告示第六十號（明治三十年九月二十一日）

明治三十年五月告示第二十七號造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ通改正來十月一日ヨリ施行ス

第二條　運賃保險料第一金「九錢五厘」ヲ金「四錢七厘」ニ第二金「拾九錢」ヲ金「九錢五厘」ニ改ム

第三條　精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格第一「五千圓」ヲ「一萬圓」ニ第二「一萬圓」ヲ「二萬圓」ニ第三「三萬圓」ヲ「六萬圓」ニ第四「七萬圓」ヲ「十四萬圓」ニ第五「七萬圓」ヲ「十四萬圓」ニ改ム

**(二)　第二回改正**

第二回改正は同三十二年十一月に行はれしが、右は輸納地金に對する代り貨幣交付の期日に就き

造幣適當地金と精製分析を要する地金とを同一に改めたるものなり。

大藏省告示第六十一號（明治三十二年十一月二十一日）

明治三十年五月告示第二十七號造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ通改正ス

第三條　輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂渡スヘシ但輸納ノ地金輻輳スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲナスヘシ

造幣適當地金竝精製分析ヲ要スル地金ノ金分

| | |
|---|---|
| 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | |
| 大阪ニ於テハ | 五日目 |
| 東京ニ於テハ | 十日目 |
| 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | |
| 東京ニ於テハ | 二十日目 |
| 大阪ニ於テハ | 十日目 |

（三）第三回改正

明治三十五年三月本規定の輸納地金及成貨拂渡に關する運賃及保險料を左の如く引上げたり。之れ前年十月鐵道營業法の實施に伴ひ其の實費の增加したるに由るものなり。

大藏省告示第九號（明治三十五年三月四日）

明治三十年五月大藏省告示第二十七號造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ通改正ス

但明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第二條第二項　百圓ニ付ノ下金四錢七厘ヲ拾壹錢七厘ニ改ム

同　第三項　百圓ニ付ノ下金九錢五厘ヲ貳拾參錢五厘ニ改ム

（四）取扱順序の廢止

嘗て明治十二年九月東京に造幣局出張所を設置し、同二十三年七月之を改めて造幣支局と爲し、地金の受入及代り貨幣拂渡の事務を分掌せしめ來りしが、同支局に於ける輸納地金は當初の豫期に反して漸次減少し、遂には收支相償はざるに至り、寧ろ之を廢して造幣本局に併合するを得策と爲すに至れり。而して他面に於て日本銀行は其の正貨準備充實の必要上、自行內に自ら分析所を設置することとし、明治四十年六月一日を以て開業せしが、之を機として東京造幣支局は廢止せられたり。此の結果造幣地金及成貨受渡順序竝に後述の金銀地金精製及品位證明取扱順序中には自然消滅となるべき條項も少からざるに至りしを以て、明治四十年十月十六日大藏省告示第百七十一號を以て、此の兩規定を廢し、之と同時に大藏省告示第百七十二號を以て右兩規定を合せて、新に造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序を制定したり。之に關しては第三款を參照すべし。

## 第二款　補助貨幣の製造及發行

### 第一項　地金の購入

補助貨幣の製造及發行は政府の自由裁量を以て之を行ふものにして、其の製造及發行額は年々市場の狀況に應じて決定せらる。而して貨幣の素材たる地金は、固より現に政府の保有するもの、舊貨幣（特に改鑄に當りては）を以て之に充つべきも、政府は別に必要に應じて自ら年々地金を購入して之に充つるの要あり。此の地金の買入は當初政府直接之に當らず、日本銀行をして之を取扱はしむることとし、明治二十三年六月勅令第百四號を以て左の如く公布したり。

勅令第百四號（明治二十三年六月二十四日）

貨幣鑄造ニ要スル地金銀銅白銅ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此場合ニ於テハ競爭ニ付セサルコトヲ得

本勅令は其の後明治三十一年五月勅令第九十九號を以て、『銅白銅』を削除せられしに依り、爾後地金銀の買入のみに就て適用せられ、銅白銅は政府自ら購入し來たりしが、大正十一年一月勅令第一號を以て會計規則の制定あり、同年四月より會計法及同規則の實施に依り、會計制度の大改正行はるるに及び、以後各種地金共政府（造幣局）直接之が買入に當ることとし、前記勅令を廢止したり（勅令第一號附則）。

政府の買入れたる地金其の他國庫保有地金は造幣局に之を交付して、貨幣に鑄造するものなり。其の交付手續は當初明治二十三年五月大藏大臣達「補助銀貨鑄造手續」（第三項參照）に依り來たりしが、大正十一年八月銀地金の交付手續に就て左の如く通達したり。

國庫保有銀地金造幣局ヘ交付手續（大正十一年八月大藏大臣達藏第八七〇六號）

一、造幣局ハ國庫保有銀地金ヲ補助銀貨鑄造材料トシテ買受ノ必要アルトキハ之カ交付方ヲ大藏省ヘ請求スルコト但銀地金ニシテ買受前假受ヲ要スル場合ニハ其旨請求スルコト

二、大藏省ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ國庫保有銀地金（別口預金現在高）ノ平均割合ヲ以テ價格ヲ算出シ銀地金受領方ト共ニ之ヲ造幣局ヘ通知シ同時ニ銀地金ノ拂出方ヲ日本銀行ヘ令達スルコト但造幣局ノ請求ニ依リ假渡ヲ爲ス場合ニ於テハ其旨造幣局竝日本銀行ヘ通達スルコト

三、造幣局ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ銀地金買入代金トシテ大藏省ヲ受取人トシタル小切手ヲ振出シ之ヲ日本銀行ニ交付シ銀地金ヲ受領スルコト但前項但書ノ場合ニハ假受トシテ銀地金ヲ受領シ他日代金



精算ノトキ本文ノ手續ヲ爲スコト此場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ假受銀地金決濟ノ旨ヲ記入スルコト

四、日本銀行ハ第二項ノ令達ヲ受ケタルトキハ領收證ヲ徵シテ銀地金ヲ造幣局ヘ交付シ同局ヨリ前項小切手ノ交付ヲ受ケ交換受入ノ手續ヲ爲スコト但銀地金ニシテ第二項但書ニ依リ假渡ヲ要スルモノナルトキハ「造幣局渡」ノ科目ヲ以テ同局ヘ交付シ他日同局ヨリ假受銀地金決濟ノ旨裏書セル小切手ノ交付アリタルトキ之カ決濟ヲ爲スコト

又造幣局の受入れたる貨幣貨幣材料・地金等の出納に就ては、大正十二年三月左の如く通達したり。右は大正十四年五月一部改正あり、左揭は其の改正を經たるものとす。

造幣局地金出納規程（大正十二年三月三十一日大藏大臣達藏第八九五二號）

第一條　貨幣貨幣材料地金政府ノ所有又ハ保管ニ係ル金銀地金金銀含有地金及金銀地金ヲ以テ製作シタル章牌類ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ

第二條　前條ニ規定スル貨幣地金及章牌類ノ出納保管ヲ取扱ハシムル爲造幣局ニ地金出納官吏ヲ置ク

第三條　貨幣地金及章牌類ノ出納ハ造幣局長之ヲ命令スヘシ

前項ニ規定スル出納命令ハ文書ヲ以テシ造幣局長之ニ證印スヘシ

第四條　地金又ハ鑄潰スヘキ貨幣ハ作業部各場ノ必要ニ應シ當該場長ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル地金及貨幣ハ作業若ハ置場ノ都合ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第五條　各場ニ現在スル貨幣地金及章牌類ハ當該場長之カ保管ノ責ニ任スヘシ

第六條　第四條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル地金又ハ鑄潰スヘキ貨幣ハ生産ノ目的ニ應シテ順次當該各場ノ作業ニ付シ最後ニ生産ヲ完了シタル場長ヨリ當該生產品ヲ地金出納官吏ニ送付スヘシ

前項ノ作業中ニ生スル殘地金ハ當該場長ヨリ之ヲ地金出納官吏ニ送付スヘシ

第七條　地金出納官吏前條第一項ニ規定スル生產品ノ送付ヲ受ケタルトキハ左ノ如ク處理スヘシ

一　輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ日本銀行ニ引渡シ同行ヲシテ拂渡ヲ爲サシムヘシ

二　製造濟補助貨幣ハ日本銀行大阪支店ニ交付スヘシ

三　地金及章牌類ハ依賴者ニ交付スヘシ

四　固定資本又ハ備品ニ屬スルモノハ物品會計官吏ニ引渡スヘシ

第八條　地金出納官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ出納其ノ他ノ事實ヲ登記スヘシ

一　第一號樣式ニ依ル地金出納簿

二　第二號樣式ニ依ル地金出納內譯簿

三　第三號樣式ニ依ル貨幣出納簿

四　第四號樣式ニ依ル章牌類出納簿

第九條　各場長ハ第五號樣式ニ依ル作業地金差引簿ヲ備ヘ受拂ヲ登記スヘシ

等十條　前二條ノ帳簿ノ外必要ナル補助簿ハ造幣局長適宜之ヲ定ムヘシ

第十一條　地金出納官吏ハ每日第八條ニ規定スル帳簿ニ依リ貨幣地金及章牌類現在高表ヲ調製シ之ヲ造幣局長ニ差出スヘシ

各場長ハ每日作業地金差引簿ニ依リ地金現在高表ヲ調製シ當該部長ノ認印ヲ受ケテ地金出納官吏ニ回付シ其照査ヲ受クヘシ

第十二條　地金出納官吏ハ每月第八條ニ規定スル帳簿ニ依リ貨幣地金及章牌類出納表ヲ調製シ之ヲ造幣局長ニ差出スヘシ

第十三條　物品檢查規程ニ依ル貨幣地金及章牌類ノ檢查ハ每年三月之ヲ執行スヘシ尙必要アルトキハ造幣局長又ハ其ノ指定スル官吏臨時之カ檢查ヲ爲スヘシ

第十四條　地金出納官吏ハ必要アリト認ムルトキハ隨時各場ノ現在品ヲ檢查スルコトヲ得



第十五條　本規程ニ依ル貨幣地金及章牌類亡失シタルトキハ造幣局長事實ヲ審查シ故意怠慢ニ出テタルモノト認ムルトキハ當該責任者ヲシテ辨償セシムヘシ

前項ニ依リ辨償ヲ命シタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ申報スヘシ

第十六條　地金出納官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ地金及物品出納計算書ヲ調製シ年度經過後又ハ出納官吏交替後五十日以內ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ造幣局長ニ差出スヘシ

地金出納官吏死亡其ノ他ノ事故ニ依リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ造幣局長特ニ其ノ官吏ヲ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十七條　造幣局長ハ前條ノ計算書ヲ調查シ十日以內ニ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

（樣式省略）

## 第二項　製造貨幣試驗

造幣局に於て製造したる貨幣は、本位貨幣及補助貨幣共に之が貨幣法の規定に合致せるや否やを檢查する爲め、每年一回大藏大臣臨監の下に、前年度製造の貨幣に就き試驗を行ふものとす（造幣局に於ては普通製造直後別に內規を以て試驗を行ふ）。之を製造貨幣大試驗と稱し、明治四年六月每歲製貨試驗定則を制定せし以來引續き行ひ來たりしものなるが、大正末年現行の大試驗規則は大正六年十月の制定に係り、爾後同九年八月、十一年七月、十四年五月の改正を經しものにして、其の全文を揭ぐれば次の如し。

製造貨幣大試驗規則（大正六年十月二十六日大藏大臣達往第一〇一八六號）

第一條　大藏大臣ハ造幣局ニ於テ製造スル貨幣ノ量目及品位ヲ檢查スル爲每年一回造幣局ニ於テ製造貨幣大試驗ヲ行フ

第二章　貨幣　第三節　貨幣の製造及發行

第二條　大藏大臣ハ官吏若クハ分析學術ニ經驗アル者ヲシテ前條試驗ニ立會セシムルコトアルヘシ

第三條　大試驗ハ金貨幣及銀貨幣ハ量目竝品位ニ付白銅貨幣及青銅貨幣ハ量目ニ付之ヲ施行ス

第四條　製造貨幣ノ內大試驗用貨幣トシテ左ノ箇數ヲ選取保管スヘシ

二十圓、十圓、五圓金貨幣ハ　二千枚每ニ一枚
五十錢、二十錢銀貨幣ハ　五千枚每ニ一枚
十錢、五錢白銅貨幣ハ　二萬枚每ニ一枚
一錢、五厘青銅貨幣ハ　二萬枚每ニ一枚

第五條　貨幣ノ製造作業完了シタルトキハ作業部長及作業部壓印場長立會ノ上總務部長前條ノ貨幣ヲ選取シ之ヲ造幣局長總務部長作業部長立會ノ上ニテ封緘シ各封印ヲ施シ封筒ニ貨幣ノ種類員數竝封印ノ年月日ヲ記載シ局長之ニ檢印スヘシ

第六條　試驗施行ヲ擔當スヘキ試驗員ハ造幣局長之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　試驗ノ結果ハ之ヲ內閣總理大臣ニ報告シ且官報ヲ以テ告示スヘシ

## 第三項　貨幣の發行手續

製造貨幣にして貨幣大試驗に合格したるものは始めて發行せらるるの資格を得るものなり。固より製造と發行とは別個の觀念にして、發行前の製造貨幣は單に物品として取扱はれ其の發行手續を完了して始めて本來の意味の貨幣と爲るものなり。此の貨幣の發行手續に就ては、明治二十三年度の補助貨鑄造に當り大阪本金庫及造幣局に通達せられたる補助銀貨鑄造手續が永く一般準則となりしものにして、其の全文左の如し。

補助銀貨鑄造手續（明治二十三年五月五日大藏大臣達）

第一　二十三年度ニ於テ五拾錢以下ノ小紙幣ヲ交換スル爲メ國庫ニ於テ百萬圓ノ補助銀貨幣ヲ鑄造スルコト

第二　國庫ハ補助銀貨鑄造ノ爲メ金庫ヨリ紙幣百萬圓ヲ漸次造幣局ヘ交付スルコト（本文ノ交付ヲ爲シタルトキ國庫簿ハ金庫ヲ支出シテ造幣局ノ科目ヘ記入スルコト）右金額交付ノ際ニハ大藏大臣ヨリ金庫出納役及造幣局ヘ令達ス

第三　金庫出納役ハ第二項大藏大臣ノ令達ヲ得テ補助銀貨鑄造基造幣局渡トシ造幣局長ノ領收證書ニ引換現金ヲ交付スルモノトス

（說明）大藏大臣ノ令達ニ據リ補助貨幣鑄造基造幣局長ヘ交付セシトキ原簿科目ハ「造幣局借方ニテ整理シ一般ノ支出ト同シク每五十ノ日ニ於テ報告スルモノトス

第四　造幣局ヘ第二項大藏大臣ノ令達ヲ得テ金庫ヨリ補助貨幣鑄造基トシテ受入レ之ヲ以テ銀地金ヲ買入レ以テ補助銀貨ヲ鑄造スルコト（鑄造スヘキ補助銀貨ノ種類ハ其時々大藏大臣ヨリ令達ヲ得ルモノトス）

第五　造幣局ニ於テ鑄造濟ノ補助銀貨ハ造幣局長ノ納付書ヲ添ヘ金庫ヘ納付ス可シ（ス、シ）

第六　金庫ニ於テ第五項鑄造濟ノ補助貨幣ヲ領收セシトキハ造幣局長ヨリ補助貨幣鑄造基ヘ返戻トシテ記帳シ一般ノ出納ト同シク計算報告ヲ爲ス可シ

（說明）鑄造濟ノ補助貨幣領收セシモノニ對シ別ニ內譯簿ヲ要セサルモ月計對照表ハ調製造幣局ノ證明ヲ得テ差出スモノトス且此ノ場合ニ於テハ原簿科目ハ第三項ノ科目ヲ貸方ニ揭ケ整理シ一般收入ト同シク每五十ノ日ニ於テ報告ス可キモノナリ

第七　國庫ハ金庫ヨリ鑄造濟補助銀貨ノ報告ヲ得テ國庫簿中造幣局ノ科目ヲ決算シ金庫ヘ收入ノ記帳ヲ爲スモノトス

第八　國庫ハ第六項第七項ニ依リ收入セシ補助銀貨ヲ以テ紙幣交換基金ヘ移換ヲ爲スモノトス但本文ノ移

換ヲ爲スハ其時々大藏大臣ヨリ國庫主任ノ局及金庫出納役國債局長ヘ令達スルモノトス

第九　補助銀貨鑄造上ニ於テノ損益ハ總テ造幣局ノ負擔トス（假令造幣局ハ國庫ヨリ鑄造基紙幣百萬圓ヲ受取モノトシ銀地金ニ相應上ノ差損益買入ノ費用又鑄造上ノ益金等ハ總テ造幣局ノ負擔トス可シ）之レト同額ノ補助銀貨百萬圓ヲ國庫ヘ納付スル

本手續は大正五年十一月迄二十數年間に亙り施行せられ來たりしが同月新に左の如く「鑄造濟補助貨造幣局ヨリ國庫ヘ納付手續」の制定せらるるに及び廢止せられたり。而して新手續も其の後大正十年四月一部改正を見たるが其の改正後の全文左の如し。

鑄造濟補助貨造幣局ヨリ國庫ヘ納付手續（大正五年十一月大藏大臣達官房秘乙第二二三二號）

一、鑄造濟補助貨ハ納付書（書式適宜）ヲ添ヘ隨時造幣局ヨリ大阪本金庫ニ納付スヘシ

二、大阪本金庫ハ前條ノ補助貨ヲ雜部（雜部金內譯簿科目鑄造濟補助貨受入）トシテ受入レ直ニ雜部ヨリ當該年度造幣局作業歲入（歲入徵收官造幣局長）ニ移換ノ手續ヲ爲シ補助貨受入濟ヲ大藏省ニ歲入納入濟ヲ歲入徵收官ニ通知スヘシ

三、造幣局ハ假納金ニ對スル代金ヲ歲入ヘ受入ヲ要スルトキハ別紙書式ノ移換請求書ヲ大藏省ヘ送付スルコト

四、大藏省ハ前項ノ移換請求書ニ基キ假納金ノ決算及造幣局歲入ヘ受入ニ關スル令達ノ手續ヲナスコト

五、大阪本金庫ハ前項ノ令達ニ依リ假納シタル補助貨ト通貨トノ種類交換竝其交換濟ノ雜部假納金ヲ造幣局歲入ニ移換ノ整理ヲナスコト

六、明治二十三年五月五日達補助銀貨鑄造手續ハ之ヲ廢止ス

（別紙省略）

大正十一年四月一日より改正會計法の施行せらるるに及び、新に造幣局資金及鑄造濟補助貨國庫收支取扱手續制定せられ、其の第十六條及第十七條を以て鑄造濟補助貨の國庫收支の手續規定せられたるが、右は蓋し金庫制度に代り預金制度の採用せられしに伴ひしものにして、形式上從來の『大阪本金庫』が『日本銀行大阪支店』と代りしのみにて、實質上の改正ありしものにあらず。而して本手續も亦翌十二年五月改正せられ、其の第二十一條及第二十二條を以て左の如く定められ同年六月一日より施行せられたり。

造幣局資金及鑄造濟補助貨國庫收支取扱手續（大正十二年五月二十八日大藏大臣令達）（抄錄）

第二十一條　鑄造濟補助貨ハ納付書（書式適宜）ヲ添ヘ隨時造幣局ヨリ之ヲ日本銀行大阪支店ニ納付スヘシ

第二十二條　日本銀行大阪支店造幣局ヨリ前條鑄造濟補助貨ノ納付ヲ受ケタルトキハ當該年度造幣局作業歲入濟ノ手續ヲ爲シ補助貨受入濟ヲ大藏省ニ歲入納入濟ヲ歲入徵收官ニ通知スヘシ

## 第三款　地金精製及品位證明制度

### 第一項　金銀地金精製及品位證明規則等の制定

金銀地金精製及品位證明制度は必らずしも直接金銀貨幣の鑄造に關するものにあらずと雖も、元來造幣局は各種の地金に就て試驗鑑解分析其の他の設備完全せるを以て、廣く民間の地金所有者の希望に應じて其の精製又は品位證明を爲すことは、實に造幣局のみに許されたる機能にして、此の爲に世上の受くる便益は量るべからざるものあり。仍て政府は一方に於て本位貨幣の自由鑄造の爲に金銀地金の輸納を取扱ふと同時に、他方單に地金の精製又は品位證明の希望に對しても、僅少の手數料を以て之に應ずることとし、前記の如く夙に造幣規則中には其の各〻に就きて規定を設くる所ありたり。然るに既に述べたるが如く、明治三十年五月新に造幣規則を制定するに當りて、此等の規定を分離し、造幣規則中には本位貨幣の自由鑄造に關する規定のみに止め、之と相竝びて勅令第百三十

九號を以て別に金銀地金精製及品位證明規則を制定したり。其の全文左の如し。

金銀地金精製及品位證明規則（明治三十年五月四日勅令第百三十九號）

第一條　造幣局ハ金銀地金ノ精製又ハ品位證明ヲ請フ者アルトキハ本規則ノ定ムル所ニ依リ其ノ精製又ハ證明ヲナスヘシ

第二條　精製又ハ品位證明ノ爲メ輸納スル地金ハ品位一千分中金銀七百五十以上量目一百匁以上ノモノニ限ル但シ金銀混合地金ナルトキハ金銀合シテ七百五十以上トス

第三條　輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第四條　品位證明ノ爲メ輸納シタル地金ハ定型塊ト爲シ其ノ品位ヲ證明シ之ヲ輸納人ニ交付スヘシ金銀混合地金又ハ精製スルニアラサレハ定型塊ト爲シ難キ地金ノ品位證明ヲ請フ者アルトキハ精製ノ上品位ヲ證明ス

第五條　造幣局ニ於テ製造スル定型塊ハ金銀各一百匁以上トス

第六條　精製ノ爲メ輸納シタル地金ノ品位證明ヲ請ヒ又ハ其ノ金分ヲ以テ貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ輸納ノ際其ノ旨申告スヘシ

第七條　輸納シタル地金試驗ノ後精製又ハ品位證明ヲ爲サスシテ返付ヲ要スルトキハ手數料トシテ地金一塊毎ニ金二圓ヲ徵收ス

第八條　輸納地金ノ鎔解滅ハ輸納人ノ負擔トス

第九條　輸納地金ノ品位證明ヲ爲シタルトキハ手數料トシテ金ハ四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ銀ハ八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ各金三圓ヲ徵收ス

第十條　輸納地金ノ精製ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依リ手數料ヲ徵收ス

一千分中金銀九百五十以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）　金七十六錢
一千分中金銀九百以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）　金二十錢
一千分中金銀八百五十以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）　金八十錢
一千分中金銀八百以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）　金二十三錢
一千分中金銀七百五十以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）　金九十一錢

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本規則の制定に伴ひ、同年五月其の施行に關する取扱順序を左の如く定めたり。

金銀地金精製及品位證明取扱順序（明治三十年五月五日大藏省告示第二十八號）

第一條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納ノ地金ハ東京造幣支局ニ於テ之ヲ拂戻スヘシ但輸納人ノ便宜ニヨリ大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ受取リ精製又ハ證明濟ノ上大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ之ヲ拂戻スヘシ

第二條　輸納地金受取ノ場所及拂戻ノ場所ニヨリ左ノ割合ニヨリ運賃保險料ヲ仕拂フヘシ

大阪造幣局ニ地金ヲ輸納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ（金塊　純金一百匁ニ付　金貳拾參錢五厘　銀塊　純銀一百匁ニ付　金貳錢九厘）

東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ大阪造幣局ニ於テ拂戻スモノ（金塊　純金一百匁ニ付　金四拾七錢壹厘　銀塊　純銀一百匁ニ付　金五錢九厘）

東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ

第三條　輸納地金ニ對スル定型塊（量目一百匁未滿ハ地金）ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂戻スヘシ但輸納ノ地金幅輳スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂戻ヲナスヘシ

一　精製ヲ要セサル地金ハ輸納ノ翌日ヨリ七日目

一　精製ヲ要スル地金ハ左ノ如シ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 純金五百匁未滿 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ | 十五日目 |
| | | 支局ニ於テハ | 二十日目 |
| 純銀十貫匁未滿 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 三十日目 |
| | | 本局ニ於テハ | 二十日目 |
| 純金一貫匁未滿 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ | 二十日目 |
| | | 支局ニ於テハ | 二十五日目 |
| 純銀二十貫匁未滿 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 三十五日目 |
| | | 本局ニ於テハ | 二十五日目 |
| 純金三貫匁未滿 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ | 二十五日目 |
| | | 支局ニ於テハ | 三十日目 |
| 純銀六十貫匁未滿 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 四十日目 |
| | | 本局ニ於テハ | 三十日目 |
| | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ | 三十日目 |
| 純金七貫匁未滿 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 三十五日目 |
| | | 本局ニ於テハ | 三十五日目 |
| 純銀百四十貫匁未滿 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ | 三十五日目 |
| | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 四十五日目 |
| | | 本局ニ於テハ | 三十五日目 |
| 純金七貫匁以上 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ | 三十五日目 |
| | | 支局ニ於テハ | 四十日目 |
| 純銀百四十貫匁以上 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 五十日目 |
| | | 本局ニ於テハ | 四十日目 |

## 第二項　金銀地金精製及品位證明規則等の改正

### 第一目　金銀地金精製及品位證明規則の改正

（一）第一回改正

明治三十二年二月勅令第三十七號を以て本規則を左の如く改正し、輸納地金の品位證明手數料を低減すると共に、別に勅令第三十八號を以て金地金に對しては當分の內其の精製手數料を免除することとしたり。之れ卽ち地金の吸收に努めて金本位制度の基礎を鞏固ならしめんとするの目的に出でたるものなり。

勅令第三十七號（明治三十二年二月十四日）

金銀地金精製及品位證明規則中左ノ通改正ス

第九條　輸納地金ノ品位證明ヲ爲シタルトキハ手數料トシテ金ハ四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ銀ハ八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ各金弐圓ヲ徴收ス

勅令第三十八號（明治三十二年二月十四日）

金銀地金精製及品位證明規則第十條ニ依ル輸納地金ノ精製手數料ハ當分ノ内金分ニ付テハ之ヲ徴收セス

## （二）第二回改正

明治三十七年日露戰役勃發するや、政府は極力正貨の國内維持及充實に努め、此の爲には或は金銀鑛山の調査を行ひ、或は金銀採掘を奬勵する爲め特に日本興業銀行をして採鑛資金の融通を爲さしめ、或は日本銀行に對して資金を交付して銀の買入を爲さしめ、或は又外國拂に正貨支拂の節約に努むる等、積極消極に各種の方策を講じたるが、更に本規則を改正して輸納金銀の品位最下限を低下し以て正貨の維持吸收の一策としたり。改正條項左の如し。

勅令第百號（明治三十七年四月五日）

金銀地金精製及品位證明規則中左ノ通改正ス

第二條　精製又ハ品位證明ノ爲メ輸納スル地金ハ品位一千分中金銀又ハ金銀合計七百五十以上量目一百匁以上ノモノトス但シ金銀混合地金ハ品位一千分中七百五十以下ノモノト雖金二百以上ニシテ金銀合計五百以上ノモノハ之ヲ輸納スルコトヲ得

第十條　輸納地金ノ精製ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依リ手數料ヲ徴收ス

| | | |
|---|---|---|
| 一千分中金銀九百五十以上 | （純金一百匁ニ付 | 金七十六錢 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金二十錢 |
| 一千分中金銀九百以上 | 同上 | 金八十三錢 |
| 一千分中金銀八百五十以上 | 同上 | 金二十三錢 |
| 一千分中金銀八百以上 | 同上 | 金九十一錢 |
| 一千分中金銀七百五十以上 | 同上 | 金二十七錢 |
| 一千分中金銀七百以上 | 同上 | 金一圓 |
| 一千分中金銀六百五十以上 | 同上 | 金三十二錢 |
| 一千分中金銀六百以上 | 同上 | 金一圓十錢 |
| 一千分中金銀五百五十以上 | 同上 | 金三十八錢 |
| 一千分中金銀五百以上 | 同上 | 金一圓二十錢 |
| 一千分中金銀五百以上 | 同上 | 金四十四錢 |
| 一千分中金銀六百以上 | 同上 | 金一圓三十錢 |
| 一千分中金銀六百五十以上 | 同上 | 金五十一錢 |
| 一千分中金銀七百以上 | 同上 | 金一圓四十錢 |
| 一千分中金銀七百五十以上 | 同上 | 金五十八錢 |
| 一千分中金銀八百以上 | 同上 | 金一圓五十錢 |
| 一千分中金銀八百五十以上 | 同上 | 金六十六錢 |
| 一千分中金銀九百以上 | 同上 | 金一圓六十錢 |
| 一千分中金銀九百五十以上 | 同上 | 金七十四錢 |

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## （三）第三回改正

其の後戰局の發展に伴ひ、正貨準備維持の必要益〻緊切となりしを以て、同年十月左の如く輸納地金品位を更に低下して、金銀の産出奬勵、地金吸收に努むることとしたり。

勅令第二百二十四號（明治三十七年十月二十一日）
金銀地金精製及品位證明規則中左ノ通改正ス
第二條　精製又ハ品位證明ノ爲輸納スル地金ハ品位一千分中金、銀又ハ金銀合計五百以上量目一百匁以上ノモノトス
附　則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**（四）第四回改正**

第一款に於て述べたるが如く、明治四十年五月末日限造幣支局の廢止せらるるや、日本銀行は自ら本店内に分析所を開設して地金の買入を爲し、又代り貨幣の拂渡は同行本店及大阪支店に於て之を行ふこととしたり。而して造幣支局の廢止後に於て、若し從來の如く造幣局に於て銀地金の精製手數料を徴するときは、日本銀行に於て無手數料にて取扱を爲さざる限り、銀地金輸納者の負擔を增加することとなるべく、さればとて日本銀行をして全く無手數料にて取扱をなさしむるは穩當ならざるのみならず、造幣局に於ては造幣支局の取扱ひたる手數を省略するを得るに至りたるに拘らず、從前の通りの手數料を徴するは適當ならざるものあり。玆に於て日本銀行分析所に於て分析試驗を爲し、同年五月本規則中左の如く改正したり。但し金地金の精製手數料は既述の如く明治三十二年二月勅令第三十八號に依りて、當分の内之を徴收せられざるものとす。

勅令第百九十九號（明治四十年五月十八日）
金銀地金精製及品位證明規則中左ノ通改正ス



第十條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ日本銀行ノ輸納シタル銀地金ニシテ試驗鎔解ヲ要セサルモノニ付テハ純銀一百匁ニ付金三錢四厘ノ割合ヲ以テ其ノ手數料ヲ低減スルコトヲ得
附　則
本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

**（五）第五回改正**

其の後久しく本規則の改正行はれざりしが、大正七年十月に至り第五次の改正を見たり。卽ち既述の如く從來金地金の精製手數料は免除せられ來りしが、歐洲戰爭の影響を受けて我國に一大好景氣の現出するや、國民の經濟生活向上し、奢侈の風潮漸く高まりし結果、造幣局へ輸納せられし金地金にして、精製後返戻を受けて之を種々の工藝品の材料に供せらるるもの頗る多額に達したり。加之他方精製工業に要する費用は著しく增大せしが故に、造幣局は宛も金屬工業者の營利の爲に多額の經費を費して精製を行ふの觀を呈するに至れり。仍て政府は此の機會に明治三十二年勅令第三十八號を廢止し、金地金に對しても規定の精製料を徴することとし、唯精製の爲に輸納せられたる金地金にても、之を以て貨幣の製造を請はんとするものに對しては、當分の内仍ほ手數料を免除することとしたり。次に又輸納金銀地金の試驗手數料品位證明手數料及精製手數料は從來本規則中に規定せらるるも、此等は物價の變動に伴ひて適宜變更するの必要あり、而も其の都度屢〻勅令の規定を改正するは手續上甚だ煩に失するが故に、之を主務大臣の決定に讓ることとせり。改正條項次の如し。

勅令第三百七十二號（大正七年十月三十日）
金銀地金精製及品位證明規則中左ノ通改正ス

第四條　削　除

第五條　削　除

第七條中「手數料トシテ地金一塊毎ニ金二圓ヲ徴收ス」ヲ「手數料ヲ徴ス」ニ改ム

第九條　輸納地金ノ精製又ハ品位證明ヲ爲シタルトキハ手數料ヲ徴ス

第十條　第七條及前條ノ手數料ニ關シテハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條　輸納地金ヲ精製シタル場合ニ於テ其ノ地金ニ含有スル雜物ハ之ヲ返付セス

第十二條　地金ノ輸納ハ毎年三月十六日ヨリ同三十一日迄ノ間之ヲ受理セス

輸納地金ノ受理ヲ停止スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣之ヲ告示ス

附　則

本令ハ大正七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第三十八號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ日迄ニ受理シタル輸納地金ニ關スル手數料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

精製ノ爲輸納シタル地金ノ金分ヲ貨幣ニ製造スル場合ニ於テハ當分ノ內其ノ金分ニ付テハ手數料ヲ徴セス

右改正の趣旨に從ひ、大藏大臣は告示第百七十九號を以て輸納地金に對する各種手數料を左の如く定めたり。

大藏省告示第百七十九號（大正七年十月三十日）

明治三十年勅令第百三十九號金銀地金精製及品位證明規則第七條及第九條ニ依ル輸納地金ノ試驗手數料品位證明手數料及精製手數料ヲ左ノ如ク定メ大正七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

一、精製又ハ品位證明ヲ爲サシテ輸納地金ヲ返付スル場合ニ於ケル試驗手數料

| | | |
|---|---|---|
| 金地金及金銀混合地金 | 全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金三圓 |
| 銀地金 | 全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金二圓 |

二、品位證明手數料

地金ヲ鎔解シ定型塊ト爲シタル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金四圓五拾錢 |
| 銀地金 | 全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金三圓五拾錢 |

地金ヲ鎔解セサル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金三圓五拾錢 |
| 銀地金 | 全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金二圓五拾錢 |

定型塊ト爲ササル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金四圓 |
| 銀地金 | 全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金三圓 |

三、精製手數料

| | | |
|---|---|---|
| 一千分中金銀九百五十以上 | 純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付 | 金九十五錢 |
| 一千分中金銀九百以上 | 純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付 | 金二十五錢 |
| 一千分中金銀八百五十以上 | 純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付 | 金一圓五錢 |
| 一千分中金銀八百以上 | 純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付 | 金三十五錢 |
| 一千分中金銀七百五十以上 | 純金一百匁ニ付純銀一百匁ニ付 | 金一圓十五錢 |
| | | 金四十五錢 |
| | | 金一圓二十五錢 |
| | | 金五十五錢 |
| | | 金一圓四十錢 |
| | | 金六十五錢 |

一千分中金銀七百以上　（純金一百匁ニ付　金一圓五十五錢
　　（純銀一百匁ニ付　金七十五錢
一千分中金銀六百五十以上　（純金一百匁ニ付　金一圓七十錢
　　（純銀一百匁ニ付　金八十五錢
一千分中金銀六百以上　（純金一百匁ニ付　金一圓八十五錢
　　（純銀一百匁ニ付　金九十五錢
一千分中金銀五百五十以上　（純金一百匁ニ付　金二圓十五錢
　　（純銀一百匁ニ付　金一圓五錢
一千分中金銀五百以上　（純金一百匁ニ付　金二圓十五錢
　　（純銀一百匁ニ付　金一圓十五錢

輸納地金含有物ノ性質ニ依リ精製上特別ノ工業ヲ要スルモノハ右料金ノ十分ノ五ヲ增徵ス

地金精製及品位證明規則は其の後大正末年迄何等の改正行はれざりしが、右手數料に關しては大正十五年十一月に至り左の如く改正せられたり。而して其の減額せられしは技術上の進歩に因るものにして、其の增額せられしは材料費の昂騰に基づくものなり。

大藏省告示第百五十七號（大正十五年十一月二十二日）

明治三十年勅令第百三十九號金銀地金精製及品位證明規則第七條及第九條ニ依ル輸納地金ノ試驗手數料品位證明手數料及精製手數料ヲ左ノ如ク定メ大正十五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

一、精製又ハ品位證明ヲ爲サシテ輸納地金ヲ返付スル場合ニ於ケル試驗手數料

地金ヲ鎔解シタル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金銀混合地金及金地金 | 全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金三圓 |
| 銀地金 | 全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金二圓 |

地金ヲ鎔解セサル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 全量四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金四圓 |
| 銀地金 | 全量八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ | 金三圓 |

地金ヲ鎔解セサル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 一箇ニ付 | 金一圓 |
| 銀地金 | 〃 | 金五十錢 |

二、品位證明手數料

地金ヲ鎔解シタル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 一證明ニ付 | 金一圓五十錢 |
| 銀地金 | 〃 | 金一圓 |

地金ヲ鎔解セサル場合

| | | |
|---|---|---|
| 金地金 | 一箇ニ付 | 金一圓 |
| 銀地金 | 〃 | 金五十錢 |

三、精製手數料

| | | |
|---|---|---|
| 一千分中金銀九百五十以上 | （純金一百匁ニ付 | 金九十錢 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金二十錢 |
| 一千分中金銀九百以上 | （純金一百匁ニ付 | 金一圓 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金三十錢 |
| 一千分中金銀八百五十以上 | （純金一百匁ニ付 | 金一圓十錢 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金四十錢 |
| 一千分中金銀八百以上 | （純金一百匁ニ付 | 金一圓二十錢 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金五十錢 |
| 一千分中金銀七百五十以上 | （純金一百匁ニ付 | 金一圓四十錢 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金七十錢 |
| 一千分中金銀七百以上 | （純金一百匁ニ付 | 金一圓六十錢 |
| | （純銀一百匁ニ付 | 金八十錢 |

一千分中金銀六百五十以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
一千分中金銀六百以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
一千分中金銀五百五十以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
一千分中金銀五百以上　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）

輸納地金含有物ノ性質ニ依リ特別ノ操作ヲ要スルモノハ右料金ノ十分ノ五以内ヲ増徴ス
前項ノ増徴額ハ其ノ都度造幣局長之ヲ定ム
大正七年十月大蔵省告示第百七十九號ハ本告示施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

## 第二目　金銀地金精製及品位證明取扱順序の改正

本取扱順序も亦時日の經過に從ひ前後十回の改正を見るに至れり。改正の理由は或は母規則の改正に伴ひ、或は又第一款に掲げし造幣地金及成貨受渡取扱順序の改正と同様なるを以て、全文改正の場合を除き一々之を掲げず、單に改正條項を列擧するに止むべし。

### （一）第一回改正

大蔵省告示第八十一號（明治三十年十二月十五日）
明治三十年五月告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序中左ノ通リ改正ス
第二條末項東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノノ下ニ「但シ運搬ヲ要セサル地金ハ此限ニアラス」ノ十八字ヲ追加ス

金　二　圓　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金　一　圓　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金二圓四十錢　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金一圓二十錢　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金二圓八十錢　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金一圓四十錢　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金三圓二十錢　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）
金一圓六十錢　（純金一百匁ニ付　純銀一百匁ニ付）



第三條中定型塊（量目一百匁未滿ハ地金）ノ下ニ「及精製地金」ノ五字ヲ追加ス

### （二）第二回改正

大蔵省告示第二十二號（明治三十二年四月二十九日）
明治三十年大蔵省告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序第二條第二項純銀一百匁ニ付金貳錢九厘ヲ金參錢六厘ニ「同三項純銀一百匁ニ付金五錢九厘ヲ金七錢貳厘ニ改ム

### （三）第三回改正

大蔵省告示第十號（明治三十五年三月四日）
明治三十年五月大蔵省告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序中左ノ通改正ス
但明治三十五年四月一日ヨリ施行ス
第二條第二項　純金百匁ニ付ノ下金貳拾參錢五厘ヲ五拾八錢五厘ニ純銀百匁ニ付ノ下金參錢六厘ヲ四錢六厘ニ改ム
同第三項　純金百匁ニ付ノ下金四拾七錢壹厘ヲ壹圓拾七錢壹厘ニ純銀百匁ニ付ノ下金七錢貳厘ヲ九錢貳厘ニ改ム

### （四）第四回改正

大蔵省告示第四十一號（明治三十七年四月五日）
明治三十年五月大蔵省告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序第三條ヲ左ノ通改正ス
第三條　輸納地金ニ對スル定型塊（量目一百匁未滿ハ地金）及精製地金ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂戻スヘシ但輸納ノ地金ヲ換スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂戻ヲナスヘシ
一　精製ヲ要セサル地金ハ輸納ノ翌日ヨリ七日目
一　精製ヲ要スル地金ハ左ノ如シ

| | | |
|---|---|---|
| 純金一貫匁未満 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 十五日目 |
| | 本局ニ於テハ | 二十日目 |
| 純銀二十貫匁未満 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 三十日目 |
| | 支局ニ於テハ | 二十日目 |
| | 本局ニ於テハ | |
| 純金一貫匁以上 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十日目 |
| | 本局ニ於テハ | 二十五日目 |
| 純銀二十貫匁以上 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ | 三十五日目 |
| | 支局ニ於テハ | 二十五日目 |
| | 本局ニ於テハ | |

**（五）第五回改正**

既述の如く明治四十年五月限り造幣支局を廢止せらるることとなりたる結果、金銀地金精製及品位證明取扱順序及造幣地金及成貨受渡順序中には自然消滅となるべき條項も少からざるに至りしを以て、同年十月十六日大藏省告示第百七十一號を以て右兩種の規定を廢止し、之と同時に大藏省告示第百七十二號を以て此等の規定を合して新に造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序を左の如く定めたり。

造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序（明治四十年十月十六日大藏省告示第百七十二號）

第一條　造幣規則ニ依リ輸納シタル地金ノ代リ貨幣ハ日本銀行本店又ハ大阪同行支店ニ於テ之ヲ拂渡スヘシ

第二條　東京ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノハ左ノ割合ニヨリ運賃保險料ヲ仕拂フヘシ

一金貨百圓ニ付　金拾壹錢七厘

第三條　輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂渡スヘシ但輸納ノ地金輻輳スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲナスヘシ

| | | |
|---|---|---|
| 一大阪渡ハ | 地金試驗濟ノ翌日ヨリ | 五日目 |
| 一東京渡ハ | 地金試驗濟ノ翌日ヨリ | 十日目 |

第四條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納シタル地金ハ精製又ハ證明濟ノ上大阪造幣局ニ於テ之ヲ拂戻スヘシ

第五條　輸納地金ニ對スル定型塊（量目一百匁未滿ハ地金）及精製地金ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂戻スヘシ但輸納ノ地金輻輳スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂戻ヲナスヘシ

| | | |
|---|---|---|
| 一精製ヲ要セサル地金ハ輸納ノ翌日ヨリ | | 七日目 |
| 一精製ヲ要スル地金ハ左ノ如シ | | |
| 純金一貫匁未滿純銀二十貫匁未滿 | 地金試驗濟ノ翌日ヨリ | 十五日目 |
| 純金一貫匁以上純銀二十貫匁以上 | 地金試驗濟ノ翌日ヨリ | 二十日目 |

**（六）第六回改正**

大正七年十月金銀地金精製及品位證明規則の改正に伴ひ、本取扱順序も亦其の全文を左の如く改正せられたり。

大藏省告示第百七十八號（大正七年十月三十日）

明治四十年十月大藏省告示第百七十二號造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序左ノ通改正シ大正

七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　造幣規則ニ依リ輸納シタル地金ノ代リ貨幣ハ日本銀行大阪支店ニ於テ之ヲ拂渡ス

第二條　輸納ノ造幣地金ニ對スル代リ貨幣ハ通常地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ十二日目ニ之ヲ拂渡ス但シ輸納ノ地金幅輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ十二日目ニ拂渡ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メテ拂渡ヲ爲ス

精製ノ上貨幣ニ製造スル地金ノ代リ貨幣拂渡期日ハ前項ノ日數ニ第五條ノ精製地金拂戻期日ヲ加ヘタル日數トス

第三條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納シタル地金ハ精製又ハ證明濟ノ上造幣局ニ於テ之ヲ返付ス

第四條　金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ品位證明ノ爲製造スル定型塊ハ全量一百匁以上トス

第五條　輸納地金ニ對スル定型塊（全量一百匁未滿ハ地金）及精製地金ハ通常左ノ期日ニ之ヲ返付ス但シ輸納ノ地金幅輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ其ノ期日ニ返付ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ之ヲ返付ス

一精製ヲ要セサル地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ　七日目

一精製ヲ要スル地金ハ左ノ如シ

純金一貫匁未滿　純銀二十貫匁未滿）地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ　十五日目

純金一貫匁以上　純銀二十貫匁以上）地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ　二十日目

第六條　輸納地金ノ取扱時間ヲ左ノ如ク定ム但シ臨時伸縮ヲ要スルトキハ造幣局長別ニ時間ヲ定メテ之ヲ局内ニ揭示ス

受取時間　午前九時ヨリ午後一時マテ

拂戻時間　午前九時ヨリ午後二時マテ

尙ほ輸納地金に對する代り貨幣の拂渡手續に關しては、既に述べたる如く明治三十年五月に於て大藏大臣より造幣局及日本銀行に示達せられ、爾後之に基きて取扱ひ來りしが、前揭取扱順序の改正に伴ひ大正九年三月に至り大藏大臣は更に左の如く改正手續を示達したり。

輸納地金ニ對スル代リ貨幣拂渡手續

第一條　造幣局ニ輸納シタル地金ノ成貨ハ造幣局ヨリ交付シタル時ハ卽日日本銀行大阪支店ニ通知スヘシ於テ期日ニ至リ證書持參人ニ拂渡スヘシ

第二條　造幣局ニ於テ貨幣拂渡證書ヲ地金輸納人ヘ交付シタル時ハ卽日日本銀行大阪支店ニ通知スヘシ

第三條　造幣局ハ貨幣拂渡ノ爲メ前以テ成貨ヲ日本銀行ニ引渡スヘシ

第四條　日本銀行大阪支店ニ於テ地金輸納人ヨリ貨幣拂渡證書ヲ買入タルトキハ之ヲ造幣局ニ通知スヘシ

第五條　前條ノ場合ニ於テ日本銀行大阪支店ハ成貨拂渡證書ヲ以テ金地金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ造幣局ハ定型金塊又ハ量目及品位ヲ證明シタル金塊ヲ以テ拂渡シ端數金額ニ對シテハ更ニ貨幣拂渡證書ヲ交付スヘシ

第六條　日本銀行大阪支店ハ每月受拂計算書ヲ造幣局ニ送付スヘシ

第七條　成貨拂渡取扱ノ爲メ別ニ手數料ヲ交付セス

右の如く金地金の輸納人は拂渡期日に拂渡證書と引換に金貨幣の拂渡を受くべきものなるも、實際に於ては拂渡期日前日本銀行が輸納人より右證書を買取り、其の代償として兌換銀行券を交付するの慣例にして、日本銀行は買取りたる證書を直ちに地金として兌換準備中に加へ、期日に至り造幣局より貨幣の拂渡を受くるものとす。

**（七）第七回改正**

大藏省告示第九十七號（大正十年七月五日）

大正七年十月大藏省告示第百七十八號造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序第六條ノ末尾ニ「土曜

日及七月十一日ヨリ九月十日迄ハ受取拂戻共午前九時ヨリ同十一時迄トス」ヲ加フ

**（八）第八回改正**

大藏省告示第百十四號（大正十一年七月十九日）

大正七年十月大藏省告示第百七十八號造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序中左ノ通改正ス

第六條　輸納地金ノ取扱時間ヲ左ノ如ク定ム但臨時伸縮ヲ要スルトキハ造幣局長別ニ時間ヲ定メテ之ヲ局內ニ揭示ス

受取時間　午前十時ヨリ午後一時マテ

拂戻時間　午前十時ヨリ午後二時マテ

七月十一日ヨリ九月十日迄ハ受取拂戻共午前九時ヨリ午後一時迄トス但土曜日ハ午前十一時迄トス

**（九）第九回改正**

大藏省告示第百三十五號（大正十三年八月四日）

大正七年十月大藏省告示第百七十八號造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序中左ノ通改正ス

第六條　輸納地金ノ取扱時間ヲ左ノ如ク定ム但シ臨時伸縮ヲ要スルトキハ造幣局長別ニ時間ヲ定メテ之ヲ局內ニ揭示ス

受取時間　午前九時ヨリ午後一時迄

拂戻時間　午前九時ヨリ午後二時迄

土曜日及七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ハ受取拂戻共午前九時ヨリ同十一時迄トス

**（十）第十回改正**

大藏省告示第百五十六號（大正十五年十一月二十二日）

大正七年十月大藏省告示第百七十八號造幣地金及成貨受渡竝精製地金品位證明取扱順序中左ノ通改正シ大正十五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ヲ創ル

第五條　精製又ハ品位證明濟地金ハ通常左ノ期間內ニ之ヲ返付ス

但シ輸納ノ地金輻輳シ又ハ工業ノ都合ニ依リ其ノ期間內ニ返付ヲ爲シ難キトキハ造幣局長別ニ期日ヲ定メ之ヲ返付ス

一精製地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ　十日以內

一品位證明濟地金ハ地金試驗濟ノ翌日ヨリ休日ヲ除キ　五日以內

第六條中「午後一時マテ」ヲ「午後二時マテ」ニ「午後二時マテ」ヲ「午後三時マテ」ニ改ム

尙ほ本改正に當り第四條を削除して品位證明の爲め製造する定型塊の量目に對する制限を撤廢し、又第五條の返付期間を短縮し、第六條の取扱時間を延長したるは、何れも政府の地金吸收の必要より出でたるものにして、之れ卽ち當時の重要問題たりし金の輸出解禁を斷行せんが爲の政府對策の一端に外ならざりしなり。而して大正末年現在に就て見るに、本邦諸鑛山より產出せらるる金地金は其の大部分を造幣局に輸納せられて貨幣に製造せられ、或は又精製及品位證明を受くるの狀態なり（但し銀地金の品位證明を請求する者殆んど之なし）。

尙ほ明治四十年五月以降地金の受入は日本銀行本店內の分析所に於て銀行の事業として之を取扱ひ、殆んど造幣局に輸納すると同樣の便宜を與へつつありしが、大正十二年九月關東地方大震災の際其の設備燒失に依り、爾後之を廢止したり。

## 第四節　補助貨幣の流通

近代的貨幣制度に於ては、本位貨幣は概して市場に流通せず、一般に中央銀行の庫中に保藏せられて、銀行券の兌換準備に充當せらるるものにして、市場に廣く流通するは補助貨幣及銀行券なりとす。銀行券の流通に關しては後章に之を述ぶべきを以て、茲には補助貨幣の流通に關し、特に其の通用制限と通用促進とに就て述ぶべし。

## 第一款　補助貨幣の通用制限

近代幣制に於ては本位貨幣に就ては其の一般通用額に制限を加へざるも、補助貨幣に就ては之に制限を附するを慣例とす。卽ち新貨條例規定の貨幣に就ては、同條例と同時に太政官布告を以て「新貨幣通用制限」を發布し、金貨幣（二十圓・十圓・五圓・一圓）の通用額は之を無制限とし（後一圓銀貨幣に就ても亦同樣となす）、補助銀貨幣（五十錢・二十錢・十錢・五錢）は一口の拂方十圓を限度とし、又白銅貨幣（五錢）及銅貨幣（二錢・一錢・半錢・一厘）は同じく一圓を限度として通用せしむることと爲したるが、貨幣法に於ても之を蹈襲して、金貨幣（五十錢・二十錢・十錢）は十圓迄、白銅貨幣及青銅貨幣は一圓迄を限り法貨として通用せしむることとしたり。但し大正九年の法改正に當り、十錢銀貨を廢して新に十錢白銅貨の設けらるるに及び、白銅貨の通用制限額は五圓と改められたり。

斯くの如く補助貨幣に通用制限額を規定する所以は、此の種貨幣は一般に通用價値に比し地金價値小なるを以て、此の爲に起るべき弊害を豫防せんとするに在るものとす。從て若し收受者にして之を拒むことなき場合は通用制限額を超えて受授することを得るは勿論、政府への公納金等に就ては其の制限額は認められざるものなり。卽ち前者に就ては前記「新貨幣通用制限」中に『通用制限ハ元來貨幣ニ原本ト補助トノ別アル所以ノ理ニ基キテ制定セシモノナレハ人々取引ノ節右ノ制限ニ照準シモシコレニ越レハ誰ニテモ請取渡ヲ拒ムノ道理アルヘシサレトモ私ノ取引ニ付便宜ノタメ對談ヲ以テ請取渡イタシ候儀ハ全ク相互ノ都合ニ從フ筈ナレハ右制限ニ不拘勝手次第ニ交通イタシ不苦候事』と規定し、後者に就ては明治三十一年八月大藏省理財局長が管下金庫に對し左の如く通知したるに見るも明かなり。

補助貨ヲ無制限ニ公納受領ノ件（明治三十一年八月大藏省理財局長通知）

貨幣法第七條補助貨幣受授制限ハ、租稅其他ノ公納ニモ適用スベキ樣心得居ル向モ有之哉ニ存候處、右第七條ハ、民間取引上ニ於ケル小貨幣受授ノ制限ヲ設ケタルニ外ナラズ、金庫ニ於テハ租稅其他ノ公納ニハ無制限ニ小貨幣ヲ受領スベキ儀ニ付爲念此段申進候也。

前記の如く補助貨幣の通用額には法規上制限あるも、各種貨幣が統一的一體を成せる現時に於ては、補助貨幣の通用制限は實際上重要なる意味を有するものにあらず、寧ろ一般小取引に於ては補助貨幣の需要盛にして、却て他の通貨を以て無制限に補助貨幣との交換を希望する者ありとす。之れ政府が補助貨幣交換基金を設置し、其の交換取扱手續を定めたる所以なり。

## 第二款　補助貨幣の撒布

### 第一項　補助貨交換基金の設置

明治三十年の幣制改革當時に於ては、補助貨幣の普及圓滑ならず、地方に依りては屢〻過不足を告げ殊に五十錢銀貨の流通圓滑ならざりき。仍て政府は補助貨幣の集散配賦を適度ならしむるに苦心

し、三十一年四月には(一)國庫への收納には補助貨を無制限に受領すること(二)全國普及の策として各地金庫其の他に配賦すること(三)右配賦の費用は特に日本銀行に之を交付すること等の件を決議したり。更に同年六月大藏省理財局長は日本銀行に對し、補助貨幣を流通普及せしむる方策に關して照會したるに同行は研究の結果當分本支金庫に補助貨交換基金を備へ、一般需要者に對し無手數料を以て交換に應ずるの途を開き、以て其の流通普及を圖るの案を立て、大藏當局と商議の上、同年七月補助貨交換取扱手續を定め、之を各地金庫に令達したり。本手續は翌三十二年三月及四月に一部改正ありしが、右改正を經たる全文左の如し。



補助貨交換取扱手續（明治三十一年七月金達第九號）

第一條　補助貨以外ノ通貨ヲ以テ補助貨ト交換ヲ請求スルモノアルトキハ金庫（支金庫同樣ノ派出所モ同シ以下總テ之ニ倣フ）ハ其需ニ應スルモノトス

第二條　補助貨交換基金ハ本金庫ニ在テハ其請求ニ依リ中央金庫ヨリ又支金庫ニ在テハ其請求ニ依リ本金庫ヨリ回送スルモノトス但本金庫ヨリ中央金庫ヘ補助貨ノ回送請求ヲ爲ス場合ニハ交換基金ト普通仕拂基金ト區分スヘキモノトス

第三條　金庫ニ於テ收入セシ補助貨ハ其金庫ノ仕拂基金ニ不足セサル限リハ之ヲ交換基金ニ振換受入ルヽモ差支ナキモノトス

第四條　支金庫ハ補助貨受拂簿（書式適宜）ヲ設置シ補助貨ヲ交換基金トシテ受入（金庫收入金ヲ振換タル分共）レタルモノ及交換ノ爲メ拂出シタルモノヲ各種類別ニ登記整理スルモノトス但金種類ノ交換ニ止マルモノハ現金出納原簿若クハ現金受拂簿ニハ登記セサルモノトス

前記の如く交換基補助貨の遞送費用は當初大藏省より日本銀行に支給し來たりしが明治四十三年以降總て日本銀行の負擔と爲せしを以て、從來の如く金庫保有の補助貨幣を仕拂基と交換基とに區分整理するの要なきに至りし爲め、大正二年三月金達第六號を以て本手續第二條中、『交換基金ハ』とあるを『交換ノ爲メ在高不足ノ場合ハ』と改め、且つ同條但書及第三條以下を削除したり。而して其の後に於ては何等の改正なくして大正末年に至りしが、大正十一年四月會計制度の改正に依り條文中の中央金庫金庫及支金庫は夫々日本銀行同行支店及同行代理店と觀念せらるべきものなり。

尙ほ上記せし所は補助貨幣の無制限交換拂出に關するものなるが、造幣上の都合に依りては必ずしも之に應じ難き場合なきにあらず。例へば明治四十五年二月日本銀行（中央金庫）が各支店長に宛てたる左の通牒の如きは、五十錢銀貨の拂出節約に關し留意を促せしものとす。

明治四十五年二月十日日本銀行國第一一二號支店長宛通牒

一昨年末以降客年上半季ニ亙リテハ新鑄補助銀貨ノ準備相應有之候ニ付御請求次第何程ニテモ回送致候樣申上置候處客年下半季ニ至リ鑄造豫定額減少ニ加フルニ、各地ニ於ケル需要額豫想以上ニ激增ノ結果當方手持有高モ稀有ノ減少ヲ來シ、目下中央金庫在高五十錢六拾萬圓、二十錢百拾八萬圓、十錢七拾四萬圓及大阪本金庫在高五十錢拾四萬圓、二十錢參萬圓、十錢五拾萬圓合計參百拾九萬圓程ト相成候處、本年度內ニ受入ルベキ鑄造未濟額ハ僅ニ參四拾萬圓（內五十錢貳拾萬圓、殘餘ハ十錢）ニ過ギズ候ニ付テハ、舊節季ニ於ケル需要額等按排致候上ハ、年度末ニ於ケル殘額ハ極メテ少量ト可相成存候。然ルニ四十五年度鑄造工程豫算ハ、五十錢貳百八拾萬圓、十錢貳百貳拾萬圓ニ候間、同年度下半季ニ入リ候ハヾ五十錢銀貨ハ需要ニ不足ヲ告グルコト必然ト見込マレ申候。尙壹圓紙幣ノ儀モ目下貳千六百五拾餘萬圓ノ發行ニテ、餘力參百四拾餘萬圓ニ過ギズ候ヘバ、其邊豫メ御承知置被下度、自然今後五十錢補助貨使用ニ就テハ充分節約方御留意願度此段得貴意候。

追テ舊銀貨引上ゲ情況左記ノ通リニ有之候。

明治四十四年十二月末調

| 種類 | 發行高 | 引上高 | 引上高ノ内 | 引上未濟 | 發行高ニ對スル引上未濟ノ割合 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鑄潰金庫在高（右側）<br>高（左側） | | |
| 舊五十錢 | 三四、一四二千円 | 二一、二八七千円 | 一六、三九一千円<br>一四、八九六 | 一二、八五四千円 | 三・七七歩 |
| 舊二十錢 | 二三、〇九〇 | 一二、五八三 | 一〇、三八<br>一〇、五四五 | 一〇、五〇七 | 四・五五 |
| 舊十錢 | 二四、三八六 | 九、五六七 | 六、八一五<br>二七五二 | 一四、八一九 | 六・〇八 |
| 舊五錢 | 一、五〇四 | 二一一 | 一六四<br>一四七 | 一、二九三 | 八・三九 |
| 計 | 八三、一二二 | 四三、六四八 | 三三、四〇八<br>一〇、二四〇 | 三九、四七四 | |

右表ニヨリ發行高ト引揚未濟高トノ割合ヲ見レバ、二十錢・十錢・五錢銀貨ノ引揚ハ五十錢ニ比シ著シク不成績ナルヲ認メラレ候。然ルニ十錢銀貨ハ目下現在高ニ來年度ノ鑄造額ヲ見込候トキハ、約參百五拾萬圓ト相成可申候間、可成市場ヘ散出致度右ニヨリ二十錢以下ノ舊貨引揚增加相成候ハヾ好都合ニ存候。

## 第二項　新補助貨幣の撒布

新發行の補助貨幣は政府の支拂又は交換に依りて漸次市場に放出せらるるものなるが、今小額紙幣回收のため發行せられし大正十一年の新補助貨幣の市場撒布に就き、政府及日本銀行當局の方針を、同行の各地支店宛の通牒に依りて見れば左の如し。

### （一）新五十錢銀貨の發行竝に小額紙幣との引換方通牒

大正十一年五月二十九日日本銀行國庫第三四四號、支店宛通牒

新五十錢銀貨ノ鑄造追々進捗致候ニ付テハ、漸次各支店ニ分配回送致可候。尤モ一般ニ流通セシムル時期ハ追テ大藏省ヨリノ通牒ヲ俟テ、重ネテ御通知可致候間、右豫メ御承知相成度此段得貴意候。



追而本文銀貨ハ別口預金中新鑄造貨幣ノ種別ヲ以テ御保管相成度申添候。

大正十一年八月二十三日日本銀行國庫第五三四號支店宛通牒

豫テ十錢小額紙幣請求ノ向ニ對シテハ十錢白銅貨ヲ振向ケ漸次十錢小額紙幣ノ回收方御依賴致置候處愈〻來ル十月一日ヨリ新鑄造五十錢銀貨ヲ弘布シ、之ト引換ニ極力五十錢小額紙幣ノ引揚ヲ行フコトニ相定マリ殊ニ小額紙幣ノ引揚ハ政府ノ物價調節ノ聲明中ニモ含マレ、其筋ノ方針ハ極メテ徹底的ニシテ、五十錢小額紙幣ニ付テハ本年末迄ニ約參千七、八百萬圓ノ引揚ヲナスノ計畫ヲ立テ、同期間ノ銀貨弘布豫定額貳千八百萬圓ヨリ約壹千萬圓見當丈ケ餘分ノ引揚ヲ見込ミ居ル次第ニ有之候。就而政府ノ希望通リ比較的短期間ニ巨額ノ小額紙幣ヲ引揚ントスルニハ、今日ヨリ引揚ノ準備ニ著手スルヲ可然ト存ジ、當店ニ於テハ當座預金取引ヲ有スル代理店扱銀行其他一般取引先銀行ト夫々左記打合セノ通リ實行致スコトヽ相定候。貴店ニ於テモ適宜ノ方法ヲ以テ引揚方御配慮相煩度此段得貴意候也。

（打合條項省略）

大正十一年九月一日日本銀行國庫第五四四號支店宛通牒

拜啓豫而得貴意候新鑄造五十錢銀貨ハ、愈〻十月一日ヨリ全國一齊ニ使用ヲ開始スルコトニ相定リ候ニ付キテハ、左記要旨ヲ以テ配賦方御手配相成度候。

一、預金店ニハ使用開始前適宜ノ額ヲ配賦ノ上、別段預金中新鑄造貨幣ノ種別ヲ以テ整理セシメ、十月一日別段預金ヨリ當座預金ニ組替ノ上使用セシムル樣御取計相成度、尙右ノ場合期日前ニハ絕對ニ使用ヲ許サヾル旨篤ト御注意置相成度（當店ニ於テハ別紙ノ通リ通牒致候）。

二、貴店ニ於テハ十月一日別口預金中新鑄造貨幣ノ種別ヲ拂出シ、補助貨ニ受入爾後引續造幣局ヨリ受入分ハ同樣補助貨ノ種別ヲ以テ受入相成度。

三、新銀貨ノ撒布開始ノ上ハ順次五十錢小額紙幣ヲ引揚ル必要有之且銀貨ノ普及ハ小額紙幣ノ引揚ト相俟テ進捗スル次第ニ有之候故銀貨ノ撒布ト共ニ小額紙幣ノ引揚方充分ノ御盡力相願度右引揚ニ關シテハ別紙ノ通リ代理店ニ通牒致候間御了承ノ上代理店ヨリ小店ノ所要ヲ第一トシテ御取計相成度之ハ萬一銀貨ヲ以テ五十錢貨幣ノ所要ニ應ジ得ザル場合有之候時ハ、自然小額紙幣ヲ配布スルノ已ムヲ得ザルニ立至ルベク而モ小額紙幣ヲ再ビ代理店ニ配賦スルコトハ成ルベク止メ度キ方針ニ出ヅルモノニ候。追而小額紙幣ハ補助貨不足ノ場合ニ限リ所要ニ從ヒ遞送中上グ可ク候。

（別紙）

大正十一年九月一日本店直轄預金店宛通牒

豫而鑄造中ノ新五十錢銀貨追々出來シ、愈、來ル十月一日ヨリ一般市場ニ流通セシムルコトニ相定リ候ニ付キテハ差當リ貴店分割宛トシテ同銀貨　萬圓也遞送可致候間左記ノ手續相成度候也。

一、右銀貨ハ貴店引受代理店ニ直接遞送可致ニ付各代理店ニ對スル配布割宛額御一報相成度。

二、右銀貨ヲ各店ニ於テ受入レタル場合ハ別段預金中新鑄造貨幣ノ種別ヲ以テ整理相成度。

三、右銀貨ハ前陳ノ如ク十月一日ヲ期トシ、全國一齊ニ使用ヲ開始スル方針ニ有之右期日迄ハ絶對ニ使用ヲ許サヾル其筋ノ取極メニ候間、豫メ御承知ノ上各代理店ニモ其旨篤ト御注意置相成度。

四、十月一日使用開始ノ場合ハ別段預金ヨリ全額ヲ拂出シ當座預金ニ組替ノ上御使用相成度。

大正十一年九月一日日本銀行國庫第五五二號代理店宛通牒

拜啓來ル十月一日ヲ期トシ全國一齊ニ新鑄造五十錢銀貨ノ使用ヲ開始スルコト、相成リ差向キ割當額ハ夫々御配布可申、且今後トモ御所要ニ從ヒ引續キ遞送可致候ニ付弘布方充分御盡力相願度候。尙銀貨使用ト共ニ五拾錢小額紙幣ハ可成速ニ之ヲ引揚ル方針ニ有之、且又銀貨ノ普及ハ小額紙幣ノ引揚ト相俟テ進捗スル次第ニ候間銀貨ノ弘布ト同時ニ小額紙幣ノ引揚方御配慮相願度此段得貴意候也。

追而右ノ次第ニ有之候間貴店ニ於テ五十錢小額紙幣ヲ御受入相成候節ハ再ビ支拂ニ御使用無之樣致度、且引揚ノ分ハ八月一日附國第四九三號舊補助貨ノ引揚方ニ準ジ當行ニ御回送相成度候。尙又二十錢及十錢小額紙幣ノ引揚ニ付キテモ同方針ヲ以テ御取扱相成度候。

## （二）新白銅貨及新靑銅貨の撒布方通牒

大正十一年四月二十二日日本銀行國庫第一九八號支店宛通牒

大正十一年度新白銅貨ノ製造額ハ十錢貳千萬圓五錢壹千萬圓ノ豫定ニ有之舊五錢白銅貨ノ引上準備竝ニ小額紙幣發行高ノ遞減ニ從ヒ漸次流通普及可致樣配賦致度候ニ付キテハ向後貴店宛相當多額白銅貨ノ配賦可致ニ付預金店ニ對スル配賦方右御含ノ上宜敷御配慮相成度此段及御通牒候也。

大正十一年八月一日日本銀行國庫第四九八號支店宛通牒

新白銅貨及新靑銅貨ノ配賦方ニ付キテハ引續御配慮ニ預リ居候處本年度製造額白銅貨參千萬圓靑銅貨三百萬圓中向後貴店ニ於テ配賦相願度額ハ十錢白銅貨何萬圓五錢白銅貨何萬圓一錢靑銅貨何萬圓ノ割宛ニ有之候間右御了承ノ上極力配賦方御盡力相願度何分向後ハ舊補助貨引揚ノ爲メ市場ノ所要額以上ニ撒布スル必要有之之ガ爲メニハ是非共積極的ニ撒布ノ工夫ヲ要スルハ勿論ノコトニ有之目下當店ニ於テハ十錢紙幣請求ノ向ニ對シテハ總テ十錢白銅貨ヲ振向ケ十錢紙幣ハ絶對ニ使用セズ五十錢小額紙幣請求ノ向ニ對シテモ半額以上十錢五錢ノ白銅貨ヲ割宛テ居ル次第殊ニ五錢白銅貨ノ消化ニツキテハ代理店ニ對スル配賦ハ勿論當店直扱分ニモ積極的ニ配賦方盡力致居ル事情ニ有之候。右御參考迄ニ申上候。

大正十一年五月二十七日日本銀行國第三四〇號各預金店宛通牒

補助貨鑄造追々出來ニ付テハ漸次小額紙幣ヲ引揚ゲ之ニ代フルノ方針ニ有之、今後拾錢小額紙幣ノ需要ニ對

シテハ可成拾錢白銅貨ヲ振向ケ度候間右ニ御承知被下度、尚舊白銅貨(有孔・無孔共)引揚ノ爲メ新白銅貨ヲ撒布致度候ニ付是亦御盡力相願度此段及御依頼候也。

追而新鑄五十錢銀貨ハ本年十一月頃撒布ノ豫定ニ有之候間御承知置相成度候。

大正十一年六月三十日日本銀行國第四一一號代理店宛通牒

十錢小額紙幣及舊白銅貨引揚ノ爲メ新白銅貨ヲ可成潤澤ニ普及致サセ度豫而御依頼申上置候處尚右ニ付キテハ來ル盆節季小貨需要ノ旺盛時期ヲ利用シ特ニ撒布方御盡力相煩度殊ニ五錢新白銅貨ハ舊白銅貨引揚ノ爲メ目下多額ノ製造中ニ有之旁十錢小貨請求ノ向ニ對シテモ此際ハ五錢白銅貨ヲ取混ゼ使用致候樣御取計相願度就而七、八、九月ノ交新白銅貨相當多額配賦可致見込ニ候間事情御了承ノ上御協力相願度、此段重而及御依頼候也。

## 第三款　大正年間に於ける補助貨幣の需給狀況

### 第一項　大正初期の狀況

明治四十二三年の交に於ては補助銀貨の需給は大體平衡を得たる如くなりしが、明治四十三年八月以降は二十錢銀貨の製造中止せられ、其の他の銀貨の鑄造も爾來連年減少を見たりし結果、其の供給は財界の發達に伴ふ一般需要の增加に追隨する能はざるに至れり。殊に五十錢銀貨の需要は著しく增加し來たり、中央金庫の保藏額も稀有の減少を呈したるを以て、四十五年二月には遂に其の使用節約方を通牒せざるを得ざるに至れり。

次に一錢青銅貨は明治四十三年度より大正元年度迄製造を中止したりしのみならず、舊銅貨の引揚進捗竝に朝鮮への回送增加等の爲め、自然內地の流通高減少し、其の需要を滿すこと困難なりと認められしを以て、大正二年度より其の製造を再開したり。

斯くして大正三年世界大戰勃發前後より翌四年末頃迄は補助貨幣の需給は一時略ぼ權衡を得たる如くなりしが、世界戰爭の影響漸次內地產業を刺戟し、我經濟界が未曾有の活況を呈するに及び、補助貨幣の需要は勃然として起り、而も供給之に伴はざる狀態なりしかば、補助貨不足の聲漸く喧しくなれり。而して大正五年に入りては補助貨の需要は益ゝ增加したるに拘らず、造幣局は偶ゝ露國貨幣千九百萬留の鑄造を引受けたる爲め、我銀貨の製造高充分ならず、補助銀貨の拂底は愈ゝ甚しくなれり。今試に大正五年年初四箇月間に於ける中央金庫の銀貨受拂高を前二箇年の夫と比較して參考に供すれば次の如し。

| | 大正三年 | 大正四年 | 大正五年 | 大正五年と前年との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 前年末殘高 | 六九八、〇〇〇円 | 一、一七三、〇〇〇円 | 四〇〇、〇〇〇円 | (-) 七七三、〇〇〇円 |
| 自一月至四月 (受高 | 三、四二四、〇〇〇 | 三、〇九八、〇〇〇 | 二、二六八、〇〇〇 | (-) 八三〇、〇〇〇 |
| 自一月至四月 (拂高 | 一、四六七、〇〇〇 | 一、六八七、〇〇〇 | 二、〇〇八、〇〇〇 | (+) 三二一、〇〇〇 |
| 四月末殘高 | 二、六五五、〇〇〇 | 二、五八四、〇〇〇 | 六六〇、〇〇〇 | (-) 一、九二四、〇〇〇 |

右の如き銀貨の不足に對しては、政府は差當り一圓銀行券又は白銅貨を以て代用し、一時を彌縫し來たりしが、白銅貨は明治三十九年度以降大正四年度迄鑄造を中止し居りし爲め、其の供給潤澤なるを得ざりき。卽ち中央金庫に於ける大正三四年中の白銅貨の拂出高は二十三四萬圓に過ぎざりし

が、大正五年に入りては四月迄に早くも十四萬圓を拂出し、其の殘額は前年同期に比し約四分の一に激減したり。

尙ほ銅貨の收支を見るに、之れ亦出超一方にして、就中一錢青銅貨は需要益〻多く、大正五年二月末に於ける中央大阪兩金庫の殘高は僅々五千圓を餘すのみにて、拂底の極に達したるが爲め、應急手段として同年三月以降引揚濟二錢銅貨を一時代用することとせり。又五厘銅貨は明治四十二年度末に於て前記兩金庫殘高約十四萬圓を算へしも、暫く其の製造を中止し居たりしと、朝鮮に於ける葉錢の引揚に伴ひ同地への移出增加したるとの爲め、金庫保藏高は漸次減少し、大正四年三月初に於ては僅に二千圓を餘すのみとなれり。此の爲め日本銀行は同年七月政府に對し、大正五年度より五厘青銅貨の鑄造再開を申請するに至れり。

## 第二項　世界戰時及戰後の狀況

各種補助貨幣の缺乏前記の如くなりしを以て、政府は大正五年二月法律第八號を以て貨幣法を改正し、新形式の青銅貨及五錢白銅貨を制定すると共に、五年度に於ける補助貨鑄造高を前年度より一躍六百萬圓を增加して七百十五萬圓と定め、又翌六年度に於ては七百七十七萬圓と爲したるも、猶ほ到底補助貨の急需を緩和すること能はざりしを以て、六年十月に至り遂に久しく中絶し居たりし政府紙幣、卽ち小額紙幣の發行を斷行するに至れり（本編第三章參照）。

此の小額紙幣の發行に依りて補助貨幣の缺乏は漸く緩和せられたるが、偶〻銀塊相場の漸騰に遭ひ大正七年には四十九片に達したるを以て、政府は銀貨の改鑄を爲すことを決し同年五月貨幣法を改正し、五十錢、二十錢及十錢の新銀貨の形式を定め、同年より翌年にかけて二千百七十餘萬圓を新鑄したり。然るに銀價は尙ほ昂騰して八年十月には六十六片に上りしを以て、右新鑄貨は市場に出すことを得ずして、之を全部其の儘小額紙幣の引換準備に繰入れ（大正十一年七月より十二年十二月迄の間に準備を解除し回收貨幣として全部造幣局に引渡す）、尙ほ同年十一月より銀貨の製造を一旦中止したり。而も銀塊相場は大正九年三月以來急落し、高値に比し約三分の一に落込みしが、猶ほ未だ安定の狀を呈せざりしを以て、銀貨の鑄造は九年度及十年度共依然として之を見合せ、白銅貨及青銅貨の兩者のみ增鑄を爲したり。卽ち五錢白銅貨は八年度に於て三百二十四萬圓、卽ち前年度の五倍强の增鑄を爲し、更に九年七月貨幣法を改正して新十錢白銅貨及新五錢白銅貨の形式を定め、同年度中に兩者合計九百九十萬圓、十年度中に約千三百萬圓の大增鑄を行ひ、以て市場の需要に應じたり。又他方青銅貨の鑄造にも力を注ぎ、造幣局は晝夜兼行して七年度には一錢青銅貨百七十三萬圓、八年度には百九十一萬圓の增鑄を爲し、九年度に於ては遂に二百八十八萬圓の巨額を製造するに至れり。尙ほ此の間他日小額紙幣引換用の硬貨大增鑄に備ふる爲め、大正八年度より造幣局內の設備擴張工事に著手し、大正十一年度に入り之を完成したり。

斯くして造幣局の一箇年硬貨鑄造能力は從來の五億枚より八億枚に增加するを得たりしが、一方政府は大正十一年四月法律第七十三號及勅令第二百四十號を以て、新銀貨の形式を定め、品位、形量を低下縮小して同年五月より其の製造を開始したり。尙ほ同年八月政府は補助銀貨增加發行竝に小額紙幣の回收整理に關する聲明書を發表し、尋いで十月より新五十錢銀貨を市場に放出して、小額紙幣の回收を促進したるが、當初は小額紙幣の引揚に伴ひ、新銀貨の需要著しく增加し、造幣局よりの交

付額を以てしては到底之に應ずる能はざりし爲め、日本銀行は已むを得ず新銀貨の不足分に對して
は姑く仍ほ小額紙幣を以て充當したり。斯くて十二年度に於ては五十錢銀貨の鑄造額は前年度の
殆ど二倍の八千八百萬圓に達し、之に加ふるに白銅貨も亦舊白銅貨(有孔及無孔)引揚及十錢小額紙幣引
揚の用意として、十一年度には實に三千萬圓の巨額を鑄造したるを以て、市場漸く飽滿の情況を呈し
來たり、一般の需要も甚しく減退したり。此の爲に大正十二年二月末には白銅貨約千二百萬圓及青
銅貨百五十萬圓は、日本銀行の庫中に堆積し、同行は却て之が收容難を感ずるに至りし程なり。

### 第三項　關東大震災以後の狀況

大正十二年九月關東一圓に亙れる未曾有の大震火災に因りて燒失したる補助貨幣の數額は固よ
り之を明らかにすることを得ずと雖も、相當の額に上りしことは推測に難からざる所にして、震災後
日本銀行に引換を請求し來たれる流通不便貨幣の額に就て見るも、九、十兩月に於て二十七萬餘圓に
達したり。

而して震災直後に於ける補助貨幣の撒布高及引揚高は、何れも從前に比し減少を示したるが、右は
交通機關等の破壞等に因り、地方的には一時其の需給圓滑を缺きたるやに推測せられざるにあらざ
るも、恐らく數年來の產業界の不振の爲め補助貨幣の飽滿の度が一層加はりしことを示すものと云
ふべし。殊に五錢以下の小貨幣は著しく過剩を呈し來たりしを以て、大正十三年度以降五錢白銅貨
の製造を中止し、更に十四年度以降には時に僅少の鑄造を爲したるも、大體靑銅貨の製造をも見合せ
たり。又五十錢銀貨及十錢白銅貨に就ては、必ずしも市場の積極的需要起りしにあらずと雖も、回收



貨幣及小額紙幣の引揚に伴ひ、之が補充の爲め引續き相當額の製造發行を爲し來たりしが、大正十五
年七月以降五十錢銀貨の鑄造も亦一時停止するに至れり。

尙ほ舊補助貨幣の引揚に就ては別節に之を詳述するも、要するに新補助貨の供給と相俟ちて政府
及日本銀行が年來努力し來たりし所なるが、更に之が促進を圖る手段として大正十五年八月一日よ
り日本銀行本支店竝各代理店に於て交換の請求を爲す者に對し、手數料を交付することとなれり。
而して其の成績は相當見るべきものあり、實施以後一箇年間の回收額は千二百五十九萬圓に上り、前
一箇年に比し約百七十萬圓を增加し、從來漸く減退を示し來たりし舊貨の回收は、之を機として再び
活潑となりたり。

## 第五節　貨幣の整理

### 第一款　流通不便貨幣の引換

金貨幣にして磨損の爲め通用最輕量目を下るもの、及補助貨幣にして著しく磨損したるもの、其の
他流通不便の貨幣は、其の額面價格を以て無手數料にて政府は之が引換の義務を負ふものなり(貨幣
法第十二條)。仍て大藏大臣は明治三十年九月告示第五十八號を以て其の引換場所を左の如く指定し
たり。

大藏省告示第五十八號(明治三十年九月十六日)

明治三十年法律第十六號貨幣法第十二條ニ依ル磨損其他流通不便貨幣ノ引換ハ中央金庫及大阪本金庫ニ於

テ之ヲ取扱フ

但其他ノ各本金庫ニ於テモ引換ノ取次ヲ爲スヘシ

之と共に右取扱方に就き金庫出納役に示達する所ありしが、尋いで十月四日に至り改めて左の如く「交換順序」及前記告示の但書に依る各地本金庫の「引換手續」に就き、中央金庫大阪本金庫及各地金庫出納役へ令達せり。

磨損其他流通不便貨幣交換順序（明治三十年十月四日大藏大臣令達）

一　中央金庫及大阪本金庫ニ於テハ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ通貨ト交換方請求スルモノアルトキハ直チニ引換方取計フヘシ

二　各地本金庫（大阪本金庫ヲ除ク）ニ於テハ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ引換方請求スルモノアルトキハ之ヲ領收（眞僞ヲ鑑定シ僞造及貨幣法第十三條ニヨルモノハ拒絕スルコト勿論トス）シ適宜ノ預書ヲ請求者ヘ交付シ而シテ代リ貨幣ノ回送方ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ要求ノ上到著後右預リ證書ト引換ニ請求者ヘ該貨幣ヲ交付スヘシ

但金庫有合ノ通貨ニテ直チニ引換ヲ爲ス場合ハ此限リニアラス

三　各地本金庫（大阪本金庫ヲ除ク）ニ於テ引換濟ノ磨損其他流通不便貨幣ハ漸次中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

四　第二項ニ依リ各地本金庫（大阪本金庫ヲ除ク）ニ於テ磨損其他流通不便貨幣ヲ預リタルトキハ現金出納原簿科目ハ貸方「磨損其他流通不便貨幣交換受入」トシテ整理シ代リ貨幣ノ回送ヲ得テ拂渡シタルトキハ同簿科目ハ借方「磨損其他流通不便貨幣交換代金拂出」トシテ整理スヘシ

五　中央金庫及大阪本金庫ヘ受入タル磨損其他流通不便貨幣ハ現金種類別簿中「流通不便貨幣」トシテ整理スヘシ

六　中央金庫ハ毎月末日交換濟磨損其他流通不便貨幣現在高表（書式略）ヲ調製シ大藏省ヘ差出スヘシ

七　各地ニ於テ受入タル磨損其他流通不便貨幣ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スル費用及代リ通貨ノ回送費用ハ引換請求者ニ關係ナキモノトス

磨損其他流通不便貨幣引換手續（明治三十年十月十四日金達國第一四二〇號）

本年九月大藏省告示第五十八號但書ニ依ル磨損其他流通不便ノ貨幣引換ノ取次ヲ請求セシモノアルトキハ左ノ通御取扱可相成此段及御通達候也

一　各地本金庫ニ於テ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ引換方請求スルモノアルトキハ之ヲ領收シ（新鑄ヲ鑑定シ僞造及貨幣法第十三條ニ依ルモノハ拒絕スルコト勿論ナリ）金庫有合ノ通貨ニテ交換シ得ル場合ニハ直チニ交換ヲ爲シ若シ有合ノ通貨ナキトキハ持參人拂ノ預リ證書（預リ證書原符ニハ請求金額住所氏名月日等ヲ詳記シ拂渡ノ通知書發行ノ便ト爲スヘシ又預リ證書原符ハ磨損其他流通不便貨幣交換受入ノ證憑書トナルモノナリ）ヲ請求者ヘ交付シ代リ貨幣ノ回送方ヲ中央金庫又ハ大阪本金庫ヘ要求ノ上到著後交換請求人ニ交換通知書（適宜書式）ヲ發行シ通知書及ヒ預リ證書（現金配戻濟ノ領收證書ハ磨損其他流通不便貨幣交換代金拂出ノ證憑書トナルモノナリ）ト引換ニ請求者ヘ該貨幣ヲ交付スルモノトス

二　第一項ニヨリ各地本金庫ニ於テ磨損其他流通不便貨幣ヲ預リタルトキハ現金出納原簿科目ハ貸方「磨損其他流通不便貨幣交換受入」トシテ整理シ代リ貨幣ノ回送ヲ得テ拂渡シタルトキハ同簿科目ハ借方「磨損其他流通不便貨幣交換代金拂出」トシテ整理シ每月五十ノ日ニ於テ其受拂額ヲ中央金庫ニ報告スヘシ

三　各本金庫ハ磨損其他流通不便貨幣ヲ通達外回送トシテ臨時中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

四　磨損其他流通不便貨幣回送ニ係ル費用ハ引換請求人ニ關係ナキモノナレハ其實費ハ各金庫間銅貨遞送料請求書書式ニ準シ每年四月十月ニ請求書ヲ調製差出スモノトス

五　本告示ノ流通不便貨幣ハ貨幣法第三條ニ規定ノ貨幣ニ止ラス一圓銀貨五錢銀貨其他現時流通スル一切ノ貨幣ヲモ包含スルモノトス

右「交換順序」及「引換手續」に依り中央金庫若くは大阪本金庫に蒐集せられたる流通不便貨幣は、之を造幣局に引渡して改鑄材料に供することとし、明治三十一年三月其の受拂手續を左の如く定め、之を造幣局及金庫出納役に令達したり。

流通不便貨幣受拂手續（明治三十一年三月二十五日大藏大臣令達）

第一條　中央金庫ニ於ケル流通不便貨幣ハ適宜取纏メ大阪本金庫へ回送スヘシ

第二條　大藏大臣ハ大阪本金庫ニ於ケル流通不便貨幣ヲ貨幣整理資金部ニ於テ引揚ヲ要スルトキハ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ

第三條　金庫ハ第二條ノ令達ヲ受ケタルトキハ某年度貨幣整理資金歳出ヲ拂出シ某年度貨幣整理資金引揚貨幣受入ノ科目ヲ以テ引換流通不便貨幣受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　大藏大臣ハ貨幣整理資金部ヘ受入タル引揚流通不便貨幣ヲ造幣局ヘ賣渡ノ順序トシテ之ヲ同局ヘ引渡方金庫ヘ令達スヘシ

第五條　金庫ハ第四條ノ令達ヲ受ケタルトキハ造幣局渡ノ科目ヲ以テ引揚流通不便貨幣ヲ拂出シ之ヲ造幣局ヘ引渡スヘシ

第六條　造幣局長ハ第五條ニ依リ金庫ヨリ引揚ニ係ル流通不便貨幣ノ引渡ヲ受ケタルトキハ貨幣ノ種類毎ニ其品位量目等ヲ調査（鎔解精製ヲ要スルモノハ之ヲ爲スヘシ）シ別紙樣式ニ依リ大藏省ヘ報告スヘシ

第七條　大藏大臣ハ第六條造幣局長ノ報告ニ依リ受拂代價ヲ算定シ其流通不便貨幣ヲ造幣局ヘ賣渡ノ爲メ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ

第八條　金庫ハ第七條ノ令達ヲ受ケタルトキハ某年度作業歳出仕拂元金ヲ拂出シ某年度貨幣整理資金歳入ハ受入ノ手續ヲ爲スヘシ但作業歳出仕拂元金ヲ拂出シタルトキハ其旨直チニ造幣局長ニ報告スヘシ

第九條　金庫ハ第八條ノ手續ヲ爲スト同時ニ第五條ニ依リ造幣局ヘ引渡シタル引揚流通不便貨幣ヲ造幣局



受入科目ヲ以テ受入レ更ニ某年度貨幣整理資金引揚貨幣拂出ノ科目ヲ以テ拂出ノ記帳ヲ爲スヘシ

（別紙樣式省略）

斯くの如く流通不便貨幣の引換は、中央金庫を始め各地本金庫に於て之を取扱ひ來りしが、大正十一年四月より金庫制度廢止せられ、預金制度となるに及び、之が取扱も日本銀行本支店又は代理店に於て之を行はしむることとなり、同年十一月十七日大藏省告示第百五十號を以て之を公示したり。

大藏省告示第百五十號（大正十一年十一月十七日）

明治三十年法律第十六號貨幣法第十二條ニ依ル磨損其ノ他流通不便貨幣ノ引換ハ日本銀行本支店ヲシテ之ヲ取扱ハシム但シ各代理店ニ於テモ引換ノ取次ヲ爲スヘキ

明治三十年大藏省告示第五十八號ハ之ヲ廢止ス

預金制度實施以後に於ける流通不便貨幣の引換手續等に關しては別段に定むる所なきも、大正十一年十二月日本銀行が各取扱店に對して、舊補助貨幣引揚促進方に就き發したる通牒の末段に左の字句あり（國第六八四號）。

『尙本年十一月十七日大藏省告示第一五〇號ヲ以テ貨幣法第十二條ニ依ル磨損其他流通不便貨幣引換請求ノ場合各代理店ハ其取次ヲ爲スヘキ旨示示セラレ候處、右ハ取扱店ニ於テ直チニ引換得ヘキモノハ隨時之ヲ引換ヘ鑑定困難ノモノニ付テハ請求者ヨリ一時之ヲ預リ置キ所管本行本支店ヘ回送方御取計相成度候也』

又先に揭げし引揚流通不便貨幣の造幣局交付手續は、大正七年十月に至り廢止せられしが、實際の取扱方は從前と異る所なく、卽ち中央金庫へ集積する流通不便貨幣は從來通り適宜取纏め、大阪本金庫へ回送することとせり。而して預金制度實施後に於ける引揚貨幣（流通不便貨幣竝に舊貨幣共）の造幣局交付方に就ては、大正十一年三月大藏大臣令達第三二九〇號「造幣局資金及鑄造濟補助貨國庫收支

取扱手續」中第一條乃至第七條に之を規定したるが、本手續は翌十二年五月を以て全文を改正せられ、其の第一條乃至第十二條に左の如く規定せられたり。

造幣局資金及鑄造濟補助貨國庫收支取扱手續（大正十二年五月藏第二九五五號）

第一條　造幣局國庫ニ現在スル回收貨幣又ハ流通不便貨幣ヲ引揚整理ノ爲交付ヲ受ケムトスルトキハ之カ交付方ヲ大藏省ニ請求スヘシ

第二條　大藏省前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ第一號書式ノ回收貨幣（流通不便貨幣）拂出通知書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第三條　造幣局大藏省ヨリ前條回收貨幣（流通不便貨幣）交付通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ造幣局資金歲出ヲ支出スル爲メ支出官事務規程第二十二條ノ規定ニ準シ大藏省ヲ受取人トシ「要振替」ノ押印ヲ爲シタル小切手ヲ日本銀行ニ交付シ同時ニ第五號書式ノ領收證書ヲ同行ニ提出シ該貨幣ノ引渡ヲ受クヘシ

第四條　日本銀行造幣局ヨリ前條小切手及領收書ノ交付ヲ受ケタルトキハ造幣局資金歲出ヲ拂出シ第二條ニ依リ大藏省ヨリ送付ヲ受ケタル回收貨幣（流通不便貨幣）拂出通知書ニ對査ノ上該貨幣ヲ同局ニ交付スヘシ

第五條　造幣局國庫ニ現在スル回收貨幣又ハ流通不便貨幣ヲ引揚整理前假渡ヲ受ケムトスルトキハ之カ假交付方ヲ大藏省ニ請求スヘシ

第六條　大藏省前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ回收貨幣（流通不便貨幣）交付通知書ヲ造幣局ニ第四號書式ノ回收貨幣（流通不便貨幣）拂出通知書ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

第七條　造幣局大藏省ヨリ前條回收貨幣（流通不便貨幣）交付通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第五號書式ノ領收書ヲ日本銀行ニ提出シ該通知書ニ記載シアル貨幣ノ引渡ヲ受ケ他日精算ノトキ第三條ノ手續ニ依ル小切手ヲ日本銀行ニ交付スヘシ但シ此場合ニ於テハ其ノ小切手裏面ニ假受貨幣決濟ノ旨ヲ記入スルモノトス

第八條　日本銀行造幣局ヨリ前條領收書ノ提出ヲ受ケタルトキハ第六條ニ依リ大藏省ヨリ送付ヲ受ケタル回收貨幣（流通不便貨幣）拂出通知書ニ對査ノ上該貨幣ヲ同局ニ交付シ「造幣局渡」ノ科目ヲ以テ整理シ他日同局ヨリ假受貨幣決濟ノ旨裏書セル小切手ノ交付ヲ受ケタルトキ之カ決濟ヲ爲スヘシ

第九條　造幣局第三條又ハ第七條ノ規定ニ依リ回收貨幣又ハ流通不便貨幣ノ引揚ヲ了シタルトキハ第六號書式ノ回收貨幣及流通不便貨幣引揚濟報告表ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第十條　造幣局「資金部」ノ引揚貨幣ヲ鑄造材料トシテ作業部ヘ買受ノ爲メ造幣局歲出ヲ支出セムトスルトキハ支出官事務規程第二十二條ノ規定ニ依リ「要振替」ノ押印ヲ爲シタル小切手ヲ振出スヘシ

第十一條　日本銀行前條ノ小切手ヲ受ケタルトキハ造幣局歲出ヨリ造幣局資金歲入ヘ移換ノ手續ヲ爲シ其ノ旨支出官及歲入徵收官ニ通知スヘシ

第十二條　造幣局第十條ノ規定ニ依リ引揚貨幣ノ買受ノ手續ヲ了シタルトキハ第七號書式ノ引揚貨幣處分高報告表ヲ大藏省ニ送付スヘシ

（第十三條以下省略）

## 第二款　舊貨幣の通用禁止

法規を以て舊貨幣の通用を禁止することは、其の影響する所甚大にして、國民生活の安寧、取引秩序の安全を害すること少しとせず。從て貨幣に關する法令の新設又は改正に依りて、從前の貨幣に代へて新種の貨幣を製造發行するに當りても、政府は直ちに在來貨幣の通用を禁止する所なく、仍ほ相當期間其の通用を認め、此の間に漸次之が回收を圖り、流通市場に於ける殘存額が極めて僅少となりたる之が通用を禁止するも何等の弊害なしと認むるに及びて、始めて通用禁止を斷行するを慣例とす。

而も通用禁止の貨幣（紙幣に就ても同じ）と雖も、發令と同時に政府に依る引換をも停止するは尚ほ苛酷に過ぐると爲し、通用廢止の翌日より起算し滿五箇年間は政府は之が收納及引換の義務を負ふことせり（明治二十三年三月法律第十三號・明治三十年三月貨幣法第十六條。但し後者規定の五箇年は別の單行法に依り短縮せられたり）。斯くの如く舊貨幣の通用禁止は輕々に斷行せざるものなるを以て、政府が從來實行したるは僅かに左の三例あるのみなり。

（一）舊貨幣（新貨條例發布前のもの）の通用禁止

太政官布告第九十三號（明治七年九月五日）

明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改定シ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳ヘ引換方可申出右期限中海關稅ヲ除クノ外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止候條此旨布告候事

（別冊省略）

（二）舊銅貨天保通寶の通用廢止

太政官布告第二十六號（明治十七年十月二日）

舊銅貨天保通寶來ル明治十九年十二月限通用ヲ禁止ス

（三）一圓銀貨幣通用禁止

勅令第三百三十八號（明治三十年十月一日）

從來發行ノ一圓銀貨幣ハ來ル明治三十一年四月一日限リ其通用ヲ禁止ス

而して新貨條例發布以前の舊貨幣の引換期限は其の後屢〻延長せられ、明治二十一年末日を以て漸く引換を停止せられしが、尚ほ國庫への納入は認められて明治三十二年八月の廢止に及べり（同月八日大藏省令第三十九號）。又天保通寶は明治十九年十一月に至り勅令第七十號を以て、其の通用期限を二十四年十二月三十一日迄に延長せられ、政府引換期限五箇年を經過したる明治三十年一月一日以降廢貨となり、更に一圓銀貨幣は三十一年六月法律第五號を以て其の引換期限を同年七月三十一日限と短縮せられ、以後は全く地金として取扱はるることとなれり。

## 第三款　舊貨幣の回收

政府が貨幣の通用を法規に依りて禁止したるは兩三回に過ぎざれども、事實上に於て、新貨條例發布前の舊貨幣は勿論其の後の發行に係る貨幣と雖も、貨幣法規の改廢に因り舊貨幣と化したるものは、漸次流通市場より之を回收して新貨の鑄造材料と爲し、以て自然的に新舊の代謝を爲さしむるは固より當然の措置と云ふべし。卽ち其の手段としては、公納引換等に依りて一旦國庫に歸納したる舊貨幣は之を再度支出せざる方針を採るものにして、今大藏大臣が國庫に於て支拂に供することを得ざる貨幣として、金庫又は日本銀行（大正十一年四月以降）に令達したる貨幣の種類を列擧すれば左の如し。

（一）舊銅貨文久錢（明治二十五年三月大藏大臣達）

舊銅貨文久錢ハ現今金庫存在ノ分及向後收入ノ分トモ、追テ令達候迄再ビ支出ヲナサズ漸次大阪本金庫ヘ回送スベシ。

（二）二錢銅貨及新一厘銅貨（明治三十二年八月大藏大臣達）

中央金庫及大阪本金庫ニ收入シタル二錢銅貨及一厘新銅貨ハ漸次白銅貨ニ改鑄スベキ見込ナルニ依リ、自今

之ヲ仕拂ニ供スルコトヲ得ズ（但し大正五年三月に至り銅貨缺乏を補ふ爲め一時回收二錢銅貨の再使用を許す）。

**(三)　五錢銀貨**（明治三十三年一月大藏大臣達）

中央金庫及大阪本金庫ニ收入シタル五錢銀貨ハ漸次他ノ補助貨ニ改鑄スベキ見込ニ依リ自今之ヲ仕拂ニ供スルコトヲ得ズ。

**(四)　五十錢銀貨**（明治三十五年十一月大藏大臣達）

明治三年及四年ノ鑄造年號ヲ有スル五十錢銀貨ニシテ金庫ヘ收入セシモノハ成ルベク之ヲ支出セズ又其引換ヲ請求スルモノアルトキハ各金庫ニ於テ有合セノ金種ヲ以テ交換セシムベシ。

**(五)　舊二十錢及五十錢銀貨**（明治四十年二月大藏大臣達）

貨幣法ノ改正ニ伴ヒ舊五十錢二十錢銀貨ハ新貨ニ改鑄ノ必要上市場ニ不便ヲ與ヘザル限リ可及的速ニ回收シ隨時大阪本金庫ヘ回送方取計フベシ。

**(六)　舊五十錢二十錢十錢五錢銀貨**（明治四十三年三月大藏大臣達）

貨幣法ノ改正ニ伴ヒ舊五十錢及二十錢十錢五錢銀貨回收方ニ付從來夫々令達ノ處右ハ新銀貨ノ發行ニ伴ヒ今後益回收ヲ速ナラシムル必要有之候條各金庫ニ現在ノ分及今後收入ノ分トモ再ビ支出ヲナサズ隨時中央金庫又ハ大阪本金庫ヘ回收方取計フベシ。

**(七)　從來發行ノ舊銀貨**（大正十一年六月大藏大臣達）

貨幣法ノ改正ニ伴ヒ從來發行ノ舊銀貨ハ總テ新銀貨ニ改鑄ノ爲メ可成速ニ回收ヲ要シ候ニ付別口預金現在ノ分ハ固ヨリ今後收入ノ分モ再ビ支出ヲナサズ隨時之ヲ其行大阪支店ニ回送方取計フベシ。

以上は大藏大臣の令達に依る舊貨幣の回收又は拂出停止なるが、此の外中央金庫（日本銀行）が當局の意を受けて銀貨の拂出中止を支金庫に通達したることあり。卽ち左記大正九年五月十一日附通



牒之なり。

本支金庫ニ現在ノ銀貨ハ今後收入ノ分トモ當分ノ內一切支拂ノ用ニ供セザルコトニ御取扱相成度尙本金庫ニ於テハ每月末現在高種類別報告表備考欄ニ各支金庫（派出所）ニ於ケル該殘高揭記御報告可相成此段及御通牒候也。

追テ鐵道派出所取扱分ニシテ鐵道預金代理店ヘノ拂込金竝ニ拂戻金中銀貨アルトキハ中央金庫又ハ各地本金庫ニ就キ交換御取計相成度此段申添候。

又同年七月貨幣法改正に依り發行せらるべき十錢白銅貨が、舊有孔五錢白銅貨と混同し易き爲め流通圓滑ならざりしを以て、右五錢白銅貨は至急之を引揚げんとしたるが、同貨が自働電話に使用せらるる關係上急速に回收するを許さざりしを以て、右に就ては適當の斟酌を加へて回收を圖ることとし、大正十年九月左の如く大藏省理財局長より金庫に對し通牒を發したり。

舊有孔五錢白銅貨回收方ノ件（大正十年九月大藏省理財局長通知）

拾錢白銅貨ノ儀ハ舊有孔五錢白銅貨ト混同シ易キ爲メ流通圓滑ナラザルニ付舊有孔五錢白銅貨ハ急速ニ回收致度希望ニ候處逓信省ニ於テ自働電話ノ關係上電話機改造完成迄之ガ回收ヲ見合セラレ度趣申越有之候ヘ共其ノ改造完成ハ大正十二年六月ノ見込ノ由ニ有之同時期迄回收ヲ見合ハストキハ依然拾錢白銅貨ノ流通ヲ改善シ能ハザル廉有之候ニ付自働電話ノ關係ヲ斟酌シ之ニ支障ヲ及ボサザル程度ニ於テ徐々ニ回收致度ト存候。就テハ右御含ミノ上可然回收方御取計相成度依命此段申進候也。

## 第四款　大正十五年の舊補助貨幣整理

前記の如く舊貨幣の通用禁止又は引換に依り、舊補助貨幣は漸次政府の手に回收整理せられ來た

りしが、大正十四年末に於て尚ほ二十四種、總額五千七百九十一萬八千圓の未整理舊貨幣を存したるを以て、政府は玆に此等雜然たる舊貨幣を一層積極的に引揚整理し、以て通貨の統一を圖らんと欲し大正十五年七月日本銀行に令達して、左の方針に依り之を實行せしめたり。

(一)　大正十五年八月一日以降舊補助貨幣(厘錢を除く)を新補助貨幣又は兌換券と交換の爲に日本銀行の本店、支店又は代理店に持參する者に對して、日本銀行は次の如き割合を以て手數料を支給す。但し百個未滿の端數に對しては手數料を支給せず。

交換手數料割合

| | | |
|---|---|---|
| 甲種 | 五十錢銀貨 | 百個每に　十　五　錢 |
| 乙種 | 二十錢、十錢及五錢銀貨竝に五錢白銅貨 | 同　上　十　錢 |
| 丙種 | 二錢、一錢及半錢の青銅貨竝に銅貨 | 同　上　五　錢 |

但し甲種を以て乙種又は丙種に、乙種を以て丙種に、又乙丙兩種に屬する貨幣を相互併算するを妨げず。

(二)　交換の爲め舊補助貨幣を持參し手數料を請求し得る者は一般個人たると會社其の他の法人たるとを問はざるも、唯新補助貨幣又は兌換券と交換の目的を以て百個又は其の倍數の舊補助貨幣を、日本銀行の本支店又は代理店に持參する者に限る。

(三)　新補助貨幣とは大正十五年七月現在の貨幣法の本文に規定せられたる補助貨幣にして、卽ち左の如し。

| 種　類 | 形式 | 徑(曲尺) | 量　目 | 改正年及法律番號 |
|---|---|---|---|---|
| 五十錢銀貨 | (省略) | 七分七厘五毛 | 一匁三二 | 大正十一年法律第七十三號 |
| 十錢白銅貨 | (〃) | 七・三〇〇 | 一・〇〇 | 大正九年法律第五號 |
| 五錢白銅貨 | (〃) | 六・三〇〇 | 〇・七〇 | 同　右 |
| 一錢青銅貨 | (〃) | 七・六〇〇 | 一・〇〇 | 大正五年法律第八號 |

五厘青銅貨　(〃)　六・二〇〇　〇・五六　同　右

但し右の外二十錢銀貨あれども、未發行に付之を除く。

新舊補助貨幣の交換に當り日本銀行が交付したる交換手數料は、政府之を同行に支給するを要するを以て、政府は同年七月二十二日勅令第二百六十四號を以て造幣局特別會計規則中第四條第一號『舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換金』に『並舊貨幣ノ交換ニ關スル諸費』を追加し、之と同時に交付金支給の件に就き左の如く日本銀行及造幣局長に令達したり。

舊貨幣ノ回收促進ニ關シ交付金支給ノ件(大正十五年七月大藏大臣達)

一、政府ハ日本銀行ニ對シ本年八月一日以降同行(本支店及代理店ヲ含ム)ニ於テ回收シタル舊貨幣ニ付其ノ回收ニ要スル經費トシテ別項ノ割合ヲ以テ舊貨幣回收經費交付金ヲ支給ス。

二、舊貨幣回收經費交付金ハ左ノ割合ニテ支給ス。

| | | |
|---|---|---|
| 甲種 | 五十錢銀貨 | 每百個ニ付　十五錢ノ割 |
| 乙種 | 二十錢、十錢及五錢銀貨竝五錢白銅貨 | 每百個ニ付　十　錢ノ割 |
| 丙種 | 二錢、一錢及半錢ノ青銅貨竝銅貨 | 每百個ニ付　五　錢ノ割 |

但甲種ニ屬スル貨幣ヲ以テ乙種又ハ丙種ニ、乙種ニ屬スル貨幣ヲ以テ丙種ニ加ヘ計算スルコトヲ妨ゲズ。

三、舊貨幣回收經費交付金ハ政府ガ日本銀行ニ於テ別口預金トシテ回收舊貨幣ノ受入ヲ了シタルトキ各店別計算書ニ基キ之ヲ支給ス。

四、日本銀行ハ各代理店ノ回收シタル舊貨幣ニ對シ前項ノ各店別計算書ニ基キ、第二項ニ定メタル割合ト同一ノ割合ヲ以テ各代理店ニ舊貨幣交換手數料ヲ支給ス。

五、日本銀行(本支店及代理店ヲ含ム)ハ本年八月一日以降同行ニ對シ一般個人又ハ法人ガ交換ノ爲持込ミタル舊貨幣ニ付、持込人ノ請求ニ應ジ第二項ニ定メタル割合ト同一ノ割合ニテ交換手數料ヲ支給ス。

舊貨幣回收經費交付金交付手續（大正十五年八月造幣局長通牒）

一、大藏省理財局ハ日本銀行ヨリ舊貨幣回收經費交付金請求書及各店別回收貨幣交換手數料領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ對査シ相違ナキトキハ該請求書ニ對照濟ノ旨記載シ各店別回收貨幣交換手數料領收證書ト共ニ之ヲ造幣局ニ送付スルコト（舊貨幣回收經費交付金請求書ハ月三回日本銀行ヨリ提出スルコト。但金額五千圓ヲ超過シタル場合ハ隨時之ヲ請求スルコト）。

二、造幣局ハ大藏省理財局ヨリ前項舊貨幣回收經費交付金請求書及各店別回收貨幣交換手數料領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ必要ナル調査ヲ爲シ適當ナリト認ムルトキハ舊貨幣回收經費交付金支出ノ手續ヲ爲スコト。

尙ほ日本銀行代理店取扱分に關しては、昭和二年一月別に左の如く令達せられたり。

日本銀行代理店ノ取扱ニ係ル舊貨幣ニ對シ手數料交付ノ件（昭和二年一月大藏大臣達）

大正十五年七月五日付官房祕乙第四〇二號ヲ以テ舊補助貨幣ノ回收促進ニ要スル經費トシテ交付金支給方相達候處昭和二年一月一日以降其行代理店ニ於テ回收スルモノニ限リ該代理店ノ舊補助貨幣回收高一ケ月二萬個ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過分百個毎ニ金四錢ノ割ヲ以テ回收高實績ニ基キ回收經費交付金ヲ增加支給スベキニ付右ニ心得ベシ。

今昭和二年度末現在の舊補助貨幣回收高及殘存高推定額を表示すれば左の如し。

舊補助貨幣回收高表（昭和二年度末現在）

| 種別 | 發行總額 | 減失推定高 | 回收總額 | 内譯 資金部回收濟高 | 内譯 日本銀行保有高 | 差引流通見込高 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 舊銀貨五十錢 | 二二五、三五九、三一四・五〇円<br>三二、八八六、七三二・〇〇 | 一〇、七六六、九五五・五〇円<br>六、〇九四、三五六・〇〇 | 一五八、一七九、七四四・八五円<br>九〇、二九二、三三五・〇〇 | 一五四、二七三、五三三・七五円<br>八七、三九八、九九八・五〇 | 三、九〇六、二四一・一〇円<br>二、八九五、三三六・五〇 | 六八、二六九、五四四・九〇円<br>三七、六八八、八三七・五〇 |
| 舊五錢白銅貨及青銅貨二錢 | 五五、二四四、〇五三・二四<br>五、五二六、七四一・四九 | 二五、八〇一、二五二・五五<br>二七八、三三七・〇七 | 四五、三五二、七〇一・六六<br>二七、三三七・〇七 | 四四、八八七、八七六・八九<br>二、八六一、二四一・三〇 | 一四八、一五五・二四<br>九八、九三七・五九 | 一、二〇七、六五九・二五<br>一七二、六八六、三五六・四〇 |
| 一錢 | 二、〇三三、二五六・三二 | 一〇一、一二二・八三 | 一二、五七六、四〇六・五〇 | 一、九〇〇、二七一・四六 | 一〇、三五七、八四二・一六 | 一〇、六七四、一九二・三八 |
| 半錢 | 二四三、二三一、二四四・一四 | 一、九一六、四五三・二〇 | 二、三六、三九、六二〇・二〇 | 二七、八五、〇一六・八〇 | 一、三二一、五八三・〇五 | 二〇七、八五二、〇一六・八〇 |
| 合計 | 三八、三九、二七三・〇〇 | 一、九一六、四五三・二〇 | 二、三六、三九、六二〇・二〇 | 二七、八五、〇一六・八〇 | 一、三二一、五八三・〇五 | 二〇七、八五二、〇一六・八〇 |

（備考）回收總高は當初よりの累計にして、補助貨統一の旨發表以後の回收高にあらず。一旦發行したるも流通を見ざりしもの（例へば大正八年改正の五拾錢銀貨の如き）も、回收總高中に包含す。

# 第六節　貨幣委員會議

貨幣に關する各種の事項、例へば貨幣の存廢、改鑄、貨幣法規の改廢、貨幣の鑄造豫防、金銀の産出及輸出入竝に其の市價等に關し審議を盡す爲に、大藏省中に貨幣委員會議を設くることとし、明治二十三年十月、二十四年九月、三十年八月に夫々部分的改正を經たるのみにて、其の後何等の改正なく大正末年に及べり。大正末年現行の會議規則左の如し。

貨幣委員會議規則（明治二十三年九月十七日大臣達第三六九八號）

第一條　大藏省中ニ貨幣委員會議ヲ置キ左ノ事項其ノ外大臣ノ諮問ニ關スル件ヲ審議セシム

一　流通貨幣ノ存廢ニ關スル事
二　流通貨幣ノ改鑄ニ關スル事
三　貨幣條例及造幣規則ニ關スル事
四　貨幣贋造ノ豫防ニ關スル事
五　金銀ノ產出及金銀ノ市價竝ニ金銀貨輸出入ノ結果ニ關スル事

第二條　左ニ揭クル者ヲ以テ貨幣委員會議ヲ組織ス

一　本省各局長
二　造幣局長
三　參事官　二人
四　理財局國庫課高等官
五　（造幣局東京支局長）（明治四十年五月勅令第百九十七號ニテ造幣局官制改正ニヨリ自然消滅）
六　大臣ノ特ニ指定シタル高等官
七　特ニ大臣ノ囑託ヲ受ケタル者

第三條　貨幣委員會議ハ大臣又ハ次官ノ命ニ依ラサレハ之ヲ開カス

第四條　貨幣委員會議議長ハ次官ヲ以テ之ニ充ツ若シ次官事故アリテ缺席ノ時ハ出席ノ上席者之ニ代ル

第五條　在京委員ノ外ハ特命アルニ非レハ會議ニ列席スルニ及ハス

第六條　貨幣委員會議ニ關スル庶務ハ理財局國庫課ニ於テ處理スヘシ

貨幣委員會議は此の規則に依り必要の都度開催せられ來たり、大正末年迄の開議回數約七十回に及びしが、昭和二年六月新に貨幣委員會規程制定せられ、爾後同規程に依りて、召集開議することとなれり。



# 第二章附表

## 第一表　自明治三十年至昭和元年各種貨幣一覽表

| 種類 | 直徑（曲尺） | 量目 | 性合（千分中） | | 公差 量目 | 公差 品位（純分） | 通用制限 | 貨幣面の年號 | 發行枚數 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 金貨幣 | | | 金 | 銅 | | | | | | |
| 二十圓（現行） | 寸 〇・九五 | 匁 四・四四四四 | 九〇〇 | 一〇〇 | 毛 八・六四 | 千分の一 | 無限 | 明治三十年 | 一、八六一、〇〇〇 | 明治三十年三月法律第十六號貨幣法及同年四月勅令第百四十四號制定 |
| | | | | | | | | 同三十七年 | 二、七五九、四七〇 | |
| | | | | | | | | 同三十八年 | 一、〇四五、九〇四 | |
| | | | | | | | | 同三十九年 | 一、三三一、三三二 | |
| | | | | | | | | 同四十年 | 八一七、三六三 | |
| | | | | | | | | 同四十一年 | 四五八、〇八二 | |
| | | | | | | | | 同四十二年 | 五五七、八八二 | |
| | | | | | | | | 同四十三年 | 二、一六三、六六四 | |
| | | | | | | | | 同四十四年 | 一、四七〇、〇五四 | |
| | | | | | | | | 同四十五年 | 一、二七二、四五〇 | |
| | | | | | | | | 大正元年 | 一七七、六四四 | |
| | | | | | | | | 同二年 | 八六九、二四八 | |
| | | | | | | | | 同三年 | 一、〇四二、八九〇 | |
| | | | | | | | | 同四年 | 一、五〇九、九六二 | |
| | | | | | | | | 同五年 | 二、三七六、六四一 | |
| | | | | | | | | 同六年 | 六、二〇八、八八五 | |
| | | | | | | | | 同七年 | 三、一一八、六四七 | |
| | | | | | | | | 同八年 | 一、五三一、二一七 | |
| | | | | | | | | 同九年 | 二九五、四〇七 | |
| | | | | | | | | 計 | 三〇、八六七、七四二 | |
| 十圓（現行） | 寸 〇・七 | 匁 二・二三三 | 九〇〇 | 一〇〇 | 毛 六・〇五 | 千分の一 | 無限 | 明治三十年 | 二、四二三、一四六 | 明治三十年三月法律第十六號貨幣法及同年四月勅令第百四十四號制定 |
| | | | | | | | | 同三十一年 | 三、一七六、一三四 | |
| | | | | | | | | 同三十二年 | 一、七四三、〇〇六 | |
| | | | | | | | | 同三十三年 | 一、一一四、七六六 | |
| | | | | | | | | 同三十四年 | 一、六五四、六八二 | |
| | | | | | | | | 同三十五年 | 三、〇二三、九四〇 | |
| | | | | | | | | 同三十六年 | 二、九〇二、一八四 | |
| | | | | | | | | 同三十七年 | 七二四、五四八 | |
| | | | | | | | | 同四十年 | 一五七、六八四 | |
| | | | | | | | | 同四十一年 | 一、一六〇、六七四 | |
| | | | | | | | | 同四十二年 | 二、一六五、六六〇 | |
| | | | | | | | | 同四十三年 | 八、九八二 | |
| | | | | | | | | 計 | 二〇、二五四、四〇六 | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五圓（現行） | 〇・五六寸 | 一・一一一一匁 | 九〇〇 | 一〇〇 | | 四・三二毛 | 千分の一 | 無限 | 明治三十年 | 一一一、七七六 | 明治三十年三月法律第十六號貨幣法及同年四月勅令第百四十四號貨幣制定 |
| | | | | | | | | | 同三十一年 | 五五、八八八 | |
| | | | | | | | | | 同三十六年 | 二一、九五六 | |
| | | | | | | | | | 同四十四年 | 五九、八八〇 | |
| | | | | | | | | | 同四十五年 | 五九、八八〇 | |
| | | | | | | | | | 大正元年 | 三九、九二〇 | |
| | | | | | | | | | 同二年 | 八九、八二〇 | |
| | | | | | | | | | 同十三年 | 七六、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 計 | 五一五、一二〇 | |
| 銀貨幣 | | | 銀 | 銅 | | | | | | | |
| 一圓（通用禁止） | 一・二四寸 | 七・一八八匁 | 九〇〇 | 一〇〇 | | 一・七八二厘 | 千分の二 | 無限 | 明治三十四年 | 一、二五六、二五二 | 明治三十四年以降の一圓銀は形式量目等總て從來の分と異ならざるも、圓銀と稱し內地通用の貨幣にあらず、臺灣銀行の兌換準備用及淸國派遣軍使用用として鑄造したるものなり。而して上記の枚數は鑄造高を揭ぐ。 |
| | | | | | | | | | 同三十五年 | 六六八、七八二 | |
| | | | | | | | | | 同三十六年 | 五、一三一、〇九六 | |
| | | | | | | | | | 同三十七年 | 六、九七〇、八四三 | |
| | | | | | | | | | 同三十八年 | 五、〇三一、五〇三 | |
| | | | | | | | | | 同三十九年 | 三、四七一、二九七 | |
| | | | | | | | | | 同四十一年 | 三三四、七〇五 | |
| | | | | | | | | | 同四十五年 | 五、〇〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 大正三年 | 一一、五〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 計 | 三九、三六四、四七八 | |
| 五十錢 | 一・〇二寸 | 三・五九四二匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 二・四二厘 | 千分の三 | 十圓 | 明治三十年 | 五、〇七八、四三七 | 明治三十年三月法律第十六號貨幣法及同年四月勅令第百四十四號制定なるも、量目及量目公差を異にする外從來のものと變りなし |
| | | | | | | | | | 同三十一年 | 二三、七九七、〇四一 | |
| | | | | | | | | | 同三十二年 | 一〇、二五四、四三一 | |
| | | | | | | | | | 同三十三年 | 三、二八〇、〇九一 | |
| | | | | | | | | | 同三十四年 | 一、七九〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同三十五年 | 一、〇二三、二八〇 | |
| | | | | | | | | | 同三十六年 | 一、五〇三、〇六八 | |
| | | | | | | | | | 同三十七年 | 五、三七三、六五二 | |
| | | | | | | | | | 同三十八年 | 九、五六六、一〇〇 | |
| | | | | | | | | | 計 | 六〇、六六六、一〇〇 | |
| 五十錢 | 〇・九寸 | 二・七匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 二・一六厘 | 千分の三 | 十圓 | 明治三十九年 | 一三、四七八、二六四 | 明治三十九年四月法律第二十六號及同年五月勅令第百九號改正 |
| | | | | | | | | | 同四十年 | 二四、〇六二、九五二 | |
| | | | | | | | | | 同四十一年 | 二五、四七〇、三七一 | |
| | | | | | | | | | 同四十二年 | 二一、九九八、六〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同四十三年 | 一五、三二三、二七六 | |
| | | | | | | | | | 同四十四年 | 九、九〇〇、四三七 | |
| | | | | | | | | | 同四十五年 | 三、六七七、七〇四 | |
| | | | | | | | | | 大正元年 | 一、九二八、六四九 | |
| | | | | | | | | | 同二年 | 五、九二〇、〇六三 | |
| | | | | | | | | | 同三年 | 一、八七二、三三一 | |
| | | | | | | | | | 同四年 | 二、〇二一、二五三 | |
| | | | | | | | | | 同五年 | 八、七三六、七六八 | |
| | | | | | | | | | 同六年 | 九、九六三、二三二 | |
| | | | | | | | | | 計 | 一四三、三三三、九〇〇 | |





| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五十錢 | 〇・八二寸 | 一・八匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 一・八厘 | 千分の三 | 十圓 | 大正七年 | 二四、〇〇〇、〇〇〇 | 大正七年四月法律第四十二號及勅令第百十一號改正、流通せず |
| | | | | | | | | | 同八年 | 七、一八〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 計 | 三一、一八〇、〇〇〇 | |
| 五十錢（現行） | 〇・七七五寸 | 一・三二匁 | 七二〇 | 二八〇 | | 一・七二厘 | 千分の三 | 十圓 | 大正十一年 | 七七、九三九、五六二 | 大正十一年四月法律第七十三號及勅令第二百四十號改正 |
| | | | | | | | | | 同十二年 | 一八五、七五六、三七九 | |
| | | | | | | | | | 同十三年 | 八〇、三一〇、八七〇 | |
| | | | | | | | | | 同十四年 | 四五、六一八、二七九 | |
| | | | | | | | | | 同十五年 | 三〇、七九〇、一〇五 | |
| | | | | | | | | | 計 | 四二〇、四一五、一九五 | |
| 二十錢 | 〇・七四寸 | 一・四三七七匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 一・七二八厘 | 千分の三 | 十圓 | 明治三十年 | 七、五一六、四四八 | 明治三十年三月法律第十六號貨幣法及同年四月勅令第百四十四號制定なるも從來と何等異る所なし |
| | | | | | | | | | 同三十一年 | 一七、九八四、二一二 | |
| | | | | | | | | | 同三十二年 | 一五、〇〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同三十三年 | 八〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同三十四年 | 五〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同三十七年 | 五、二五〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同三十八年 | 八、四四四、九三〇 | |
| | | | | | | | | | 計 | 五五、四九五、五九〇 | |
| 二十錢 | 〇・六七寸 | 一・〇八匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 一・〇八厘 | 千分の三 | 十圓 | 明治三十九年 | 六、五五五、〇七〇 | 明治三十九年四月法律第二十六號及同年五月勅令第百九號改正 |
| | | | | | | | | | 同四十年 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同四十一年 | 一五、〇〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 同四十二年 | 八、八二四、七〇二 | |
| | | | | | | | | | 同四十三年 | 二一、一七五、二九八 | |
| | | | | | | | | | 同四十四年 | 五〇〇、〇〇〇 | |
| | | | | | | | | | 計 | 七二、〇五五、〇七〇 | |
| 二十錢 | 〇・六五寸 | 〇・八匁 | 七二〇 | 二八〇 | | 一・二厘 | 千分の三 | 十圓 | | | 大正七年四月法律第四十二號及勅令第百十一號改正、鑄造せず |
| 二十錢（現行） | 〇・五六二寸 | 〇・五二八匁 | 七二〇 | 二八〇 | | 一・〇厘 | 千分の三 | 十圓 | | | 大正十一年四月法律第七十三號及勅令第二百四十號改正、未だ鑄造せず |
| 十錢 | 〇・五八寸 | 〇・七一八八匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 八・六四毛 | 千分の三 | 十圓 | 明治三十年 | 二〇、三五七、四三九 | 明治三十年三月法律第十六號貨幣法及同年四月勅令第百四十四號改正なるも量目を異にする外從來のものと變りなし |
| | | | | | | | | | 同三十一年 | 一三、六四三、〇〇一 | |
| | | | | | | | | | 同三十二年 | 六、二一六、五七九 | |
| | | | | | | | | | 同三十三年 | 八、一八三、四二一 | |
| | | | | | | | | | 同三十四年 | 七九七、五六一 | |
| | | | | | | | | | 同三十五年 | 一、二〇二、四三九 | |
| | | | | | | | | | 同三十七年 | 一一、一〇六、六三八 | |
| | | | | | | | | | 同三十八年 | 三四、一八二、一九四 | |
| | | | | | | | | | 同三十九年 | 四、七一一、一六八 | |
| | | | | | | | | | 計 | 一〇〇、四〇〇、四四〇 | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 十錢 | 〇・五八寸 | 〇・七一八八匁 | 八〇〇 | 二〇〇 | | 一・〇四厘 | 千分の三 | 十圓 | 明治三十九年 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 明治三十九年四月勅令第九號模樣改正、流通せず |
| 十錢 | 〇・五八寸 | 〇・六匁 | 七二〇 | 二八〇 | | 八毛 | 千分の三 | 十圓 | 明治四十年<br>同四十一年<br>同四十二年<br>同四十三年<br>同四十四年<br>同四十五年<br>大正元年<br>同二年<br>同三年<br>同四年<br>同五年<br>同六年<br>計 | 一三、〇〇〇、〇〇〇<br>一三、二七三、二三九<br>二〇、二七九、八四六<br>二〇、三三九、八一六<br>三八、七二九、六八〇<br>一〇、七五五、〇〇九<br>一〇、三四四、三〇七<br>一三、三一一、四六六<br>一〇、三二五、三二七<br>一六、八三六、二三五<br>一〇、三二四、一七九<br>三五、一〇七、九〇六<br>二二〇、七〇〇、〇〇〇 | 明治四十二年三月法律第六號及勅令第三十二號改正 |
| 十錢 | 〇・五三寸 | 〇・四匁 | 七二〇 | 二八〇 | | 八毛 | 千分の三 | 十圓 | 大正七年<br>同八年<br>計 | 二三、〇〇〇、〇〇〇<br>四〇、〇五〇、〇〇〇<br>六三、〇五〇、〇〇〇 | 大正七年四月法律第四十二號及勅令第百十一號改正、流通せず |
| **白銅貨幣**<br>十錢（有孔）（現行） | 〇・七三寸（孔徑一分五） | 一匁 | ニツケル 二五〇 | 銅 七五〇 | | | | 五圓 | 大正九年<br>同十年<br>同十一年<br>同十二年<br>同十三年<br>同十四年<br>同十五年<br>計 | 三〇、三八六、九九〇<br>六八、七一六、八一五<br>一六一、〇九三、七六六<br>一六四、八〇二、四二九<br>一六、八八八、九二三<br>五六、〇二〇、八一六<br>五七、八〇四、八四四<br>五五五、七〇四、五八二 | 大正九年七月法律第五號貨幣法改正、同年八月勅令第三百三十四號形式制定 |
| 五錢 | 〇・六八寸 | 一・二四四一匁 | 二五〇 | 七五〇 | | | | 一圓<br>現在は五圓 | 明治三十年<br>同三十一年<br>同三十二年<br>同三十三年<br>同三十四年<br>同三十五年<br>同三十六年<br>同三十七年<br>同三十八年<br>計 | 四、一六七、〇三〇<br>一八、一九七、二七一<br>一〇、六五八、〇五二<br>二、四二六、六三三<br>七、一二四、八二四<br>二、四四八、五四四<br>三七二、〇〇〇<br>一、六二八、〇〇〇<br>六、〇〇〇、〇〇〇<br>五三、〇二三、五四三 | 明治三十年三月法律第十六號及同年四月勅令第百四十四號貨幣制定 |
| 五錢（有孔） | 〇・六八寸（孔徑一分四） | 一・一四匁 | 二五〇 | 七五〇 | | | | 一圓<br>現在は五圓 | 大正六年<br>同七年<br>同八年<br>同九年<br>計 | 六、七八一、八三〇<br>九、一三一、二二一<br>四四、九八〇、六三三<br>四七、九〇六、三三六<br>一〇八、八〇〇、〇〇〇 | 大正五年二月法律第八號及同年三月勅令第三十五號改正 |





| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五錢（有孔）（現行） | 〇・六三寸（孔徑一分三） | 〇・七匁 | 二五〇 | 七五〇 | | | | 五圓 | 大正九年<br>同十年<br>同十一年<br>同十二年<br>計 | 五二、五四九、二二一<br>一二七、四九九、一三〇<br>一六三、九五一、六六九<br>八〇、〇〇〇、〇〇〇<br>四二四、〇〇〇、〇〇〇 | 大正九年七月法律第五號及同年八月勅令第三百三十四號改正 |
| **青銅貨幣**<br>一錢 | 〇・九二寸 | 一・九〇八匁 | 銅 九五〇 | 錫 四〇 | 亜鉛 一〇 | | | 一圓 | | | 明治三十年三月法律第十六號及同年四月勅令第百四十四號貨幣制定、鑄造せず |
| 一錢 | 〇・九二寸 | 一・九〇八匁 | 九五〇 | 四〇 | 一〇 | | | 一圓 | 明治三十一年<br>同三十二年<br>同三十三年<br>同三十四年<br>同三十五年<br>大正二年<br>同三年<br>同四年<br>計 | 三、六四九、四四八<br>九、七六四、〇二八<br>三、〇八六、五二四<br>五、五五五、一五五<br>四、四四四、八四五<br>一五、〇〇〇、〇〇〇<br>一〇、〇〇〇、〇〇〇<br>一三、〇〇〇、〇〇〇<br>六四、五〇〇、〇〇〇 | 明治三十一年九月勅令第二百十七號模樣改正 |
| 一錢（現行） | 〇・七六寸 | 一匁 | 九五〇 | 四〇 | 一〇 | | | 一圓 | 大正五年<br>同六年<br>同七年<br>同八年<br>同九年<br>同十年<br>同十一年<br>同十二年<br>同十三年<br>計 | 一九、一九三、九四六<br>二七、一八三、〇七八<br>一三一、七九四、七五六<br>二〇九、九五九、三五九<br>二八一、八二九、五二六<br>五三二、七五三、九七一<br>二六二、〇三二、六六六<br>一四七、八九九、〇五八<br>一〇一、一八三、一六六<br>一、七〇三、八二九、五二六 | 大正五年二月法律第八號及同年三月勅令第三十五號改正 |
| 五厘 | 〇・七二寸 | 〇・九五〇四匁 | 九五〇 | 四〇 | 一〇 | | | 一圓 | | | 明治三十年三月法律第十六號及同年四月勅令第百四十四號貨幣制定、鑄造せず |
| 五厘 | 〇・七二寸 | 〇・九五〇四匁 | 九五〇 | 四〇 | 一〇 | | | 一圓 | | | 明治三十一年九月勅令第二百十七號模樣改正、鑄造せず |
| 五厘（現行） | 〇・六二寸 | 〇・三六匁 | 九五〇 | 四〇 | 一〇 | | | 一圓 | 大正五年<br>同六年<br>同七年<br>同八年<br>計 | 八、〇〇〇、〇〇〇<br>五、二八七、五八四<br>一一、六六一、八七七<br>一七、一三〇、五三九<br>四二、〇八〇、〇〇〇 | 大正五年二月法律第八號及同年三月勅令第三十五號改正 |

# 第二表　自明治三十年至昭和元年各種貨幣製造高累年表

| 年度 | 金貨幣 | | | 銀貨幣 | | | 白銅貨幣 | | 青銅貨幣 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 二十圓 | 十圓 | 五圓 | 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 十錢 | 五錢 | 一錢 | 五厘 | |
| 明治三〇 | 三七、二九四、六〇〇円 | 三八、六九〇、〇〇〇円 | 五六〇、〇〇〇円 | 五、〇〇三、五〇五・五〇〇円 | 三、〇〇一、八〇三円 | 二、〇〇一、一〇一円 | —円 | 六〇〇、〇八七円 | —円 | —円 | 八七、一五一、〇九五・五〇〇円 |
| 三一 | — | 二一、八七〇、〇〇〇 | 二八〇、〇〇〇 | 一四、〇〇九、八〇七 | 二、〇〇一、二〇三 | 一、〇〇〇、五五一 | — | 七五〇、一一四 | 一〇〇、〇一六 | — | 四〇、〇一一、六九〇 |
| 三二 | — | 一六、五〇〇、〇〇〇 | — | 一、五〇一、〇五一 | 三、〇〇一、八〇三 | 一、〇〇〇、五五一 | — | 三〇〇、〇四六 | 六五、〇一〇 | — | 二二、三六八、四六〇 |
| 三三 | — | 一三、五〇〇、〇〇〇 | — | 四〇〇、二八二 | 一六〇、〇九六 | 四四〇、二四三 | — | 三〇〇、〇四六 | — | — | 一三、八〇〇、六六七 |
| 三四 | — | 一四、五〇〇、〇〇〇 | — | 七〇〇、四九二 | 一〇〇、〇六一 | 二〇〇、一一一 | — | 三〇〇、〇四六 | 一〇〇、〇一六 | — | 一五、九〇〇、七二六 |
| 三五 | — | 三七、五〇〇、〇〇〇 | — | 八〇〇、五六三 | — | — | — | — | — | — | 三八、三〇〇、五六三 |
| 三六 | — | 二三、八九〇、〇〇〇 | 一一〇、〇〇〇 | 七〇〇、四九三 | 五〇〇、三〇一 | 五〇〇、二七六 | — | 一〇〇、〇一六 | — | — | 二五、八〇一、〇八六 |
| 三七 | 六五、〇〇〇、〇〇〇 | 二、五〇〇、〇〇〇 | — | 二、四五一、七一八 | 五五〇、三三一 | 二、〇〇一、一〇三 | — | — | — | — | 七二、五〇三、一五一 |
| 三八 | 一五、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 五、〇〇三、五〇五 | 二、〇〇一、二〇一 | 二、七〇一、四八七 | — | 三〇〇、〇四六 | — | — | 二五、〇〇六、二三九 |
| 三九 | 三一、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 九、〇〇六、三〇八 | 三、〇〇一、八〇三 | 二〇〇、一一一 | — | — | — | — | 四三、二〇八、二二一 |
| 四〇 | 一五、〇〇〇、〇〇〇 | 二、五〇〇、〇〇〇 | — | 一三、〇〇九、一〇七 | 二、〇〇一、二〇一 | 一、〇〇〇、五五三 | — | — | — | — | 三三、五一〇、八六〇 |
| 四一 | 二、五〇〇、〇〇〇 | 一八、〇〇〇、〇〇〇 | — | 一〇、〇〇七、〇〇六 | 三、〇〇一、八〇三 | 二、〇〇一、一〇三 | — | — | — | — | 三五、五〇九、九一一 |
| 四二 | 三五、五〇〇、〇〇〇 | 一四、五〇〇、〇〇〇 | — | 一〇、〇〇七、〇〇六 | 三、〇〇一、八〇三 | 二、〇〇一、一〇三 | — | — | — | — | 六五、〇〇九、九一〇 |
| 四三 | 三五、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 八、五〇五、九五五 | 三、〇〇一、八〇三 | 二、〇〇一、一〇三 | — | — | — | — | 四八、五〇八、八五九 |
| 四四 | 三二、〇〇〇、〇〇〇 | — | 三〇〇、〇〇〇 | 四、一〇二、八七四 | 一〇〇、〇六一 | 三、八〇三、〇九三 | — | — | — | — | 四〇、三〇五、〇二八 |
| 大正元 | 二七、五〇〇、〇〇〇 | — | 五〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇二、一〇二 | — | 一、六〇〇、八八一 | — | — | — | — | 三二、六〇三、九八三 |
| 二 | 一五、八八〇、〇〇〇 | — | 四五〇、〇〇〇 | 二、六〇一、八二三 | — | 二、〇〇一、一〇四 | — | — | 一五〇、〇二四 | — | 二一、〇八二、九四九 |
| 三 | 二六、八三〇、〇〇〇 | — | — | 一、九〇一、三三三 | — | 一、〇〇〇、五五三 | — | — | 一〇〇、〇一六 | — | 二九、八三一、九〇〇 |
| 四 | 二七、八八〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 一、〇二〇、五六五 | — | — | 一三〇、〇二〇 | — | 二九、〇三〇、五八五 |





| 年度 | 金貨幣 | | | 銀貨幣 | | | 白銅貨幣 | | 青銅貨幣 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 二十圓 | 十圓 | 五圓 | 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 十錢 | 五錢 | 一錢 | 五厘 | |
| 五 | 七〇、九三三、〇三〇 | — | — | 四、八五三、〇二四 | — | 一、八五〇、九八〇・二〇〇 | — | 二〇〇、〇一九・〇五〇 | 二一〇、〇一九・二三〇 | 四〇、〇〇三・八〇五 | 七八、〇八七、〇六六・二六五 |
| 六 | 一三〇、九九三、一二〇 | — | — | 四、五〇二、七三三 | — | 二、六〇一、一四四・九〇〇 | — | 二〇〇、〇二〇・〇五〇 | 四二〇、〇三一・二六〇 | 五〇、〇〇四・〇四五 | 一三八、七六七、〇四三・二五五 |
| 七 | 二三、五三〇、二六〇 | — | — | 二二、〇〇二、四〇五・五〇〇 | — | 二、二〇〇、四四一・八〇〇 | — | 五〇〇、〇二六・七〇〇 | 一、七三〇、〇八七・五五〇 | 一〇〇、〇〇五・〇九〇 | 四〇、〇五三、二四六・六四〇 |
| 八 | 三六、五五一、〇八〇 | — | — | 三、五九〇、七二一 | — | 四、〇〇五、八〇三・九〇〇 | — | 三、二四〇、一六八・四〇〇 | 一、九一〇、〇九六・八八〇 | 二〇、四〇一・〇四五 | 四九、三二八、二七〇・二三五 |
| 九 | — | — | — | — | — | — | 五、〇〇〇、二五三・六〇〇 | 四、九〇〇、二四九・九五〇 | 二、八八〇、一四五・五二〇 | — | 一三、七八〇、六四九・〇七〇 |
| 一〇 | — | — | — | — | — | — | 六、〇〇〇、三〇四・三〇〇 | 七、一〇〇、三六〇・〇五〇 | 二、五〇〇、一二六・二七〇 | — | 一五、六〇〇、七九〇・六二〇 |
| 一一 | — | — | — | 四七、二〇九、三九九 | — | — | 二三、五〇一、一六七・一〇〇 | 六、五〇〇、三二五・六五〇 | 二、八〇〇、一三九・四三〇 | — | 八〇、〇一一、〇三一・一八〇 |
| 一二 | — | — | — | 八八、〇一七、五四三 | — | — | 八、〇〇〇、三九五・三〇〇 | 四、〇〇〇、一九七・七〇〇 | 一、〇〇〇、〇四九・〇二〇 | — | 一〇一、〇一八、一八五・〇三〇 |
| 一三 | — | — | 三八〇、一八五 | 四五、〇〇八、九二七・五〇〇 | — | — | 二、〇〇〇、〇九八・七〇〇 | — | 七七〇、〇三七・九五〇 | — | 四八、一五九、二四九・一五〇 |
| 一四 | — | — | — | 二〇、〇〇九、四三四 | — | — | 五、九九九、七三五 | — | — | — | 二六、〇〇九、一六九・五〇〇 |
| 昭和元 | — | — | — | 一〇、〇〇一、九九二 | — | — | 五、〇〇〇、二四四・九〇〇 | — | 一四〇、〇〇六・七八〇 | — | 一五、一四三、二四三・六八〇 |
| 通計 | 六一八、三八二、一〇〇 | 二〇二、九五〇、〇〇〇 | 二、五八〇、一八五 | 三三七、九一一、〇九八 | 二五、四二五、二六六 | 三七、一三二、九五六・八〇〇 | 五五、五〇三、一九八・九〇〇 | 二九、二九一、七六八・五五〇 | 一五、〇〇五、八四九・八九〇 | 二一〇、四一三・九八五 | 一、三二四、三九一、八二六・一二五 |

# 第三表　自明治三十年至昭和元年各種貨幣發行高累年表　(イ)年度別

| 年度 | 金貨幣 | | | 銀貨幣 | | | 白銅貨幣 | | 青銅貨幣 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 二十圓 | 十圓 | 五圓 | 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 十錢 | 五錢 | 一錢 | 五厘 | |
| 明治三〇 | 三七、二三〇、〇〇〇円 | 三八、六二二、六二〇円 | 五三八、八八〇円 | 五、〇〇〇、〇〇〇円 | 三、〇〇〇、〇〇〇円 | 二、〇〇〇、〇〇〇円 | —円 | 六〇〇、〇〇〇円 | —円 | —円 | 八六、九九一、五〇〇円 |
| 三一 | — | 二一、八二六、二四〇 | 二七九、四四〇 | 一四、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | — | 七五〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 | — | 三九、九五五、六八〇 |
| 三二 | — | 一六、四六七、〇〇〇 | — | 一、五〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | — | 三〇〇、〇〇〇 | 六五、〇〇〇 | — | 二二、三三二、〇〇〇 |
| 三三 | — | 一三、四七四、九八〇 | — | 四〇〇、〇〇〇 | 一六〇、〇〇〇 | 四四〇、〇〇〇 | — | 三〇〇、〇〇〇 | — | — | 一三、七七四、九八〇 |
| 三四 | — | 一四、四七一、〇〇〇 | — | 七〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 | — | 三〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 | — | 一五、八七一、〇〇〇 |
| 三五 | — | 三七、四二五、〇〇〇 | — | 八〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | — | 三八、二二五、〇〇〇 |
| 三六 | — | 二三、八四二、二三〇 | 一〇九、七六〇 | 七〇〇、〇〇〇 | 五〇〇、〇〇〇 | 五〇〇、〇〇〇 | — | 一〇〇、〇〇〇 | — | — | 二五、七五二、〇〇〇 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三七 | 六四、八七〇、〇〇〇円 | 二、四九五、〇〇〇円 | —円 | 二、四五〇、〇〇〇円 | 五五〇、〇〇〇円 | 二、〇〇〇、〇〇〇円 | —円 | —円 | —円 | —円 | 七二、三六五、〇〇〇円 |
| 三八 | 一四、九七〇、〇〇〇 | — | — | 五、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 二、七〇〇、〇〇〇 | — | 三〇〇、〇〇〇 | — | — | 二四、九七〇、〇〇〇 |
| 三九 | 三〇、九三八、〇〇〇 | — | — | 九、〇〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 四三、一三八、〇〇〇 |
| 四〇 | 一四、九七〇、〇〇〇 | 二、四九五、〇〇〇 | — | 一三、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 三三、四六五、〇〇〇 |
| 四一 | 二、七六四、六二〇 | 一七、六二三、三四〇 | — | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 三五、三八七、九六〇 |
| 四二 | 三四、三四九、八〇〇 | 一五、七三六、二一〇 | — | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 六五、〇八六、〇一〇 |
| 四三 | 三三、〇五四、二四〇 | — | — | 八、五〇〇、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 四六、五五四、二四〇 |
| 四四 | 二一、一九九、四六〇 | — | 二九九、四〇〇 | 四、一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 | 三、八〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 二九、四九八、八六〇 |
| 大正元 | 二九、八五四、四四〇 | 三〇、〇〇〇 | 四九九、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | — | 一、六〇〇、〇〇〇 | — | — | — | — | 三四、九八三、四四〇 |
| 二 | 一六、〇四五、三八〇 | 一、六八〇 | 四四九、一〇〇 | 二、六〇〇、〇〇〇 | — | 二、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 一五〇、〇〇〇 | — | 二二、二四六、一六〇 |
| 三 | 二六、一七三、五四〇 | 八三〇 | — | 一、九〇〇、〇〇〇 | — | 一、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 一〇〇、〇〇〇 | — | 二九、一七四、三七〇 |
| 四 | 二六、八〇五、八八〇 | — | — | — | — | 一、〇一〇、〇〇〇 | — | — | 一三〇、〇〇〇 | — | 二七、九五五、八八〇 |
| 五 | 六〇、五五九、三六〇 | — | — | 四、八五〇、〇〇〇 | — | 一、八五〇、〇〇〇 | — | 二〇〇、〇〇〇 | 二一〇、〇〇〇 | 四〇、〇〇〇 | 六七、七〇九、三六〇 |
| 六 | 一四一、八三〇、八〇〇 | — | — | 四、五〇〇、〇〇〇 | — | 二、六〇〇、〇〇〇 | — | 二〇〇、〇〇〇 | 四二〇、〇〇〇 | 五〇、〇〇〇 | 一四九、六〇〇、八〇〇 |
| 七 | 二四、五三二、一二〇 | — | — | 一三、〇〇〇、〇〇〇 | — | 二、二〇〇、〇〇〇 | — | 五〇〇、〇〇〇 | 一、七三〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 | 四一、〇三三、一二〇 |
| 八 | 三三、四〇五、三八〇 | — | — | 三、五九〇、〇〇〇 | — | 四、〇〇五、〇〇〇 | — | 三、二四〇、〇〇〇 | 一、九一〇、〇〇〇 | 二〇、四〇〇 | 四六、一七〇、七八〇 |
| 九 | 二、五五〇、九四〇 | — | — | — | — | — | 五、〇〇〇、〇〇〇 | 四、九〇〇、〇〇〇 | 二、八八〇、〇〇〇 | — | 一五、三三〇、九四〇 |
| 一〇 | 一九三、〇六〇 | — | — | — | — | — | 六、〇〇〇、〇〇〇 | 七、一〇〇、〇〇〇 | 二、五〇〇、〇〇〇 | — | 一五、七九三、〇六〇 |
| 一一 | 三三、九六〇 | — | — | 四七、二〇〇、〇〇〇 | — | — | 二三、五〇〇、〇〇〇 | 六、五〇〇、〇〇〇 | 二、八〇〇、〇〇〇 | — | 八〇、〇三三、九六〇 |
| 一二 | 二九、四八〇 | — | — | 八八、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | — | 一〇一、〇二九、四八〇 |
| 一三 | 三、三〇〇 | — | — | 四五、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 二、〇〇〇、〇〇〇 | — | 七七〇、〇〇〇 | — | 四七、七七三、三〇〇 |
| 一四 | — | — | — | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 六、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | — | 二六、〇〇〇、〇〇〇 |
| 昭和元 | — | — | — | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 | — | — | 五、〇〇〇、〇〇〇 | — | 一四〇、〇〇〇 | — | 一五、一四〇、〇〇〇 |
| 通計 | 六一六、三四三、七六〇 | 二〇三、五〇一、二二〇 | 二、一九五、六〇〇 | 三三七、七九〇、〇〇〇 | 二五、四一〇、〇〇〇 | 三七、一一五、〇〇〇 | 五五、五〇〇、〇〇〇 | 二九、二九〇、〇〇〇 | 一五、〇〇三、〇〇〇 | 二一〇、四〇〇 | 一、三三三、三六〇、八八〇 |





# 第三表　自明治三十年 自昭和元年 各種貨幣發行高累年表　(ロ)年次別

| 種別 | 本位貨 舊金貨 | 本位貨 新金貨 | 本位貨 舊銀貨 | 本位貨 計 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 計 | 累計 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十年 | 一、二六五、三六五・一六八円 | 六一、六九四、一二九・六八〇 | 二、八四五、五七一・〇三二 | 六五、八〇五、〇六五・八八〇 | 六、〇七六、〇〇〇・〇〇〇 | 六〇一、三一七・五五〇 | — | 六、六七七、三一七・五五〇 | 七二、四八二、三八三・四三〇 | 四二八、一四一、二七七・八二〇 |
| 同三十一年 | —円 | 三一、四五九、四五五・三〇六 | — | 三一、四五九、四五五・三〇六 | 一六、三六一、〇〇〇・〇〇〇 | 九一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三六、〇〇〇・〇〇〇 | 一七、三〇七、〇〇〇・〇〇〇 | 四八、七六六、四五五・三〇六 | 四七六、九〇七、七三三・一二六 |
| 同三十二年 | —円 | 一七、九六四、九四三・五六三 | — | 一七、九六四、九四三・五六三 | 八、七四五、〇〇〇・〇〇〇 | 五三三、〇〇〇・〇〇〇 | 九八、〇〇〇・〇〇〇 | 九、三七六、〇〇〇・〇〇〇 | 二七、三四〇、九四三・五六三 | 五〇四、二四八、六七六・六八九 |
| 同三十三年 | —円 | 一〇、四五七、二三三・七〇八 | — | 一〇、四五七、二三三・七〇八 | 二、六三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一二八、〇〇〇・〇〇〇 | 二一、〇〇〇・〇〇〇 | 二、七七九、〇〇〇・〇〇〇 | 一三、二三六、二三三・七〇八 | 五一七、四八四、九〇九・三九七 |
| 同三十四年 | —円 | 一七、一四三、九二九・〇八二 | — | 一七、一四三、九二九・〇八二 | 一、〇七四、〇〇〇・〇〇〇 | 三五八、〇〇〇・〇〇〇 | 五五、〇〇〇・〇〇〇 | 一、四八七、〇〇〇・〇〇〇 | 一八、六三〇、九二九・〇八二 | 五三六、一一四、八三八・四七九 |
| 同三十五年 | —円 | 三〇、二〇〇、四八一・七九三 | — | 三〇、二〇〇、四八一・七九三 | 六三一、〇〇〇・〇〇〇 | 一二四、〇〇〇・〇〇〇 | 四五、〇〇〇・〇〇〇 | 八〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三一、〇〇〇、四八一・七九三 | 五六七、一一五、三二〇・二七二 |

| 種別 | 本位貨 新金貨 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 計 | 合計 計 | 累計 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十六年 | 二八、六二二、三九六・四三二円 | 七五二、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | 七五二、〇〇〇・〇〇〇 | 二九、三七四、三九六・四三二 | 五九六、四八九、七一六・七〇三 |
| 同三十七年 | 五八、五六八、六二九・四二〇円 | 四、八一八、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四、九一八、〇〇〇・〇〇〇 | 六三、四八六、六二九・四二〇 | 六五九、九七六、三四六・一二三 |
| 同三十八年 | 二四、九四〇、五三〇・七四〇円 | 九、八八〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 三〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇、一八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三五、一二〇、五三〇・七四〇 | 六九五、〇九六、八七六・八六三 |
| 同三十九年 | 二五、三一二、二二一・二三〇円 | 一、二四〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六、九八〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 八、二二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三三、五三二、二二一・二三〇 | 七二八、六二九、〇九八・〇九三 |
| 同四十年 | 一五、〇四四、六四三・九六〇円 | — | 一七、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一七、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三二、二四四、六四三・九六〇 | 七六〇、八七三、七四二・〇五三 |
| 同四十一年 | 二四、九三九、三二六・五三三円 | — | 一六、九五〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一六、九五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四一、八八九、三二六・五三三 | 八〇二、七六三、〇六八・五八六 |

| 種別 | 本位貨 新金貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治四十二年 | 円 三一、四六九、八三〇・二〇〇 | 一四、七八〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一四、七八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四六、二四九、八三〇・二〇〇 | 八四九、〇一二、七八八・七八六 |
| 同四十三年 | 円 四三、七二五、一九二・四五〇 | 一四、〇一〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一四、〇一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 五七、七三五、一九二・四五〇 | 九〇六、七四七、九八一・二三六 |
| 同四十四年 | 円 二七、九九〇、〇一五・一五〇 | 八、九二〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 八、九二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三六、九一〇、〇一五・一五〇 | 九四三、六五七、九九六・三八六 |
| 大正元年 | 円 三二、一九三、五八四・九五〇 | 四、九二〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 四、九二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三七、一一三、五八四・九五〇 | 九八〇、七七一、五八一・三三六 |
| 同二年 | 円 一八、三六〇、〇八三・七五〇 | 四、二六八、〇〇〇・〇〇〇 | 一五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四、四一八、〇〇〇・〇〇〇 | 二二、七七八、〇八三・七五〇 | 一、〇〇三、五四九、六六五・〇八六 |
| 同三年 | 円 二〇、五八〇、九二三・〇五四 | 一、九九三、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二、〇九三、〇〇〇・〇〇〇 | 二二、六七三、九二三・〇五四 | 一、〇二六、二二三、五八八・一四〇 |

| 種別 | 本位貨 新金貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正四年 | 円 二九、一八五、〇六〇・〇〇〇 | 二、七〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二、八三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三二、〇一五、〇六〇・〇〇〇 | 一、〇五八、二三七、六四八・一四〇 |
| 同五年 | 円 三九、三四七、四八〇・〇〇〇 | 四、八七〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 新青銅貨 二一四、〇一〇・〇〇〇 | 五、〇八四、〇一〇・〇〇〇 | 四四、四三一、五〇〇・〇〇〇 | 一、一〇二、六六九、一四八・一四〇 |
| 同六年 | 円 一二六、二一〇、〇八〇・〇〇〇 | 九、〇三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 新白銅貨 三二二、一五〇・〇〇〇 | 三〇七、一五〇・〇〇〇 | 九、六五九、三〇〇・〇〇〇 | 一三五、八六九、三八〇・〇〇〇 | 一、二三八、五三八、五二八・一四〇 |
| 同七年 | 円 六六、二二八、八六〇・〇〇〇 | 大正七年四月改正 一四、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四七二、八五〇・〇〇〇 | 一、二〇七、八三五・〇〇〇 | 一五、八八〇、六八五・〇〇〇 | 八二、〇九九、五四五・〇〇〇 | 一、三二〇、六三八、〇七三・一四〇 |
| 同八年 | 円 四三、三五九、八二〇・〇〇〇 | 七、五九五、〇〇〇・〇〇〇 | 二、一六七、〇〇〇・〇〇〇 | 二、二一七、三九五・〇〇〇 | 一一、九七九、三九五・〇〇〇 | 五五、三三九、二一五・〇〇〇 | 一、三七五、九七七、二八八・一四〇 |
| 同九年 | 円 五、五六五、七四〇・〇〇〇 | — | 七、八四八、〇〇〇・〇〇〇 | 二、八一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇、六五八、〇〇〇・〇〇〇 | 一六、二二三、七四〇・〇〇〇 | 一、三九二、二〇一、〇二八・一四〇 |

| 種別 | 本位貨 新金貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正十年 | 円 一六二、八八〇・〇〇〇 | — | 一二、八三八、〇〇〇・〇〇〇 | 二、五二四、四〇〇・〇〇〇 | 一五、三六二、四〇〇・〇〇〇 | 一五、五四四、二八〇・〇〇〇 | 一、三九七、七四五、三〇八・一四〇 |
| 同十一年 | 円 四五、二四〇・〇〇〇 | 大正十一年改正 三八、一六〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二四、一七六、〇〇〇・〇〇〇 | 二、五三二、一〇〇・〇〇〇 | 六四、八六八、一〇〇・〇〇〇 | 六四、九一三、三四〇・〇〇〇 | 一、四六二、六五八、六四八・一四〇 |
| 同十二年 | 円 二二、六八〇・〇〇〇 | 九二、五九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三一、三一六、〇〇〇・〇〇〇 | 一、五五五、〇〇〇・〇〇〇 | 一二五、四六一、〇〇〇・〇〇〇 | 一二五、四八二、六八〇・〇〇〇 | 一、五八八、一四一、三二八・一四〇 |
| 同十三年 | 円 一一、五三〇・〇〇〇 | 三九、二八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一、六六五、〇〇〇・〇〇〇 | 一、〇四四、四〇〇・〇〇〇 | 四一、九八九、四〇〇・〇〇〇 | 四二、〇〇〇、九三〇・〇〇〇 | 一、六三〇、一四二、二四八・一四〇 |
| 同十四年 | 円 — | 二三、九〇四、〇〇〇・〇〇〇 | 五、四四七、五〇〇・〇〇〇 | 一八、一〇〇・〇〇〇 | 二九、三六九、六〇〇・〇〇〇 | 二九、三六九、六〇〇・〇〇〇 | 一、六四九、五一一、八四八・一四〇 |
| 昭和元年 | 円 — | 一六、二六六、〇〇〇・〇〇〇 | 五、八六七、五〇〇・〇〇〇 | — | 二二、一三三、五〇〇・〇〇〇 | 二二、一三三、五〇〇・〇〇〇 | 一、六七一、六四五、三四八・一四〇 |

（備考）舊金貨幣は二倍して新金貨幣の割に換算す。

## 第四表　自明治三十年至昭和元年　各種廢貨處分高累年表　(イ)年度別

| 年度 | 金貨幣 舊貨 | 金貨幣 新貨 | 一圓銀貨幣 貿易銀 | 補助銀貨幣 | 白銅貨幣 | 銅貨幣 | 青銅貨幣 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三〇 | 円 三三〇、一〇七・〇〇〇 | 円 — | 円 — | 円 — | 円 — | 円 — | 円 — | 円 三三〇、一〇七・〇〇〇 |
| 三一 | 八九・〇〇〇 | 三、七五〇・〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 七七八・九〇〇 | 一三〇・三五〇 | 一九〇・八六〇 | — | 三、〇〇四、九三九・一一〇 |
| 三二 | 一五・〇〇〇 | 八五・〇〇〇 | — | 四四八・五五〇 | — | 四三六・四五〇 | — | 九七五・〇〇〇 |
| 三三 | 三〇・〇〇〇 | 二六五・〇〇〇 | — | 一、五七四・八五〇 | 九一四・〇〇〇 | 一七九、七九二・一五〇 | — | 一八二、五七六・〇〇〇 |
| 三四 | 一・〇〇〇 | 一一五・〇〇〇 | — | 七九、五〇六・三五〇 | 二、八三九・八五〇 | 一〇〇、〇三六・八〇〇 | — | 一八二、四九九・〇〇〇 |
| 三五 | 三五・〇〇〇 | 二〇・〇〇〇 | — | 五、二〇四・四〇〇 | 一、四三三・九五〇 | 二七一・六五〇 | — | 六、九六五・〇〇〇 |
| 三六 | — | — | — | 四八六、八〇九・六〇〇 | 二、四三三・七〇〇 | 一〇〇、三六五・二〇〇 | — | 五八九、六〇七・五〇〇 |
| 三七 | 八、五八九、五七八・〇〇〇 | — | — | 一〇七、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | — | 八、六九六、五七八・〇〇〇 |
| 三八 | — | 一六〇・〇〇〇 | — | 一四六、〇七四・八〇〇 | 三、九三一・四五〇 | 二、八〇三・三三〇 | — | 一五二、九六九・五七〇 |
| 三九 | — | — | — | 二、一九四、七七七・一〇〇 | 三、七五九・四〇〇 | 一、四六三・五〇〇 | — | 二、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 |
| 四〇 | — | — | — | 二、六一六、七五三・四〇〇 | 三、九〇六・三〇〇 | 七六六・〇八〇 | — | 二、六二一、四二五・七八〇 |
| 四一 | — | 四五・〇〇〇 | — | 七、九一三、九五〇・〇〇〇 | 八、一一四・五〇〇 | 四九四・二五〇 | — | 七、九二二、六〇三・七五〇 |
| 四二 | — | — | — | 八、〇八三、一二五・〇〇〇 | 一一、〇九八・五〇〇 | 四九一、九一三・八〇〇 | — | 八、五八六、一三七・三〇〇 |
| 四三 | — | — | — | 七、六四三、五八九・一五〇 | 七、四一五・四〇〇 | 九八六・〇四〇 | — | 七、六五一、九九〇・五九〇 |
| 四四 | — | — | — | 七、五九六、六〇〇・〇〇〇 | 一〇、一二〇・〇〇〇 | 四、〇三五・〇〇〇 | — | 七、六一〇、七五五・〇〇〇 |

| 大正元 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 一〇 | 一一 | 一二 | 一三 | 一四 | 昭和元 | 通計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — | — | 五・〇〇〇 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 八、九一九、八六〇・〇〇〇 |
| — | — | 六〇・〇〇〇 | — | — | — | — | — | — | — | 一、七〇〇・〇〇〇 | — | — | — | — | 六、二〇〇・〇〇〇 |
| — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 |
| 三、四八七、〇四〇・〇〇〇 | 二、二二四、八三九・〇〇〇 | 一〇、七四一、四二二・二〇〇 | 三、六〇九、〇〇〇・〇〇〇 | 一、九九二、〇〇〇・〇〇〇 | 五〇五、九五三・五〇〇 | 一三五、八九八・九〇〇 | — | — | 五〇、〇四四・〇〇〇 | 四、四六五、六〇〇・〇〇〇 | 二九、九九九、九九四・〇〇〇 | 一六、九〇二、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一三三、八〇九・二五〇 | 四、一九九、〇〇〇・〇〇〇 | 一二四、三三二、七八二・九五〇 |
| 八、八〇〇・〇〇〇 | 二一、〇九四・八〇〇 | 一六、〇五三・〇〇〇 | — | 一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三三、六七八・九五〇 | 七四四・〇〇〇 | — | — | 一、一二五・〇〇〇 | 一、六〇〇・〇〇〇 | 一、二六七、二五〇・〇〇〇 | — | 二、七五二、〇七七・八五〇 | 四、三一三、七五〇・〇〇〇 | 八、四七二、三九九・〇〇〇 |
| 三、五〇四・〇〇〇 | 二、〇六六・二〇〇 | 三五、四六四・八〇〇 | 一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一三六、〇〇〇・〇〇〇 | 二〇四、二六七・三〇〇 | 二三、三四六・一〇〇 | — | — | 二九一・〇三〇 | 二、九一七・四四三 | 一九九、七五〇・〇〇〇 | 一三六、四八二・二一〇 | 六八、六七六・三〇〇 | 一、三三三、二〇四・八一〇 | 三、一二八、五〇六・二九二 |
| — | — | — | — | — | 六八・九〇〇 | 一一・〇〇〇 | — | — | 三九・九七〇 | 二五〇・〇〇〇 | 二八、八五〇・〇〇〇 | 一九、九一七・七九〇 | — | 六八、二五〇・〇〇〇 | 一一七、三八七・六六〇 |
| 三、四九九、三四四・〇〇〇 | 二、二三八、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇、七九四、九九五・〇〇〇 | 三、七〇九、〇〇〇・〇〇〇 | 二、一三八、〇〇〇・〇〇〇 | 七三二、九六八・六五〇 | 一六〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | 五一、五〇〇・〇〇〇 | 四、四七二、〇六七・四四二 | 三一、四九五、八四四・〇〇〇 | 一七、〇五八、四〇〇・〇〇〇 | 一一、九七三、五六三・四〇〇 | 九、九〇三、二〇四・八一〇 | 一四七、九六六、一三五・九〇二 |



## 第四表 自明治三十年至昭和元年各種廢貨處分高累年表 (ロ)年次別

| 種別 | 本位貨 舊金貨 | 本位貨 新金貨 | 本位貨 舊銀貨 | 本位貨 計 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十年 | 五八六・〇〇〇 | — | 六四・〇〇〇 | 六五〇・〇〇〇 | 二三二・七〇〇 | 三一・八〇〇 | 九・三九五 | 二七三・八九五 | 九二三、八九五 | 三、四四九、九二八・二二八 |
| 同 三十一年 | 六五九、七九八・〇〇〇 | 三四〇・〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三、六六〇、一三八・〇〇〇 | 二四五・一五〇 | 二八・二五〇 | 三七・五七五 | 三一〇・九七五 | 三、六六〇、四四八・九七五 | 七、一一〇、三七七・一九三 |
| 同 三十二年 | 三八・〇〇〇 | 三、四九五・〇〇〇 | — | 三、五三三・〇〇〇 | 一、六〇四、四八二・三〇〇 | 一〇三・一〇〇 | 一五三・二六五 | 一、六〇四、七三七・六八五 | 一、六〇八、二七〇・六八五 | 八、七一八、六四七・八七八 |
| 同 三十三年 | 六〇・〇〇〇 | 二六五・〇〇〇 | — | 三二五・〇〇〇 | 一、五七四・八五〇 | — | 一八〇、二二八・六〇〇 | 一八一、七九三・四五〇 | 一八二、一一八・四五〇 | 八、九〇〇、七六六・三二八 |
| 同 三十四年 | — | — | — | — | 七七、五〇〇・〇〇〇 | 九一四・〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一七八、四一四・〇〇〇 | 一七八、四一四・〇〇〇 | 九、〇七九、一八〇・三二八 |
| 同 三十五年 | 七二・〇〇〇 | 一三五・〇〇〇 | — | 二〇七・〇〇〇 | 七、二二〇・七五〇 | 四、二六二・八〇〇 | 三〇九・四五〇 | 一一、七九三・〇〇〇 | 一二、〇〇〇・〇〇〇 | 九、〇九一、一八〇・三二八 |

| 種別 | 本位貨 舊金貨 | 本位貨 新金貨 | 本位貨 計 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十六年 | — | — | — | 四、三〇三・一〇〇 | 二、四三三・七〇〇 | 一〇〇、二六五・二〇〇 | 一〇七、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇七、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一九八、一八〇・三二八 |
| 同 三十七年 | 一七、一七九、一五六・〇〇〇 | — | 一七、一七九、一五六・〇〇〇 | 五八九、六〇七・五〇〇 | — | — | 五八九、六〇七・五〇〇 | 一七、七六八、七六三・五〇〇 | 二六、九六六、九四三・八二八 |
| 同 三十八年 | — | 一六〇・〇〇〇 | 一六〇・〇〇〇 | 一四六、〇七四・八〇〇 | 一三、九三一・四五〇 | 二、八〇三・三二〇 | 一六一、八〇九・五七〇 | 一六一、九六九・五七〇 | 二七、一二八、九一三・三九八 |
| 同 三十九年 | — | — | — | 一九四、七七七・一〇〇 | 三、七五九・四〇〇 | 一、四六三・五〇〇 | 二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二七、三二八、九一三・三九八 |
| 同 四十年 | — | — | — | 四、六二六、七五三・四〇〇 | 三、九〇六・三〇〇 | 七六六・〇八〇 | 四、六三一、四二五・七八〇 | 四、六三一、四二五・七八〇 | 三一、九六〇、三三九・一七八 |
| 同 四十一年 | — | 四五・〇〇〇 | 四五・〇〇〇 | 七、九二三、九五〇・〇〇〇 | 八、一一四・五〇〇 | 四九四・二五〇 | 七、九三二、五五八・七五〇 | 七、九三二、六〇三・七五〇 | 三九、八九二、九四二・九二八 |

| 種別 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 |
|---|---|---|---|---|
| 明治四十二年 | 八、〇八三、一三五・〇〇〇 | 一一、〇九八・五〇〇 | 四九一、九一三・八〇〇 | 八、五八六、一三七・三〇〇 |
| 同 四十三年 | 七、三四三、五八九・一五〇 | 七、四一五・四〇〇 | 九八六・〇四〇 | 七、三五一、九九〇・五九〇 |
| 同 四十四年 | 五、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | 五、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇 |
| 大正元年 | 六、〇八三、六四〇・〇〇〇 | 一九、〇五〇・〇〇〇 | 七、五三九・〇〇〇 | 六、一一〇、二二九・〇〇〇 |
| 同 二年 | 二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | 二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 |
| 同 三年 | 一〇、五八四、八三九・〇〇〇 | 一一、〇九四・八〇〇 | 三七、〇六六・二〇〇 | 一〇、六三三、〇〇〇・〇〇〇 |

| 累計 |
|---|
| 四八、四五九、〇八〇・三三八 |
| 五五、八二一、〇七〇・八一八 |
| 六一、一二一、〇七〇・八一八 |
| 六七、三二一、二六九・八一八 |
| 六九、三二一、二六九・八一八 |
| 七九、八五四、二六九・八一八 |

| 種別 | 本位貨 舊金貨 | 本位貨 新金貨 | 本位貨 計 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正四年 | 一〇・〇〇〇 | 六〇・〇〇〇 | 七〇・〇〇〇 | 三、九八〇、四一二・二〇〇 | — | 一八、〇五三・〇〇〇 | 一〇〇、四六四・八〇〇 | 四、〇九八、九三〇・〇〇〇 | 四、〇九九、〇〇〇・〇〇〇 | 八三、九五三、二六九・八一八 |
| 同五年 | — | — | — | 一、九九二、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一三六、〇〇〇・〇〇〇 | 二、一三八、〇〇〇・〇〇〇 | 二、一三八、〇〇〇・〇〇〇 | 八六、〇九二、二六九・八一八 |
| 同六年 | — | — | — | 五〇五、九五三・五〇〇 | — | 二二、六七八・九五〇 | 二〇四、三三六・二〇〇 | 七三二、九六八・六五〇 | 七三二、九六八・六五〇 | 八六、八二四、二五八・四六八 |
| 同七年 | — | — | — | 一三〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | 二三、〇〇〇・〇〇〇 | 一五三、〇〇〇・〇〇〇 | 一五三、〇〇〇・〇〇〇 | 八六、九七七、二五八・四六八 |
| 同八年 | — | — | — | — | 五、八九八・九〇〇 | 七四四・〇〇〇 | 三五七・一〇〇 | 七、〇〇〇・〇〇〇 | 七、〇〇〇・〇〇〇 | 八六、九八四、二五八・四六八 |
| 同九年 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 八六、九八四、二五八・四六八 |

| 種別 | 本位貨 新金貨 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 | 累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正十年 | — | — | — | — | — | — | — | 八六、九八四、二五八・四六八 |
| 同十一年 | 一、七〇〇・〇〇〇 | 九五、三九三・一〇〇 | 四、四二〇、二五〇・九〇〇 | 二、七二五・〇〇〇 | 三、四九八・四四二 | 四、五二一、八六七・四四二 | 四、五二三、五六七・四四二 | 九一、五〇七、八二五・九一〇 |
| 同十二年 | — | 四、四三九、六九二・二〇〇 | 二五、五六〇、三〇一・八〇〇 | 一、二六七、二五〇・〇〇〇 | 二二五、〇〇〇・〇〇〇 | 三一、四九二、二四四・〇〇〇 | 三一、四九二、二四四・〇〇〇 | 一二三、〇〇〇、〇六九・九一〇 |
| 同十三年 | — | 五一四、五七七・七〇〇 | 三、三八七、四二二・三〇〇 | — | 一六〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四、〇六二、〇〇〇・〇〇〇 | 四、〇六二、〇〇〇・〇〇〇 | 一二七、〇六二、〇六九・九一〇 |
| 同十四年 | — | 四三、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇、八五七、〇〇〇・〇〇〇 | 二、二九〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一三、一九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一三、一九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四〇、二五二、〇六九・九一〇 |
| 昭和元年 | — | 〇・二五〇 | 六、四五二、八〇九・〇〇〇 | 三、九九九、三二七・八五〇 | 一、〇一二、二五六・一一〇 | 一一、四六四、三九三・二一〇 | 一一、四六四、三九三・二一〇 | 一五一、七一六、四六三・一二〇 |

（備考）明治三十九年七月新補助銀貨發行以後の補助銀貨鑄潰高は新舊の區別概して不明に付特に判明せるものの外は全部舊銀貨の鑄潰と看做したり。



## 第五表　自明治三十年至昭和元年　各種貨幣發行鑄潰差引殘高累年表（年末現在）

| 種別 | 本位貨 舊金貨 | 本位貨 新金貨 | 本位貨 舊銀貨 | 本位貨 計 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 | 補助貨 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十年 | 一四一、一四八、六二四・〇〇〇 | 六一、六九四、一二九・六八〇 | 一六四、六七二、八〇六・〇〇〇 | 三六七、五一五、五五九・六八〇 | 三九、四二四、二五二・二五〇 | 六、七四四、八八三・二五〇 | 一一、〇〇六、六五四・四三一 | 五七、一七五、七八九・九三一 | 四二四、六九一、三四九・六一一 |
| 同三十一年 | 一四〇、四八八、八二六・〇〇〇 | 九三、一五三、二四四・九八六 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 三九五、三一四、八七六・九八六 | 五五、七八五、〇〇七・一〇〇 | 七、六五四、八五五・〇〇〇 | 一一、〇四二、六一六・八四七 | 七四、四八二、四七八・九四七 | 四六九、七九七、三五五・九三三 |
| 同三十二年 | 一四〇、四八八、七八八・〇〇〇 | 一一一、一一四、六九三・五四九 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 四一三、二七六、二八七・五四九 | 六二、九二五、五二四・八〇〇 | 八、一八七、七五二・九〇〇 | 一一、一四〇、四六三・五六二 | 八二、二五三、七四一・二六二 | 四九五、五三〇、〇二八・八一一 |
| 同三十三年 | 一四〇、四八八、七二八・〇〇〇 | 一二一、五七一、六六一・二五七 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 四二三、七三三、一九五・二五七 | 六五、五五三、九四九・九五〇 | 八、三〇五、七五二・九〇〇 | 一〇、九九一、二四四・九六二 | 八四、八五〇、九四七・八一二 | 五〇八、五八四、一四三・〇六九 |
| 同三十四年 | 一四〇、四八八、七二八・〇〇〇 | 一三八、七一四、五九〇・三三九 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 四四〇、八七六、一二四・三三九 | 六六、五五〇、四四九・九五〇 | 八、六六二、八三八・九〇〇 | 一〇、九四六、二四四・九六二 | 八六、一五九、五三三・八一二 | 五二七、〇三五、六五八・一五一 |
| 同三十五年 | 一四〇、五〇八、六五六・〇〇〇 | 一六八、九一四、九三七・一二一 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 四七一、〇九六、三九九・一二一 | 六七、一七四、二三九・二〇〇 | 八、七八二、五六六・一〇〇 | 一〇、九九〇、九三五・五二三 | 八六、九四七、七四〇・八二三 | 五五八、〇四四、一三九・九四四 |

| 種別 | 本位貨 舊金貨 | 本位貨 新金貨 | 本位貨 舊銀貨 | 本位貨 計 | 補助貨 舊補助銀貨 | 補助貨 新補助銀貨 | 補助貨 白銅貨 | 補助貨 銅貨及青銅貨 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十六年 | 一四〇、四八八、六五六・〇〇〇 | 一九七、五三七、三三三・五六三 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 四九九、六九八、七九五・五六三 | 六七、九二三、〇三七・一〇〇 | — | 八、七八〇、一三三・四〇〇 | 一〇、八九〇、五七〇・三二三 |
| 同三十七年 | 一二三、三〇九、五〇〇・〇〇〇 | 二五六、一〇五、九六二・九八三 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 五四一、〇八八、二六八・九八三 | 七二、一五〇、四二九・六〇〇 | — | 八、八八〇、一三三・四〇〇 | 一〇、八九〇、五七〇・三二三 |
| 同三十八年 | 一二三、三〇九、五〇〇・〇〇〇 | 二六一、〇四六、三三三・七二三 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 五四六、〇二八、六三九・七二三 | 八一、八八四、三五四・八〇〇 | — | 九、一六七、二〇一・九五〇 | 一〇、八八七、七六六・九九二 |
| 同三十九年 | 一二三、三〇九、五〇〇・〇〇〇 | 三〇六、三五八、五五四・九五三 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 五九一、三四〇、八六〇・九五三 | 八二、九二九、五七七・七〇〇 | 明治三十九及四十年改正 六、九八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一六三、四四二・五五〇 | 一〇、八八六、三〇三・四九二 |
| 同四十年 | 一二三、三〇九、五〇〇・〇〇〇 | 三二一、四〇三、一九八・九一三 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 六〇六、三八五、五〇四・九一三 | 七六、三二二、八二四・三〇〇 | 二四、一八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一五九、五三六・二五〇 | 一〇、八八五、三二七・四一三 |
| 同四十一年 | 一二三、三〇九、五〇〇・〇〇〇 | 三四六、三二六、四〇六・八四八 | 一六一、六七二、八〇六・〇〇〇 | 六三一、三〇八、七一二・八四八 | 七〇、三九八、八七四・三〇〇 | 四一、一八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一五一、四二一・七五〇 | 一〇、八八五、〇四三・一六三 |

| 種別 | 合計 | 本位貨幣 | | | | 補助貨幣 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 金貨 | | 銀貨 | 合計 | 白銅貨 | 新補助銀貨 | | 舊補助銀貨 |
| | | | 新金貨 | 舊金貨 | | | | 大正七年四月改正 | 明治三十九年及四十年改正 | 明治三十及四十年改正 |
| 明治四十二年 | 八七、五九二、七四〇・八二 | 八七、五九二、七四〇・八二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 二七、七九六、二七〇・〇八 | 五五七、二九一、三五六・三七五 | | | | | |
| 同四十三年 | 九一、九二一、二三三・三二 | 九一、九二一、二三三・三二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四三、五二一、四九八・四九八 | 六三三、〇〇九、四〇二・二九五 | | | | | |
| 同四十四年 | 九五、九五九、三三三・七四二 | 九五、九五九、三三三・七四二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 大正元年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同二年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同三年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同四年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同五年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同六年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同七年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同八年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同九年 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一〇七、九五九、三三三・八九二 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |

| 種別 | 合計 | 本位貨幣 | | | | 補助貨幣 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 金貨 | | 銀貨 | 合計 | 白銅貨 | 新補助銀貨 | | 舊補助銀貨 |
| | | | 新金貨 | 舊金貨 | | | | 大正七年四月改正 | 明治三十九年及四十年改正 | 明治三十及四十年改正 |
| 大正十年 | 一〇、六〇七、〇八三・三三 | 一〇、六〇七、〇八三・三三 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 二七、七九六、二七〇・〇八 | 五五七、二九一、三五六・三七五 | | | | | |
| 同十一年 | 一〇、七〇五、一〇三・三三 | 一〇、七〇五、一〇三・三三 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四二、五二一、四九八・四九八 | 六三三、〇〇九、四〇二・二九五 | | | | | |
| 同十二年 | 一〇、八〇七、九一七・一三三 | 一〇、八〇七、九一七・一三三 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同十三年 | 一〇、九〇七、九一七・一三三 | 一〇、九〇七、九一七・一三三 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 同十四年 | 一〇、九〇七、九一七・一三三 | 一〇、九〇七、九一七・一三三 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |
| 昭和元年 | 一七、〇二九、七五〇・〇三三 | 一七、〇二九、七五〇・〇三三 | 一三三、三〇九、三〇〇・〇〇 | 四四九、五二一、四九八・四九八 | 六六七、九四七、一三七・〇五〇 | | | | | |

## 第六表　自明治三十年至昭和元年　各種補助貨現在高種類別表　（年末現在）

| 種別 | 明治三十年 | 同三十一年 | 同三十二年 | 同三十三年 | 同三十四年 | 同三十五年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 五十銭 | 六、五三一、七四八、八五〇円 | 一七、九二四、六五〇、〇〇〇円 | 二四、六八四、八一六・〇〇〇 | 二五、五七九、八一六・〇〇〇 | 二六、〇五四、六七四・〇〇〇 | 二六、〇八六、六七四・〇〇〇 |
| 舊二十銭 | 一二、六五八、六五〇・〇〇〇 | 一七、二五八、八五〇・〇〇〇 | 一九、五二〇、七七〇・〇〇〇 | 一九、五二〇、七七〇・〇〇〇 | 一九、五二〇、七七〇・〇〇〇 | 一九、五二〇、七七〇・〇〇〇 |
| 補助貨幣合計 | 一九、一八八、四〇〇・〇〇〇 | 三五、一八二、八五〇・〇〇〇 | 四四、二〇五、六九六・〇〇〇 | 四五、〇九九、六九六・〇〇〇 | 四五、五七四、六九四・〇〇〇 | 四五、六〇六、六九四・〇〇〇 |

| 種別 | 助銀貨 十錢 | 助銀貨 五錢 | 計 | 白銅貨 五錢 | 銅貨及青銅貨 二錢 | 一錢 | 五厘 | 一厘 | 計 | 合計 | 內、純輸出現在高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十六年 | 円 一六、八〇二、四六八・〇〇〇 | 二、四三〇、三八五・三五〇 | 三九、四二四、二三二・二五〇 | 六、七四四、八八三・二五〇 | 四、一〇五、一一三・八〇〇 | 四、八七九、九七〇・三一〇 | 一、九七七、〇七九・七七五 | 四四、四九一・五三七 | 一一、〇〇六、六五五・四二二 | 五七、一七五、七八九・九二二 | 一〇、九九一、〇八五・二一〇 |
| 同　三十七年 | 円 一八、一七一、三九六・九〇〇 | 二、四三〇、三七二・二〇〇 | 五五、七八五、〇〇七・一〇〇 | 七、六五四、八五五・〇〇〇 | 四、一〇五、一〇二・四六〇 | 四、九一五、九五四・〇六〇 | 一、九七七、〇六八・七九〇 | 四四、四九一・五三七 | 一一、〇四二、六一六・八四七 | 七四、四八二、四七八・九四七 | 一〇、九五九、三三三・七五〇 |
| 同　三十八年 | 円 一八、一八〇、四五九・九〇〇 | 一、九一四、〇二三・三〇〇 | 六二、九二五、五二四・八〇〇 | 八、一八七、七五三・九〇〇 | 四、一〇五、〇四八・四〇〇 | 五、〇一三、九〇一・四四〇 | 一、九七七、〇二三・一八五 | 四四、四九一・五三七 | 一一、一四〇、四六四・五六二 | 八二、二五三、七四一・二六二 | 一〇、九九四、〇八六・四七〇 |
| 同　三十九年 | 円 一九、〇〇四、三八九・七〇〇 | 一、九一四、〇〇六・六五〇 | 六五、五五三、九四九・九五〇 | 八、三〇五、七五三・九〇〇 | 三、九四〇、九六二・二〇〇 | 五、〇四四、五七四・一八〇 | 一、九七六、九二三・二五五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、九九一、二四四・九六二 | 八四、八五〇、九四七・八一二 | 一一、一二三、七二六・八五〇 |
| 同　四十年 | 円 一九、〇八三、三八九・七〇〇 | 一、八三六、五〇六・六五〇 | 六六、五五〇、四四九・九五〇 | 八、六六二、八三八・九〇〇 | 三、八四〇、九六二・二〇〇 | 五、〇九九、五七四・一八〇 | 一、九七六、九二三・二五五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、九四六、二四四・九六二 | 八六、一五九、五三三・八一二 | 一〇、九四八、六〇九・四六〇 |
| 同　四十一年 | 円 一九、二〇〇、六二九・五〇〇 | 一、八三六、四九二・一〇〇 | 六七、一七四、二三九・二〇〇 | 八、七八二、五六六・一〇〇 | 三、八四〇、九一四・四〇〇 | 五、一四四、三六七・〇四〇 | 一、九七六、八六八・七〇五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、九九〇、九三五・五二二 | 八六、九四七、七四〇・八二二 | 一〇、六九四、三二八・九六〇 |

| 種別 | 舊補助銀貨 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 五錢 | 計 | 新補助銀貨 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 計 | 白銅貨 五錢 | 銅 二錢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十六年 | 円 二六、八四〇、三二六・五〇〇 | 二〇、〇四七、〇九〇・〇〇〇 | 一九、一九八、一三八・五〇〇 | 一、八三六、四九二・一〇〇 | 六七、九二二、〇四七・一〇〇 | — | — | — | — | 八、七六〇、一三三・四〇〇 | 三、七四〇、九〇九・四〇〇 |
| 同　三十七年 | 円 二九、二四一、六六三・〇〇〇 | 二一、〇九三、四三九・八〇〇 | 二〇、二七一、八五四・七〇〇 | 一、五四三、四七二・一〇〇 | 七二、一五〇、四二九・六〇〇 | — | — | — | — | 八、八八〇、一三三・四〇〇 | 三、七四〇、九〇九・四〇〇 |
| 同　三十八年 | 円 三三、九〇二、八四九・五〇〇 | 二三、七七〇、三六一・八〇〇 | 二三、七〇六、五四三・八〇〇 | 一、五〇四、五九九・七〇〇 | 八一、八八四、三五四・八〇〇 | — | — | — | — | 九、一六七、二〇一・九五〇 | 三、七四〇、八五八・五八〇 |
| 同　三十九年 | 円 三四、一二八、三〇二・〇〇〇 | 三三、九六一、八八七・〇〇〇 | 二四、三八三、三三九・〇〇〇 | 一、四六六、〇五九・七〇〇 | 八三、九二九、五七七・七〇〇 | 五、九八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 六、九八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一六三、四四二・三五〇 | 三、七四〇、四〇七・五八〇 |
| 同　四十年 | 円 三一、九〇二、〇八四・五〇〇 | 二〇、七九二、七五七・六〇〇 | 二四、一八一、〇三二・八〇〇 | 一、四三六、九六〇・四〇〇 | 七八、三一二、八三四・三〇〇 | 一七、九八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二四、一八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一五九、五三六・二五〇 | 三、七四〇、三四〇・四二〇 |
| 同　四十一年 | 円 二七、二六二、八七五・五〇〇 | 一八、八六四、〇六三・六〇〇 | 二三、八七七、六七八・八〇〇 | 一、三七四、二五六・四〇〇 | 七一、三七八、八七四・三〇〇 | 三〇、七一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 八、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二、四一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四一、一二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一五一、四二一・七五〇 | 三、七四〇、三二二・九八〇 |





| 種別 | 貨及青銅貨 一錢 | 五厘 | 一厘 | 計 | 合計 | 內、純輸出現在高 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治四十二年 | 円 五、一四四、〇七四・六三〇 | 一、九七六、八〇〇・九五五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、八九〇、五七〇・三二二 | 八七、五九二、七四〇・八二二 | 一〇、六五九、五一二・四二〇 |
| 同　四十三年 | 円 五、一四四、〇七四・六三〇 | 一、九七六、八〇〇・九五五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、八九〇、五七〇・三二二 | 九二、九二二、一三三・三二二 | 一〇、五〇五、六三七・八一〇 |
| 同　四十四年 | 円 五、一四二、二四九・七〇〇 | 一、九七五、八七三・三八五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、八八七、七六六・九九二 | 一〇一、九三九、三三三・七四二 | 一〇、四九三、四七七・三四〇 |
| 大正元年 | 円 五、一四一、五二六・七〇〇 | 一、九七五、五九三・八八五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、八八六、三〇三・四九二 | 一〇九、九五九、三三三・七四二 | 一〇、二二六、六四一・三四〇 |
| 同　二年 | 円 五、一四〇、八八六・七〇〇 | 一、九七五、五二四・九六五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、八八五、五三七・四一二 | 一三三、五三七、八九七・九六二 | 九、〇〇九、三五五・三四〇 |
| 同　三年 | 円 五、一四〇、五二八・八八〇 | 一、九七五、四二五・九七五 | 二六、七八五・三三七 | 一〇、八八五、〇四三・一六二 | 一三一、五六五、三三九・二一二 | 九、七九七、〇九五・三四〇 |

| 種別 | 舊補助銀貨 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 五錢 | 計 | 新補助銀貨 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 計 | 白銅貨 五錢 | 銅貨及青銅貨 二錢 | 一錢 | 五厘 | 一厘 | 計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治四十二年 | 円 二三、七四二、〇九五・五〇〇 | 一六、四六一、六九三・六〇〇 | 二〇、七七一、四〇三・八〇〇 | 一、三四〇、五五六・四〇〇 | 六二、三一五、七四九・三〇〇 | 四一、七二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、七四〇、〇〇〇・〇〇〇 | 四、四五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 五五、九一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一四〇、三三三・二五〇 | 三、二五一、九一八・四八〇 | 五、一三九、〇九三・七八〇 | 一、九七四、六五七・〇七五 | 二七、四六〇・〇二七 | 一〇、三九三、一二九・三六二 | 一三七、七五九、二〇一・九一二 |
| 同　四十三年 | 円 二〇、四〇八、八三三・五〇〇 | 一四、四六一、四五七・八〇〇 | 一八、七七〇、三四三・七〇〇 | 一、三三一、五二五・一五〇 | 五四、九七二、一六〇・一五〇 | 四九、四四〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六、四八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六九、九二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一三二、九〇七・八五〇 | 三、二五一、七八四・一八〇 | 五、一三八、二六八・二〇〇 | 一、九七四、六三〇・九一五 | 二七、四六〇・〇二七 | 一〇、三九二、一四三・三二二 | 一四四、四一七、二二一・三三二 |
| 同　四十四年 | 円 一七、七一七、八三三・五〇〇 | 一三、〇五二、四五七・八〇〇 | 一七、五七〇、三四三・七〇〇 | 一、三三一、五二五・一五〇 | 四九、六七二、一六〇・一五〇 | 五四、四〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇、三四〇、〇〇〇・〇〇〇 | 七八、八四〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一三二、九〇七・八五〇 | 三、二五一、七八四・一八〇 | 五、一三八、二六八・二〇〇 | 一、九七四、六三〇・九一五 | 二七、四六〇・〇二七 | 一〇、三九二、一四三・三二二 | 一四八、〇三七、二二一・三三二 |
| 大正元年 | 円 一四、五六五、九九三・五〇〇 | 一三、〇八三、六五七・八〇〇 | 一五、六〇七、三四三・七〇〇 | 一、三三一、五二五・一五〇 | 四三、五八八、五二〇・一五〇 | 五七、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一二、四六〇、〇〇〇・〇〇〇 | 八三、七六〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一二三、八五七・八五〇 | 三、二五一、七〇五・一八〇 | 五、一三二、七九三・二〇〇 | 一、九七二、六五五・九一五 | 二七、四六〇・〇二七 | 一〇、三八四、六一四・三二二 | 一四六、八四六、九九二・三二二 |
| 同　二年 | 円 一三、四六五、九九三・五〇〇 | 一一、八八三、六五七・八〇〇 | 一四、九〇七、三四三・七〇〇 | 一、三三一、五二五・一五〇 | 四一、五八八、五二〇・一五〇 | 六〇、一三八、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一三、八〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 八八、〇三八、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一一三、八五七・八五〇 | 三、二五一、七〇五・一八〇 | 五、二六二、七九三・二〇〇 | 一、九七二、六五五・九一五 | 二七、四六〇・〇二七 | 一〇、五三四、六一四・三二二 | 一四九、二六四、九九二・三二二 |
| 同　三年 | 円 一〇、〇三八、三五四・五〇〇 | 七、八九七、二五七・八〇〇 | 一一、八三一、五四三・七〇〇 | 一、二四五、五二五・一五〇 | 三一、〇〇三、六八一・一五〇 | 六一、〇九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、八三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九〇、〇二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九、一〇三、七六三・〇五〇 | 三、二二六、六〇五・〇二〇 | 五、三八一、八〇六・三一〇 | 一、九七一、六七六・七六五 | 二七、四六〇・〇二七 | 一〇、五九七、五四八・一二二 | 一四〇、七二三、九九二・三二二 |

| 種別 | 舊補助銀貨 五十錢 | 舊補助銀貨 二十錢 | 舊補助銀貨 十錢 | 舊補助銀貨 五錢 | 舊補助銀貨 計 | 新補助銀貨 五十錢 | 新補助銀貨 二十錢 | 新補助銀貨 十錢 | 新補助銀貨 計 | 大正七年改正後新補助銀貨 五十錢 | 大正七年改正後新補助銀貨 十錢 | 大正七年改正後新補助銀貨 計 | 白銅貨 十錢 | 白銅貨 五錢 | 白銅貨 計 | 銅貨及青銅貨 二錢 | 銅貨及青銅貨 一錢 | 銅貨及青銅貨 五厘 | 銅貨及青銅貨 一厘 | 銅貨及青銅貨 計 | 合計 | 內、純輸出現在高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正四年 | 円 八、一三三、四一七・〇〇〇 | 七、〇四一、三七〇・六〇〇 | 一〇、六三一、九五六・二〇〇 | 一、一三七、五三五・一五〇 | 二七、〇二三、三六八・九五〇 | 六二、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一六、五三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九二、七三〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | — | — | 九、〇八四、七二〇・〇五〇 | 九、〇八四、七二〇・〇五〇 | 三、一一六、六〇五・〇一〇 | 五、五二一、五〇八・六一〇 | 一、九七一、五〇九・六六五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一〇、六三七、〇八三・三〇二 | 一三九、四七五、一七二・三〇二 | 円 八、〇六三、一五一・三四〇 |
| 同五年 | 円 七、四四三、四一七・〇〇〇 | 六、四八四、三七〇・六〇〇 | 九、八七六、九五六・二〇〇 | 一、一三六、五三五・一五〇 | 二五、〇三一、二六八・九五〇 | 六六、〇三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一七、四六〇、〇〇〇・〇〇〇 | 九七、五九〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | — | — | 九、〇七四、七二〇・〇五〇 | 九、〇七四、七二〇・〇五〇 | 二、九八〇、六〇五・〇一〇 | 五、六八五、五二八・六一〇 | 二、〇一一、五〇九・六六五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一〇、七〇五、一〇三・三〇二 | 一四二、四〇一、〇九二・三〇二 | 円 八、三四一、〇四七・三四〇 |
| 同六年 | 円 七、一五七、四六〇・〇〇〇 | 六、三九二、三五八・二〇〇 | 九、七五二、九七二・一〇〇 | 一、一三三、五三五・一五〇 | 二四、五二五、三一五・四五〇 | 七一、四五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二一、〇七〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇六、六二〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | — | — | — | 九、三七四、一八一・一〇〇 | 九、三七四、一八一・一〇〇 | 二、七七八、七一三・二六〇 | 五、九七〇、四一二・四〇〇 | 二、〇三一、三三一・四三五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一〇、八〇七、九一七・一一二 | 一五一、三三七、四一三・六六二 | 円 八、二二五、三六一・三四〇 |
| 同七年 | 円 七、一〇三、四六〇・〇〇〇 | 六、三六五、三五八・二〇〇 | 九、七〇七、九七二・一〇〇 | 一、一二八、五三五・一五〇 | 二四、三九五、三一五・四五〇 | 七一、四五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二一、〇七〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一〇六、六二〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一四、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 九、八四七、〇三一・一〇〇 | 九、八四七、〇三一・一〇〇 | 二、七五五、七一三・二六〇 | 七、一一三、七一二・四〇〇 | 二、〇九五、八六六・四三五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一一、九九二、七五二・一一二 | 一六七、〇五五、〇九八・六六二 | 円 八、一九七、一〇三・三四〇 |
| 同八年 | 円 七、一〇三、四六〇・〇〇〇 | 六、三六五、三五八・二〇〇 | 九、七〇七、九七二・一〇〇 | 一、一二八、五三五・一五〇 | 二四、三九五、三一五・四五〇 | 七一、四四七、一九三・五〇〇 | 一四、〇九八、八九八・〇〇〇 | 二一、〇六八、〇〇九・六〇〇 | 一〇六、六一四、一〇一・一〇〇 | 一五、五九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六、二〇五、〇〇〇・〇〇〇 | 二一、七九五、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一三、〇一三、三八七・一〇〇 | 一三、〇一三、三八七・一〇〇 | 二、七五五、六二七・九〇〇 | 九、二四五、〇八三・一八〇 | 二、一八一、六一八・九一五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一四、二〇九、七九〇・〇一二 | 一七九、〇二七、四九三・六六二 | 円 八、一五〇、一二六・三四〇 |
| 同九年 | 円 七、一〇三、四六〇・〇〇〇 | 六、三六五、三五八・二〇〇 | 九、七〇七、九七二・一〇〇 | 一、一二八、五三五・一五〇 | 二四、三九五、三一五・四五〇 | 七一、四四七、一九三・五〇〇 | 一四、〇九八、八九八・〇〇〇 | 二一、〇六八、〇〇九・六〇〇 | 一〇六、六一四、一〇一・一〇〇 | 一五、五九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六、二〇五、〇〇〇・〇〇〇 | 二一、七九五、〇〇〇・〇〇〇 | 三、〇三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 一六、八四一、二八七・一〇〇 | 一九、八七一、二八七・一〇〇 | 二、七五五、六二七・九〇〇 | 一三、〇五五、〇八三・一八〇 | 二、一八一、六一八・九一五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一八、〇一九、七九〇・〇一二 | 一八九、六九五、四九三・六六二 | 円 八、一三六、三八四・三四〇 |





| 種別 | 舊補助銀貨 五十錢 | 舊補助銀貨 二十錢 | 舊補助銀貨 十錢 | 舊補助銀貨 五錢 | 舊補助銀貨 計 | 新補助銀貨 五十錢 | 新補助銀貨 二十錢 | 新補助銀貨 十錢 | 新補助銀貨 計 | 大正七年改正後新補助銀貨 五十錢 | 大正七年改正後新補助銀貨 十錢 | 大正七年改正後新補助銀貨 計 | 白銅貨 十錢 | 白銅貨 五錢 | 白銅貨 計 | 銅貨及青銅貨 二錢 | 銅貨及青銅貨 一錢 | 銅貨及青銅貨 五厘 | 銅貨及青銅貨 一厘 | 銅貨及青銅貨 計 | 合計 | 內、純輸出現在高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正十年 | 円 七、一〇三、四六〇・〇〇〇 | 六、三六五、三五八・二〇〇 | 九、七〇七、九七二・一〇〇 | 一、一二八、五三五・一五〇 | 二四、三九五、三一五・四五〇 | 七一、四四七、一九三・五〇〇 | 一四、〇九八、八九八・〇〇〇 | 二一、〇六八、〇〇九・六〇〇 | 一〇六、六一四、一〇一・一〇〇 | 一五、五九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六、二〇五、〇〇〇・〇〇〇 | 二一、七九五、〇〇〇・〇〇〇 | 九、二〇七、〇〇〇・〇〇〇 | 二三、四九二、二八七・一〇〇 | 三二、六九九、二八七・一〇〇 | 二、七五五、六二七・九〇〇 | 一四、五七九、四八三・一八〇 | 二、一八一、六一八・九一五 | 二七、四六〇・〇一七 | 一九、五四四、一九〇・〇一二 | 二〇五、〇四七、八九三・六六二 | 七、九七二、二四四・三四〇 |
| 同十一年 | 円 七、〇九三、九一六・五〇〇 | 六、三四三、九五九・八〇〇 | 九、六四五、九二〇・九〇〇 | 一、一二六、一一五・一五〇 | 二四、二〇九、九一二・三五〇 | 七一、四二八、八〇三・〇〇〇 | 一四、〇九八、二九六・四〇〇 | 二一、〇六六、七五〇・八〇〇 | 一〇六、五九三、八五〇・二〇〇 | ｛三八、一六〇、〇〇〇・〇〇〇<br>一一、一九〇、〇〇〇・〇〇〇 | 六、二〇五、〇〇〇・〇〇〇 | 五五、五五五、〇〇〇・〇〇〇 | 二五、一八四、〇〇〇・〇〇〇 | 三一、六六八、五六二・一〇〇 | 五六、八七二、五六二・一〇〇 | 二、七五五、六〇二・九〇〇 | 一七、一〇九、四八三・一八〇 | 二、一八一、三六五・三〇〇 | 二六、三四〇・二〇〇 | 二二、〇七二、七九一・五八〇 | 二六五、三九四、一二六・二三〇 | 七、九七三、五〇四・三四〇 |
| 同十二年 | 円 三、〇九二、六一七・〇〇〇 | 六、三三八、七五九・八〇〇 | 九、二二二、七二六・二〇〇 | 一、一二六、一二五・一五〇 | 一九、八六〇、二三〇・一五〇 | 六七、四三〇、一〇三・五〇〇 | 一三、八三九、四九六・四〇〇 | 一八、一五八、九四三・五〇〇 | 九八、四二八、五四三・四〇〇 | 一三〇、七五〇、〇〇〇・〇〇〇<br>五・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 一三〇、七五〇、〇〇六・〇〇〇 | 四二、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 三四、四二一、三三二・一〇〇 | 七六、九二一、三三二・一〇〇 | 二、七〇三、五二七・九〇〇 | 一八、五一一、三〇八・一八〇 | 二、一六一、六一五・三〇〇 | 二六、三四〇・二〇〇 | 二三、四〇二、七九一・五八〇 | 三四九、三六二、八六二・二三〇 | 七、九七九、八七五・三四〇 |
| 同十三年 | 円 三、〇九一、五一七・〇〇〇 | 六、二六五、一一〇・二〇〇 | 八、七七二、九〇〇・一〇〇 | 一、一二六、一二五・一五〇 | 一九、三四五、六五二・四五〇 | 五八、九八四、二〇一・五〇〇 | 一一、〇二二、一四六・〇〇〇 | 一六、〇三五、七七一・六〇〇 | 八六、〇四一、一一〇・一〇〇 | 一七〇、〇一〇、〇〇〇・〇〇〇<br>五・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 一七〇、〇一〇、〇〇六・〇〇〇 | 四四、一八五、〇〇〇・〇〇〇 | 三四、四二一、三三二・一〇〇 | 七八、六〇六、三三二・一〇〇 | 二、六六三、三二七・九〇〇 | 一九、四四七、八〇八・一八〇 | 二、一四九、七六五・三〇〇 | 二六、三四〇・二〇〇 | 二四、二八七、二四一・五八〇 | 三七八、二九〇、二八二・二三〇 | 七、九九三、一五八・三四〇 |
| 同十四年 | 円 三、〇九一、五一七・〇〇〇 | 六、二三三、一一〇・二〇〇 | 八、七七三、九〇〇・一〇〇 | 一、一二六、一二五・一五〇 | 一九、三〇三、六五二・四五〇 | 五一、四四八、二〇一・五〇〇 | 一〇、一〇〇、一四六・〇〇〇 | 一三、六三五、七七一・六〇〇 | 七五、一八四、一一〇・一〇〇 | 一九三、九一四、〇〇〇・〇〇〇<br>五・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 一九三、九一四、〇〇六・〇〇〇 | 四九、六三一、五〇〇・〇〇〇 | 三二、一三一、三二二・一〇〇 | 八一、七六二、八二二・一〇〇 | 二、六六三、三二七・九〇〇 | 一九、四六五、九〇八・一八〇 | 二、一四九、七六五・三〇〇 | 二六、三四〇・二〇〇 | 二四、三〇五、三四一・五八〇 | 三九四、四六九、八八二・二三〇 | 七、九一三、五五八・三四〇 |
| 昭和元年 | 円 三、〇九一、五一七・〇〇〇 | 六、二三三、一一〇・二〇〇 | 八、七七三、九〇〇・一〇〇 | 一、一二六、一二四・九〇〇 | 一九、三〇三、六五二・二〇〇 | 五〇、六九四、三九三・五〇〇 | 八、〇〇三、一四六・〇〇〇 | 一〇、〇三三、七七一・六〇〇 | 六八、七三一、三一一・一〇〇 | 二一〇、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇<br>五・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 二一〇、二〇〇、〇〇六・〇〇〇 | 五五、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二八、一三一、九八四・二五〇 | 八三、六三一、九八四・二五〇 | 二、三三〇、三二七・九〇〇 | 一八、八五〇、八〇一・〇七〇 | 二、〇九五、六六五・三〇〇 | 二六、三四〇・二〇〇 | 二三、三九三、〇三五・四七〇 | 四〇五、一五八、九八九・〇二〇 | 七、九二五、五五八・三四〇 |

| 内、純輸出現在高 | 七、七六七、四七五・三四〇円 | 円 ― | 円 ― | 円 ― | 円 ― | 円 ― |
|---|---|---|---|---|---|---|

（備考）一、本表には舊銅貨（貳厘・文久・壹厘）を包含せず、其の推定現在高大正十五年末に於て八三五、六八三圓四一八なり。
二、大正七年改正の銀貨は五十錢銀貨一五、五九〇、〇〇〇圓の中五圓、十錢銀貨六、二〇五、〇〇〇圓の中一圓を存し其他は悉皆鑄潰されたり。

## 第七表　金銀地金受入高年度別累年表

| 年度 | 金（純量） 貨幣製造 | 金（純量） 精製及品位證明 | 金（純量） 計 | 銀（純量） 貨幣製造 | 銀（純量） 精製及品位證明 | 銀（純量） 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貫　匁 | 貫　匁 | 貫　匁 | 貫　匁 | 貫　匁 | 貫　匁 |
| 明治三〇 | 一三、一三七・三五九・二六 | 三・二七三・三四 | 一三、一四〇・六三二・六〇 | 五七、七六七・八九一・九八 | 七、九〇七・四三三・五三 | 六五、六七五・三二五・五一 |
| 三一 | 四、八八三・八四八・八九 | 二・一六二・九三 | 四、八八六・〇一一・八二 | 八七、九四四・七四七・五三 | 八、二一五・五六〇・一一 | 九六、一六〇・三〇七・六四 |
| 三二 | 二、八七七・七八六・〇一 | 二六六・〇一 | 二、八七八・〇五二・〇二 | 三一、三八六・一〇〇・三二 | 七、六六九・三九八・三四 | 三九、〇五五・四九八・六六 |
| 三三 | 二、九〇一・四四七・六六 | 一五七・五二 | 二、九〇一・六〇五・一八 | 五、六三八・六四八・八八 | 九、九七三・〇一九・八四 | 一五、六一一・六六八・七二 |
| 三四 | 二、八八七・三二一・七三 | 五九九・五六 | 二、八八七・九二一・二九 | 六、〇五〇・八一〇・八四 | 八、一一三・〇〇八・〇八 | 一四、一六三・八一八・九二 |
| 三五 | 八、三〇八・六七八・九五 | 三・〇一三・二四 | 八、三一一・六九二・一九 | 四、六七九・四九〇・四四 | 八、八九二・一〇一・一一 | 一三、五七一・五九一・五五 |
| 三六 | 四、九三四・一〇五・七八 | 八六〇・一五 | 四、九三四・九六五・九三 | 一〇、〇八一・〇二七・八三 | 一一、〇四八・一〇六・九四 | 二一、一二九・一三四・七七 |
| 三七 | 一三、三七八・八九九・三四 | 一・四〇五・六三 | 一三、三八〇・三〇四・九七 | 二八、九〇〇・〇〇〇・〇一 | 一三、四七六・七三五・六八 | 四二、三七六・七三五・六九 |
| 三八 | 三、二八二・一四六・五二 | 六五六・八一 | 三、二八二・八〇三・三三 | 五五、八一五・一八六・二九 | 一五、五四五・四八三・三一 | 七一、三六〇・六六九・六〇 |
| 三九 | 七、一九五・四〇五・一七 | 三一・九一四・七一 | 七、二二七・三一九・八八 | 五二、五一九・八八五・七三 | 一四、三三二・二〇一・四〇 | 六六、八五二・〇八七・一三 |
| 四〇 | 一、六九九・六六三・六一 | 一七一・四三八・一七 | 一、八七一・一〇一・七八 | 六九、〇三二・六一二・〇九 | 一六、九六四・九八六・五二 | 八五、九九七・五九八・六一 |
| 四一 | 三、〇九〇・五四五・一三 | 一〇二・四二二・〇五 | 三、一九二・九六七・一八 | 六五、二三八・二九三・四二 | 一三、二三四・五九八・〇五 | 七八、四七二・八九一・四七 |
| 四二 | 一四、九八八・七〇九・七三 | 一〇二・九八一・三七 | 一五、〇九一・六九一・一〇 | 六五、一九六・七八〇・二七 | 一五、二四七・二四八・九四 | 八〇、四四四・〇二九・二一 |
| 四三 | 二、九一二・五〇二・八六 | 二〇・二六二・七七 | 二、九三二・七六五・六三 | 五八、四一五・五一九・五六 | 一八、五四三・一六七・九二 | 七六、九五八・六八七・四八 |
| 四四 | 四、二七七・一九六・三五 | ― | 四、二七七・一九六・三五 | 三四、六三三・九九八・八八 | 二三、七八一・八八五・八二 | 五八、四一五・八八四・七〇 |
| 大正元 | 五、三七四・〇六〇・一七 | 一・三三一・三三 | 五、三七五・三九一・五〇 | 一九、九三〇・六四二・九二 | 二六、五二八・九六五・五四 | 四六、四五九・六〇八・四六 |
| 二 | 三、一七七・六〇六・五〇 | 九八七・七四 | 三、一七八・五九四・二四 | 一九、八八〇・一五八・九五 | 二五、二九七・六二五・一九 | 四五、一七七・七八四・一四 |
| 三 | 五、五〇一・八二一・一四 | 一・七二一・五八 | 五、五〇三・五四二・七二 | 一三、四一六・七八一・八八 | 二八、六七八・四四八・九六 | 四二、〇九五・二三〇・八四 |
| 四 | 五、六六四・二〇一・五三 | 九二三・七一 | 五、六六五・一二五・二四 | 四、四五四・一五七・二〇 | 一九、五一五・六六六・五九 | 二三、九六九・八二三・七九 |
| 五 | 一六、九四四・九八八・五七 | 一二・〇四四・三一 | 一六、九五七・〇三二・八八 | 二八、八三九・一三六・六一 | 三〇、二〇四・五七六・四七 | 五九、〇四三・七一三・〇八 |
| 六 | 三〇、六七八・三三三・四〇 | 三六二・四三三・二〇 | 三一、〇四〇・七六六・六〇 | 三〇、七〇〇・六九三・六七 | 六三、三三七・六四〇・九〇 | 九四、〇三八・三三四・五七 |
| 七 | 二、一五〇・四七八・三八 | 八八五・一五八・五〇 | 三、〇三五・六三六・八八 | 四〇、二九二・〇六一・五三 | 六三、七三六・二七一・一三 | 一〇四、〇二八・三三二・六五 |
| 八 | 四五、七三四・〇三〇・八〇 | 八、七九〇・六七二・一八 | 五四、五二四・七〇二・九八 | 二二、二三二・六〇〇・四六 | 三八、九二七・六〇一・五三 | 六一、一六〇・二〇一・九九 |
| 九 | 五〇、七二六・一六三・三三 | 一、二三八・四一六・九四 | 五一、九六四・五八〇・二七 | ― | 一〇一、八六四・七八五・五八 | 一〇一、八六四・七八五・五八 |
| 一〇 | 一五、六五八・六七六・〇五 | 九八一・四七二・六一 | 一六、六四〇・一四八・六六 | 三六六・九九四・五三 | 五四、一五五・九五七・〇四 | 五四、五二二・九五一・五七 |
| 一一 | 一、六四三・一九四・四六 | 一、一二九・二二二・七三 | 二、七七二・四一七・一九 | 九〇、五一五・八六〇・七八 | 二〇、五九〇・九六四・五九 | 一一一、一〇六・八二五・三七 |
| 一二 | 二、三七八・六七七・三八 | 八八三・六九六・九七 | 三、二六二・三七四・三五 | 一六九、八二八・六一九・〇三 | 四五、七七九・五九七・九五 | 二一五、六〇八・二一六・九七 |
| 一三 | 七一九・六三四・〇六 | 一、四〇二・七八四・四〇 | 二、一二二・四一八・四六 | 八六、二六四・四一六・五一 | 二〇、一四〇・〇八六・三九 | 一〇六、四〇四・五〇二・九〇 |
| 一四 | 九七五・五四 | 一、三六三・九一五・五〇 | 一、三六四・八九一・〇四 | 三九、〇九四・二三五・五九 | 二三、三三一・九〇七・〇七 | 六二、四二六・一四二・六六 |
| 昭和元 | 三・〇〇九・七七 | 一、三六〇・八七五・三二 | 一、三六三・八八五・〇九 | 一九、三五三・一二七・七一 | 八、三三八・四〇一・九八 | 二七、六九一・五二九・六九 |

# 第三章　紙　幣

## 第一節　小額紙幣發行の理由

明治初年以降屢〻發行せられし政府紙幣は、明治十四五年の「改造紙幣」の發行を最後として久しく中絶し、其の發行紙幣も漸次流通市場より回收せられ、明治三十二年十二月の通用禁止、三十七年十二月末日の政府引換期限の終了と共に、殘存紙幣も全く廢紙と化せしが、大正六年に至り政府は再び紙幣を發行するに至れり。其の額面小なりし爲め之を小額紙幣と稱せしが、之れ全く當時の補助貨幣缺乏を補ふ爲め臨時的に發行せられたるものに屬す。

歐洲大戰漸く酣となるや、其の影響を受けて我國の產業は著しく振興し、經濟界は未曾有の好景氣を呈せしが、一般取引の殷盛に伴ひ、補助貨幣の需要は逐年激增し、大正六年に入りては殆んど其の極に達したるを思はせたり。當時固より補助銀貨の製造高も從て激增したりと雖も、未だ以て市場の需要を充すに足らざりしのみならず、偶〻世界的銀價の大暴騰に遭ひ、遂に我銀貨幣は續々鑄潰されて流通市場より其の姿を沒するに至りしを以て、同年末には小額取引の決濟勞銀の支拂等にも支障を來たすべく豫想せられ、爲に市中の兩替料は暴騰し、一時千圓に付二十五圓乃至三十圓を唱ふるに至れり。今當時の補助貨幣の缺乏狀況及民間の之に處する對策を例示すれば左の如し。

（一）補助貨の缺乏を最も甚だしく感じたる方面

銀行窓口、官私工場の賃銀支拂、停車場切符賣場、陸海軍の下士卒給與、一般小賣商、納稅。

（二）補助貨の蒐集方法

銀行等に於ては補助貨蒐集下受人を設け、相當の手數料を支拂ひて各方面より蒐集せしめしもの多く、各工場、商店等に於ては、補助貨蒐集の專任者を置き、神社、佛閣、理髮店、湯屋、興行者等に就き補助貨幣を蒐集せしめたり。

（三）補助貨の代用物として用ひられしもの

紙幣類似の約束證券、一定用紙に貼付せし郵便切手、收入印紙、商品切手、品預り證、煙草、マッチ、白紙、半截紙幣。

（四）代用物を用ひずして臨時假決濟を行ふ方法

（イ）工場、會社等の消費組合等に於ては釣錢を出さずして他日の品物購入に依りて決濟す。

（ロ）役場等に於ては端錢を一時立替拂す。

（ハ）商店等は掛賣主義を採用す。

（ニ）賃銀其の他の支拂の度數を減ず。

（ホ）工場、鑛山等に於て勞賃銀の端錢を强制貯金せしむ。

（ヘ）俸給、賃銀の支拂に當り、組を作り、其の組員の總額を支拂ふ。

（ト）納稅等の場合數人共同して納めしむ。

補助貨幣の缺乏斯くの如くにして、其の弊も亦漸次著しくなりしを以て、政府も之が對策を講ぜざるべからざるを認め、一方に銀貨及銀地金の輸出を禁止すると共に（大正六年九月六日大藏省令第二十六號）

他方補助貨幣の補給を圖ることとせしが、造幣局の製造能力は自ら限りあり、到底右の勢に應ずること能はざりしを以て、遂に方針を一變して、差當り小額面即ち五十錢・二十錢及十錢の政府紙幣を發行して、應急の措置と爲すこととせり。

## 第二節　小額紙幣に關する法規

### 第一款　根據法規

政府は前記の如く小額紙幣の發行を決定せしが、事甚だ急を要し、帝國議會を召集して法律案の協賛を求むるの遑なかりし爲め、憲法第八條第一項に依り緊急勅令として發布することとし、大正六年十月三十日勅令第二百二號を以て之を公布したり。卽ち小額紙幣は五十錢・二十錢及十錢の三種とし、十圓迄を限り法貨として通用せしめ、其の引換は通貨を以てし、政府は小額紙幣の發行高に對し同額の通貨を以て引換準備に充て、準備通貨は日本銀行をして保管せしめ、同行本支店に於て之が引換事務を取扱はしむること、其の他小額紙幣の形式は勅令を以て定むべく、又其の發行・銷却及損傷紙幣の引換に關する規定は主務大臣之を定むべきこと、發行期限は講和條約調印後一箇年たるべきこと等を規定したり。本緊急勅令の全文左の如し。

勅令第二百二號（大正六年十月三十日）

第一條　政府ハ補助銀貨ニ代用スル爲臨時必要ニ隨ヒ五十錢、二十錢及十錢ノ小額紙幣ヲ發行スルコトヲ得

第二條　政府ハ小額紙幣發行高ニ對シ同額ノ通貨ヲ以テ其ノ引換準備ニ充テ日本銀行ヲシテ之ヲ保管セシ



第三條　小額紙幣ハ十圓迄ヲ限リ法貨トシテ通用ス

第四條　小額紙幣ハ通貨ヲ以テ之ヲ引換フ

小額紙幣ハ日本銀行本支店ニ於テ之ヲ引換フヘシ但シ五圓ニ滿タサル端數ハ引換通貨ノ到達スヘキ時間引換ヲ延期スルコトヲ得

第五條　小額紙幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　小額紙幣ノ發行銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

小額紙幣ハ講和條約調印ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セス

本勅令は政府之を第四十回帝國議會に提出して其の承諾を得たり。而して小額紙幣の發行は本勅令附則の定むる所に依り、講和條約調印後一箇年に限られしを以て、政府は大正八年六月二十八日を以て調印の日と看做し、大正九年六月二十九日以後暫く之が增發行を停止せしが、當時の市場の情勢を見るに、當分仍ほ之が發行の必要認められしを以て、發行繼續の法律案を大正九年七月第四十三回帝國議會に提出し（同年三月第四十二回帝國議會に提案したるも、同議會は解散の爲め成立に至らず）、其の協賛を經て同月法律第六號を以て之を公布したり。尤も當時政府は十錢白銅貨の鑄造を計畫中なりしを以て、二十錢及十錢紙幣に就ては引換の爲にする以外は、大正十年四月一日以降之を發行せざることとせり。法律第六號の全文左の如し。

法律第六號（大正九年七月二十七日）

大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣ハ當分ノ內之ヲ發行スルコトヲ得但シ二十錢及十錢ノ小額紙幣ハ

損傷紙幣引換ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外大正十年四月一日以後之ヲ發行セス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第二款　發行、銷却及引換に關する取扱手續

大正六年十月三十日小額紙幣の發行に關する前記勅令の公布あるや、大藏大臣は同勅令第六條の定むる所に依り、同日省令第三十號を以て小額紙幣の發行、銷却及損傷紙幣の引換に關する件を公布したり。該規定に依れば、大藏大臣は同紙幣の發行又は銷却したる種類、枚數及金額を告示し、損傷紙幣は日本銀行本支店に於て無手數料にて引換を行はしむべく（大正七年七月以降は各地本支金庫に於ても便宜引換ふることとす）、引換ふべき小額紙幣は原則として表裏兩面を具備し、其の三分の二以上を存するものに限ることとせり。但し右引換紙幣に關する規定は、其の後大正七年六月十四日大藏省令第二十五號を以て、表裏兩面を具備し、其の三分の二以上を存するものは券面金額の全額、五分の二以上を存するものは券面金額の半額を以て引換ふることに改正せられたり。右改正を經たる省令の全文左の如し。

大藏省令第三十號（大正六年十月三十日）

第一條　大藏大臣ハ小額紙幣ノ發行及銷却ヲ爲シタルトキハ其ノ種類、枚數及金額ヲ告示スヘシ

第二條　汚損若クハ毀傷シタル小額紙幣ハ日本銀行本支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第三條　小額紙幣ニシテ表裏兩面ヲ具備シ其ノ三分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ全額五分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ半額ヲ以テ之ヲ引換フヘシ表裏ノ模樣大部分認識シ難キモ紙質色彩等ニ依リ眞正ノ小額紙幣ト認メタルモノ亦同シ

第四條　小額紙幣ノ細片ヲ合シ其ノ各片相吻合シ若クハ吻合セサルモ同一紙幣ノ紙片ナルコトヲ認メタルモノニ付テハ前條ヲ適用ス

第五條　前二條ニ該當スルモノト雖小額紙幣ノ紙質色彩ノ變化其ノ他ノ原因ニ依リ眞僞鑑定シ難キモノ及銷却ノ爲穿孔ヲ施シタル疑アルモノハ之ヲ引換ヘス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

小額紙幣の製造は內閣印刷局をして之に當らしめ、又發行、銷却及引換に關する事務は、主として日本銀行をして之を取扱はしむることとしたるを以て、之が取扱順序に關して大正六年十月三十日官房祕乙一九三五號を以て、大藏大臣より日本銀行及金庫出納役に對して令達する所ありしが、右令達の規定に就きて見るに、(イ)大藏大臣は製造すべき小額紙幣の種類及金額を必要の時々印刷局へ通知し、且之を金庫出納役へ通知し、(ロ)印刷局は其の製造出來に從ひ種類、記號、枚數及金額を大藏省へ通知し、(ハ)大藏大臣は該通知に基き印刷局に對し小額紙幣の交付方を通牒すると共に、金庫出納役に對し小額紙幣の受領及金種を指定し、同額の引換準備を日本銀行へ寄托の爲め拂出を令達するものにして、金庫出納役は右令達に基きて小額紙幣を受入れ、之を其の發行高として登記すると同時に、令達の金種に依り日本銀行へ引換準備寄托の手續を爲し、又大藏大臣は小額紙幣を銷却の爲め回收を要する場合は、其の時期を金庫出納役及日本銀行に令達し、而して小額紙幣引換の場合、大藏大臣は其の都度金庫出納役に對し、日本銀行に引換元交付方を令達すると共に、小額紙幣發行高及び引換準備寄托高の決濟を令達し、日本銀行は引換の種類、記號、枚數及金額を大藏省へ報告するものとす。然るに大

正八年六月に至るや、印刷局に於て出來したる小額紙幣にして、直に發行に立てざる分は一旦之を大藏省物品會計官吏に引渡し、同會計官吏をして保管せしむることとなりしを以て、右に關する必要の條項を改正すると共に、銷却濟紙幣の燒棄處分に關する手續中にも幾分の改正を加へ、同月十六日官房祕乙第一三五三號を以て之を令達したり。次で大正十一年四月より國庫預金制度の實施せらるるや、從來金庫出納役の管掌したる事務は、總て日本銀行に於て直接處理することとなり、且又小額紙幣の燒棄に就き從來燒棄の方法を用ひたるを溶解の方法に改めたるを以て、旁〻取扱順序を全般的に改正し、同年六月二日官房祕乙第一〇〇五號を以て之を日本銀行に令達せり。但し取扱順序の實際に於ては必ずしも前後重要なる差異あるを見ず。卽ち左の如し。

小額紙幣發行及銷却ニ關スル取扱順序（大正六年十月三十日大藏大臣達祕乙一九三五號）

一、大藏大臣ハ製造スヘキ小額紙幣ノ種類及金額ヲ必要ノ時々印刷局竝ニ日本銀行ヘ通知スヘシ

二、印刷局ハ小額紙幣製造出來ニ從ヒ其ノ種類記號枚數及金額ヲ大藏省ヘ通知スヘシ

三、大藏大臣ハ前項ノ通知ニ基キ直ニ發行ニ立テサル分ニ付テハ大藏省物品會計官吏ニ又直ニ發行スヘキ分ニ付テハ日本銀行ニ引渡方ヲ印刷局ニ通牒シ且物品會計官吏ニ於テ保管スヘキ分ニ付テハ同官吏ニ對シ受領保管方ヲ命令シ日本銀行ニ對シテハ小額紙幣ノ受領及金種ヲ指定シ同額ノ引換準備保管方ヲ令達スヘシ

四、大藏大臣ハ物品會計官吏保管ノ小額紙幣ヲ發行ノ爲メ日本銀行ヘ引渡ヲ要スルトキハ其ノ旨物品會計官吏ヘ命令シ且日本銀行ヘ令達スヘシ

五、日本銀行ハ前二項ノ令達ニ依リ小額紙幣ヲ受入レ之ヲ小額紙幣發行高トシテ登記シ同時ニ令達ノ金種ニ依リ引換準備保管ノ手續ヲ爲スヘシ

六、日本銀行ハ各地代理店ニ對シ損傷小額紙幣ノ交換方ヲ請求スルモノアルトキハ仕拂元ニ差支ナキ限リ無手數料ニテ之カ請求ニ應スヘシ

七、大藏大臣ハ大正六年大藏省令第三十號第二條ニ依ル損傷小額紙幣ノ引換ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ日本銀行ヘ引換元交付ノ手續ヲ爲スヘシ

八、日本銀行ハ前項ニ依リ交付ヲ受ケタル引換元ヲ以テ損傷小額紙幣ヲ引換ヘタルトキハ之ヲ以テ引換元決濟ノ手續ヲ爲スヘシ

九、日本銀行ハ引換ニ依リ又ハ收入金トシテ受入レタル損傷小額紙幣ノ種類枚數及金額ヲ大藏省ヘ報告スヘシ

一〇、大藏大臣ハ前項ノ報告ニ依リ損傷小額紙幣ノ銷却ヲナサムトスルトキハ小額紙幣發行高及引換準備寄托高ノ決濟竝ニ銷却小額紙幣ヲ燒棄又ハ溶解ノ爲メ引渡方等ヲ日本銀行ニ令達スヘシ但シ損傷小額紙幣ノ銷却ト同時ニ同額ノ代リ小額紙幣ヲ發行スル場合ハ引換準備寄托金ノ受拂整理ヲ省略スルコトヲ得

一一、日本銀行ハ前項ノ令達ニ依リ小額紙幣發行高及引換準備保管高決濟ノ手續ヲ爲スヘシ

一二、日本銀行ハ銷却小額紙幣ノ引渡ヲ受ケタルトキハ直徑八分ノ圓鑿ヲ以テ要部二ケ所ヲ穿孔スヘシ但シ燒棄又ハ溶解スル場合ハ穿孔ヲ省略スルコトヲ得

一三、日本銀行ハ大藏省官吏立會ノ上穿孔小額紙幣ヲ燒棄又ハ溶解スヘシ、燒棄又ハ溶解濟ノ上ハ其種類枚數及金額及處分方法ヲ大藏省ヘ報告スヘシ

一四、大藏大臣ハ小額紙幣ノ回收ヲ要スルトキハ其ノ時期ヲ日本銀行ニ令達スヘシ

前項ノ場合ニ於ケル引換元（通貨）ノ交付回收小額紙幣ノ銷却及燒棄又ハ溶解等ノ處理方ニ付テハ損傷小額紙幣ノ例ニ準シ取扱フヘシ

日本銀行に於ては此等大藏大臣の令達に基づき、更に同行內部に於ける處務規程を設けて之が取扱に當りしが、右に就ては玆には省略す。

## 第三款　小額紙幣の形式

小額紙幣の形式は別に勅令を以て之を定むるものとせしを以て、政府は前記發行に關する緊急勅令と相竝んで、勅令第二百三號を以て左の如く制定公布したり。

勅令第二百三號（大正六年十月三十日）

大正六年勅令第二百二號第五條ノ規定ニ依リ小額紙幣ノ形式左ノ通定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

小額紙幣五十錢

寸法　竪二寸一分五厘　横三寸四分

用紙　線條　凹漉

表　面

文字及上模様　黒

地　紋　紅　色

印章及記號　赤　色

（圖案省略）

裏　面

模　様　紅　色

（圖案省略）

小額紙幣二十錢

寸法　竪一寸九分四厘　横三寸零分四厘

用紙　線條　凹漉

表　面

文字及上模様　黒

地　紋　綠　色

印章及記號　赤　色

（圖案省略）

裏　面

模　様　綠　色

（圖案省略）

小額紙幣十錢

寸法　竪一寸八分　横二寸八分六厘

用紙　線條　凹漉

表　面

文字及上模様　黒

地　紋　橙黄色

印章及記號　赤　色

（圖案省略）

裏　面

模　様　橙黄色

（圖案省略）

## 第三節　小額紙幣の發行

### 第一款　發行額

大正六年十月小額紙幣發行に關する緊急勅令の公布あるや、政府は同年十一月八日より五十錢及二十錢紙幣を、次いで十二月六日より十錢紙幣を夫々發行し、同年末には此等三種の紙幣合計一千九百萬圓の發行を見たるが、爾後漸次增加して翌七年六月末には五千三百萬圓に達したり。其の後に於ても發行高は益〻增加し、八年五月には正に一億一千萬圓に上りしが、當時大藏省に於ては、之れ以上

需要の膨脹することは大體無かるべしとの見解を懷き、其の發行最高限度を一億二千萬圓に內定し之を日本銀行に通牒すると共に、他方銀貨の鑄造を急ぎて、大正十二年迄に小額紙幣全部の回收を完了するの計畫を立てたり。然れども其の後に於ても補助貨幣の需要は依然として增加の勢を續けしのみならず、政府の新銀貨製造發行計畫も齟齬したるため、小額紙幣の發行限度額は後揭の如く屢次改定增額せられ、九年六月には損傷紙幣銷却高を差引きて、尙ほ一億八千萬圓を超ゆるの發行額を示せり。而して本紙幣は元來講和條約調印の日より一箇年を經過したる後は、之を發行せざるの豫定なりしが、右の事情に依り當分其の發行を繼續せざるべからざるを認め、既記の如く同年七月法律第六號を公布して、發行を繼續することとしたり（但し二十錢及十錢の兩紙幣は損傷引換の爲の發行に止む）。斯くして爾後發行高は仍ほ連月增加したるも、十一年二月に於ける二億一千八百萬圓を最高として、以後漸く減少の勢を示したり。蓋し政府は同年八月新補助銀貨の增鑄發行、小額紙幣の整理回收に關する聲明書を發表し、爾後一層之が回收を圖りしに依るものなり。今大正八年五月以降大藏省の決定したる小額紙幣發行最高限度の變遷を表示すれば左の如し。

| 年月日 | 大藏次官通牒番號 | 改定限度 |
|---|---|---|
| 大正八年五月一日 | 官房祕乙第一〇〇三號 | 一二〇、〇〇〇、〇〇〇圓 |
| 八、一〇、一一 | 同　第二二五五號 | 一四〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 八、一二、八 | 同　第二六五〇號 | 一五〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 九、一、三一 | 同　第二三〇號 | 一六〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 大正九年四月六日 | 官房祕乙第八〇二號 | 一八〇、〇〇〇、〇〇〇圓 |
| 九、六、二二 | 同　第一三六五號 | 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一〇、一、一四 | 同　第五四號 | 二一五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一〇、八、一六 | 國祕　第二八八號 | 二二五、〇〇〇、〇〇〇 |

次に每年の發行高累計を表示すれば左の如し。



| 年次 | 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 大正六年 | 一七、一〇〇、〇〇〇圓 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇圓 | 七二五、〇〇〇圓 | 一九、八二五、〇〇〇圓 |
| 七年 | 五一、〇四〇、〇〇〇 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一二、三四五、〇〇〇 | 七一、三八五、〇〇〇 |
| 八年 | 五四、六九五、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一三、六六五、〇〇〇 | 六九、三六〇、〇〇〇 |
| 九年 | 六三、八三〇、〇〇〇 | — | 一六、五六〇、〇〇〇 | 八〇、三九〇、〇〇〇 |
| 十年 | 七四、八〇〇、〇〇〇 | — | 一九、三四〇、〇〇〇 | 九四、一四〇、〇〇〇 |
| 十一年 | 五八、五〇〇、〇〇〇 | — | 五、九〇〇、〇〇〇 | 六四、四〇〇、〇〇〇 |
| 十二年 | — | — | 五、〇〇〇、〇〇〇 | 五、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 三一九、九六五、〇〇〇 | 一一、〇〇〇、〇〇〇 | 七三、五三五、〇〇〇 | 四〇四、五〇〇、〇〇〇 |

小額紙幣の發行には、新規發行と損傷紙幣の引換發行との二種あり、而して損傷券の引換は當初日本銀行本支店のみに於て取扱ふこととしたりしが、補助貨幣缺乏の際なりしを以て流通度數の頻繁なるに反し、其の紙質精良ならざりし爲め、損傷紙幣の發生日に增加するに至りしを以て、大正七年七月以降は本支金庫に於ても之が引換事務を取扱ふこととなれり。

思ふに、小額紙幣の發行は補助貨幣大需要の時に際し、機宜に適したる方策たりしを失はず、當時補助貨幣に對する兩替料二・五乃至三パーセントに上りしもの、一度本紙幣發行のこと發表せらるるや兩替料次第に低下し、其の廣く流布するに及び、遂に之を貪る者影を沒するに至れり。然れども他方其の普及と共に、小額紙幣を僞造する者漸く多く、大正八年一月以降門司・廣島・京都・金澤・大阪・東京・小樽其の他の地に於て、屢〻發見せらるるものありしが、何れも五十錢紙幣にして、中には技術頗る精巧を極めし、眞贋の識別困難なるものをすら存したり。

## 第二款　引換準備

小額紙幣の發行に對する引換準備に就ては、既掲の如く同額の通貨を以て之に充て、日本銀行をして之を保管せしむることとせしが、通貨の種類に就ては政府は廣義に之を解して、兌換銀行券・金貨幣・補助貨幣に止まらず、外國貨幣・金銀塊・貨幣拂渡證書をも之に充當し得るものとし、更に戰時中政府保有在外正貨の潤澤なるに當り、一時の便宜として之をも亦小額紙幣の引換準備に充當したり。即ち大正六年十二月二十二日大藏大臣は英國駐在財務官に電報を發し、政府寄託金の內より英貨又は佛貨を小額紙幣發行高に對する引換準備に充當することあるべく、此の寄託金は之を普通の政府寄託金と區分整理し、且つ保管の爲め之を定期預金として預入し得ることとすべきに付き、現在の運用預ケ先銀行を右小額紙幣準備寄託金の保管の場合に限り寄託金預ケ先銀行に追加すること、從て同月二十四日の實行を以て運用定期預金百萬磅を預入の儘一旦政府寄託金に戻入し、更に小額紙幣引換準備に充當の必要あるに付き、右資金の準備に就ても配意あるべきことを命じ、又同日米國駐在財務官に對しても略同樣の訓電を發せり。即ち左の如し。

大正六年十二月二十二日大藏大臣より英國駐在財務官宛電報

政府寄託金ノ內ヨリ英貨又ハ佛貨ヲ小額紙幣發行高ニ對スル引換準備ニ充當スルコトアルベク、此寄託金ハ之ヲ普通ノ政府寄託金ト區分整理シ、且ツ保管ノ爲メ之ヲ定期預金トシテ預入シ得ルコトトスベキニ付現在ノ運用金預ケ先銀行ヲ右小額紙幣準備寄託金ノ保管ノ場合ニ限リ寄託金預ケ先銀行ニ追加ス。就テハ本月二十四日ノ實行ヲ以テ左記運用定期預金百萬磅ヲ預入ノ儘一旦政府寄託金ニ戻入シ、更ニ小額紙幣引換準備ニ充當方取計フ可ク、尙ホ今後毎月百萬磅內外準備充當ノ必要アルニ付キ、右資金ノ準備ニ就テモ配意アルベキコトヲ命ジ、又同日米國駐在財務官ニ對シテモ略同樣ノ訓電ヲ發セリ。

大正六年十二月二十二日大藏大臣より米國駐在財務官宛電報

政府寄託金ノ內ヨリ米貨ヲ小額紙幣發行高ニ對スル引換準備ニ充當スルコトアルベク、此寄託金ハ之ヲ普通ノ政府寄託金ト區分整理シ、且ツ本文預入金ニ對スル預金通帳、小切手帳及預金證書等ハ監理官ノ封印ヲ受ケ之ヲ代理店ニ保管セシメラレ度、尙今後毎月百萬磅位ヅヽ、準備充當ノ必要有之ニ付資金準備方御配意相成度。

大正六年十二月二十二日大藏大臣より米國駐在財務官宛電報

政府寄託金ノ內ヨリ米貨ヲ小額紙幣發行高ニ對スル引換準備ニ充當スルコトアルベク、此寄託金ハ之ヲ普通ノ政府寄託金ト區分整理シ、且ツ本文預入金ニ對スル預金通帳、小切手帳及預金證書等ハ監理官ノ封印ヲ受ケ之ヲ代理店ニ保管セシメラレ度、尙豫メ御承知置相成度。

斯くの如く政府は戰時中の便宜上在外正貨を小額紙幣の引換準備に充當し、一時引換準備の大部分は在外正貨のみに賴るの情態なりしが、此の在外正貨の引換準備に就ては世上に異論多く、殊に當時の物價騰貴を通貨收縮の方法に依り抑制せんとするの見地より之を論難するの聲あり、政府も遂に大正十一年九月に至り、物價調節上の一方策として、此の充當を中止するの方針を採り、同月二十九日現在在外正貨充當高六千四百萬圓を全部引換準備より除却したる旨を發表したり。

今小額紙幣引換準備の內譯を表示すれば左の如し。

| 年末 | 銀行券 | 補助貨 | 米國金貨 | 金塊 | 金貨 | 英倫敦保管貨 | 佛倫敦保管貨 | 紐育保管米貨 | 銀塊 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 大正六 | 一〇、三三七、六八三 | | | | | 九、五九七、三二六 | | | | 一九、八三五、〇〇〇 |
| 七 | 一三、七六八、九四四 | 三 | | | | 二六、四七六、九七三 | 三、四二〇、一八七 | 四七、五四五、九二 | 九二、二一〇、〇〇〇 | |
| 八 | 一九、〇八〇、五九 | 二、五六八、〇七六 | | | | 二六、四七六、九七三 | 三、四二〇、一八七 | 九八、三三二、七九 | 一四五、八〇〇、〇〇〇 | |
| 九 | 二、五六八、〇七六 | 三、〇〇九、〇〇〇 | | | | 二三、九六二、五〇〇 | 一、四二五、〇〇〇 | 五五、七八〇、二一〇 | 三四、四七、三九二 | |
| 一〇 | 二〇、八三、四二〇 | 三、〇〇九、〇〇〇 | 八三、二三、六六 | | | 一七、九五二、五〇〇 | 一、四二五、〇〇〇 | 三四、四七、三九二 | 三二六、八〇〇、〇〇〇 | |

| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正一一 | | 一九、三五、 | 三、〇〇九、〇〇〇 | 八三、一三、六六 | 六四、六五、六二〇 | |
| 一二 | | | 三、〇〇九、〇〇〇 | 三一、三六〇 | 四三、五〇〇、〇〇〇 | |
| 一三 | | | | 二五、八七、〇〇〇 | | |
| 一四 | | | | 一七、五〇〇、〇〇〇 | | |
| 昭和元 | | | | | | |
| | | 一四、四九二、六六八 | | | | |

（備　考）以上各種の外貨幣拂渡證書を引換準備に充當したることあり。例へば大正十年六月末の同證書充當額は二八、三二二、六一三圓なり。

## 第四節　小額紙幣の回收整理

抑も小額紙幣の發行たる、元來補助貨幣の拂底に對應する爲の機宜の處置にして、能ふ限り速かに回收すべきは固より當然のことゝす。而して既述の如く政府は大正八年五月其の發行限度を大體一億二千萬圓と爲したりしを以て、日本銀行は當時該金額を基礎として、大正十二年度迄に全部之を銷却するの計畫を定め、其の旨各支店長に通牒したり。試に當時同行國庫局に於て調査したる小額紙幣の分布狀態を見るに、同紙幣の發行額は大正六七年度に於て一億五百萬圓にして、八年度以降の新規發行一千五百萬圓、竝に損傷券引換發行高一億二千萬圓を加ふるときは、其の總額二億四千萬圓に上り、既發行額の割合に依り券面別に之を計算するときは五十錢一億八千萬圓、二十錢二千三百萬圓、十錢三千七百萬圓なりとす。而して大正八年三月末迄の分布狀態は名古屋本金庫以東（北海道を含む）五千六百萬圓、京都本金庫以西（臺灣・朝鮮を含む）四千九百萬圓なりしを以て、此の割合に依り同年五月の總發行高二億四千萬圓を按分するときは、京都以西の分一億一千萬圓、名古屋以東の分一億三千萬圓に達したるものといふべし。

斯くの如く小額紙幣は發行後各地に分布流布したるが、新銀貨の製造發行遲延の爲め本紙幣に對する需要は容易に減退せず、其の發行限度の如きも却て擴張せざるを得ざる有樣なりしが、政府に於ては能ふ限り常に之が收縮の方針を採り、過度の發行を抑制することに努めたり。就中大正十一年六月成立したる加藤（友）內閣は一段と其の方針を進め、同年八月十六日小額紙幣の整理に關する聲明書を發表して曰く、

> 戰時補助銀貨に代用する爲臨時の必要に從ひ發行したる小額紙幣は、連年其流通高を增加し、本年二月末には貳億千八百萬圓の巨額に達したり。
>
> 爾來前內閣の下に於ても既に之が收縮の方針を採りたる爲め、三月末には貳億五百萬圓に降りたりしが、現內閣成立以來成る可く急速に之が收縮を計るの方針を確立し、七月に於て五百萬圓を回收し、同月末發行高を壹億九千八百萬圓に降下せしめたり。
>
> 想ふに小額紙幣は戰時の變態として發行したるものなるの趣旨に顧み、成る可く速に回收するの要あるのみならず、其準備携帶に便なる爲め自ら硬貨よりも多額に需要せらるる傾向を有し、又其流通の實績を徵するに、硬貨に比し汚損の度甚しく、汚損紙幣は價値觀念上成る可く速に之を手離さんとするは自然の人情なるを以て、不知不識の間に濫費を助長し、物價殊に小賣相場騰貴の一原因を爲しつゝあるものと認むるを以て政府は造幣局の鑄造能力を極度迄活用し、右小額紙幣發行殘高を回收するに必要なる補助貨を本年度及明年度に於て鑄造し、以て此兩年度に於て小額紙幣の整理を完成することに決定したり。
>
> 此の計畫に依れば本年末に於ける小額紙幣の回收豫定は約八千萬圓にして殘餘の壹億貳千五百萬圓は明年度に於て之が回收を計る豫定なり、而して本年度は既に七百萬圓の回收濟なるを以て、今後回收すべき額は約七千參百萬圓なり。明年度に於ては每月平均約千萬圓內外の回收を行ふべき次第なりとす。

而して小額紙幣引上の具體的方法としては、先づ十錢紙幣請求の向に對しては十錢白銅貨を振向け、順次十錢紙幣を回收する方針なりしが、大正十一年十月一日より新鑄五十錢銀貨を弘布することとなりしを以て、爾後は極力之と引換に五十錢小額紙幣の引上を行ふことに決し、同年中に於て約三千七百萬圓の引揚を爲すの計畫を立てたり。日本銀行に於ても右政府の方針に基き、極力之が回收に努め、支店代理店は固より、一般取引銀行と夫々必要なる打合を行ひ、以て其の回收を實行することとしたり。次で大正十二年一月二十七日大藏大臣は官房祕乙第五七號を以て、十錢及二十錢紙幣に就き速に回收方取計ふべき旨を令達し、日本銀行國庫局長亦右令達の趣旨に基き支店代理店等に對し之が回收方に關する通牒を發したり。

斯くして小額紙幣回收整理の業は大いに進捗し、昭和元年末迄の銷却高（引換分をも含む）三億九千萬餘圓に達し、同年末の未銷却高は一千四百五十萬圓弱となれり。今發行以來大正末年迄の回收銷却高及小額紙幣の殘存高（流通高）を各年別に表示すれば左の如し。

### （一）小額紙幣回收銷却高表

| 年次 | 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 大正六 | | | | |
| 七 | | | | |
| 八 | | 一一、一二〇、〇〇〇 | | |
| 九 | | 一九、二八五、〇〇〇 | | |
| 一〇 | | 六二、九四五、〇〇〇 | | |
| 一一 | | 九七、九七九、〇〇〇 | | |
| 一二 | | 二、〇〇〇、〇〇〇 | | |
| 一三 | | 二、六六五、〇〇〇 | | |
| 一四 | | 三、二〇〇、〇〇〇 | | |
| 昭和元 | | 一、三九四、〇〇〇 | | |
| 合計 | | 二、一五〇、〇〇〇 | | 一五、二七〇、〇〇〇 |
| | | 三、七四〇、〇〇〇 | | 二五、六九〇、〇〇〇 |
| | | 一一、四九五、〇〇〇 | | 七七、六四〇、〇〇〇 |
| | | 二二、九五〇、〇〇〇 | | 一二二、三三〇、〇〇〇 |

### （二）小額紙幣流通高表

| 年末 | 五十錢 | 二十錢 | 十錢 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 大正六 | 一七、一〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 七二五、〇〇〇 | 一九、八二五、〇〇〇 |
| 七 | 六八、一四〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 | 一三、〇七〇、〇〇〇 | 九一、二一〇、〇〇〇 |
| 八 | 一一一、七一五、〇〇〇 | 九、〇〇〇、〇〇〇 | 二四、五八五、〇〇〇 | 一四五、三〇〇、〇〇〇 |
| 九 | 一五六、二六〇、〇〇〇 | 六、三三五、〇〇〇 | 三七、四〇五、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一〇 | 一六八、一一五、〇〇〇 | 三、一三五、〇〇〇 | 四五、二五〇、〇〇〇 | 二一六、五〇〇、〇〇〇 |
| 一一 | 一二八、六三六、〇〇〇 | 一、七四一、〇〇〇 | 二八、二〇〇、〇〇〇 | 一五八、五七七、〇〇〇 |
| 一二 | 五四、六七一、〇〇〇 | 一、四三七、〇〇〇 | 一一、八九二、〇〇〇 | 六八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一三 | 一八、二七六、五〇〇 | 一、二七二、七〇〇 | 六、三三七、八〇〇 | 二五、八八七、〇〇〇 |
| 一四 | 一〇、七五三、八〇〇 | 一、二九、八〇〇 | 五、五一六、四〇〇 | 一七、五〇〇、〇〇〇 |
| 昭和元 | 八、一七八、八〇〇 | 一、一九六、二〇〇 | 五、一一七、五〇〇 | 一四、四九二、六〇〇 |

（備　考）本表は千圓以下（或は百圓以下）を切捨てしものにして、昭和元年末の流通高（未銷却高）は、發行總額四〇四、五〇〇、〇〇〇圓より銷却總額三九〇、〇〇七、三二〇圓を差引きたる一四、四九二、六八〇圓なり。

尙ほ小額紙幣銷却の一異例あり。右は卽ち日本銀行三島代理店より本店への廻送中損傷小額紙

幣一萬三千圓が、大正十二年九月一日の大震災に因り全部燒失せしに對して採りしものに屬す。該紙幣は既に國庫金として日本銀行へ預入せられしものなれども、政府預金受拂手續の規定に依り別口預金勘定に屬し、性質上一種の保管金なるを以て、不可抗力に原づく滅失に對しては辨償せしむること能はざるものと解釋し、單に小額紙幣發行高銷却として別口預金勘定上の整理を爲し、同時に右に對する引換準備の解除を行ひ、且つ日本銀行及會計檢査院へ此の旨通知したり。

次に製造濟小額紙幣にして未發行のものに就ては、大正十一年十一月左の如く未發行小額紙幣出納手續を日本銀行に令達して、同行をして之が保管に當らしめしが、既に新補助貨幣の供給潤澤となり、今後再發行の必要を見るの憂なく、且つ紙幣の紙質及印刷共に流通に適當ならざる缺點も存するを以て、日本銀行は昭和五年七月大藏省に其の處分方を上申し、其の承認を經て翌六年二月全部之を燒棄したり。

未發行小額紙幣出納手續（大正十一年十一月二十一日　國秘第三九九號大藏省理財局長通牒）

第一條　小額紙幣發行及銷却ニ關スル取扱順序ニ依ル物品會計官吏（以下單ニ物品會計官吏ト稱ス）ハ本手續ニ依リ未發行小額紙幣ノ出納ヲ取扱フヘシ

第二條　物品會計官吏ハ大藏大臣ヨリ種類、記號、枚數及價格ヲ指定シ未發行小額紙幣ノ受領保管方ノ命令ヲ受ケタルトキハ適宜ノ領收證書ヲ交付シテ之ヲ印刷局ヨリ受領スヘシ

第三條　物品會計官吏ハ前條ニ依リ受領シタル小額紙幣ヲ保護預ケノ爲即時日本銀行ニ引渡シ同行ヨリ提出スル保管證書ヲ以テ保管ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　物品會計官吏ハ大藏大臣ヨリ種類、記號、枚數及價格ヲ指定シ其ノ保管ニ係ル未發行小額紙幣ヲ發行ノ爲日本銀行ヘ引渡方ノ命令ヲ受ケタルトキハ適宜ノ領收證書ヲ交付シテ日本銀行保護預ケノ內ヨリ之

（一）五拾錢紙幣　（縱二寸一分五厘　橫三寸四分）

表（色　紅）

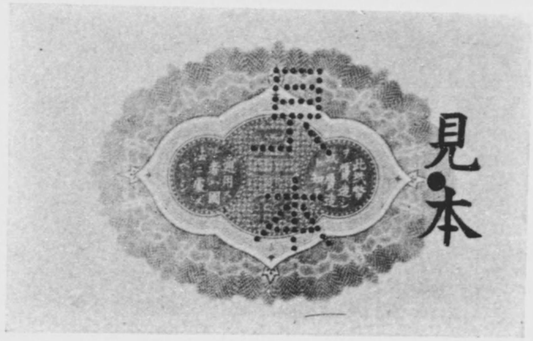
（二）貳拾錢紙幣　（縱一寸九分四厘　橫三寸〇四分四厘）

表（色　綠）

（三）拾錢紙幣　（縱一寸八分六厘　橫二寸八分）

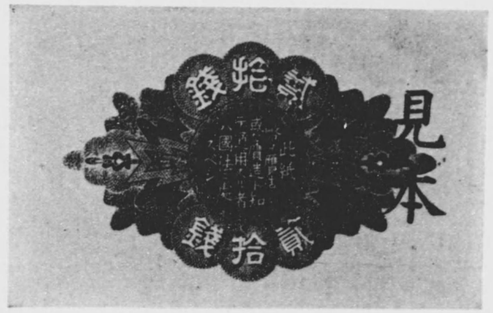
表（色　黃橙）

（一）五拾錢紙幣



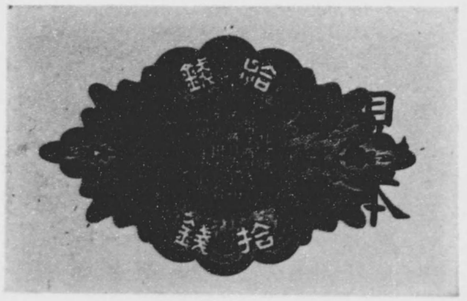

裏（紅色）

（二）貳拾錢紙幣




裏（綠色）

（三）拾錢紙幣




裏（橙黃色）

カ拂戻ヲ受ケ更ニ發行ノ爲領收證書ヲ徵シテ之ヲ日本銀行ヘ交付スヘシ

第五條　物品會計官吏ハ別紙樣式ノ未發行小額紙幣出納簿ヲ設ケ未發行小額紙幣ノ出納ヲ登記スヘシ但整理上必要ノ補助簿ハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

第六條　物品會計官吏ハ物品會計規則ノ規定ニ依リ未發行小額紙幣出納計算書ヲ調製シ會計檢査院ニ提出ノ手續ヲ爲スヘシ

（註）右條文中保護預けは所謂保護預の意味にあらずして單に未發行小額紙幣なる故に特別保管を爲さしむる意味なり。

# 第四章　日本銀行券

## 第一節　兌換銀行券條例

### 第一款　兌換銀行券條例の制定

凡そ近代國家に於ては、財政金融の中樞機關として一大中央銀行を設立し、之に對して一定の兌換準備の下に紙幣を發行するの權利を附與するを通例とす。卽ち我國に於ても明治十五年六月布告第三十二號を以て日本銀行條例を制定し、其の第十四條を以て同行に兌換銀行券發行の權能を與へ以て既發行の政府紙幣及國立銀行紙幣を漸次的に銷却し、將來我國に流通する紙幣は獨り日本銀行券のみと爲すの方針を採れり。然れども同行開業の當時は、紙幣の下落尙ほ甚しく、兌換銀行券を發行せしむるも、其の流通の見込乏しかりしを以て、政府は直ちに之が發行を許さず、第十四條の但書を以て、其の發行に就ては別に制規を設くることとしたり。然るに其の後政府の紙幣整理事業漸次進捗し、紙幣價格の恢復を見、物價の下落、輸出超過に伴ふ正貨の流入、金利の低落、公債市價の高騰等、漸次兌換銀行券の發行に適良なる情態を齎せしを以て、松方大藏卿は明治十六年十月十九日兌換銀行券條例草案を作成し、日本銀行をして兌換銀行券を發行せしむるの件を太政大臣三條實美に建議したり。其の建議及兌換銀行券發行趣旨の說明の全文左の如し。

兌換銀行券ノ儀ハ曩ニ日本銀行條例第十四條ニ依リ之ガ發行ノ權ヲ同銀行ニ付與セラルト雖モ之レヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ御頒布可成儀ニ有之候處同銀行創立以後拮据經營頗ル進步ノ效ヲ奏シ、今日ニ至テハ百事緒ニ就キ將來ノ目的略ボ相立候ニ付銀行券發行ノ儀モ其時期已ニ熟シテ、今日ニ於テ漸次之ヲ擧行セシメ候ハヾ同銀行資力ノ培殖タルベキハ勿論他日政府紙幣ノ處分上ニ於テモ其裨益尠カラザル儀ト存候。抑モ財政上事ヲ擧グルニハ必ズ漸ヲ以テシ、成ル可ク一時急卒ノ變動ヲ來サヾル樣注意スベキハ專要ノ儀ニ有之、該發行ノ如キモ他日ニ至リ一時ニ施行致シ候テハ却テ不都合可有之ト存候間、先ヅ今日ヨリシテ公然之ガ發行ヲ許可セラレ漸次擴張ノ方法相立候樣致度、尤モ右發行高ノ儀ハ歐洲諸國特權銀行ノ例ニ從ヒ準備金ニ對シ三倍迄ヲ發行セシメ可然儀ト存候ヘ共、目下紙幣ノ價額未ダ全ク其故ニ復セズ何分共儀ニ難相運事情有之候間、當分ノ內同額ノ準備金ヲ置カシメ勉メテ理財上ノ轉移極メテ穩滑ナル而已ナラズ、事務取扱上ニ於テモ亦漸次慣熟ノ便ヲ得可申ト存候。依テ兌換銀行券條例草案別冊ノ通取調上呈候條、至急御裁定御施行相成候樣致度、此段申上候也。

追テ該條例發行ノ趣旨說明ノ爲メ別冊說明書相添へ上呈候也。

明治十六年十月十九日

太政大臣　三　條　實　美　殿

大藏卿　松　方　正　義

（別冊）

兌換銀行券條例草案

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スル者ヲ云フ

第二條　此銀行券ハ引換準備トシテ金銀貨ヲ置キ之ニ對シ三倍迄ヲ發行スルヲ許ス

但其發行額ト準備金トノ割合ハ右制限以內ニ於テ當分ノ內大藏卿ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第三條　此銀行券ノ種類ハ壹圓、五圓、拾圓、貳拾圓、五拾圓、百圓、貳百圓、百圓ノ七種トス

但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條　此銀行券ハ海關稅ヲ除クノ外政府ノ出納其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條　此銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリテ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々大藏卿ニ上申スヘシ

但大藏卿ハ其發行期日前豫メ其雛形ヲ各府縣ニ頒布スルモノトス

第六條　此銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ直チニ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第七條　金銀貨ヲ持參シテ銀行券ニ引換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　大藏卿ハ大藏省ノ都合ニヨリ日本銀行ヲシテ政府發行ノ紙幣ヲ上納セシメ金銀貨若クハ地金銀ヲ以テ之ト引換ヘ同銀行ニ下付スルコトアルヘシ

但其紙幣ハ時々之ヲ銷却スルモノトス

第九條　日本銀行ハ銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作リ之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第十條　大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條　此銀行券ノ汚染毀損等ニ依リ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ新銀行券ト引換フヘシ

第十二條　此銀行券ノ製造損券引換及ヒ消印等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定メテ日本銀行ニ命令スヘシ

第十三條　此銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法僞造貨幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第十四條　法律ヲ以テ特ニ許可シタル者ノ外銀行券又ハ類似ノ證券ヲ發行スルコトヲ禁ス

但明治七年第百號布告ハ此條例布告ヨリ滿一年ノ後ハ廢止タルヘシ

第十五條　政府ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ此條例ヲ改正增削スルコトヲ得

（別冊）

## 兌換銀行券發行趣旨ノ說明

夫レ財政ノ整理センコトヲ欲セバ中央銀行ナカル可カズ。幣制ノ完美ナランコトヲ欲セバ兌換銀行券ナカル可カラズ。國ニ中央銀行ナク、中央銀行ニシテ兌換銀行券ヲ發行セザレバ則チ財政理ラント欲シテ益〻紊レ幣制美ナラント欲シテ益〻壞ル。財政紊レ幣政壞ル何ヲ以テ能ク國ヲ爲サンヤ。政府此ニ見ル所アリテ曩キニ特旨ヲ以テ日本銀行ヲ設立セラル。其條例第十四條ニ曰ク、日本銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス、但シ此銀行券ヲ發行セシムルトキハ別段ノ規則ヲ制定シ、更ニ頒布スル者トスト。蓋シ當時未ダ其特權ヲ實施セシムル能ハザルノ事情アルヲ以テ、姑ラク其期熟シ時至ルヲ待チシノミ。爾來週歲拮据經營事稍〻緒ニ就キ、目途已ニ定マリ、行々將サニ事業ノ益〻擴張シ、信憑ノ益〻厚固ナルヲ見ルコトアラントス。夫ノ兌換銀行券發行ノ若キモ亦時至レリト謂フベシ。蓋シ銀行券ノ發行ナケレバ日本銀行已ニ創立スルモ其資力薄弱ニシテ大ニ事業ヲ發揮スル能ハズ、政府モ亦其中央銀行ヲ創立スルノ主旨ヲ達スル能ハザレバナリ。請フ詳カニ之ヲ論述スルコトヲ得ン。

夫レ日本銀行ハ出格ノ特典ヲ有シ、財政ノ根軸ニ當ルモノニシテ、衆銀行ニ對シテ之ヲ中央銀行ト云ヒ、其資格ヨリ之ヲ特權銀行ト云フ（洋語「バンクブ」ヲ「リヴレージ」）。蓋シ所謂特權ナル者ハ皆銀行券ヲ發行シ、其額大率ネ準備金ニ對シ三倍ヲ以テ限トス。是レ啻ニ實歷上ニ於テ定斷スル所タルノミナラズ、學問上ニ於テ亦其非ヲ議スルモノナシ。而シテ佛朗西白耳義等ノ諸國ニ在テハ、時ノ事情ニ依リ特ニ政府ノ許可ヲ受ケテ三倍以上ヲ發行スルコト往々之レアリ。夫レ政府ガ中央銀行ニ附與スルニ如斯ノ特權ヲ以テスル者ハ他ナシ畢竟其財源ヲ開發シ其資力ヲ培殖シ以テ之ヲシテ一國理財ノ重任ニ堪ヘシムル所以ノミ。我日本銀行ノ如キハ條例第十四條ヲ以テ既ニ銀行券發行ノ特權ヲ附與セラレタリト雖當時已ニ說明書中ニ詳陳セシ如ク、財政潰亂ノ餘弊ヲ受ケ實貨ト紙幣トノ差異頗ル紛亂ヲ極メ、恰モ狂瀾怒濤ヲ凌イデ未ダ津涯ヲ得ザルノ時ナリ。是レ焉ゾ遽カニ之カ特權ヲ實施セシムルコトヲ得ンヤ。今ヤ積弊ノ餘未ダ全ク洗除セズト雖モ計畫已ニ定リ事業緒ニ就キ實貨ト

紙幣トノ價格將サニ漸ク其故ニ復セントス。經濟上已ニ津涯ヲ得タリ。其猶ホ存スル所ノモノハ乃チ餘波ノミ、頽瀾ノミ。苟モ政府目下ノ針路ヲ守リ黽勉計畫敢テ之ヲ失墜スルコトナケレバ、其餘弊ヲ洗除スル蓋シ遠キニ在ラザルベシ。夫レ此ノ如クナレバ則チ日本銀行ノ特權ヲ實施セシメ銀行券ノ發行ヲ許スハ其時蓋シ至レリト謂フベシ。況ンヤ是レ亦彼ノ餘波頽瀾ヲ鎭定スルノ一助タルベキニ於テオヤ。正義乃チ內外ノ法制ニ參シ古今ノ事例ヲ考ヘ此ニ兌換銀行券條例ヲ草定シ以テ進止ヲ取ル。而シテ此條例中尤モ講究ヲ要スル者二項アリ。第二條及第八條是ナリ。請フ之ヲ左ニ分說セン。

第二條ニ此銀行券ハ準備金ニ對シ三倍迄ヲ發行スルヲ許スト云ヘルハ是レ其正格ヲ示スナリ。下文ニ其發行高ト準備金トノ割合ハ當分ノ內大藏卿ノ定ムル所ニ依ルベシト云ヘルハ是レ其變通ヲ示スナリ。蓋シ政府ニ於テ新タニ此條例ヲ制定スルヤ必ズ所謂特權銀行ノ正格ヲ揭ゲテ以テ全國ニ明示セザル可ラザルハ其體面然ルナリ。然レドモ今日銀紙ノ差猶ホ未ダ全ク除却セザルヲ以テ苟モ愼ヲ加ヘ重ヲ持スルニ非ザレバ則チ準備實貨ノ枯渴立テ而シテ待ツベキナリ。是ヲ以テ本條先ヅ其正格ヲ明示シ而シテ其發行高ト準備金トノ割合ハ政府ニ於テ時々之ヲ定ムルモノトセリ。其意蓋シ當分ノ內準備金ト同額ヲ以テ之ヲ發行セシメ他日紙幣其價格ヲ復シ銀貨其定態ヲ得ルヲ待テ始メテ其正格ヲ實施セシメントスルニ在ルナリ。

或ハ第二條ノ但書ヲ視テ三倍以外ニ出ヅルモノト誤認アランモ測ル可ラズト雖モ是レ決シテ然ラズ。蓋シ條例ニ於テ已ニ其原則ヲ定メテ三倍トナスト雖モ、今日猶ホ未ダ其原則ヲ以テス可カラザルノ事情アルコト前文ニ論ズルガ如クナルヲ以テ先ヅ同額ノ準備金ヲ置キテ謹愼以テ事ニ此ニ從ハシメザル可ラズ。是レ此但書ヲ加ヘテ以テ變通ヲ此ニ取ル所以ナリ。看者之ヲ諒セヨ。又本條ニ三倍ト云ヘルハ資本金ニ對シテ之ヲ云フト了解スル者アラン。是レ又然ラズ。蓋シ所謂三倍トハ其準備金タルベキ實貨ニ對シテ之ヲ云フモノナリ。例ヘバ資本金壹千萬圓ノ銀行ニシテ貳千萬圓ノ實貨ヲ有スレバ之レニ對シテ三倍即チ六千萬圓ノ銀行券ヲ發行スベキガ如シ。佛朗西銀行ノ資本金ハ千八百五十七年ノ增株ニヨリ一億八千二百五十萬「フラン」（參千六百五拾萬圓）ト定ム。而シテ千八百七十二年七月十五日ノ法律ニ據レバ其銀行券ノ發行高ヲ定メテ三十二億萬「フラン」（六億四千萬圓）マデト爲セリ。又白耳義國中央銀行ノ資本金ハ五千萬「フラン」（壹千萬圓）ニシテ其發行高ハ千八百七十七年上半季ノ報告ニヨルニ四億二千二百八十八萬「フラン」（八千四百五拾七萬六千圓）ニ登レリ。今之ヲ資本金ニ對スルニ佛朗西ハ十七倍餘、白耳義ハ八倍四割餘ニ當ル。是レ其資本金ニ對シテ所謂準備金ニ對スルノ一證ナリ。今日本銀行ニ於テ直チニ此割合ヲ適用スベキニ非ザレドモ會ヽ發行額ヲ論ズルニヨリ聊カ此ニ論及スルノミ。

第八條ハ紙幣銷却ニ關スル者ナリ。夫レ現今ノ不換紙幣ハ早晩之レヲ市場ニ收メ以テ兌換銀行券ノ一種ニ歸セザル可ラザルハ屢ヽ啓陳ヲ經シ所ナリ。若シ今銀貨ト紙幣ト全ク其價格ヲ平均シ日本銀行ニシテ十分其資力ヲ擴張スルヲ得タリトセバ卽チ之ヲシテ政府紙幣ヲ引換ヘシメ以テ之ヲ銷却スル自ラ其法アリ。之ヲ歐洲諸國ニ求ムルモ亦其例ナキニ非ズト雖モ奈何セン之ヲ今日ニ行フコト能ハズ。是故ニ先ヅ第八條ノ手續ニ從ヒ漸次銷却ノ方法ヲ立ツベシ。是レ又已ムヲ得ザレバナリ。夫レ國立銀行發行ノ紙幣ハ養キニ該銀行條例ノ改正ニヨリ其營業年限中ニ漸次銷却ノ目的アリ。政府發行ノ紙幣ハ每年額ヲ定メテ之ヲ銷却スルノ手續アリ。而シテ今又此銀行券ヲ發行スルニ至テハ第八條ノ手續ニヨリテ漸次之ヲ銷却スベキノミナラズ、又此發行券ニヨリテ六ニ利益ヲ見ルニ至テハ其幾分ヲ政府ニ納メシメ、是レ亦銷却ニ供スルモ可ナリ。果シテ然レバ則チ此一擧ヤ政府紙幣ヲ銷却シ銀紙平均ヲ復スルノ一助ニシテ卽チ他日紙幣引換ノ順路ヲ開クモノト謂フベキノミ。

右第二條及第八條ノ外銀行券ノ種類圖形銀貨引換損券引換其他管理ノ方法等ニ至ツテハ殊ニ說明ヲ要スルモノナキヲ以テ此ニ之ヲ省略ス。凡ソ事ヲ擧グル宜シク漸ヲ以テスベシ。善政良法アリト雖モ遽然之ヲ行ヘバ則チ天下ノ耳目ヲ駭カシ、事物ノ常步ヲ妨ゲ卒ニ其善良ノ實ヲ見ルコト能ハザルハ古今ノ常覩ナリ。銀行券ノ如キモ亦然リ。苟モ今尙ホ早シト謂ヒ他日ヲ待テ一時ニ之ヲ施行セント欲セバ是レ決シテ策ノ得タル者ニ非ズ。察セザル可ケンヤ。故ニ今日ニ於テ夙ニ目的ヲ定メ步々著實ヲ旨トシ勉メテ本條例第二條ノ精神ヲ失ハザレバ則チ進テ急躁ニ失セズ退テ遲緩ニ流レズ理財上ニ於テ他日大ニ裨益ヲ得ルモノアラント

ス。請フ明鑒ヲ垂レヨ。

廟議は大藏卿作成の原案に多少の修正を加へしも、右建議の趣旨は概ね其の容るる所となり、明治十七年五月太政官布告第十八號を以て、左の如く兌換銀行券條例の發布を見るに至れり。

布告第十八號（明治十七年五月二十六日）

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

兌換銀行券條例

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第三條　兌換銀行券ノ種類ハ壹圓、五圓、拾圓、貳拾圓、五拾圓、百圓、貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條　兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條　兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條　兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

第七條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作リ之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第九條　大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得

第十條　兌換銀行券ノ染汚毀損等ニ依リ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條　兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條　兌換銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法僞造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

（備　考）明治七年第百號布告は横濱元爲換會社發行の洋銀券に關するものなり。

右兌換銀行券條例中最も注意すべき點は第二條の規定なり。蓋し銀行券の發行に當り最も肝要とする所は準備金の種類及發行額に對する其の割合なるが、本條の規定は、其の種類を銀貨に限定したるも、又其の割合に就ては單に『相當ノ』と云ふのみにて明示することなし。元來本條項は、當初の條例草案には『此銀行ハ引換準備トシテ金銀貨ヲ置キ之ニ對シ三倍迄ヲ發行スルコトヲ許ス但其發行額ト準備金トノ割合ハ右制限以內ニ於テ當分ノ內大藏卿ノ定ムル所ニ依ルヘシ』とあり、松方の建議も亦此の趣旨に依りしものなるが、廟議確定案に於て前記の如く準備を銀貨に限定したるは、本銀行券が銀貨兌換を眼目とせるを嚴格に解せしものにして、準備金額に定率を明示せざりしは、政府は別に條例第十一條に基づきて、大藏卿が時々之を日本銀行に令達指定するの方針を採りしものなり（明治十七年七月四日令達發行手續第二條）。

次に本條例第四條に、兌換銀行券は租稅海關稅其の他一切の取引に差支なく通用するものと規定したるは、之より先明治四年七月三十日參議大隈重信、外務卿岩倉具視等英佛等五箇國公使と會合して、海關稅に充用する新舊貨幣の價位を議定せしに際し明治五年一月一日以後は、商社の金券其の他の紙幣は海關稅として受取らざることを決定し、爾來之を實行し來たりし沿革に鑑みしものにして

本條例草案に於ても『此銀行券ハ海關稅ヲ除クノ外政府ノ出納其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス』と爲せり。然れども日本銀行兌換券は確實なる兌換基礎を有し、他の不換紙幣と同一視するの要なきを以て、廟議修正案に於ては、斯かる制限を存置せざることとし、特に之を條文に明記したり。尙ほ此の日本銀行券に限り特に兌換の二字を冠したるは、當時銀行紙幣と云へる不換の銀行券ありしに際し、之と區別するを流通上必要と認めしに由るものなり。

## 第二款　兌換銀行券條例の改正

兌換銀行券條例は、制定以後大正末年迄に前後五回の改正を見たり。今改正理由及改正條項を列擧すれば左の如し。

（一）第一回改正

第一回改正は明治十八年五月に行はれしものにして、第六條に但書を附加したること之なり。卽ち兌換銀行券の引換は、規定上日本銀行の本店及支店に於て營業時間中は何時にても之に應ずべきものなるが、準備金は主として本店の藏置に係る爲め、支店に於ては卽時の引換に支障を感ずることなきに非ざるを以て、第六條の末尾に『但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得』と追加したり（明治十八年五月七日布告第九號）。

（二）第二回改正

第二回改正は明治二十一年八月に行はれ、兌換準備の條項に關して一大改革を施せしものなり。既述の如く銀行券の兌換準備は條例上相當の銀貨と爲し、差當り政府は發行額と同額の銀貨を準備せしむることとせしが、實施以來日本銀行券は日を逐うて發行高を增し、其の流通亦頗る圓滑にして我國幣制の基礎も玆に確立したるを以て、政府は日本銀行の兌換券發行に關する特權を擴張することとせり。卽ち新に採用せんとする發行方法は、所謂制限屆伸法にして、日本銀行は兌換券發行高に對して同額の金銀貨及地金銀を置き、其の引換準備に充つると共に、特に七千萬圓を限り政府發行の公債證書・大藏省證券其の他確實なる證券又は商業手形を保證として、兌換券を發行することを得、尙又市場の景況に依り流通貨幣の增發を必要とするときは、大藏大臣の認可を得て、前記と同種の有價證券を保證として更に銀行券を發行することを得べく、此の場合は一箇年五分を下らざる發行稅を納付すべきものとす。大藏大臣松方正義は本改正の理由書に於て、制限屆伸法の妙用を說きて曰く『制限屆伸法は正貨準備なきの發行高に制限を設け、且つ發行總高に對し相當の割合に從ひ一定の正貨準備を置き、市場の需要增加して萬已むを得ざる場合には、制限を超過して正貨準備なき發行を爲すを許し、其超過額に發行稅を課して以て濫發を防ぐものとす。故に未だ全く準備比例法の不便を免れずと雖も、融通閉塞の患は之を除くを得べし。而して制限外の發行高には租稅を課するにより市場平穩に歸し、金利常況に復するに至れば、增發の利なきを以て、法律自然の作用に由り發行高を制限以內に減縮すべきものなり云々』と。但し右保證準備發行額七千萬圓中二千七百萬圓は、明治二十二年一月一日以降に於ける國立銀行紙幣の銷却高を限りとして發行すべく、從て日本銀行の兌換銀行券發行高は、國立銀行紙幣の銷却せらるるに伴ひ漸次增加して、遂に其の法定の制限額に達すべきものとす。尙ほ右兌換券發行の特權を擴張すると共に、其の銀行券の一部を政府に借上げ、以て政府紙幣銷却の資に充つることとせり。卽ち先に述べたるが如く（第一章第二節第四款）、政府紙幣整理事業

は明治十四五年頃より漸次進捗し、十九年一月より銀貨兌換を開始するに及び更に其の歩を進めしが、明治二十一年五月末日に於て仍ほ五千二百十一萬五千百四十八圓餘を剩したり。此の內八百三十六萬三千七百四圓は五十錢以下の紙幣にして、將來補助銀貨と交換せらるべきも、一圓以上の紙幣四千三百七十五萬千四百四十四圓は、政府の準備金を以て回收銷却せらるべきものなり。然れども當時の政府準備金中の正貨は二千百七十五萬千四百四十四圓なりしを以て、政府は該金額を日本銀行に交付し、之を以て殘存政府紙幣の銷却に充てしむると共に、其の不足額二千二百萬圓は日本銀行の兌換券を年二分の割合を以て借入するの形式を採り、其の整理を完了せしむることとせり。斯くして兌換銀行券條例の改正は明治二十一年八月勅令第五十九號を以て左の如く公布せられたり。

勅令第五十九條（明治二十一年八月一日）

明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通改正ス

第二條　日本銀行ハ前項ノ外特ニ七千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項七千萬圓ノ內貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ增加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ一箇年利子百分ノ二ノ割合ヲ以テ政府ニ貸付ス

ヘキモノトス但明治三十一年以降ハ無利子タルヘシ

前項貸付金ノ償還年限及每年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

### (三)　第三回改正

前記の如くして日本銀行の兌換券發行は、一定限度迄保證準備の下に發行することを得るに至りしが、保證發行の制限高は必ずしも永久不動たるべきものにあらずして、一般經濟社會の發達と共に其の擴張を見るべきは當然の事理に屬す。卽ち政府は早くも明治二十三年に至りて、其の制限額を七千萬圓より八千五百萬圓に擴張し、且つ從來政府への貸上金二千二百萬圓に對して二分の利子を附すべかりしを、改めて無利子と爲すこととせり。大藏大臣松方正義は右條例改正の理由を說明して曰く、『輓近我國百般の事業の擴張する古今未だ曾て其例を見ず。曩に兌換銀行券發行條例の改正せらるるや、廟議保證準備發行の額を七千萬圓とし、內二千七百萬圓は銀行紙幣の減少に從ひ漸次に發行するものとし、政府所有の準備は之を日本銀行に引繼ぎ、以て紙幣償還に充て、其不足高は二千二百萬圓を限り、同行をして之を政府に貸付せしめ、明治三十年までは年二分の利子を附すべしと定められたり。是れ當時貿易の景況と日本銀行の收利とを斟酌し制定せられしものにして、固より其當を得たるものなりと雖、今や凡百の事業正に陽春發生の季に遭遇し、當時の計畫已に方今の勢に應ずる能はず、況や將來に於てをや。（中略）果して然らば今日の策を爲すものは少しく條例の制限を擴張し、保證準備に對し發行するを得る所の兌換銀行券の額を增加し、之を八千五百萬圓と爲すにあり。

然らば則ち方今日本銀行が保證準備を以て發行し得る所の二千二百餘萬圓（七千萬圓の金額を發行し得るは政府紙幣と銀行紙幣銷却後にあり）は增して三千七百餘萬圓となり、現在將來の需要を充すに足らん（尤も直に一千五百萬圓を增發せしむるにあらず常に十分の檢束を加へ、內外貿易上已むなきの需要額を發行せしむる積なり）。斯の如くなれば日本銀行の利益亦增加するを以て、他日二十一年七月勅令第五十九號の結果として紙幣銷却の爲め借入るべき金額に對して利子を付せざるも敢て差支なかるべし。果して然らば是れ亦他日國庫の費用を減ずるの一端にして、一方に於ては融通を資け大に內外貿易の發達を促し、一方に於ては國費を減じ、財政を裕にするを得べく、實に一舉兩全の策と云ふべし云々』。此の建議は閣議の容るる所となり、右趣旨に基き作製せられたる法律案は帝國議會の協贊を經て、明治二十三年五月法律第三十四號を以て左の如く公布せられたり。

法律第三十四號（明治二十三年五月十七日）

兌換銀行券條例第二條第二項及同項但書中七千萬圓トアルヲ八千五百萬圓ニ改ム

同條第四項ヲ左ノ通改ム

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ニ貸付スヘシ

**（四）第四回改正**

明治三十年三月貨幣法の制定あり、同年十月一日より金本位貨幣制度の施行せらるることとなるや、日本銀行券も銀貨兌換より金貨兌換に改むることとし、之に關する條項中に一二の改正を加へ、同年三月法律第十八號を以て左の如く公布し貨幣法と同じく十月一日より施行したり。

法律第十八號（明治三十年三月二十九日）

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附　則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

**（五）第五回改正**

日本銀行券の保證準備發行制限額は、前記の如く明治二十三年に七千萬圓より八千五百萬圓に增額せられしが、降て明治三十一年に至り再び之が擴張の必要を認められたり。蓋し日清戰後に於ける本邦經濟界の發達事業の勃興、版圖の擴大、人口の增加、政府歲計の膨脹、物價賃銀の昂騰、貨幣制度の改革等は、何れも通貨の需要を增加するの原因となりしものなるが、他面金融機關及信用制度も亦著しく進步發達せるを以て、玆に政府は諸般の事情を參酌し、保證準備發行額を更に三千五百萬圓增加して合計一億二千萬圓と爲すことに決し、明治三十二年第十三回帝國議會の協贊を經て、同年三月法律第五十五號を以て左の如く公布したり。

法律第五十五號（明治三十二年三月十日）

兌換銀行券條例第二條中「八千五百萬圓」トアルヲ「壹億貳千萬圓」ニ改ム

尙ほ右增加額三千五百萬圓中約二千萬圓は、歐米及支那地方に對する貿易金融資金として、年利二分を以て日本銀行より橫濱正金銀行に貸付けしめんとするものなりしが、此の保證準備制限擴張を機として、同月十三日政府は今後の日本銀行營業上取扱振に關し左の如く內命したり。

一　今回保證準備發行額參千五百萬圓ヲ增加セラレシ主意ハ政府ガ屬議會ニ於テ說明セシガ如ク專ラ內外ノ金融ヲ圓滑ニセントスルニアリ。依リテ右參千五百萬圓ノ內凡貳千萬圓ハ低利ヲ以テ歐米及支那地方ニ對スル貿易ノ金融ノ用ニ供シ特ニ支那貿易ニ對スル金融ニツキテハ正金銀行ヲ使用シ充分ナル注意ヲ爲スベク又千五百萬圓ハ之ヲ內地金融ノ用ニ供スベシ。尤モ右ノ如ク大體ノ標準ヲ示スト雖モ實際其ノ時ノ狀況ニ應ジ便宜彼此相融通シテ內外金融ノ圓滑ヲ圖リ其機宜ヲ誤ルコトナキ樣注意スベシ。

二　兌換券正貨準備ノコトハ本邦幣制ノ基礎ニ關シ國家信用上重大ノコトナルノミナラズ國家最後ノ準備金トモ謂フベキモノナルニ依リ此點ニツキテハ充分ナル注意ヲ要ス。故ニ外國爲替ヲ利用シ正貨ヲ吸收スルハ勿論特ニ支那朝鮮地方產出ノ金塊ハ必ラズ之ヲ本邦ニ吸收スルノ道ヲ講ズルハ目下ノ急務タリ。依リテ其方法ヲ立テ速ニ之ニ着手スベシ。尤モ之ニツキ多少ノ費用ヲ要スルコトアルモ其ハ日本銀行ノ本分タルベシ。

又本邦產出ノ金塊ハ代金ノ前金渡又ハ運賃ノ支辨ヲ爲ス等成ルベク採掘者ニ便宜ヲ與ヘテ之ヲ購入シ其ノ海外ヘ流出セザル樣方法ヲ立テ之ヲ實行スベシ。

三　又內地ノ金融ヲ圓滑ニスルニツキテハ高等爲替ノ途ヲ開キ又手形再割引ノ途ヲ擴張シ及支店ヲ增設スル等全國ノ金融ヲ疏通スルノ方法ヲ立テ之ヲ實行スベシ。但シ特ニ割引手形撰擇ヲ專務トスル委員ヲ設ケ正確ナル手形ヲ撰ムト同時ニ之レガ發達ヲ計ルベシ。

四　兌換券準備（卽チ正貨及保證準備）ノ出納ヲ一層明確ニシテ其ノ保管取締ヲ嚴密ニスル方法ヲ立テ之ヲ實行スベシ。

五　兌換券原紙ノ出納ヲ一層明確ニシテ其保管取締ヲ嚴密ニスルノ方法ヲ立テ之ヲ實行スベシ。

六　兌換券正貨準備ノ確實ヲ圖ル爲メ何時ニテモ正貨ニ交換シ得ベキ確實ナル外國公債又ハ今回外國ニ於テ募集スベキ我邦ノ正貨仕拂公債ヲ購入スルノ方法ヲ立ツベシ。



七　前各項ノ方法ハ至急取調ベ申出ヅベシ。

兌換銀行券條例は右の如く明治三十二年三月迄に五回の改正ありしが、爾後一回の改正をも見ずして大正年代を經過したり。今大正末年現行の條例全文を揭ぐれば左の如し。

兌換銀行券條例（明治十七年五月二十六日太政官布告第十八號）

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

日本銀行ハ前項ノ外特ニ壹億貳千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項壹億貳千萬圓ノ內貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ增加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘシ

前項貸付金ノ償還年限及每年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條　兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但（大藏卿）ハ各種ニ付テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條　兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條　兌換銀行券ハ（大藏卿）ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時時其製造高ヲ（大藏卿）

ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前(大藏卿)ヨリ告示スヘシ

第六條　兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

第七條　金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行額及ヒ交換準備ニ關スル出納日表及毎週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且毎週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

第九條　(大藏卿)ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢查スルコトヲ得

第十條　兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條　兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ(大藏卿)之ヲ定ムヘシ

第十二條　兌換銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法(僞造紙幣)ノ各本條ニ照シテ處斷ス

## 第二節　銀行券の製造及發行

### 第一款　製造及發行の手續

兌換銀行券條例第三條に於て、銀行券の種類は一圓・五圓・十圓・二十圓・五十圓・百圓・二百圓の七種とし大藏卿は其の各種に就て發行高を定むるものとし、又第五條に於て兌換銀行券は大藏卿の指定する書式・圖形に依り、日本銀行に於て之を製造し、時々其の製造額を上申すべく、但し其の見本は發行期日前大藏卿より告示すべきものとしたり。又第十一條に於て銀行券の製造・損券引換及銷却等の手續は大藏卿之を定むるものとしたるを以て、大藏卿は明治十七年七月四日之に關する手續を日本銀行に令達したり。右手續に依れば、日本銀行の兌換券發行高は差當り二百萬圓と定め、其の流通の景況に依り大藏卿は更に之が增發を許可することあるべく(第一條)、此の發行額二百萬圓に對しては、日本銀行は大藏卿の指定する割合を以て、相當の準備貨幣を備ふべく(第二條)、又紙幣を以て兌換銀行券に代へ、兌換券を以て紙幣に代へんことを請ふものあるときは、日本銀行の都合に依り相當の打歩を以て交換するものとし、此の打歩の割合は大藏卿の許可を受くべきものとしたり(第七條)。然るに此等の規定は實行上に於て不適當且つ不便の點尠からず、殊に第七條の規定は頗る妥當ならざるを以て、政府は翌十八年五月第一條及第二條を改め、第七條を削除したる新發行手續を新に日本銀行に令達すると共に、前の手續は之を返納せしめたり。新發行手續の全文左の如し。

日本銀行

昨十七年七月中兌換銀行券發行手續及命令候處今般更メテ別紙之通改定及命令候條前命令書ハ之ト引換返納致スヘシ此旨相達候事

明治十八年五月六日

大藏卿　伯爵　松方正義

(別紙)

明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例ニ據リ日本銀行ヲシテ兌換銀行券ヲ發行セシムルニ付其發行手續ヲ命令スル左ノ如シ

第一條　明治十七年五月第十八號布告兌換銀行券條例ニ據リ日本銀行ニ於テ發行スル銀行券ノ員額ハ融通ノ景況ニヨリ大藏卿時時之ヲ指定スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ準備銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ其發行高ト準備金トノ割合ハ大藏卿時時之ヲ指定スルモノトス

第三條　兌換銀行券各種ノ發行高ハ取引ノ便宜融通ノ景況ヲ量リ日本銀行ノ稟申ニ據リ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ハ此員額ニ從ヒ大藏卿指定スル所ノ書式圖形ニ因リ之ヲ製造スヘシ

第四條　兌換銀行券ノ製造ハ大藏省印刷局ニ依託シ其製造高ハ其種類員額番號記號等ノ明細書ヲ添ヘテ之ヲ大藏卿ニ上申スヘシ

第五條　兌換銀行券ハ日本銀行總裁ノ調印ヲ爲シ其記號番號等ヲ兌換銀行券元帳ニ記入シテ文書局長之ニ割印シ更ニ金庫局長ノ調印ヲ了シタル上發行スルモノトス

第六條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ換ヘ兌換銀行券ヲ以テ銀貨ニ換ヘンコトヲ請フモノアルトキハ金高ノ多寡ヲ問ハス同額無手數料ヲ以テ營業時間中何時ニテモ交換ヲ爲スモノトス但補助銀貨ヲ以テ兌換スルトキハ金高拾圓ヲ超過スルヲ得ス

第七條　日本銀行ハ兌換銀行券出納帳同交換帳ヲ設ケ日々ノ受拂ヲ明瞭ニ記入シ每日營業ノ終ニ於テ兌換銀行券出納日表ヲ作リ翌日十二時迄ニ大藏卿ニ進達スヘシ又每月末日ニ於テ兌換銀行券精算月表ヲ作リ翌月三日迄ニ大藏卿ニ進呈スヘシ

第八條　兌換銀行券汚染毀損等ノ爲メ通用シ難キモノハ無手數料ヲ以テ引換ヘ直ニ廢棄ノ鑿印ヲ爲シ其旨ヲ第五條ノ兌換銀行券元帳ニ記入ス可シ

第九條　前條ノ廢棄券ハ每半季ノ引揚高ヲ取纏メ大藏卿ノ許可ヲ受ケタル上監理官ノ立會ヲ以テ燒亡シ其調書ヲ作リテ大藏卿ニ進呈スヘシ

第十條　此命令書ニ記載スル帳簿計表ハ總テ大藏卿ノ指定スル書式ニ準據スヘシ

第十一條　此命令條款ハ大藏省ノ都合ニ由リ改正增削スルコトアルヘシ

本發行手續は其の後明治二十九年七月·三十一年九月·大正三年四月に夫々一部の改正あり、今此等を左に列擧すべし。

(一)　第一回改正(明治二十九年七月二十五日令達)

第九條　前條ノ廢棄券ハ適宜取纏メ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル上監理官ノ立會ヲ以テ之ヲ燒棄シ其調書ヲ作リテ大藏大臣ニ進呈スヘシ

(二)　第二回改正(明治三十年八月四日令達)

第五條　兌換銀行券ハ其表面ニ日本銀行兌換券ノ文字ヲ標記シ日本銀行總裁ノ調印ヲ爲シ其記號番號各其一ヲ表面ニ上下ニ記載シ且其裏面ニ文書局長發行局長金庫局長ノ調印ヲ了シタル上發行スルモノトス

(三)　第三回改正(明治三十一年九月二十八日令達)

第五條中「金庫局長」ノ四字ヲ削除ス

(四)　第四回改正(大正三年四月一日令達)

第五條中「發行局長」ノ四字ヲ削除ス

更に又大正三年一月·九年三月·十年七月·十五年一月の四次に亙り、本手續の規定に關聯して兌換券の銷却に關し日本銀行に令達せらるる所ありたり。之を列擧すれば左の如し。

(一)　大正三年一月二十一日令達

其ノ行事務簡捷ノ目的ヲ以テ從來提出ノ報告及屆書ヲ左ノ通相定ム從來ノ命令又ハ達示等ニシテ之ト牴觸スルモノハ總テ廢止シタル儀ト心得ヘシ

一、兌換銀行券燒棄認可申請ハ事前ノ屆出ニ改メ監理官ノ立會ヲ廢止ス但シ必要ト認メタル場合ハ特ニ監理官ヲシテ立會ハシムルコトアルヘシ

(二)　大正九年二月二十五日令達

其ノ行廢棄兌換銀行券燒棄後ノ調書ハ爾今提出ニ及ハス但シ豫定通リ實行セサリシ場合ニハ其旨屆出ツヘキ儀ト心得ヘシ

**(三)　大正十年七月一日令達**

本年六月二十日附文發第九三號申請其行廢棄兌換券銷却方法ニ關スル件聽置ク（銷却方法トシテ燒棄ノ外溶解方法ヲモ實行ノ件）

**(四)　大正十五年一月二十七日令達**

大正十二年九月ノ震災ニ因リ兌換銀行券元帳ニ廢棄ヲ記入スルコト不能トナリタル兌換銀行券ハ明治十八年五月六日附兌換銀行券發行手續ニ關スル命令第八條ノ規定ニ依リ燒棄スルコトヲ得

右ノ燒棄ニ付テハ大正九年二月二十五日附藏第二一〇〇號ノ命令ヲ適用セス

兌換銀行券の發行事務に關する日本銀行内部の諸規定に就ては、同行定款（大正末年現行第三十條・第八十八條乃至第九十一條）及同行内規（同上、第七十七條乃至第八十六條・第百六十七條・第百七十七條・第百九十三條・第二百八條・第二百十三條）に定むる所あり、又其の處務上に關する一般例規に就ては、當初以來屢〻改廢あり、卽ち最初日本銀行は明治十八年一月十九日大藏卿に伺の上、先づ兌換銀行券發行處務規程を定め、次で同年五月本店兌換銀行券處務順序及大阪支店兌換銀行券處分順序を設けたるが、三十二年六月限り何れも之を廢止して新に兌換銀行券取扱順序及支店出張所代理店兌換銀行券取扱順序を定め（後代理店制度の廢止せらるるに及び、明治三十五年六月新に支店出張所兌換銀行券取扱順序を制定して之に代ふ）、同年十二月更に支店出張所兌換銀行券竝準備保證保管規定を制定し、右三順序は竝び行はれて明治四十五年に至りしが、同年六月此等の諸例規を綜合統一して新に兌換銀行券事務取扱規程を制定し、七月一日より實施したり。前記定款及内規に就ては、第十一編銀行第二章日本銀行の部に之を揭ぐる所あり、又此等の諸取扱順序の改廢を一々列擧するは甚だ煩雜に亙るを以て、玆には總て省略に付し、左に大正末年現行の兌換銀行券事務取扱規程を揭ぐるに止むべし（改正―大正元年十月三十一日・二年十一月八日・四年四月二十八日・四年十月五日・五年八月十一日・五年十月二十日・五年十二月四日・六年六月十九日・六年八月二十四日・六年十一月十三日・七年九月二十日・八年六月六日・八年十二月十六日・九年四月五日・十年六月二十二日・十一年三月二十九日・十五年二月二十二日）。

兌換銀行券事務取扱規程（明治四十五年六月十三日發第二三二號達）

## 第一章　總　則

第一條　兌換銀行券ニ關スル事務ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ本規定ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　兌換銀行券ノ種別ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、舊壹圓券　明治十八年八月大藏省告示第百十九號ノ兌換銀行券
二、舊五圓券　明治十八年十二月大藏省告示第百六十六號ノ兌換銀行券
三、舊拾圓券　明治十八年一月大藏省告示第十二號ノ兌換銀行券
四、舊百圓券　明治十八年八月大藏省告示第百十九號ノ兌換銀行券
五、改造壹圓券　明治二十二年三月大藏省告示第二十七號及ヒ大正五年八月大藏省告示第百一號ノ兌換銀行券
六、改造五圓券　明治二十一年十一月大藏省告示第百四十號ノ兌換銀行券
七、改造拾圓券　明治二十三年七月大藏省告示第三十三號ノ兌換銀行券
八、改造百圓券　明治二十四年十一月大藏省告示第三十六號ノ兌換銀行券
九、甲五圓券　明治三十二年三月大藏省告示第十號ノ兌換銀行券
十、甲拾圓券　明治三十二年九月大藏省告示第五十一號ノ兌換銀行券

十一、甲百圓券　明治三十三年十二月大藏省告示第五十五號及ヒ大正六年八月大藏省告示第百三十六號ノ兌換銀行券
十二、乙五圓券　明治四十三年八月大藏省告示第百七號ノ兌換銀行券
十三、乙拾圓券　大正四年四月大藏省告示第四十四號ノ兌換銀行券
十四、丙五圓券　大正五年十二月大藏省告示第百六十三號ノ兌換銀行券
十五、甲貳拾圓券　大正六年十一月大藏省告示第百七十六號ノ兌換銀行券

## 第二章　發行元兌換銀行券

第三條　發行ノ用ニ供スル目的ヲ以テ本支店ニ保藏スル兌換銀行券ヲ發行元兌換銀行券ト稱ス
第四條　發行元兌換銀行券ヲ分チテ左ノ二種トス
一、第一發行元兌換銀行券　印刷局ヨリ受領ノ儘文書局ニ保藏スル兌換銀行券ヲ謂フ
二、第二發行元兌換銀行券　還收及ヒ引換ニ因リ受入レタル兌換銀行券ノ內ヨリ支店ニ回送シタル兌換銀行券モノ及ヒ第一發行元兌換銀行券ヲ本支店間又ハ支店相互間ニ於テ回送セントスルトキハ文書局長ハ其種別金額其他必要ノ事項ヲ具シ裁定ヲ受ケ之ヲ關係支店ニ通知スヘシ
第五條　發行元兌換銀行券ヲ本支店間又ハ支店相互間ニ於テ回送シタルトキハ其支店ヨリ文書局ニ支店ヨリ本店ニ回送シタル前項ニ依リ兌換銀行券ヲ本店ヨリ支店ニ回送シタルトキハ發送店ヨリ文書局ニ受入店ヨリ發送店及ヒ文書局ニ卽日其旨ヲ電報スヘシ
第六條　第一發行元兌換銀行券ヲ發行スルトキ又ハ之ヲ第二發行元兌換銀行券ニ組入ルルトキハ其年月日ヲ兌換銀行券記番號元帳ニ記入スヘシ
第七條　發行元兌換銀行券ノ出入ハ兌換銀行券入票（第一號甲乙書式）兌換銀行券出票（第二號甲乙書式）ヲ以テ之ヲ整理スヘシ但證憑書類アルトキハ之ヲ以テ各票ニ代用スルコトヲ得

## 第三章　發行及ヒ還收

第八條　新規ノ書式及ヒ圖案ニ依リ製造セラレタル兌換銀行券ヲ初メテ發行セントスル場合ニハ文書局長ハ其略圖ヲ添ヘ發行期日ヲ大藏大臣ニ上申スル手續ヲ爲スヘシ
第九條　兌換銀行券ヲ發行シ又ハ還收スルトキハ文書局長ハ其發行高又ハ還收高及ヒ之ニ對シ充當又ハ解除スヘキ準備若クハ保證ノ種類ヲ具シ裁定ヲ受クヘシ
第十條　支店ノ營業資金ニ充ツヘキ兌換銀行券ノ金額ハ支店長之ヲ見積リ豫メ營業資金兌換銀行券請求書（第三號書式）ヲ作成シ之ヲ文書局ニ送付スヘシ
前項ノ請求額ニ不足ヲ生シタルトキハ之ニ要スル兌換銀行券ノ種別金額ヲ文書局ニ電報スヘシ
第十一條　文書局ハ前條ノ請求額ニ依リ支店ニ於テ要スル兌換銀行券ノ種別金額ヲ文書局ニ電報スヘシ
當スル第二發行元兌換銀行券ヲ營業資金ニ受入ルヘシ
第十二條　支店ハ每日營業ノ終ニ於ケル營業資金中兌換銀行券ノ種別金額ヲ卽日文書局ニ電報スヘシ
第十三條　本支店每日營業ノ終ニ於ケル營業資金中ノ兌換銀行券ハ文書局ニ於テ當日悉皆還收ノ手續ヲ爲スヘシ

## 第四章　準備及ヒ保證

第十四條　兌換銀行券ヲ發行シ又ハ還收スルトキハ文書局ニ於テ之ニ對スル準備若ハ保證ノ充當又ハ解除ノ手續ヲ爲スヘシ
第十五條　準備又ハ保證ノ充當解除ヲ爲ストキハ文書局ヨリ之ヲ關係ノ局支店ニ通知スヘシ
第十六條　支店ニ於テ收納シタル金貨ハ貨幣拂渡元金ニ屬スルモノヲ除ク外前條ニ依ル充當ノ通知ヲ俟タス準備金貨ニ受入ルヘシ
第十七條　準備又ハ保證ニ充當シ得ヘキ物件ヲ保管スル局又ハ支店ニ於テ第十五條ニ依ル充當ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ準備又ハ保證トシテ取扱フヘシ

支店ニ於テ受入レタル金地金ノ内貨幣拂渡證書定型金塊ハ受入ノ日ヨリ外國金貨及ヒ舊貨幣ハ前月二十五日マテノ分ヲ毎月初ノ營業日ヨリ第十五條ニ依ル充當ノ通知ヲ俟タス準備トシテ取扱フヘシ

本條第一項ニ依リ支店ニ於テ公債證券其他ノ證券若ハ手形ヲ保證トシテ取扱フ場合ニ於テハ之カ解除ノ通知ヲ受クルマテ新ニ受入レタル同種類ノ物件ニ付テモ第十五條ニ依ル充當ノ通知ヲ俟タス同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十八條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ヲ保管スル局又ハ支店ニ於テ第十五條ニ依ル解除ノ通知ヲ受ケタルトキハ解除ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十九條　支店ハ前第十六條乃至第十八條ニ依リ取扱ヒタル準備又ハ保證ニ付テハ第四十七條各號ニ揭ケタル記帳事項ヲ即日文書局ニ電報スヘシ

第二十條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ニシテ營業上解除ノ必要ヲ生シタルトキハ當該局之ヲ文書局ニ通知シ關係局ハ文書局ノ通知ヲ俟テ解除ノ取扱ヲ爲スヘシ但支店ニ於テハ之ヲ文書局ニ電報シタル上文書局ノ通知ヲ俟タス解除ノ取扱ヲナスコトヲ得

第二十一條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ヲ本支店間又ハ支店相互間ニ於テ回送セントスルトキハ文書局長ハ其種類金額其他必要ノ事項ヲ具シ裁定ヲ受ケ之ヲ關係支店ニ通知スヘシ

前項ノ回送ヲ爲シタルトキハ即日其旨ヲ第五條第二項ニ準シテ電報スヘシ

第二十二條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ハ準備又ハ保證ニ充當シ得ヘキ物件ト交換スルコトヲ得此場合ニ於テハ發行還收ノ手續ヲ要セス

第二十三條　準備ニ充當シ得ヘキ物件ノ現在高ハ毎日主管局ヨリ之ヲ兌換銀行券準備未充當高報告表(第四號甲乙丙丁書式)ヲ以テ文書局ニ報告スヘシ

保證ニ充當シ得ヘキ物件ノ現在高ハ毎日主管局ヨリ之ヲ兌換銀行券保證未充當高報告表(第五號書式)ヲ以テ文書局ニ報告スヘシ

第二十四條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ノ出入及ヒ殘高ハ毎日文書局(支店ニ在リテハ文書係)之ヲ保管局(支店ニ在リテハ係)ノ帳簿ト照合スヘシ

第二十五條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ノ出入ハ文書局ニ於テハ兌換銀行券準備充當票(第六號書式)兌換銀行券準備解除票(第七號書式)兌換銀行券保證充當票(第八號書式)兌換銀行券保證解除票(第九號書式)兌換銀行券準備轉管票(第十號書式)兌換銀行券保證轉管票(第十一號書式)ヲ以テ支店ニ於テハ兌換銀行券準備入票(第十二號書式)兌換銀行券準備出票(第十三號書式)兌換銀行券保證入票(第十四號書式)兌換銀行券保證出票(第十五號書式)ヲ以テ整理スヘシ但證憑書類アルトキハ之ヲ以テ各票ニ代用スルコトヲ得

## 第五章　引　換

第二十六條　兌換銀行券ヲ以テ金貨ニ引換ノ請求ヲ受ケタルトキハ兌換銀行券ハ之ヲ第二發行元兌換銀行券ニ受入レ之ニ對スル發行元兌換銀行券ヲ交付スヘシ

第二十七條　金貨ヲ以テ兌換銀行券ニ引換ノ請求ヲ受ケタルトキハ金貨ハ之ヲ準備金貨ニ受入レ之ニ對スル發行元兌換銀行券ヲ交付スヘシ

第二十八條　文書局ハ前二條ニ依ル引換ニ付テハ發行還收及ヒ準備充當解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條　發行シタル兌換銀行券ト發行元兌換銀行券トノ種類交換ハ隨時必要ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ種類交換ニ付テハ發行還收ノ手續ヲ要セス

第三十條　損傷兌換銀行券ノ引換請求ヲ受ケタルトキハ營業資金中ヨリ之ヲ引換フヘシ

第三十一條　支店ニ於テ損傷兌換銀行券ノ眞僞又ハ引換額ヲ決定シ難キモノアリタルトキハ預リ證ヲ交付シ該券ヲ出納局ニ送付シテ鑑定ヲ請フヘシ

第三十二條　支店ニ於ケル金貨ト兌換銀行券トノ引換ニ因ル第二發行元兌換銀行券及ヒ金貨ノ出入竝ニ種類交換ニ因ル第二發行元兌換銀行券ノ出入ハ金貨ニ在リテハ其種類及ヒ額面種類竝ニ金額兌換銀行券ニ在リテハ其種別金額ヲ即日文書局ニ電報スヘシ

## 第四章　日本銀行券　第二節　銀行券の製造及發行

## 第六章　廢棄兌換銀行券

第三十三條　損傷兌換銀行券竝ニ再ヒ發行ノ用ニ供セサル兌換銀行券ハ廢棄兌換銀行券ニ組入ルヘシ

第三十四條　支店ニ於テ廢棄兌換銀行券ニ組入レタル高ハ卽日其種別金額ヲ文書局ニ電報スヘシ但營業費金中ヨリ廢棄兌換銀行券ニ組入レタル高ハ第十二條ニ依ル電報中特ニ之ヲ區別シ本文ノ電報ヲ要セス

第三十五條　廢棄兌換銀行券ニハ直徑八分ノ圓鑿ヲ以テ左ノ箇所ニ穿孔スヘシ

中央上部（第二條第一號乃至第四號ノ兌換銀行券ハ日章ノ右方
同條第五號乃至第十五號ノ兌換銀行券ハ菊花章ノ直下接近點）

左右下部　記號又ハ番號ノ直上接近點

破損シタル廢棄兌換銀行券ニハ白紙ヲ以テ補綴ヲ加ヘタル上前項ノ手續ヲ爲スヘシ

半額ニ引換ヘタル廢棄兌換銀行券ニハ前二項ノ手續ヲ爲ス外其表面ニ左ノ雛形ノ印章ヲ押捺スヘシ

| 半額引換濟 | 取扱店名 |
|---|---|
| 縱一寸三分 | 橫五分 |

第三十六條　支店ニ於テ穿孔シタル廢棄兌換銀行券ハ其本券ト穿孔片トヲ各別ニ包裝シ送付書番號（穿孔片ノ包裝ニハ番號ノ外赤色○印ノ符號）ヲ表記シ文書局ニ送付スヘシ

前項ニ依リ廢棄兌換銀行券ヲ發送シタルトキハ卽日廢棄兌換銀行券送付書（第十六號書式）ヲ文書局ニ送付スヘシ

第三十七條　文書局ニ於テ支店ヨリ廢棄兌換銀行券ノ本券及ヒ其穿孔片ノ送付ヲ受ケタルトキハ卽日其旨ヲ發送店ニ電報スヘシ

第三十八條　文書局ニ於テ穿孔濟廢棄兌換銀行券ノ鑑査ヲ了シタルトキハ其記號番號ヲ兌換銀行券記番號元帳ニ照合シ該帳簿ニ其消込年月日ヲ記入スヘシ但大正十五年一月二十七日附官房祕令第六號大藏大臣達ニ依リ處理スヘキモノニ付テハ此限ニアラス

記號若ハ番號不明ナルモノハ之ヲ記番號不明廢棄兌換

第三十九條　前條ノ手續ヲ了シタル廢棄兌換銀行券及ヒ前條第一項但書ニ該當スル廢棄兌換銀行券ハ內規ノ規定ニ依リ銷棄ノ手續ヲ爲スヘシ

鑑査ヲ了シタル廢棄兌換銀行券ノ穿孔片ハ文書局ニ於テ隨時銷棄ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條　第七條ノ規定ハ廢棄兌換銀行券ニ之ヲ適用ス

## 第七章　保　管

第四十一條　發行元兌換銀行券廢棄兌換銀行券竝ニ準備保證ニ充當シタル物件ハ各其現物ヲ保管スヘキ局（支店ニ在リテハ係）ニ於テ一定ノ金庫ニ保管シ各其表示ヲ爲スヘシ但第十三條ニ依リ還收シタル兌換銀行券ニシテ鑑査其他ノ手續未濟ノモノニ付テハ出納局（支店ニ在リテハ出納係）ヲシテ保管セシムルコトヲ得

第四十二條　發行元兌換銀行券竝ニ廢棄兌換銀行券ノ鑑査整理及ヒ保管ノ手續ニ付テハ現金政府勘定特殊現金及地金出納保管規程中兌換銀行券ニ關スル規定ヲ準用ス但文書局ニ於テ整理中ニ係ル廢棄兌換銀行券ノ把束帶封及ヒ之ニ押捺スヘキ認印竝ニ之ニ記載スヘキ年月日店名ニ付テハ取扱上ノ便宜ニ從フコトヲ得

第四十三條　準備ニ充當シタル物件ノ整理及ヒ保管ノ手續ニ付テハ現金政府勘定特殊現金及地金出納保管規程中貨幣地金ニ關スル規定ヲ保證ニ充當シタル物品ノ整理及ヒ保管ノ手續ニ付テハ有價證券出納保管取扱規程中本行所有證券ニ關スル規定ヲ準用ス

## 第八章　計算整理

### 第一節　總　則

第四十四條　支店ニ於テ取扱ヒタル兌換銀行券及ヒ準備又ハ保證ノ出入ニ對スル收支ハ本店ニ於テ其日ノ計算ニ組入ルヘシ

第四十五條　兌換銀行券及ヒ準備又ハ保證ニ充當シタル物件ノ回送ニ付テハ其發送店ニ於テ受理記帳ト同日付ヲ以テ之カ決濟ヲ爲スヘシ

第四十六條　兌換銀行券ノ記帳ハ券面金額ヲ以テスヘシ但半額ニ引換タル損傷兌換銀行券ニ在リテハ其引換額ニ依ルヘシ

第四十七條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ノ記帳ハ第四十九條ニ揭ケタル科目及ヒ左ノ各號ニ依ルヘシ但支店ニ於テハ準備價額保證價額ヲ附スルコトヲ要セス

一、金貨ニ付テハ種類及ヒ額面種類竝ニ金額
二、外國金貨ニ付テハ種類額面金額及ヒ準備價額
三、舊貨幣ニ付テハ種類箇數及ヒ準備價額
四、金塊及ヒ銀地金ニ付テハ種類、全量純量及ヒ準備價額
五、貨幣拂渡證書ニ付テハ枚數及ヒ金額
六、公債證券ニ付テハ種別枚數額面金額及ヒ保證價額
七、甲種登錄國債ニ付テハ種別、登錄金額及ヒ保證價額
八、政府貸上金證書手形及ヒ其他ノ證券ニ付テハ種類、枚數券面金額及ヒ保證價額

第二節　科目

第四十八條　兌換銀行券ニ關スル科目及ヒ之ニ依リテ整理スヘキ事項左ノ如シ

一、製造兌換銀行券　兌換銀行券ノ製造高
二、發行元兌換銀行券　第四條ニ揭ケタル發行元兌換銀行券
三、流通兌換銀行券　兌換銀行券ノ發行高
四、廢棄兌換銀行券　第三十三條ノ規定竝ニ代理店損傷兌換銀行券引換事務規程ニ依ル廢棄兌換銀行券

五、銷棄兌換銀行券　兌換銀行券ノ銷棄高

第四十九條　準備又ハ保證ニ充當シタル物件ニ關スル科目及ヒ之ニ依リテ整理スヘキ事項左ノ如シ

| 大科目 | 小科目 | |
|---|---|---|
| 準備 | 金貨 | |
| | 金地金 | 準備ニ充テタル金貨 |
| | 倫敦代理店地金 | 準備ニ充テタル舊貨幣、金塊、外國金貨及ヒ貨幣拂渡證書 |
| | 紐育代理店地金 | 準備ニ充テタル倫敦代理店保管ノ金地金 |
| | 銀地金 | 準備ニ充テタル紐育代理店保管ノ金地金 |
| | 公債 | 準備ニ充テタル銀塊 |
| 保證 | 政府證券 | 保證ニ充テタル公債 |
| | 手形 | 保證ニ充テタル政府貸上金證書 |
| | 證券 | 保證ニ充テタル爲替手形及ヒ約束手形 |
| | | 保證ニ充テタル前各號ニ該當セサル證券 |

第三節　帳　簿

第五十條　文書局ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ兌換銀行券ニ關スル一切ノ事項ヲ記入整理スヘシ

| 名稱 | 書式番號 | 保存期間 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 兌換銀行券發行勘定元帳 | 一七 | 永久 | 兌換銀行券及ヒ第四十九條ニ揭ケタル大科目及ヒ小科目別ノ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備保證發行高勘定帳 | 一八 | 同 | 準備發行、制限内保證發行、制限超過保證發行ノ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金貨所在別帳 | 一九 | 十年 | 保管店毎ニ區別シ金貨ノ種類及ヒ額面種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金地金外國金貨所在別帳 | 二〇 | 同 | 保管店毎ニ區別シ外國金貨ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金地金舊貨幣所在別帳 | 二一 | 同 | 保管店毎ニ區別シ舊貨幣ノ種類別ニ口座ヲ設ク |

| 名稱 | 書式番號 | 保存期間 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 兌換銀行券準備金地金金塊所在別帳 | 二二 | 十年 | 保管店毎ニ區別シ雜地金、假試驗濟雜地金、分析試驗濟金銀塊、定型金塊、（何國）定型金塊、分析試驗濟金塊ノ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金地金貨幣拂渡證書所在別帳 | 二三 | 同 | 保管店別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備倫敦代理店地金在高帳 | 二四 | 同 | 倫敦代理店保管金地金ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備紐育代理店地金在高帳 | 二五 | 同 | 紐育代理店保管金地金ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備銀地金所在別帳 | 二六 | 同 | 保管店毎ニ區別シ銀地金ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券保證公債所在別帳 | 二七 | 同 | 保管店毎ニ大別シ甲種登錄國債ト公債證券トニ區別シ甲種登錄國債ニ付テハ公債ノ種別及ヒ登錄記號別ニ口座ヲ設ケ公債證券ニ付テハ公債ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券保證政府證券在高帳 | 三〇 | 同 | 政府貸上金ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券保證手形所在別帳 | 三一 | 同 | 保管店毎ニ區別シ當所爲替手形、當所約束手形、他所爲替手形、他所約束手形、保證品附爲替手形、保證品附約束手形ノ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券保證證券所在別帳 | 三二 | 同 | 保管店毎ニ區別シ證券ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券元帳 | 三三 | 永久 | 第四十八條ニ揭ケタル科目別ニ口座ヲ設ク<br>但流通兌換銀行券口座ニ付テハ兌換銀行券發行勘定元帳ニ於ケル兌換銀行券口座ノ記入ヲ以テ之ニ代ヘ其記入ヲ省略スルコトヲ得 |
| 製造兌換銀行券內譯帳 | 三四 | 同 | 兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |
| 發行元兌換銀行券內譯帳 | 三五 | 十年 | 半季締切ヲ爲サス帳簿更新ノトキ累計額ヲ新帳簿ニ移記ス |
| 流通兌換銀行券內譯帳 | 三六 | 永久 | 第一發行元兌換銀行券ト第二發行元兌換銀行券トニ大別シ保管店毎ニ區別シ兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク但本店ノ部ニ限リ保管局毎ニ區別ス |
| 廢棄兌換銀行券內譯帳 | 三七 | 十年 | 第二發行元兌換銀行券ノ文書局ノ部ニ兌換銀行券ノ種別毎ニ遷送中ノ口座ヲ設ク |
| | | | 兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |
| | | | 保管店毎ニ大別シ全額半額ニ區別シ兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |

| 名稱 | 書式番號 | 保存期間 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 銷棄兌換銀行券內譯帳 | 三八 | 永久 | 兌換銀行券記番號元帳ニ消込年月日ヲ記入セルモノ（第一種）ト記入セサルモノ（第二種）トニ區別シ兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券記番號元帳 | 三九 | 同 | 半季締切ヲ爲サス帳簿更新ノトキ累計額ヲ新帳簿ニ移行ス |
| 記番號不明廢棄兌換銀行券記入帳 | 四〇 | 同 | 兌換銀行券ノ種別毎ニ別冊トナス |
| 兌換銀行券製造注文帳 | 四一 | | 兌換銀行券ノ種別毎ニ區別シ全額半額ノ口座ヲ設ク |
| 廢棄兌換銀行券受領高記入帳 | 四二 | | 半季締切ヲ爲サス帳簿更新ノトキ累計額ヲ新帳簿ニ移記ス |
| 兌換銀行券制限內發行稅計算帳 | 四六 | | 製造年度毎ニ區別シ兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券制限超過發行稅計算帳 | 四七 | | 記入結了ノ口座ハ直ニ締切ヲ爲ス |
| | | | 發送店別ニ口座ヲ設ク |
| | | | 每月末日ニ於テ締切ヲ爲ス |
| | | | 稅額計算ノ都度締切ヲ爲ス |
| 第二發行元兌換銀行券保管帳 | 四八 | | 兌換銀行券ノ種別竝ニ遷送中ノ口座ヲ設ク但出納係ニ保管セシムルモノアルトキハ兌換銀行券ノ種別毎ニ出納係保管ノ口座ヲ設ク |
| 廢棄兌換銀行券保管帳 | 四九 | | 全額半額ニ區別シ兌換銀行券ノ種別毎ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金貨在高帳 | 五〇 | | 遷送ヲ爲ストキハ全額半額ニ區別シ遷送中ノ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金地金外國金貨在高帳 | 五一 | | 金貨ノ種類及ヒ額面種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金地金舊貨幣在高帳 | 五二 | | 外國金貨ノ種類別ニ口座ヲ設ク<br>舊貨幣ノ種類別ニ口座ヲ設ク |

第五十一條　支店ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ第二發行元兌換銀行券及ヒ廢棄兌換銀行券竝ニ準備又ハ保證ニ充當シタル物件ノ出入ヲ記入整理スヘシ

| 名稱 | 書式番號 | 備考 |
|---|---|---|
| 兌換銀行券準備金地金金塊在高帳 | 五三 | 雜地金、假試驗濟雜地金、分析試驗濟金銀塊、定型金塊、(何國)定型金塊、分析試驗濟金塊ノ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券準備金地金貨幣拂渡證書在高帳 | 五四 | |
| 兌換銀行券準備銀地金在高帳 | 五五 | 銀地金ノ種類別ニ口座ヲ設ク |
| 兌換銀行券保證在高帳 | 五六 | 公債證券及ヒ證券ノ種類別竝ニ當所爲替手形、當所約束手形、他所爲替手形、他所約束手形、保證品附爲替手形、保證品附約束手形ノ口座ヲ設ク |

## 第四節　計表

第五十二條　文書局ハ左ノ計表ヲ作成スヘシ

| 名稱 | 書式番號 | 備考 |
|---|---|---|
| 兌換銀行券一覽表 | 五七 | 毎日重役集會ニ提出ス |
| 兌換銀行券竝準備保證出納日表 | 五八 | 毎日大藏大臣ニ提出ス |
| 兌換銀行券發行高毎週平均高報告 | 六一甲乙 | 甲書式ニ依リテ火曜日迄ニ大藏大臣ニ逓達シ乙書式ニ依リテ水曜日發行ノ官報ニ廣告ス |

第五十三條　支店ハ左ノ計表ヲ作成スヘシ

| 名稱 | 書式番號 | 備考 |
|---|---|---|
| 第二發行元兌換銀行券保管表 | 六二 | 保管物品ニ異動アリタル日ニ於テ作成シ文書局ニ送付ス |
| 廢棄兌換銀行券保管表 | 六三 同 | |
| 兌換銀行券準備金貨在高表 | 六四 同 | |
| 兌換銀行券準備金地金外國金貨在高表 | 六五 同 | |
| 兌換銀行券準備金地金舊貨幣在高表 | 六六 同 | |
| 兌換銀行券準備金地金金塊在高表 | 六七 同 | |
| 兌換銀行券準備金地金貨幣拂渡證書在高表 | 六八 同 | |
| 兌換銀行券準備銀地金在高表 | 六九 同 | |
| 兌換銀行券保證在高表 | 七〇 同 | |

### 附　則

第五十四條　明治三十二年六月二十日付發第三八六號達兌換銀行券取扱順序明治三十五年五月十四日付發第二一四號達支店出帳所兌換銀行券竝準備保證保管規程明治三十五年六月十九日付發第二七四號達支店出帳所兌換銀行券取扱順序明治四十年三月四日同定甲種登錄國債ヲ兌換銀行券保證ニ充當スル場合ニ於ケル取扱手續明治四十三年一月二十一日同定兌換銀行券付發第二一六號通牒兌換銀行券ノ準備保證充當解除手續ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第五十五條　本規程ニ於テ改正シタル現在使用ノ帳簿ハ差支ナキ限リ更新ノトキマテ之ヲ襲用スルコトヲ得

（書式省略）

## 第二款　銀行券の種類及形式

兌換銀行券條例第三條に於て、銀行券の種類は、一圓・五圓・十圓・二十圓・五十圓・百圓・二百圓の七種と定め、其の第五條を以て、其の製造は大藏卿の指定する書式・圖形に依り、日本銀行に於て之を爲すものとせり。又兌換銀行券發行手續第四條に於て、銀行券の製造は大藏省印刷局（同局は明治三十一年十月内閣に移管せらる）に委託し、製造高は其の種類・員額・番號・記號等の明細書を添へて、大藏卿に上申すべきものとしたり。茲に於て日本銀行は明治十七年七月以降印刷局長に對し、贋造の注意其の他取締事項竝に

圖樣・見本等に就き、屢〻交渉を遂げたる上、先づ十圓券を製造するに決し、同年十月始めて之が製造に著手せり。斯くして翌十八年一月其の製造成りしを以て、同年五月九日より之を發行したるが、次で同年八月中一圓券及百圓券の製造成りしに依り、翌九月八日より右兩券を發行し、又五圓券は同年二月より製造に著手し、其の出來するに及び翌十九年一月四日始めて之を發行したり。斯くして日本銀行兌換券の種類は一圓・五圓・十圓・百圓の四種となりしが、條例に定むる所は此の外に尙ほ二十圓・五十圓・二百圓の三種あり、此の中二十圓券は大正六年十一月に至り始めて發行せられしも、爾餘の五十圓及二百圓の兩券は大正末年迄遂に發行せらるるに至らざりき。但し二百圓券は大正十二年秋大震災直後臨時應急の爲め製造したることありしも、未だ發行に至らずして同十五年四月全部銷棄せられたり。今各種銀行券の初發行年月日を掲ぐれば左の如し。

| 種別 | 發行年月日 |
|---|---|
| 一圓券（明治十八年八月大藏省告示第一一九號） | 明治十八年九月八日 |
| 五圓券（明治十八年十二月大藏省告示第一六六號） | 明治十九年一月四日 |
| 十圓券（明治十八年一月大藏省告示第一二號） | 明治十八年五月九日 |
| 二十圓券（大正六年十一月大藏省告示第一七六號） | 大正六年十一月二十日 |
| 百圓券（明治十八年八月大藏省告示第一一九號） | 明治十八年九月八日 |

而して各種銀行券は其の發行以後、諸種の事情に依りて改造せられ、殊に明治三十年十月新貨幣法の制定に伴ひ、從來の銀兌換券は金兌換券に改正するの必要ありし等の事情あり（但し一圓券は其の儘とす）、其の間同一券面にして新舊・甲乙等の別を生ずるに至り、其の紙幅圖樣も亦自ら變遷ありたり。其の變遷に就ては別掲寫眞を參照すべく、玆には其の改正の沿革を表示するに止むべし。

| 種別 | 樣式告示年月日 | 發行年月日 | 新券發行當時（前月末）流通高（千円） | 改造事由 |
|---|---|---|---|---|
| 舊一圓券 | 明治一八年八月二九日告示第一一九號 | 明治一八年九月八日 | 四二、一三四 | |
| 舊五圓券 | 同年一二月二四日告示第一六六號 | 一九、一、四 | 四三、〇九五 | |
| 舊十圓券 | 同年一月二二日告示第一二號 | 一八、五、九 | 八、八三四 | 破損多き爲め改造券に改造す |
| 舊百圓券 | 同年八月二九日告示第一一九號 | 一八、九、八 | 一、三八四 | |
| 改造一圓券 | 同二二年三月一五日告示第二七號 | 二二、五、一 | 五四、八六五 | （大正末年現行、但し大正五年八月告示第百一號を以て記番號字體及刷入方改正、同月十五日より新券を發行す |
| 改造五圓券 | 同二一年一一月一四日告示第一四〇號 | 二一、一二、三 | | |
| 改造十圓券 | 同二三年三月二六日告示第三三號 | 二三、九、一二 | 六五、三五六 | 貨幣制度改正の爲め甲券に改造す |
| 改造百圓券 | 同二四年一一月一〇日告示第三六號 | 二四、一一、一五 | 一五、六〇五 | |
| 甲五圓券 | 同三二年三月一八日告示第一〇號 | 三二、四、一 | 一〇五、六〇七 | （發行以來十年經過に付改造の議ありたる際偶〻精巧僞造券の發見に促され乙五圓券に改造す |
| 甲十圓券 | 同三二年九月一六日告示第五一號 | 三二、一〇、一 | 一五四、二〇九 | （甲五圓券を乙五圓券に改造したるに伴ひ、本券も乙十圓券に改造進行中、精巧僞造券の發見に促されて改造發行の期を早む |
| 甲百圓券 | 同三三年一二月一九日告示第五五號 | 三三、一二、二五 | | （大正末年現行、但し大正六年八月告示第百三十六號を以て、記號及番號をアラビヤ數字に變更し、同年九月一日より新券を發行せり |
| 乙五圓券 | 同四三年八月一一日告示第一〇七號 | 四三、九、一 | 一四三、七九四 | （本券不出來にして損傷極めて多きを以て、更に丙五圓券に改造す |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 乙十圓券 | 大正四年四月二四日大藏省告示第四四號 | 大正四年、五月、一日 | 大正末年現行 |
| 丙五圓券 | 同五年一二月一日大藏省告示第一六三號 | 五、一二、一五 | 同上 |
| 甲二十圓券 | 同六年一一月九日大藏省告示第一七六號 | 六、一一、二〇 | 同上 |

尙ほ昭和二年四月一日法律第四十六號兌換銀行券整理法の發布に依り、前揭舊五圓券・改造五圓券・甲五圓券・乙五圓券・丙五圓券・舊十圓券・改造十圓券・甲十圓券・乙十圓券・甲二十圓券・舊百圓券・改造百圓券・甲百圓券の十三種は、昭和十四年三月三十一日限り强制通用力を失ふこととし、夫迄に何れも漸次新券を發行して之を回收整理するの方針を樹てたり。

## 第三款　發行の概況

### 第一項　發行高

日本銀行兌換券の發行限度額は當初二百萬圓と定め、尙ほ融通の景況に依り大藏卿に於て之が增發を必要と認むるときは、其の許可を與ふることあるべき旨規定せられしも（兌換銀行券發行手續第一條）、該規定は日本銀行に於て未だ銀行券を發行せざる前、卽ち明治十八年五月を以て改正せられ、發行額は流通の景況により大藏卿時々之を指定することとなれり。仍て日本銀行は同年五月七日大藏卿に上申の上、同月九日より二百萬圓の引換準備を置き、五百萬圓を極度として漸次發行することと爲し、先づ十圓券を同日より發行すると共に、爾後引換請求の景況に依り發行額と準備銀貨との割合を增減し、其の時々大藏卿に上申することと定めたり。同日の發行殘高卽ち總發行高より本店在高を差引きたる流通高は百二十一萬二百圓にして、之れ實に本邦に於ける兌換銀行券發行の嚆矢なりとす。尋いで一圓券及百圓券の製造成りしを以て、日本銀行は發行極度額を六百萬圓に增加し、之が引換準備としては流通高相當の銀貨を備へ置くこととして、同年九月八日より右兩種の銀行券を發行し、其の後五圓券の製造も亦成りしを以て、同年十二月二十八日發行極度額を更に七百萬圓に增加し十九年一月四日始めて之を發行したり。然るに兌換券の需要は更に增加するの景況を呈せしを以て、翌十九年二月一日更に二百萬圓を增加して合計九百萬圓と爲し、次で二十一年七月兌換銀行券條例第二條の改正の結果、金銀貨及地金銀を準備として同額の銀行券を發行し得るの外、條例所定の諸有價證券を保證として七千萬圓、尙ほ必要に臨みては制限外發行稅を納めて、上記の外更に保證發行を爲し得ることとなり、玆に兌換券の發行極度額は始めて條例中に明定せられたり。而して保證準備發行の制限額は、既述の如く條例の改正に依り明治二十三年五月八千五百萬圓に、三十二年三月一億二千萬圓に增加せられたり。尙ほ明治二十一年十二月二十一日日本銀行定款第八十八條乃至第九十一條の追加規定せらるるや、其の第九十條を以て制限外の發行を爲さんとするときは、其の時の商況を具申して大藏大臣の許可を受くべきものとしたり。

兌換銀行券の發行額に就ては條例上其の後何等の改正をも加へられざりしが、之を實際に就て見るに、其の總發行額は概して增加の一途を辿り、明治十八年末の現在發行額三百九十五萬六千餘圓なりしもの、昭和元年末には十五億六千九百七十萬八千餘圓に上れり。而も此の間次項に示す如く比年制限外發行の連續を見るの狀態なりしを以て、保證準備發行額の擴張は屢〻政府當局間の問題となな

り、發行税に代ふるに納付金を以てすべしとの議論と共に多年の懸案を爲せり。即ち明治四十年及四十三年の計畫にては一億七千萬圓、大正六年の案にては二億圓に擴張せんとしたるが如き之にして、其の後も大正十三年、大正十五年に於て問題として取上げられたり(第十一編第二章第三節參照)。然れども大藏省主腦の意向は、制限外發行は其の都度大藏大臣の許可を得る制度となり居るも、此の許可は形式的のものにして、結局我國の現行發行制度は自由發行制度の如きものにして、更めて其の限度を擴張するの必要なく、現行法の儘を以て可なりとするに在り、前記の諸計畫は大正末年迄には遂に法律案として議會に提出せらるるに至らざりき。

今各年末の銀行券の發行高を券面別及準備別に表示すれば左の如し。

（一）日本銀行兌換券發行高種類別表

| 年末 | 一圓券 | 五圓券 | 十圓券 | 二十圓券 | 百圓券 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治一八年 | 円 二八一、六六一・〇〇 | 円 — | 円 二、八二〇、九〇〇・〇〇 | 円 — | 円 八五三、六〇〇・〇〇 | 円 三、九五六、一六一・〇〇 |
| 同　一九年 | 一七、八二四、二〇〇・〇〇 | 一〇、三七〇、六一五・〇〇 | 一〇、一二〇、八〇〇・〇〇 | — | 一、三三四、二〇〇・〇〇 | 三九、五四九、八一五・〇〇 |
| 同　二〇年 | 三二、三七八、六四八・〇〇 | 八、九二二、五一五・〇〇 | 一〇、七〇五、七四〇・〇〇 | — | 一、四四八、九〇〇・〇〇 | 五三、四五四、八〇三・〇〇 |
| 同　二一年 | 四三、〇九五、九六五・〇〇 | 一〇、六七七、六四五・〇〇 | 一〇、七七一、五七〇・〇〇 | — | 一、二三五、四〇〇・〇〇 | 六五、七七〇、五八〇・〇〇 |
| 同　二二年 | 四五、〇九三、二三二・〇〇 | 二〇、九八七、七九〇・〇〇 | 一一、四三六、〇一〇・〇〇 | — | 一、三七一、六〇〇・〇〇 | 七九、一〇八、六三二・〇〇 |
| 同　二三年 | 五〇、二六九、二四一・〇〇 | 三四、五八六、一二五・〇〇 | 一六、五六九、八〇〇・〇〇 | — | 一、五〇六、六〇〇・〇〇 | 一〇三、九三一、七六六・〇〇 |
| 同　二四年 | 五一、〇四七、五七五・〇〇 | 三七、九八九、八〇五・〇〇 | 二四、一八九、三六五・〇〇 | — | 二、五〇七、八〇〇・〇〇 | 一一五、七三四、五四五・〇〇 |
| 同　二五年 | 五三、六六三、二九三・〇〇 | 三六、三二四、二一〇・〇〇 | 二九、二六六、〇六〇・〇〇 | — | 六、五六九、八〇〇・〇〇 | 一二五、八四三、三六三・〇〇 |
| 同　二六年 | 五六、九〇二、五三三・〇〇 | 三九、九一三、六二五・〇〇 | 三五、三六五、七七〇・〇〇 | — | 一六、四八一、二〇〇・〇〇 | 一四八、六六三、一二八・〇〇 |
| 同　二七年 | 五七、七六七、六二〇・〇〇 | 四三、八〇五、六九〇・〇〇 | 四一、四〇一、一九〇・〇〇 | — | 六、八三九、二〇〇・〇〇 | 一四九、八一三、七〇〇・〇〇 |
| 同　二八年 | 六四、六四五、〇五〇・〇〇 | 五一、六二三、五五〇・〇〇 | 五二、四一六、六一五・〇〇 | — | 一一、六五一、六〇〇・〇〇 | 一八〇、三三六、八一五・〇〇 |
| 同　二九年 | 六八、一〇五、四七一・〇〇 | 五八、五〇六、九三五・〇〇 | 六二、四八六、三九〇・〇〇 | — | 九、二二五、一〇〇・〇〇 | 一九八、三一三、八九六・〇〇 |
| 同　三〇年 | 六八、〇八一、〇七四・〇〇 | 七三、三六一、三五五・〇〇 | 六九、四八〇、二三〇・〇〇 | — | 一五、三〇六、四〇〇・〇〇 | 二二六、二二九、〇五九・〇〇 |
| 同　三一年 | 五〇、九二七、七二六・〇〇 | 六七、三七一、九六五・〇〇 | 六六、五四五、八一〇・〇〇 | — | 一二、五五四、四〇〇・〇〇 | 一九七、三九九、九〇一・〇〇 |
| 同　三二年 | 四三、二六八、二三〇・〇〇 | 九八、二〇二、三四五・〇〇 | 八五、四九三、六一五・〇〇 | — | 二三、五七七、八五〇・〇〇 | 二五〇、五六二、〇四〇・〇〇 |
| 同　三三年 | 三四、一四七、九九二・〇〇 | 八七、五九二、二四〇・〇〇 | 八八、一一三、七〇〇・〇〇 | — | 一八、七〇七、一〇〇・〇〇 | 二二八、五七〇、〇三三・〇〇 |
| 同　三四年 | 二五、八四四、三七一・〇〇 | 八二、五一七、八七五・〇〇 | 九〇、〇七三、九二〇・〇〇 | — | 一五、六六一、六〇〇・〇〇 | 二一四、〇九六、七六六・〇〇 |
| 同　三五年 | 二〇、一六九、七八五・〇〇 | 八八、二四六、三三二・〇〇 | 一〇六、五八八、二六〇・〇〇 | — | 一七、〇九〇、〇〇〇・〇〇 | 二三二、〇九四、三七七・〇〇 |
| 同　三六年 | 一六、六〇七、二三〇・〇〇 | 八九、六〇七、〇四八・〇〇 | 一〇八、六七〇、五九五・〇〇 | — | 一八、〇五五、七〇〇・〇〇 | 二三二、九二〇、三六三・〇〇 |
| 同　三七年 | 二五、〇四七、四四四・〇〇 | 一〇四、五六一、三三三・〇〇 | 一三四、二六三、四八五・〇〇 | — | 二二、七五三、三〇〇・〇〇 | 二八六、六二五、七五三・〇〇 |
| 同　三八年 | 二八、八二〇、九四七・〇〇 | 一〇九、九六七、七三二・〇〇 | 一四五、七三一、一四〇・〇〇 | — | 二六、二七一、〇〇〇・〇〇 | 三一二、七九〇、八一九・〇〇 |
| 同　三九年 | 二八、一七一、一九七・〇〇 | 一一四、三九六、八四七・〇〇 | 一六五、四九三、九二〇・〇〇 | — | 二三、七〇四、二〇〇・〇〇 | 三四一、七六六、一六四・〇〇 |
| 同　四〇年 | 二八、一七九、〇八六・〇〇 | 一二六、九六九、四四五・〇〇 | 一八五、一六〇、七八〇・〇〇 | — | 二九、六七四、八〇〇・〇〇 | 三六九、九八四、一一一・〇〇 |
| 同　四一年 | 二五、七九五、二九五・〇〇 | 一二〇、四九五、六二七・〇〇 | 一七九、七七七、七五〇・〇〇 | — | 二六、六六五、六〇〇・〇〇 | 三五二、七五四、二七二・〇〇 |
| 同　四二年 | 二四、三三六、一五四・〇〇 | 一一六、五三九、七一七・〇〇 | 一八四、〇五九、二三〇・〇〇 | — | 二七、八六八、一〇〇・〇〇 | 三五二、七六五、一〇一・〇〇 |
| 同　四三年 | 二五、一一三、九七六・〇〇 | 一三四、八九四、三一二・〇〇 | 二一二、二七九、七四〇・〇〇 | — | 二九、三二六、九〇〇・〇〇 | 四〇一、六二四、九七六・〇〇 |
| 同　四四年 | 二六、四八九、六〇四・〇〇 | 一四四、七九八、二三三・〇〇 | 二三二、九五五、二六〇・〇〇 | — | 二九、一三六、〇〇〇・〇〇 | 四三三、三九九、一一六・〇〇 |
| 大正元年 | 二七、九八九、八五一・〇〇 | 一四七、三四二、三七七・〇〇 | 二四二、七八九、七三〇・〇〇 | — | 三〇、七九九、七三〇・〇〇 | 四四八、九一二、七〇八・〇〇 |
| 同　二年 | 二七、七四五、一一二・〇〇 | 一三九、三二三、七二〇・〇〇 | 二三三、二五四、一三五・〇〇 | — | 二六、〇七五、七三〇・〇〇 | 四二六、三六八、七〇七・〇〇 |
| 同　三年 | 二七、三三二、六四九・〇〇 | 一二六、九六六、六九二・〇〇 | 二〇六、四五七、五〇五・〇〇 | — | 二四、八四三、二三〇・〇〇 | 三八五、三六九、〇九六・〇〇 |
| 同　四年 | 二八、四一九、四八三・〇〇 | 一三五、一七九、二〇八・〇〇 | 二三五、八〇二、七七〇・〇〇 | — | 三〇、七三六、三三〇・〇〇 | 四三〇、一一八、〇一一・〇〇 |
| 同　五年 | 三八、九四三、四二三・〇〇 | 一七六、九〇四、三一八・〇〇 | 三三一、九二四、二七〇・〇〇 | — | 三五、四三二、四〇〇・〇〇 | 六〇一、六二四、四一一・〇〇 |
| 同　六年 | 四九、三〇八、二三七・〇〇 | 二三五、三四一、五八五・〇〇 | 四二三、三七七、一一五・〇〇 | 二六六、六九八、三三〇・〇〇 | 九六、四四六、四〇〇・〇〇 | 八五一、三七一、八四七・〇〇 |
| 同　七年 | 四八、七六七、二六〇・〇〇 | 二九二、〇七二、一〇五・〇〇 | 五六二、三三三、九八〇・〇〇 | 八五、四四四、三八〇・〇〇 | 一三六、一〇一、一三〇・〇〇 | 一、一四四、七三九、〇七五・〇〇 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正八年 | 五三、四六二、一一〇·〇〇円 | 三三六、八三五、二三七·〇〇円 | 七二〇、六一七、六一五·〇〇円 | 二二六、二六六、五六〇·〇〇円 | 二三七、九一九、〇〇〇·〇〇円 | 一、五五五、一〇〇、五三三·〇〇円 |
| 同　九年 | 五四、三六八、八九三·〇〇 | 三一九、二四六、二六七·〇〇 | 六七七、八八六、九一五·〇〇 | 一六四、三八二、九四〇·〇〇 | 二三三、三三五、六五〇·〇〇 | 一、四三九、二四〇、六八五·〇〇 |
| 同一〇年 | 五三、二〇九、七五一·〇〇 | 三二〇、〇一六、〇四三·〇〇 | 七七三、三三九、一七五·〇〇 | 一八一、九九五、九九〇·〇〇 | 二二八、九八四、八五〇·〇〇 | 一、五四六、五四五、八〇八·〇〇 |
| 同一一年 | 五一、一三七、七〇〇·〇〇 | 三〇五、七八四、七一二·〇〇 | 八二一、八五七、七一五·〇〇 | 一七〇、五二五、七七〇·〇〇 | 二二八、九九六、三五〇·〇〇 | 一、五五八、四〇三、二四七·〇〇 |
| 同一二年 | 四九、八一七、五九九·五〇 | 三〇二、四〇五、三四二·五〇 | 八七六、七〇七、三三〇·〇〇 | 二〇四、三八七、一九〇·〇〇 | 二七〇、二七九、〇五〇·〇〇 | 一、七〇三、五九六、五一三·〇〇 |
| 同一三年 | 四六、八九五、五五五·五〇 | 二七八、六七四、九三〇·〇〇 | 九〇八、六一〇、五六〇·〇〇 | 一七七、三七七、六三〇·〇〇 | 二五〇、七五六、五五〇·〇〇 | 一、六六二、三二五、二二五·五〇 |
| 同一四年 | 四五、一〇〇、六三三·五〇 | 二六〇、三一六、六三五·〇〇 | 九〇七、一八〇、〇五〇·〇〇 | 一七二、三二一、〇六〇·〇〇 | 二四六、九六五、六〇〇·〇〇 | 一、六三二、七八三、九五八·五〇 |
| 昭和元年 | 四三、三八三、三四三·五〇 | 二四五、一九三、七八〇·〇〇 | 九〇五、五七七、一四五·〇〇 | 一四〇、七九六、三三〇·〇〇 | 二三四、七五七、五五〇·〇〇 | 一、五六九、七〇八、一六七·五〇 |

（備考）計數に端數あるは半額引換あるに因る。以下の諸表亦同じ。

## （二）日本銀行兌換券新舊券別發行高表

| 種別 | 舊一圓券 | 舊五圓券 | 舊十圓券 | 舊百圓券 | 改造一圓券 | 改造五圓券 | 改造十圓券 | 改造百圓券 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治十八年 | 二六一、六六一·〇〇円 | — | 二、八二〇、九〇〇·〇〇 | 八五三、六〇〇·〇〇 | — | — | — | — | 三、九五六、一六一·〇〇 |
| 同　十九年 | 一七、八二四、二〇〇·〇〇円 | 一〇、三七〇、六一五·〇〇 | 一〇、一二〇、八〇〇·〇〇 | 一、二三四、二〇〇·〇〇 | — | — | — | — | 三九、五四九、八一五·〇〇 |
| 同　二十年 | 三二、三七八、六四八·〇〇円 | 八、九二二、五一五·〇〇 | 一〇、七〇五、七四〇·〇〇 | 一、四四八、九〇〇·〇〇 | — | — | — | — | 五三、四五四、八〇三·〇〇 |
| 同　二十一年 | 四三、〇九五、九六五·〇〇円 | 一〇、六七七、六四五·〇〇 | 一〇、七七二、五七〇·〇〇 | 一、二三五、四〇〇·〇〇 | — | — | — | — | 六五、七七〇、五八〇·〇〇 |
| 同　二十二年 | 四五、〇九三、二三二·〇〇円 | 二〇、九八七、七九〇·〇〇 | 一一、四五六、〇一〇·〇〇 | 一、五七一、六〇〇·〇〇 | — | — | — | — | 七九、一〇八、六三二·〇〇 |
| 同　二十三年 | 四二、〇五〇、三五一·〇〇円 | 一一、四四〇、三六〇·〇〇 | 一一、一六九、八〇〇·〇〇 | 一、三〇六、六〇〇·〇〇 | 八、三二八、八九〇·〇〇 | 二三、一四五、七六五·〇〇 | 五、四〇〇、〇〇〇·〇〇 | — | 一〇二、九三二、七六六·〇〇 |
| 同　二十四年 | 四一、八八二、四五五·〇〇円 | 一一、四三三、三九五·〇〇 | 一一、四〇三、三五五·〇〇 | 一、三七九、四〇〇·〇〇 | 九、一六六、一二〇·〇〇 | 三六、五六七、四一〇·〇〇 | 三三、七八五、八一〇·〇〇 | 一、三三八、四〇〇·〇〇 | 一二五、七三四、五四五·〇〇 |



| 種別 | 舊一圓券 | 舊五圓券 | 舊十圓券 | 舊百圓券 | 改造一圓券 | 改造五圓券 | 改造十圓券 | 改造百圓券 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治二十五年 | 四四、二七五、九三六·五〇円 | 一〇、九六〇、二〇七·五〇 | 一一、三三八、九九五·〇〇 | 一、四九一、九〇〇·〇〇 | 九、三八七、三三六·五〇 | 二五、三六四、〇〇二·五〇 | 一七、九〇七、〇六五·〇〇 | 五、〇七七、九〇〇·〇〇 | 一三五、八四三、三六三·〇〇 |
| 同　二十六年 | 四三、九二三、六九三·〇〇円 | 一一、四七七、五三七·五〇 | 一一、二八七、八〇〇·〇〇 | 一、四六四、二〇〇·〇〇 | 一三、九七九、八四〇·〇〇 | 二八、四三六、〇八七·五〇 | 二四、〇七七、九七〇·〇〇 | 一五、〇一七、〇〇〇·〇〇 | 一四八、六六三、一二八·〇〇 |
| 同　二十七年 | 四二、六一九、七八七·五〇円 | 一一、五二〇、四〇五·〇〇 | 一一、二二二、二五五·〇〇 | 九一八、六〇〇·〇〇 | 一五、一四七、八三二·五〇 | 三三、二六五、二六五·〇〇 | 三〇、一八八、九三五·〇〇 | 五、九二〇、六〇〇·〇〇 | 一四九、八一三、七〇〇·〇〇 |
| 同　二十八年 | 三八、八九七、三八〇·〇〇円 | 一一、四七六、七三二·五〇 | 一一、三一八、五一五·〇〇 | 六七七、二〇〇·〇〇 | 二五、七四七、六七〇·〇〇 | 四〇、一四六、八一七·五〇 | 四一、〇九八、一〇〇·〇〇 | 一〇、九七四、四〇〇·〇〇 | 一八〇、三三六、八一五·〇〇 |
| 同　二十九年 | 三七、〇六九、〇八四·五〇円 | 一〇、四五一、八四七·五〇 | 一〇、二六六、八〇五·〇〇 | 七八三、五〇〇·〇〇 | 三一、〇三六、三八六·五〇 | 四八、〇五五、〇八七·五〇 | 五三、一一九、五八五·〇〇 | 八、四三一、六〇〇·〇〇 | 一九八、三一三、八九六·〇〇 |
| 同　三十年 | 三〇、二六九、九〇六·五〇円 | 九、六〇六、三二五·〇〇 | 九、四一〇、四九〇·〇〇 | 四五〇、五〇〇·〇〇 | 三七、八二一、一六六·五〇 | 六三、七五五、〇四〇·〇〇 | 六〇、〇六九、七四〇·〇〇 | 一四、八五五、九〇〇·〇〇 | 二二六、二三九、〇三八·〇〇 |
| 同　三十一年 | 二〇、六四一、七三六·五〇円 | 七、〇〇〇、五五〇·〇〇 | 六、六四四、七五五·〇〇 | 一九七、九〇〇·〇〇 | 三〇、二六五、九八九·五〇 | 六〇、三七一、四一五·〇〇 | 五九、九〇一、〇五五·〇〇 | 一三、三五六、五〇〇·〇〇 | 一九七、三九九、九〇一·〇〇 |

| 種別 | 舊一圓券 | 舊五圓券 | 舊十圓券 | 舊百圓券 | 改造一圓券 | 改造五圓券 | 改造十圓券 | 改造百圓券 | 甲五圓券 | 甲十圓券 | 甲百圓券 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三十二年 | 一六、〇〇七、九〇三·五〇円 | 七、八三七、六八〇·〇〇 | 七、二七五、七七五·〇〇 | 一七〇、二〇〇·〇〇 | 二七、二六〇、三三六·五〇 | 六七、〇七〇、一一七·五〇 | 六六、九一九、一〇〇·〇〇 | 二三、四〇七、六五〇·〇〇 | 二三、二九四、四八七·五〇 | 二一、二九八、七四〇·〇〇 | — |
| 同　三十三年 | 一三、四四一、〇〇四·五〇円 | 三、五八二、五八七·五〇 | 二、六五一、四八〇·〇〇 | 二四、〇〇〇·〇〇 | 二二、七〇六、九八七·五〇 | 五〇、二七〇、八八〇·〇〇 | 五五、一五一、〇三〇·〇〇 | 一七、一八七、九〇〇·〇〇 | 三三、七三八、七七三·五〇 | 三〇、三二〇、一九〇·〇〇 | 一、四九五、二〇〇·〇〇 |
| 同　三十四年 | 九、六七四、三八〇·五〇円 | 一、九九五、六〇二·五〇 | 一、二八二、三三五·〇〇 | 一〇、七〇〇·〇〇 | 一六、一六九、九九〇·五〇 | 二八、四九九、六九七·五〇 | 二七、四六八、四九〇·〇〇 | 四、二五八、二〇〇·〇〇 | 五二、〇三二、五七五·〇〇 | 六一、三三三、〇九五·〇〇 | 一二、三九二、七〇〇·〇〇 |
| 同　三十五年 | 七、六八四、六〇三·五〇円 | 一、〇六五、三一七·五〇 | 六三九、九九〇·〇〇 | 八、九〇〇·〇〇 | 一三、四八五、一八一·〇〇 | 一三、八四九、三一七·五〇 | 八、四二六、六〇〇·〇〇 | 一、九二九、二〇〇·〇〇 | 七四、三三一、六八七·五〇 | 九七、五三一、六七〇·〇〇 | 一五、一五一、九〇〇·〇〇 |
| 同　三十六年 | 六、〇一二、七五三·五〇円 | 五四二、八五五·〇〇 | 三三四、〇九〇·〇〇 | 七、四〇〇·〇〇 | 一〇、五九四、四六七·〇〇 | 四、三二七、九〇二·五〇 | 二、六五六、一九五·〇〇 | 五三二、八〇〇·〇〇 | 八四、七三六、二九〇·〇〇 | 一〇五、六八〇、三一〇·〇〇 | 一七、四九六、五〇〇·〇〇 |
| 同　三十七年 | 四、四〇八、六二〇·五〇円 | 三三三、九三〇·〇〇 | 二二六、一六五·〇〇 | 四、一〇〇·〇〇 | 二〇、六三八、八三四·〇〇 | 二、二六三、六五二·五〇 | 一、四二七、六三〇·〇〇 | 一八二、九〇〇·〇〇 | 一〇一、九七四、七四〇·〇〇 | 一三二、六〇九、六九〇·〇〇 | 二二、五六六、五〇〇·〇〇 |
| 同　三十八年 | 三、〇三〇、〇八七·〇〇円 | 二二〇、八三〇·〇〇 | 一六九、〇八五·〇〇 | 四、一〇〇·〇〇 | 二五、七八七、八五九·五〇 | 一、三二七、二五二·五〇 | 九三七、一五五·〇〇 | 一三四、一〇〇·〇〇 | 一〇八、四二九、六三〇·〇〇 | 一四四、六二四、九〇〇·〇〇 | 二六、一三二、八〇〇·〇〇 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 二五〇、五六三、〇四〇・〇〇 | 二二八、五七〇、〇三一・〇〇 | 二二四、〇九六、七六六・〇〇 | 二三二、〇九四、三七七・〇〇 | 二三二、九二〇、五六三・〇〇 | 二六六、六二五、七三二・〇〇 | 三一三、七九〇、八一九・〇〇 |

| 種別 | 明治三十九年 | 同四十年 | 同四十一年 | 同四十二年 | 同四十三年 | 同四十四年 | 大正元年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 舊一圓券 | 二、〇二八、二六八・〇〇 | 一、四五九、〇八三・五〇 | 一、一四二、七九三・〇〇 | 九八二、九九一・五〇 | 九〇七、六三八・〇〇 | 八六四、九八六・〇〇 | 八三七、九〇四・〇〇 |
| 舊五圓券 | 一七二、三三〇・〇〇 | 一四三、三七五・〇〇 | 一三九、八六二・五〇 | 一一九、七八七・五〇 | 一一三、九二〇・〇〇 | 一〇八、二七七・五〇 | 一〇五、四六七・五〇 |
| 舊十圓券 | 一三九、二三五・〇〇 | 一三三、〇三五・〇〇 | 一一二、三四五・〇〇 | 一〇三、七七〇・〇〇 | 九六、二〇〇・〇〇 | 九〇、八三五・〇〇 | 八六、七七五・〇〇 |
| 舊百圓券 | 四、一〇〇・〇〇 | 三、九〇〇・〇〇 | 三、八〇〇・〇〇 | 二、九〇〇・〇〇 | 二、九〇〇・〇〇 | 二、八〇〇・〇〇 | 二、八〇〇・〇〇 |
| 改造一圓券 | 二六、一五三、九〇八・五〇 | 二六、七二〇、〇〇二・五〇 | 二四、六五二、五〇一・〇〇 | 二三、三五三、一六三・〇〇 | 二四、二二六、三一七・五〇 | 二五、六二四、六一七・五〇 | 二七、一五一、九四六・〇〇 |
| 改造五圓券 | 八七四、二三七・五〇 | 六六四、六三七・五〇 | 三五六、六〇五・〇〇 | 四八六、七六二・五〇 | 四三六、七二〇・〇〇 | 三九七、〇五〇・〇〇 | 三七六、二九二・五〇 |
| 改造十圓券 | 七〇九、三九五・〇〇 | 五三五、六三三・〇〇 | 四六四、四九〇・〇〇 | 三九九、四七〇・〇〇 | 三三四、〇四〇・〇〇 | 三三〇、九五五・〇〇 | 二六六、五三〇・〇〇 |
| 改造百圓券 | 一〇二、二〇〇・〇〇 | 七八、二〇〇・〇〇 | 五七、七〇〇・〇〇 | 四七、二〇〇・〇〇 | 三六、八〇〇・〇〇 | 二九、二〇〇・〇〇 | 二五、四〇〇・〇〇 |
| 甲五圓券 | 一一三、三五一、二六〇・〇〇 | 一二六、一六一、二二三・五〇 | 一一九、八〇九、一六〇・〇〇 | 一一五、九三三、一六七・五〇 | 九四、八七一、四七二・五〇 | 五四、八九二、五二七・五〇 | 三七、四三六、二三二・五〇 |
| 甲十圓券 | 一六四、六四五、二七〇・〇〇 | 一八四、四八二、〇九〇・〇〇 | 一七九、二〇〇、九一五・〇〇 | 一八三、五五六、九九〇・〇〇 | 二一一、八二九、五〇〇・〇〇 | 二三二、五四三、四九〇・〇〇 | 二四二、四一六、四三五・〇〇 |
| 甲百圓券 | 三三、五九七、九〇〇・〇〇 | 二九、五九二、七〇〇・〇〇 | 二六、六〇四、一〇〇・〇〇 | 二七、七七八、〇〇〇・〇〇 | 二九、二七七、二〇〇・〇〇 | 二九、一二四、〇〇〇・〇〇 | 三〇、七七一、三五〇・〇〇 |
| 乙五圓券 | — | — | — | — | 三九、四七三、二一〇・〇〇 | 八九、四〇〇、三五二・五〇 | 一〇九、四〇四、三六五・〇〇 |
| 合計 | 三四一、七六六、一六四・〇〇 | 三六九、九八四、一一一・〇〇 | 三五二、七三四、二七一・五〇 | 三五二、七六三、二〇一・〇〇 | 四〇一、六二四、九二八・〇〇 | 四三三、三九九、一一六・〇〇 | 四四八、九三二、七〇七・五〇 |

| 種別 | 大正二年 | 同三年 | 同四年 | 同五年 | 同六年 | 同七年 | 同八年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 舊一圓券 | 八一六、九七七・五〇 | 八〇〇、八三五・〇〇 | 七八七、八三七・五〇 | 七七〇、九一二・五〇 | 七六四、一七一・五〇 | 七六〇、〇九一・〇〇 | 七五六、二六六・〇〇 |
| 舊五圓券 | 一〇三、九三二・五〇 | 一〇一、二七七・五〇 | 九九、九二〇・〇〇 | 九八、六四二・五〇 | 九七、一三二・五〇 | 九六、五九〇・〇〇 | 九六、〇三〇・〇〇 |
| 舊十圓券 | 八四、六八五・〇〇 | 八二、三三五・〇〇 | 八〇、七三五・〇〇 | 七九、一六五・〇〇 | 七五、七九〇・〇〇 | 七五、〇三〇・〇〇 | 七四、二六〇・〇〇 |
| 舊百圓券 | 二、八〇〇・〇〇 | 二、八〇〇・〇〇 | 二、八〇〇・〇〇 | 二、八〇〇・〇〇 | 二、八〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 |
| 改造一圓券 | 二六、九二八、一三五・〇〇 | 二六、五三二、八一三・五〇 | 二七、六三一、六四五・五〇 | 三八、一七二、五一〇・五〇 | 四八、七四四、〇六五・五〇 | 四八、〇〇七、一六九・〇〇 | 三二、七〇五、八二四・〇〇 |
| 改造五圓券 | 三五五、八八五・〇〇 | 三四一、五四七・五〇 | 三三一、二七七・五〇 | 三二一、三七二・五〇 | 三一三、九二七・五〇 | 三〇九、〇一〇・〇〇 | 三〇四、九二七・五〇 |
| 改造十圓券 | 二六七、二三五・〇〇 | 二三三、四一五・〇〇 | 二四一、五八五・〇〇 | 二三一、二五五・〇〇 | 二二八、五三〇・〇〇 | 二二一、六二〇・〇〇 | 二〇七、八六五・〇〇 |
| 改造百圓券 | 二二、六〇〇・〇〇 | 一八、五〇〇・〇〇 | 一八、一〇〇・〇〇 | 一六、四〇〇・〇〇 | 一四、九〇〇・〇〇 | 一四、七〇〇・〇〇 | 一四、四〇〇・〇〇 |
| 甲五圓券 | 一八、三六六、四一五・〇〇 | 七、九〇九、八三五・〇〇 | 四、一九九、七二七・五〇 | 二、九三四、七八七・五〇 | 二、三六四、八八二・五〇 | 二、〇三九、三六七・五〇 | 一、八三八、五〇七・五〇 |
| 甲十圓券 | 二三二、九〇二、二二五・〇〇 | 二〇六、一二一、七三五・〇〇 | 九九、四九七、三四〇・〇〇 | 六一、九九五、三九五・〇〇 | 七七、五六二、二六五・〇〇 | 六三、四五八、一五〇・〇〇 | 六三、七二九、八三五・〇〇 |
| 甲二十圓券 | — | — | — | — | 二六、六九八、五二〇・〇〇 | 八五、四四四、三八〇・〇〇 | 二二六、二六六、五六〇・〇〇 |
| 甲百圓券 | 二六、〇五一、三五〇・〇〇 | 二四、八二〇、九五〇・〇〇 | 三〇、七一五、六五〇・〇〇 | 三三、四三三、二〇〇・〇〇 | 九六、四二八、七〇〇・〇〇 | 一五六、〇八三、七五〇・〇〇 | 三二七、九〇一、九〇〇・〇〇 |
| 乙五圓券 | 一三〇、四八八、四五七・五〇 | 一一八、六二四、〇三二・五〇 | 一三〇、五四八、二八二・五〇 | 一六七、一〇〇、九〇七・五〇 | 一三八、六九三、三八五・〇〇 | 八六、七三一、五五〇・〇〇 | 三七、八一六、六六二・五〇 |
| 乙十圓券 | — | — | 一三五、九八三、一一〇・〇〇 | 二六九、六一八、四五五・〇〇 | 三四五、五三〇、五三〇・〇〇 | 四九八、六〇九、一九〇・〇〇 | 六五七、六二五、六三五・〇〇 |
| 丙五圓券 | — | — | — | 六、四四八、六〇七・五〇 | 九三、八七二、二五七・五〇 | 二〇二、八七五、三八七・五〇 | 二九六、七七九、一〇〇・〇〇 |
| 合計 | 四二六、三六八、七〇七・五〇 | 三八五、五八九、〇九六・〇〇 | 四三〇、一三八、〇一〇・〇〇 | 六〇一、三三四、四一〇・五〇 | 八三一、三七二、八五七・〇〇 | 一、一四四、七三九、〇七五・〇〇 | 一、五五五、一〇〇、三三二・五〇 |





| 種別 | 大正九年 | 同十年 | 同十一年 | 同十二年 | 同十三年 | 同十四年 | 昭和元年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 舊一圓券 | 七五四、四三八・五〇 | 七三二、二七一・五〇 | 七五〇、二八六・五〇 | 七四八、九二七・五〇 | 七四七、五六二・〇〇 | 七四六、一六八・五〇 | 七四四、〇五七・五〇 |
| 舊五圓券 | 九五、七三〇・〇〇 | 九五、〇八五・〇〇 | 九四、五四五・〇〇 | 九四、一六五・〇〇 | 九三、九三二・五〇 | 九三、六四七・五〇 | 九三、三六二・五〇 |
| 舊十圓券 | 七四、〇三〇・〇〇 | 七三、五六〇・〇〇 | 七三、二六〇・〇〇 | 七二、七八〇・〇〇 | 七二、四九〇・〇〇 | 七二、一二〇・〇〇 | 七一、三三〇・〇〇 |
| 舊百圓券 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 | 二、七〇〇・〇〇 |
| 改造一圓券 | 三三、六一四、四五四・五〇 | 三一、四五七、四七九・〇〇 | 三〇、四八七、四一三・五〇 | 四九、〇六八、六七二・〇〇 | 四六、一四七、九九三・五〇 | 四四、三五四、四五五・〇〇 | 四二、六三九、二六五・〇〇 |
| 改造五圓券 | 三〇二、八三五・〇〇 | 二九八、四一五・〇〇 | 二九四、八〇二・五〇 | 二九三、二五七・五〇 | 二九一、四三二・五〇 | 二八九、八一〇・〇〇 | 二八八、四三〇・〇〇 |
| 改造十圓券 | 二〇五、五六五・〇〇 | 二〇二、一四五・〇〇 | 一九八、九一五・〇〇 | 一九六、五七五・〇〇 | 一九五、二七五・〇〇 | 一九三、六八五・〇〇 | 一九一、〇六五・〇〇 |
| 改造百圓券 | 一四、四〇〇・〇〇 | 一四、二〇〇・〇〇 | 一三、六〇〇・〇〇 | 一三、二〇〇・〇〇 | 一三、七〇〇・〇〇 | 一三、六〇〇・〇〇 | 一三、五〇〇・〇〇 |
| 甲五圓券 | 一、六九八、八一五・〇〇 | 一、五八九、一八二・五〇 | 一、四九九、六三〇・〇〇 | 一、四三六、二七五・〇〇 | 一、三八二、一〇七・五〇 | 一、三三九、九〇三・五〇 | 一、三〇一、七一七・五〇 |
| 甲十圓券 | 一一、四〇六、四二五・〇〇 | 三、三五六、三九五・〇〇 | 三、九一九、三四五・〇〇 | 三、三〇六、八四〇・〇〇 | 二、九〇六、九八〇・〇〇 | 二、六三五、九七五・〇〇 | 二、四〇八、八三五・〇〇 |
| 甲二十圓券 | 一六四、三八二、九四〇・〇〇 | 一八一、九九五、九九〇・〇〇 | 一七〇、三二五、七七〇・〇〇 | 二〇四、三八七、一九〇・〇〇 | 一七七、三七七、六三〇・〇〇 | 一七二、二二一、〇六〇・〇〇 | 一四〇、七九六、三三〇・〇〇 |
| 甲百圓券 | 二三三、三三八、五五〇・〇〇 | 二八、九六七、九五〇・〇〇 | 二八、九八〇、〇五〇・〇〇 | 二七〇、二六三、一五〇・〇〇 | 二三〇、七四一、一五〇・〇〇 | 二四六、九五〇、三〇〇・〇〇 | 二三四、七四二、三五〇・〇〇 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 乙五圓券 | 三、〇七〇、四六五・〇〇円 | 五、五九五、五六五・〇〇円 | 三、六一八、二二二・五〇円 | 二、八六三、六六二・五〇円 | 二、四一五、〇六二・五〇円 | 二、一五八、一三五・〇〇円 | 一、九四三、〇七五・〇〇円 |
| 乙十圓券 | 六六六、二〇〇、八九五・〇〇 | 七六七、七〇七、〇七五・〇〇 | 八〇七、六六六、一九五・〇〇 | 八七三、一三二、一三五・五〇 | 九〇五、四三五、八一五・〇〇 | 九〇四、二七八、二七〇・〇〇 | 九〇二、九〇五、六九五・〇〇 |
| 丙五圓券 | 三〇五、〇七八、四四二・五〇 | 三一二、四三七、七九五・〇〇 | 三〇〇、二七七、三三二・五〇 | 二九七、七一七、九八二・五〇 | 二七四、四九二、三九五・〇〇 | 二五六、四五五、一三〇・〇〇 | 二四一、五六七、一七五・〇〇 |
| 合計 | 一、四三九、二四〇、六八五・五〇 | 一、五四六、五四五、八〇八・〇〇 | 一、五五八、四〇二、二四七・五〇 | 一、七〇三、五九六、五三二・〇〇 | 一、六六二、三一五、三三五・五〇 | 一、六三一、七八三、九五八・五〇 | 一、五六九、七〇八、一六七・五〇 |

## （三）日本銀行兌換券準備別發行高表

| 年月末 | 月末日正貨準備發行現在高 | 月末日保證發行現在高 | 月末日發行現在高合計 | 前年同期に比較增減(△) | 月末保證發行餘力 | 月末制限外發行高 | 各年平均發行高 | 前年に比較增減(△) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治一八年六月 | 四、〇五七、九九六円 | —円 | 四、〇五七、九九六円 | —円 | —円 | —円 | 円 | 円 |
| 一二 | 三、三一一、四六一 | 六四四、七〇〇 | 三、九五六、一六一 | — | — | — | ? | — |
| 一九　六 | 一一、〇六〇、八九五 | 七、九八三、七二五 | 一九、〇四四、六二〇 | 一四、九八六、六二四 | — | — | | |
| 一二 | 二三、八五五、二三七 | 一五、六九四、五七八 | 三九、五四九、八一五 | 三五、五九三、六五四 | — | — | ? | — |
| 二〇　六 | 二四、三九二、六六八 | 一九、四〇八、五三二 | 四三、八〇一、二〇〇 | 二四、七五六、五八〇 | — | — | | |
| 一二 | 三一、五七九、九〇四 | 二一、八七四、八九九 | 五三、四五四、八〇三 | 一三、九〇四、九八八 | — | — | ? | — |
| 二一　六 | 三〇、五〇八、八一八 | 二〇、一九九、八七二 | 五〇、七〇八、六九〇 | 六、九〇七、四九〇 | — | — | | |
| 一二 | 四五、〇三三、八七一 | 二〇、七四七、七〇九 | 五六、七七〇、五八〇 | 一三、三一五、七七七 | — | — | ? | — |
| 二二　六 | 四六、〇二八、四九六 | 一八、四七一、三五三 | 六四、四九九、八四九 | 一三、七九一、一五九 | — | — | | |
| 一二 | 五七、四〇九、二九九 | 二一、六九九、三五三 | 七九、一〇八、六五二 | 一三、三三八、〇七二 | — | — | ? | — |
| 二三　六 | 五〇、七二六、八三七 | 二二、一五九、三五三 | 七二、八八六、一九〇 | 八、三八六、三四一 | — | — | | |
| 一二 | 四四、六三三、四一三 | 五八、三〇九、三五三 | 一〇二、九三二、七六六 | 二三、八二三、一一四 | — | — | ? | — |
| 二四　六 | 五三、三二四、一七五 | 四四、〇九八、六二一 | 九七、三三三、七八六 | 二四、四三六、五九六 | — | — | | |
| 一二 | 六三、一七八、三三三 | 五二、五五六、二一二 | 一一五、七三四、五四五 | 一二、八〇二、七七九 | — | — | ? | — |





| 年月末 | 月末日正貨準備發行現在高 | 月末日保證發行現在高 | 月末日發行現在高合計 | 前年同期に比較增減(△) | 月末保證發行餘力 | 月末制限外發行高 | 各年平均發行高 | 前年に比較增減(△) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二五　六 | 六五、一〇六、〇四八 | 四〇、二三七、四六四 | 一〇五、三四三、五一二 | 八、〇三〇、七二六 | — | — | | |
| 一二 | 五一、一五八、二六五 | 七四、六八五、〇九八 | 一二五、八四三、三六三 | 一〇、一〇八、八一八 | — | — | ? | — |
| 二六　六 | 八七、五〇六、〇二四 | 三六、〇三五、七一三 | 一二三、五四一、七三七 | 一八、一九八、二二五 | ? | — | | |
| 一二 | 八五、九二八、五一六 | 六三、七三四、六一三 | 一四八、六六三、一二八 | 二二、八一九、七六五 | 一二三、九三三 | — | 一二九、七三二、八二四 | — |
| 二七　六 | 七九、六三二、九八八 | 六二、一〇三、三七〇 | 一四一、七三六、三五八 | 一八、一九四、六二一 | ? | — | | |
| 一二 | 八一、七一八、二九一 | 六八、〇九五、四〇九 | 一四九、八一三、七〇〇 | 一、一五〇、五七二 | — | 四、一九七、五四九 | 一三九、五八七、五一三 | 九、八五四、六八九 |
| 二八　六 | 六四、八八五、一四九 | 七八、一九八、五一四 | 一四三、〇八三、六六三 | 一、三四七、三〇五 | — | 一三、八二一、四九七 | | |
| 一二 | 六〇、三七〇、七九七 | 一一九、九六六、〇一八 | 一八〇、三三六、八一五 | 三〇、五二三、一一五 | — | 五五、〇八三、一四八 | 一四三、七一二、八五八 | 四、一二五、三四五 |
| 二九　六 | 一〇七、一八一、〇七九 | 六四、五一三、八〇〇 | 一七一、六九四、八七九 | 二八、六一一、二一六 | ? | — | | |
| 一二 | 一三一、七三〇、一九二 | 六五、五八三、七〇四 | 一九八、三一三、八九六 | 一七、九七七、〇八一 | 三、五九八、〇六四 | — | 一六八、二一三、九六三 | 二四、五〇一、一〇五 |
| 三〇　六 | 一一九、四三七、〇六四 | 七五、八六五、六〇五 | 一九五、三〇二、六六九 | 二三、六〇七、七九〇 | 三九三、九七〇 | — | | |
| 一二 | 九八、二六一、四七三 | 一三七、九六七、五八三 | 二二六、二二九、〇五八 | 二七、九一五、一六二 | — | 四七、三一二、六五四 | 一八九、三六七、八八二 | 二一、一五三、九一九 |
| 三一　六 | 六三、八二〇、三八六 | 一一六、一九九、五四四 | 一八〇、〇一九、九三〇 | △一五、二八二、七三九 | — | 三三、四四六、四八一 | | |
| 一二 | 八九、五七〇、二三九 | 一〇七、八二九、六六二 | 一九七、三九九、九〇一 | △二八、八二九、一五七 | — | 二四、〇一六、五六九 | 一八〇、四八七、八四〇 | △八、八八〇、〇四二 |
| 三二　六 | 一〇一、三一一、九三三 | 九一、二六〇、四二八 | 一九二、五七二、三六一 | 一二、五五二、四三一 | 二六、〇七二、四八一 | — | | |
| 一二 | 一一〇、一四二、一六九 | 一四〇、四一九、八七一 | 二五〇、五六二、〇四〇 | 五三、一六二、一三九 | — | 二〇、七二二、八三五 | 一九四、三六六、三八二 | 一三、八七八、五四二 |
| 三三　六 | 七九、〇三三、六三三 | 一三六、七四八、一〇六 | 二一五、七七〇、七三八 | 二三、一九八、三七七 | — | 一六、七四八、一〇六 | | |
| 一二 | 六七、三四九、一三九 | 一六一、二二〇、九〇三 | 二二八、五七〇、〇三三 | △二一、九九二、〇〇八 | — | 四一、二二〇、九〇三 | 二〇五、七三三、二三八 | 一一、三六六、八四六 |
| 三四　六 | 六一、八四八、三四二 | 一三五、一五一、三八七 | 一九六、九九九、七二九 | △一八、七七一、〇〇九 | — | 一五、一五一、三八七 | | |
| 一二 | 七一、三五八、三七一 | 一四二、七三八、三九五 | 二一四、〇九六、七六六 | △一四、四七三、二六六 | — | 三、七三八、三九五 | 一八七、六六〇、二四三 | △一八、〇七一、九九五 |
| 三五　六 | 七七、五四七、七四一 | 一一八、四一五、三八三 | 一九五、九六三、一二四 | △一、〇三六、六〇五 | 一、五八四、六一七 | — | | |
| 一二 | 一〇九、一一八、八一七 | 一二二、九七五、五六〇 | 二三二、〇九四、三七七 | 一七、九九七、六一一 | — | 二、九七五、五六〇 | 一八七、一五三、六一九 | △五〇六、六二四 |
| 三六　六 | 一一三、〇〇九、六二三 | 九七、六五五、七六五 | 二一〇、六六五、三八七 | 一四、七〇二、二六三 | 三、三四四、二三五 | — | | |
| 一二 | 一一六、九六二、一八四 | 一一五、九五八、三七九 | 二三二、九二〇、五六三 | 八二六、一八六 | 四、〇四一、六〇二 | — | 二〇一、八四七、六九二 | 一四、六九四、〇七三 |

| 年 | 月 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三七 | 六 | 九二、七九三、八三四 | 一三九、二七八、九二三 | 二三二、〇七二、七五七 | 二、四〇七、三七〇 | — | 一九、二七八、九二三 | | |
| | 一二 | 八三、五八一、三三六 | 二〇三、〇四四、五三六 | 二八六、六二五、七五二 | 五三、七〇五、一八九 | — | 八三、〇四四、五三六 | 二一九、八七一、九八九 | 一八、〇三四、二九七 |
| 三八 | 六 | 一〇七、七三三、〇一〇 | 一三七、七八一、四六四 | 二六五、五一四、四七四 | 三三、四四一、七一七 | — | 三七、七八一、四六四 | | |
| | 一二 | 一一五、五九五、〇三六 | 一九七、一九五、七九三 | 三一二、七九〇、八一九 | 二六、一六五、〇六七 | — | 七七、一九五、七九三 | 二五〇、三五〇、四三一 | 三〇、四七八、四四二 |
| 三九 | 六 | 一四三、六三一、七九七 | 一三〇、九五四、四八二 | 二七四、五七六、二七九 | 九、〇六一、八〇五 | — | 一〇、九五四、四八二 | | |
| | 一二 | 一四七、二〇二、一三五 | 一九四、五六四、〇三九 | 三四一、七六六、一六四 | 二八、九七五、三四五 | — | 七四、五六四、〇三九 | 二六二、五六〇、八九六 | 一三、二一〇、四六五 |
| 四〇 | 六 | 一四八、〇八一、九三六 | 一八四、七七三、九七〇 | 三三二、八五五、九〇六 | 五八、二七九、六二七 | — | 六四、七七三、九七〇 | | |
| | 一二 | 一六一、七四二、一三一 | 二〇八、二四一、九八〇 | 三六九、九八四、一一二 | 二八、二一七、九四七 | — | 八八、二四一、九八〇 | 三〇四、四三二、八三一 | 四一、八七一、九三五 |
| 四一 | 六 | 一五一、〇六四、八三〇 | 一五一、六四二、二九一 | 三〇二、七〇七、一三一 | △三〇、一四八、七八五 | — | 三一、六四二、二九一 | | |
| | 一二 | 一六九、五〇四、五一四 | 一八三、二三九、七五八 | 三五二、七三四、二七二 | △一七、二四九、八三九 | — | 六三、二三九、七五八 | 二六四、〇八三、七〇五 | △二〇、三四九、一三六 |
| 四二 | 六 | 二〇〇、七五七、〇三〇 | 一〇三、九八二、九二二 | 三〇四、七三九、九五一 | 二、〇三二、八三〇 | 一六、〇一七、〇七九 | — | | |
| | 一二 | 二一七、八四三、二七五 | 一三四、九一九、九二六 | 三五二、七六三、二〇一 | 二八、九二九 | — | 一四、九一九、九二六 | 二七七、九七六、三三〇 | △六、一〇七、一七五 |
| 四三 | 六 | 二四二、六五〇、五三五 | 九四、五八〇、一九七 | 三三七、二三〇、七三二 | 三二、四九〇、七八一 | 二五、四一九、八〇三 | — | | |
| | 一二 | 二三三、三八二、四六五 | 一七九、二四二、四六三 | 四〇一、六二四、九二八 | 四八、八六一、七二七 | — | 五九、二四二、四六三 | 三〇三、七三一、一四一 | 二五、七五四、六一一 |
| 四四 | 六 | 二一七、五六七、五〇〇 | 一四〇、六〇九、一一三 | 三五八、一七六、六三三 | 二〇、九四五、八九〇 | — | 二〇、六〇九、一一三 | | |
| | 一二 | 二二九、一五四、二二〇 | 二〇四、二四四、八九六 | 四三三、三九九、一一六 | 三一、七七四、一八八 | — | 八四、二四四、八九六 | 三一八、一八五、二六八 | 二四、四五四、一二七 |
| 大正元 | 六 | 二三〇、〇七八、七〇〇 | 一六一、七三五、九四七 | 三八一、八〇四、六四七 | 二三、六二八、〇三五 | — | 四一、七三五、九四七 | | |
| | 一二 | 二四七、〇三三、三八〇 | 二〇一、八九八、三三八 | 四四八、九二二、七〇八 | 一三、五三三、五九二 | — | 八一、八九八、三三八 | 三四七、四八〇、六八二 | 一九、二九三、四一四 |
| 二 | 六 | 二一九、五八三、八〇〇 | 一五一、四一八、九九一 | 三七一、〇〇二、七九一 | △一〇、八〇一、八五六 | — | 三一、四一八、九九一 | | |
| | 一二 | 二三四、三六五、八八〇 | 二〇三、〇三三、八二七 | 四二六、三八八、七〇七 | △三三、五三三、〇〇一 | — | 八三、〇三三、八二七 | 三三四、八五九、九四八 | △一三、六三〇、七三四 |
| 三 | 六 | 二三〇、四一六、五七五 | 一四一、八五四、二三〇 | 三六二、二七〇、八二五 | △八、七三二、九六六 | — | 二一、八五四、二三〇 | | |
| | 一二 | 二一八、二三七、〇〇〇 | 一六七、三五三、〇九六 | 三八五、五八九、〇九六 | △四〇、七九九、六一一 | — | 四七、三五三、〇九六 | 三二三、三五六、三九九 | △一九、三三五、三四九 |
| 四 | 六 | 二一七、七六八、八〇〇 | 一一九、六七八、六六一 | 三三七、四四七、四六一 | △二四、八二三、三六四 | 三三、三三九 | — | | |
| | 一二 | 二四八、四一七、八〇〇 | 一八一、七三〇、三一一 | 四三〇、一三八、〇二一 | 四四、五四八、九一五 | — | 六一、七三〇、三一一 | 三〇七、八九三、二一三 | △七、六四五、三八六 |
| 五 | 六 | 二七〇、六一七、五三〇 | 一五八、七一三、一五四 | 四二九、三三〇、六七四 | 九一、八八三、二二三 | — | 三八、七一三、一五四 | | |
| | 一二 | 四一〇、五一九、〇〇〇 | 一九〇、七〇五、四一一 | 六〇一、二三四、四一一 | 一七一、〇八六、四〇〇 | — | 七〇、七〇五、四一一 | 三六五、八〇六、七九一 | 七七、九一三、五七八 |
| 六 | 六 | 四八六、五三〇、〇六〇 | 一二九、三九七、九八七 | 六〇五、九一八、〇四七 | 一七六、三八七、三七三 | 六〇二、〇一三 | — | | |
| | 一二 | 六四九、六一八、一四〇 | 一八一、七五三、七一七 | 八三一、三七一、八五七 | 二三〇、一四七、四四六 | — | 六一、七五三、七一七 | 五四二、四四九、一三三 | 一五八、六四三、三四一 |
| 七 | 六 | 六四五、三九八、〇五〇 | 一六四、〇七〇、三三三 | 八〇九、四六八、三七三 | 二〇三、五五〇、三三六 | — | 四四、〇七〇、三三三 | | |
| | 一二 | 七一三、九二五、二九〇 | 四三一、八一三、七八五 | 一、一四四、七三九、〇七五 | 三一三、三六七、二一八 | — | 三一一、八一三、七八五 | 七四五、五八一、四三〇 | 二〇五、一三一、二六八 |
| 八 | 六 | 七〇五、三七二、五七〇 | 三七四、九四二、二七〇 | 一、〇八〇、三一四、八四〇 | 二七〇、八四六、四六七 | — | 二五四、九四二、二七〇 | | |
| | 一二 | 九五一、九七六、〇四〇 | 六〇三、一二四、四八二 | 一、五五五、一〇〇、五三三 | 四一〇、三六一、四四七 | — | 四八三、一二四、四八二 | 九七八、八四三、八三七 | 二三三、二六二、四一七 |
| 九 | 六 | 九七九、三〇三、二七〇 | 三六九、七六二、一七九 | 一、三四九、〇六五、四四九 | 二六八、七五〇、六〇九 | — | 二四九、七六二、一七九 | | |
| | 一二 | 一、二四六、六八八、八四〇 | 一九二、五五一、八四五 | 一、四三九、二四〇、六八五 | △一一五、八五九、八三七 | — | 七二、五五一、八四五 | 一、一九一、八八四、一〇〇 | 二二三、〇四〇、二六五 |
| 一〇 | 六 | 一、二二八、八四三、二〇〇 | — | 一、二二八、八四三、二〇〇 | △一三〇、三三三、二四九 | 一二〇、〇〇〇、〇〇〇 | — | | |
| | 一二 | 一、二四五、五七四、〇三五 | 三〇〇、九七一、七七三 | 一、五四六、五四五、八〇八 | 一〇七、三〇三、一三三 | — | 一八〇、九七一、七七三 | 一、一一七、三三六、六五七 | △七四、五四七、四四三 |
| 一一 | 六 | 一、二三三、四二四、八二〇 | 一三一、一五三、六五三 | 一、三四四、五七八、四七三 | 一二三、七三三、二七二 | — | 一一、一五三、六五三 | | |
| | 一二 | 一、〇六三、八八六、八二〇 | 四九四、五二五、四二七 | 一、五五八、四〇二、二四七 | 一一、八五六、四三九 | — | 三七四、五二五、四二七 | 一、一七三、三三三、三六七 | 五七、九八五、七〇〇 |
| 一二 | 六 | 一、〇五三、二七九、二二〇 | 三一八、〇一四、五三二 | 一、三七一、二九三、七四一 | 二六、七一五、二六九 | — | 一九八、〇一四、五三二 | | |
| | 一二 | 一、〇五七、四七一、九七〇 | 六四六、一三四、五四二 | 一、七〇三、五九六、五一三 | 一四五、一九四、二六五 | — | 五二六、一三四、五四二 | 一、二四三、二二一、八三二 | 六六、八八九、四六九 |
| 一三 | 六 | 一、〇六一、四七〇、三六五 | 三二八、二四八、一七〇 | 一、三八九、七一八、五三五 | 一八、四二四、七九四 | — | 二〇八、二四八、一七〇 | | |
| | 一二 | 一、〇五九、〇二四、〇〇〇 | 六〇三、二九一、二二五 | 一、六六二、三一五、二二五 | △四一、二六一、二六八 | — | 四八三、二九一、二二五 | 一、二五九、九六一、五九三 | 一七、七四九、七六二 |
| 一四 | 六 | 一、〇五九、〇〇一、九七〇 | 三六九、〇五七、八六八 | 一、四二八、〇五九、八三八 | 三六、三四一、三〇三 | — | 二四九、〇五七、八六八 | | |
| | 一二 | 一、〇五六、九九八、七四五 | 五七四、七八五、二一三 | 一、六三一、七八三、九五八 | △三〇、五三一、二六七 | — | 四五四、七八五、二一三 | 一、二三七、六〇九、五六〇 | △三二、三五二、〇三五 |
| 昭和元 | 六 | 一、〇五八、一二五、九〇五 | 三二九、八八四、七六三 | 一、三八八、〇一〇、六六八 | △四〇、〇四九、一七〇 | — | 二〇九、八八四、七六四 | | |
| | 一二 | 一、〇五八、一三二、九一五 | 五一一、五七六、二五三 | 一、五六九、七〇八、一六七 | △六二、〇七五、七九一 | — | 三九一、五七六、二五三 | 一、一八九、四五三、六一〇 | △三八、一三五、九五〇 |

(備考) 大正三年以降の平均發行高は各年の平均高を示し、同年以前の分は六月・十二月各月の平均高を示す。

## 第二項　制限外發行

明治二十一年八月兌換銀行券條例の改正に依り、日本銀行は正貨及所定の保證準備に依る發行の外に、尙ほ市場の景況に依り流通貨幣の增加を必要と認むるときは、大藏大臣の許可を得て、政府發行公債證書、大藏省證券其の他確實なる證券又は商業手形を保證とし、一箇年百分の五を下らざる割合を以て發行稅を納付して、兌換銀行券を發行することを得ることとなれり。而して當初其の發行手續に就ては別段規定するものなく、唯慣行に依りて事務を取扱ひ來たりしが、日本銀行は其の後內規及兌換銀行券取扱順序の制定に際し、大要左の如く之を規定せり。

（一）制限外發行を爲さんとするときは、重役集會に於て其の極度額及期限を定め、監事集會の承認を經て大藏大臣の認可を受くべし。

（二）發行稅は發行當日より還收當日迄の日數と、其の發行高の積數に依り之を算出すべし。

今實際に制限外發行を爲したる沿革を見るに、明治二十二年初頭水害の影響を蒙り米價暴騰し、諸物價亦之に隨ひて騰貴して、自然金融逼迫し、株式市場亦動搖を來たしたるを以て、日本銀行は之が救濟の爲め明治二十三年二月始めて五百萬圓を極度とする制限外發行の許可を得、三月三日之を發行したるを最初とす。爾後大正十五年末に至る迄、制限外發行を稟請し、又は其の增額發行若くは期間延長を上請して認可を得たること前後百三十餘回に及び、實際發行したる年は、明治二十一年乃至二十六年には二十三年のみなりしが、明治二十七年乃至同四十年には明治三十六年を除き、各年悉く發行せざるはなく、殊に三十八年乃至四十年は殆んど連續的の發行を見、其の後に於ても大正末年迄發行絶無の年は全然なく、何れの年に於ても月末には之が出現を見、年末には往々數億圓に達するの狀態なり。每回の認可日附·發行極度額·稅率及發行理由、竝に各年月末の實際發行高を表示すれば左の如し。尙ほ兌換券發行稅に就ては第五編內國稅第二章及第十一編銀行第二章を參照すべし。

（一）兌換銀行券制限外發行認可一覽表

| 大藏大臣認可（又は令達）年月日 | 發行認可額 | 期限 | 年稅率 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 明治二三・二・二六 | 千円 五、〇〇〇、〇〇〇 | 凡五箇月 | 百分の五 | 米價暴騰の結果一般の物價に影響したると株式市場紊亂の爲金融逼迫 |
| 二七・一二・二〇 | 二〇、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 日淸戰役の結果金融逼迫 |
| 二八・八・三一 | 二三、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　一〇・二六 | 二六、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　三一 | 二九、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　一一・二 | 三二、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　三〇 | 三七、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　一二・一四 | 四二、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 日淸戰役の影響及年末資金需要 |
| 〃　二三 | 四七、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　二六 | 五二、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 〃　二八 | 六〇、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 |
| 二九・六・二〇 | 二五、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | （回收濟に付認可取消の旨令達） |
| 三〇・七・一六 | | 同 | 上 | 金融逼迫資金需要 |
| 〃　八・一二 | | 百分の六 | 上 | （八月十一日以降利率改定） |
| 〃　一〇・二三 | 三〇、〇〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 金融一層繁忙に付發行最高額增加 |
| 〃　三〇 | | 百分の七 | 上 | （十一月一日以降利率改定） |

（同日附指令）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 明治三〇・一一・四 | 千円 | 三五、〇〇〇 | 百分の七 | 上 | 金融一層繁忙に付發行最高額增加 | |
| 〃　一二・二四 | | 四五、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | |
| 〃　一二・二七 | | 五五、〇〇〇 | 同 | 上 | 同上 | |
| 三一・九・一五 | | | | | （回收濟に付認可取消の旨令達） | |
| 〃　一〇・一二 | | 一〇、〇〇〇 | 三二年三月末日迄 | 百分の五 | 年末に近づくに隨ひ資金需要 | |
| 〃　一二・二六 | | 一五、〇〇〇 | 同　二・二末日迄 | 同 | 年末及舊節季に際し資金需要に付前項一千萬圓の外本項金額追加 | |
| 三二・一二・二二 | | 二〇、〇〇〇 | 同　三・二末日迄 | 上 | 年末資金需要 | |
| 〃　二八 | | 二五、〇〇〇 | 同 | 上 | 發行最高額增加 | |
| 三三・三・二七 | | 一〇、〇〇〇 | 同　四・末日迄 | 上 | 資金需要 | |
| 〃　三・三一 | | 一一、〇〇〇 | 同 | 上 | 發行最高額增加 | |
| 〃　四・一八 | | | | | （稅率改定） | |
| 〃　〃 | | 一一、〇〇〇 | 同　五・末日迄 | 百分の七 | 期限延長 | |
| 〃　〃 | | 一五、〇〇〇 | 同　七・末日迄 | 百分の八 | 生絲時季にて資金需要 | |
| 〃　〃 | | 三〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 發行最高額增加 | |
| 〃　六・二一 | | | | | 期限延長 | |
| 〃　〃 | | 一一、〇〇〇 | 三三・五・末日迄 | 百分の七 | 期限延長 | |
| 〃　〃 | | 一五、〇〇〇 | 同　七・末日迄 | 百分の八 | 發行最高額增加 | |
| 〃　〃 | | 三〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 期限延長 | |
| 〃　七・三一 | | 三〇、〇〇〇 | 三三・九・末日迄 | 上 | 十一月末日迄の期限延長請願に對し十月末日迄認可 | |
| 〃　九・二七 | | 三〇、〇〇〇 | 三三・一〇・末日迄 | 上 | 期限延長 | |
| 〃　一〇・二三 | | 三〇、〇〇〇 | 三三・一二・末日迄 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　一二・二八 | | 三〇、〇〇〇 | 三四・三・末日迄 | 上 | 前項三千萬圓の外本項金額追加 | |
| 〃　〃 | | 一五、〇〇〇 | 三四・一・末日迄 | 上 | 一千萬圓を限り期限延長 | |
| 〃　〃 | | 一〇、〇〇〇 | 三四・四・末日迄 | 上 | 期限延長 | |
| 三四・三・三〇 | | 一〇、〇〇〇 | 三四・五・末日迄 | 上 | 期限延長と同時に發行最高額增加 | |
| 〃　四・二九 | | 一〇、〇〇〇 | 三四・六・末日迄 | 上 | 期限延長 | |
| 〃　五・二九 | | 一五、〇〇〇 | 三四・九・末日迄 | 上 | 發行最高額增加 | |
| 〃　六・二九 | | 二〇、〇〇〇 | 同 | 上 | | |
| 〃　〃 | | | | | | |





| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 三四・九・三〇 | | 二〇、〇〇〇 | 三四・一一・末日迄 | 同 | 期限延長 | |
| 〃　一一・三〇 | | 三〇、〇〇〇 | 自三四・一二・一日至三五・二・末日 | 同 | 民間資金の需要及政府貸上金增加の見込 | |
| 三五・三・一 | | 一五、〇〇〇 | 自三五・三・一日至同　四・末日 | 同 | | |
| 〃　一二・二七 | | 五、〇〇〇 | 自三五・一二・三〇日至三六・一・一二日 | 百分の五 | 大節季資金需要 | |
| 三七・二・八 | | 二〇、〇〇〇 | 當分 | 同 | 日露時局の必要及舊節季資金需要 | |
| 〃　六・一三 | | 三〇、〇〇〇 | 同（以下發行期制限の定なきものは當分の期間發行せるものとす） | 上 | 軍事費及市場資金需要 | |
| 〃　二〇 | | 四五、〇〇〇 | 同 | 上 | 軍事費支辨の爲貸上金增加に付發行最高額增加 | |
| 〃　一二・一 | | 六〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 軍事費支辨の爲貸上金增加及年末資金需要に付發行最高額增加 | |
| 〃　一二・二三 | | 七五、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　一二・二七 | | 九〇、〇〇〇 | 同 | 百分の六 | （稅率改定） | |
| 大正二・一・六 | | 一五〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 爲替資金及市場資金の需要增加 | |
| 七・九・二六 | | 三〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 一一・二・一五 | | 三〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同上（三千萬圓增加し年末限り） | |
| 〃　一二・三〇 | | 三三〇、〇〇〇 | 同 | 百分の七 | （稅率改定） | |
| 八・一一・二〇 | | | | | 市場資金の需要增加 | |
| 〃　一二・二五 | | 五〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　三〇 | | 五五〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 一〇・一二・二六 | | 二〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 一一・一・一七 | | 一〇〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　六・二七 | | 五〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　八・二九 | | 五〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　九・二九 | | 八〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |
| 〃　一〇・二八 | | 五〇、〇〇〇 | 同 | 上 | 同 | 上 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大正一一年・一一月・二八日 | 五〇、〇〇〇千円 | 百分の七 | 同上 |
| 〃　〃　三〇 | 八五、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　一二・一四 | 四〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二八 | 四五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 一二・一・二三 | 一六〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　二・二六 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　三・二八 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　四・二八 | 五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　三〇 | 八〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　五・二九 | 五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　三一 | 七〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　六・二二 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二八 | 二二〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　七・二三 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　三一 | 一三〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　八・二二 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二九 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　九・一〇 | 二五〇、〇〇〇 | 同上 | 市場資金の需要増加に加ふるに震災に依り更に資金需要増加 |
| 〃　〃　二九 | 三五〇、〇〇〇 | 同上 | 引續き資金の需要増加 |
| 〃　一二・二六 | 五五〇、〇〇〇 | 同上 | 年末に際し市場資金需要増加の見込に付増額 |
| 一三・五・二六 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 市場資金の需要増加 |
| 〃　六・二八 | 二三〇、〇〇〇 | 同上 | 資金需要更に増加 |
| 〃　七・一一 | 五〇、〇〇〇 | 同上 | 市場資金の需要増加 |
| 〃　〃　二一 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |





| | | | |
|---|---|---|---|
| 〃　〃　三一 | 一三〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　八・一一 | 五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　一三 | 八〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二〇 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　三〇 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　九・二二 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二九 | 一三〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　一〇・二七 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二九 | 二〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　一一・二六 | 二〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　一二・一六 | 三〇〇、〇〇〇 | 同上 | 年末市場資金の需要増加 |
| 〃　〃　二五 | 五五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 一四・二・二四 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 市場資金の需要増加 |
| 〃　三・二六 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　四・二七 | 一〇〇、〇〇〇 | 百分の六 | 同上 |
| 〃　〃　三〇 | 一三〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　五・二九 | 五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　三〇 | 八〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　六・一三 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　六・二三 | 二五〇、〇〇〇 | 百分の七 | 同上 |
| 〃　〃　三〇 | 二八〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　七・二一 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　〃　二九 | 一五〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |
| 〃　八・二四 | 一〇〇、〇〇〇 | 同上 | 同上 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大正一四・八・二八 | 一五〇、〇〇〇 | 千円 | 同 | 上 | 市場資金の需要増加 |
| 〃 | 二三〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 百分の七 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 九・二四 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 | 一五〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 二九 | 二〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 一〇・二八 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 | 一五〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 一一・二八 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 | 一七〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 二八 | 五〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 | 二〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 一二・一九 | 二三〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 一五・一・二五 | 二〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 三〇 | 二三〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 二・二七 | 一五〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 三・二七 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 三・三一 | 一三〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 四・二八 | 八〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 五・二九 | 三〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 六・一八 | 一五〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 二九 | 二二〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 七・一〇 | 一〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 二七 | 八〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 三一 | 一一〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 八・二七 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 九・二九 | 七〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 二六 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 一〇・二六 | 一〇〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |
| 〃 三〇 | 一三〇、〇〇〇 | 〃 | 同 | 上 | 同 |



## (二)　兌換銀行券制限外發行高一覽表

| 年月 | 發行高 | 年月 | 發行高 | 年月 | 發行高 |
|---|---|---|---|---|---|
| 明治一三・五月 | 五〇、〇〇〇・〇〇〇円 | 明治三〇・八月 | 九 | 明治三一・一二月 | 二四、〇二六、五六八・五〇〇円 |
| 二七・一二 | 四、一九七、五四九・〇〇〇 | 〃 | 一〇 | 三二・一 | 一四、〇四一、七七一・五〇〇 |
| 二八・五 | 一、九九三、四三三・〇〇〇 | 〃 | 一一 | 〃 一二 | 二〇、七三一、八三四・九四〇 |
| 六 | 一三、八一一、四九六・五〇〇 | 〃 | 一二 | 三三・一 | 二四、二六、一九・六〇 |
| 七 | 一三、〇七〇、六三三・五〇〇 | 〃 | 一 | 〃 三 | 一〇、八四三、六八三・六八〇 |
| 八 | 二〇、三四三、二六〇・五〇〇 | 三一・ | 一 | 〃 四 | 六、九〇〇、九二〇、四九〇 |
| 九 | 二〇、六七七、六〇五・五〇〇 | 〃 | 二 | 〃 六 | 一六、七四八、一〇六・〇〇〇 |
| 一〇 | 二七、六二三、六八〇・五〇〇 | 〃 | 三 | 〃 七 | 一七、四九六、九四二・九三〇 |
| 一一 | 三三、〇七一、三〇〇・五〇〇 | 〃 | 四 | 〃 八 | 一二、八三五、六八五・四九〇 |
| 一二 | 三五、〇六三、一四七・五〇〇 | 〃 | 五 | 〃 九 | 四、六六九、四九八・八三〇 |
| 二九・一 | 五〇、九五七、六三五・五〇〇 | 〃 | 六 | 〃 一〇 | 一三、九六五、四九八・一三〇 |
| 二 | 四四、四三四、二九八・五〇〇 | 〃 | 七 | 〃 一一 | 一五、四四七、八二一・七三〇 |
| 三 | 三六、四〇九、八四八・五〇〇 | 〃 | 八 | 〃 一二 | 四一、三二〇、九三五・二九〇 |
| 四 | 三、七六六、九五五・五〇〇 | 一〇 | | 三四・一 | 二一、九六四、一四九・一五〇 |
| 三〇・七 | 一〇、三五二、二五五・五〇〇 | 一一 | | 〃 二 | 三、六三二、三六・一〇 |

| | |
|---|---|
| 明治三四年・三月 | 五、一九一、三八九・六〇〇円 |
| 〃　四 | 六、六二四、四八五・五二〇 |
| 〃　五 | 四、八四〇、七九三・一三〇 |
| 〃　六 | 一五、一五一、三八六・九七〇 |
| 〃　七 | 六、七六九、〇五〇・八六〇 |
| 〃　八 | 一七、一六三、九六六・九六〇 |
| 〃　九 | 九、一二三、九八八・〇三〇 |
| 〃　一〇 | 三、二九二、三四〇・九九〇 |
| 〃　一二 | 三、七三八、三九五・〇五〇 |
| 三五・一 | 一三、九七九、五九九・二五〇 |
| 〃　一二 | 二、九七五、五三九・七八〇 |
| 三七・二 | 九三九、〇九三・三二〇 |
| 〃　三 | 一、〇三二、四七五・五八〇 |
| 〃　五 | 一一、八九〇、〇四四・三二〇 |
| 〃　六 | 一九、二七八、九三三・八一〇 |
| 〃　七 | 三、二三四、一六七・〇三〇 |
| 〃　八 | 三、〇七三、八三三・四四〇 |
| 〃　九 | 九、九六三、一八六・四二〇 |
| 〃　一〇 | 二、七八〇、一四七・一三〇 |
| 〃　一一 | 四三、一四五、二五〇・九六〇 |
| 〃　一二 | 八三、〇四四、三二五・八〇〇 |
| 三八・一 | 三五、一八三、三一〇・二九〇 |
| 〃　二 | 二三、九二三、八五二・一三〇 |
| 〃　三 | 二九、〇三九、三八五・七五〇 |
| 明治三八年・四月 | 一七、九二二、八七三・四八〇円 |
| 〃　五 | 一三、五六七、七五五・四六〇 |
| 〃　六 | 三七、七八一、四六三・六一〇 |
| 〃　七 | 四四、六九五、九三四・六八〇 |
| 〃　八 | 三八、八四三、二三八・五三〇 |
| 〃　九 | 三八、六四一、四九六・二六〇 |
| 〃　一〇 | 四五、〇一〇、〇四五・七八〇 |
| 〃　一一 | 五一、〇一八、五八八・五八〇 |
| 〃　一二 | 七七、一九五、七九二・五三〇 |
| 三九・一 | 三四、五〇九、三六四・二七〇 |
| 〃　二 | 一七、九九四、六六五・四八〇 |
| 〃　三 | 二六、三五九、三三〇・九九〇 |
| 〃　四 | 一六、一五三、四五九・二三〇 |
| 〃　六 | 一〇、九五四、四八一・九五〇 |
| 〃　八 | 二五、三四〇、九六八・四二〇 |
| 〃　九 | 一一、三八五、四一六・三六〇 |
| 〃　一〇 | 一八、九三三、五一七・八〇〇 |
| 〃　一一 | 二五、二四一、一〇一・二七〇 |
| 〃　一二 | 七四、五六四、〇三八・七八〇 |
| 四〇・一 | 五八、四二〇、〇九九・六四〇 |
| 〃　二 | 五三、九一八、〇五〇・三九〇 |
| 〃　三 | 五三、八一〇、八五六・八三〇 |
| 〃　四 | 三九、一三三、八四一・五八〇 |
| 〃　五 | 三四、五三二、四五五・一六〇 |
| 明治四〇年・六月 | 六四、七七三、九六九・八〇〇円 |
| 〃　七 | 五〇、五五七、〇二二・五五〇 |
| 〃　八 | 六四、二二〇、〇六〇・八三〇 |
| 〃　九 | 六二、九七二、四三一・五七〇 |
| 〃　一〇 | 六二、〇八七、五四四・〇五〇 |
| 〃　一一 | 五七、五九一、九七三・〇七〇 |
| 〃　一二 | 八八、二四一、九七九・七三〇 |
| 四一・一 | 八四、一九一、九四三・五三〇 |
| 〃　二 | 三九、四二三、九九五・一七〇 |
| 〃　三 | 三九、八〇九、三七四・五一〇 |
| 〃　四 | 一四、三三九、三〇三・三七〇 |
| 〃　五 | 一一、三三一、一六一・四五〇 |
| 〃　六 | 三一、六四二、二九〇・六一〇 |
| 〃　七 | 一九、四九八、一〇三・四七〇 |
| 〃　八 | 一四、一三一、五五九・二四〇 |
| 〃　九 | 一六、八九二、二五三・八九〇 |
| 〃　一〇 | 二三、七三三、五七五・三七〇 |
| 〃　一一 | 七、一七七、七八四・一一〇 |
| 〃　一二 | 六三、三三九、七五七・七六〇 |
| 四二・一 | 一一、八三六、四三五・八四〇 |
| 〃　一二 | 一四、九一九、九二六・〇〇〇 |
| 四三・一二 | 五九、二四三、四六三・〇〇〇 |
| 四四・一 | 三四、六六三、三六三・〇〇〇 |
| 〃　三 | 九、〇一〇、二五二・〇〇〇 |





| | |
|---|---|
| 〃　六 | 二〇、六〇九、一三一・五〇〇 |
| 〃　七 | 六、三八一、六九七・〇〇〇 |
| 〃　八 | 一七、六二三、三〇〇・〇〇〇 |
| 〃　九 | 一八、四八三、九六七・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 三〇、二八七、六一六・五〇〇 |
| 〃　一一 | 三三、六五六、七八三・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 八四、二四四、八九六・〇〇〇 |
| 四五・一 | 三八、二五四、八〇二・五〇〇 |
| 〃　二 | 一八、二七四、二九二・〇〇〇 |
| 〃　三 | 一七、一五四、五二五・五〇〇 |
| 〃　五 | 九六、六〇六・〇〇〇 |
| 〃　六 | 四一、七二五、九四七・〇〇〇 |
| 大正元・七 | 二一、〇六九、六〇九・五〇〇 |
| 〃　八 | 三三、六七九、四六八・〇〇〇 |
| 〃　九 | 二九、六七四、四九九・五〇〇 |
| 〃　一〇 | 四二、六七八、五七四・五〇〇 |
| 〃　一一 | 四九、八五一、四四五・五〇〇 |
| 〃　一二 | 八一、八九八、三二七・五〇〇 |
| 二・一 | 五五、〇六七、五三五・五〇〇 |
| 〃　二 | 一三、〇四八、六二六・五〇〇 |
| 〃　三 | 三〇、六九四、二九二・〇〇〇 |
| 〃　四 | 一三、四一八、九四九・〇〇〇 |
| 〃　五 | 一五、五七八、二二四・五〇〇 |
| 〃　六 | 三一、四一八、九九〇・五〇〇 |
| 〃　七 | 一三、七一七、二四四・五〇〇 |
| 〃　八 | 一三、九六三、八五五・〇〇〇 |
| 〃　九 | 二三、五二七、八八三・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 二八、四一三、四八一・〇〇〇 |
| 〃　一一 | 一四、九六八、六三八・五〇〇 |
| 〃　一二 | 八三、〇三三、八二七・五〇〇 |
| 三・一 | 三〇、三七九、四九九・〇〇〇 |
| 〃　二 | 二、〇五八、二〇〇・〇〇〇 |
| 〃　三 | 六、三一三、六六二・五〇〇 |
| 〃　六 | 二一、八五四、二四九・五〇〇 |
| 〃　八 | 二一、八四九、七九四・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 四七、三五二、〇九六・〇〇〇 |
| 四・八 | 四、六五七、九一二・〇〇〇 |
| 〃　九 | 四、二六二、八九四・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 七、二二四、五九六・五〇〇 |
| 〃　一一 | 六、九七三、九〇三・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 六一、七二〇、二一〇・五〇〇 |
| 五・一 | 二三、三三三、四五五・五〇〇 |
| 〃　六 | 三八、七一三、一五四・〇〇〇 |
| 〃　七 | 五、一一三、九八四・五〇〇 |
| 〃　八 | 二〇、八〇五、五二九・〇〇〇 |
| 〃　九 | 二〇、一一三、三〇七・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 三一、九〇九、四九五・五〇〇 |
| 〃　一一 | 四七、四一八、一九九・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 七〇、七〇五、四一〇・五〇〇 |
| 六・一二 | 六一、七五三、七一七・〇〇〇 |
| 七・六 | 四四、〇七〇、三三三・五〇〇 |
| 〃　七 | 五、一四二、四〇七・五〇〇 |
| 〃　八 | 八四、六九六、九一二・〇〇〇 |
| 〃　九 | 一一〇、六七八、三九三・五〇〇 |
| 〃　一〇 | 一三三、三五二、一一三・五〇〇 |
| 〃　一一 | 一〇一、五八四、五八二・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 三二一、八一三、七八五・〇〇〇 |
| 八・一 | 一九五、三九三、二一七・〇〇〇 |
| 〃　二 | 六八、一三三、七一六・〇〇〇 |
| 〃　三 | 七〇、七七〇、六八九・五〇〇 |
| 〃　四 | 五二、四三五、三四四・五〇〇 |
| 〃　五 | 一〇一、九八七、三八五・五〇〇 |
| 〃　六 | 二五四、九四二、二七〇・五〇〇 |
| 〃　七 | 一八五、九九九、二五二・五〇〇 |
| 〃　八 | 三三三、四〇七、三八七・五〇〇 |
| 〃　九 | 二六〇、一〇七、七九六・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 二七一、〇三六、七三六・〇〇〇 |
| 〃　一一 | 二四三、八二〇、三八三・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 四八三、一三四、四八三・五〇〇 |
| 九・一 | 三二一、五四一、九五八・〇〇〇 |
| 〃　二 | 三〇三、〇四六、二二一・〇〇〇 |
| 〃　三 | 三三七、三〇八、七四三・五〇〇 |

## 第三項　一圓券の發行繼續

| 年月 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正九・四 | 三九、一六一、八三五・〇〇〇 | 六、八〇〇・〇〇〇 | 七、八二〇・〇〇〇 | 七二、〇二〇・〇〇〇 | 二九、四二〇・〇〇〇 | 一〇、一二〇・〇〇〇 | 一四、七四〇・〇〇〇 | 二六〇、四四四・七四〇・〇〇〇 | 三〇四、一八五、五七五・〇〇〇 |
| 〃　五 | 二九、〇四四、六四二・〇〇〇 | 五、九〇〇・〇〇〇 | 六、二一〇・〇〇〇 | 六四、二一〇・〇〇〇 | 二四、九二〇・〇〇〇 | 九、三三〇・〇〇〇 | 一三、七二〇・〇〇〇 | 二四〇、四四四、七四〇・〇〇〇 | 二八四、〇四三、三八二・五〇〇 |
| 〃　六 | 二四九、七六三、一九九・五〇〇 | 四、九〇〇・〇〇〇 | 五、一四〇・〇〇〇 | 五四、一四〇・〇〇〇 | 二〇、九二〇・〇〇〇 | 八、一三〇・〇〇〇 | 一二、六二〇・〇〇〇 | 二〇七、〇三五、〇六三・五〇〇 | 二六〇、四四四、七四〇・〇〇〇 |
| 〃　七 | 七一、一六九、七八八・〇〇〇 | 一、四〇〇・〇〇〇 | 一、五四〇・〇〇〇 | 一五、四四〇・〇〇〇 | 五、九二〇・〇〇〇 | 二、三一〇・〇〇〇 | 三、五二〇・〇〇〇 | 五三、一〇四、〇一一・〇〇〇 | 二四九、〇三五、八四二・五〇〇 |
| 〃　八 | 五七、一〇四、〇一一・〇〇〇 | 一、〇〇〇・〇〇〇 | 一、一〇〇・〇〇〇 | 一一、〇〇〇・〇〇〇 | 四、二〇〇・〇〇〇 | 一、七一〇・〇〇〇 | 二、五二〇・〇〇〇 | 七二、五二一、八四五・〇〇〇 | 二〇五、七二六、二六六・五〇〇 |
| 〃　九 | 七二、五二一、八四五・〇〇〇 | 一、四〇〇・〇〇〇 | 一、五四〇・〇〇〇 | 一五、四四〇・〇〇〇 | 五、九二〇・〇〇〇 | 二、三一〇・〇〇〇 | 三、五二〇・〇〇〇 | 七三、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 八四、一七七、七九八・〇〇〇 | 一、四〇〇・〇〇〇 | 一、五四〇・〇〇〇 | 一五、四四〇・〇〇〇 | 五、九二〇・〇〇〇 | 二、三一〇・〇〇〇 | 三、五二〇・〇〇〇 | 七三、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一一・一二 | 一三六、〇三二、三六七・〇〇〇 | 一、九〇〇・〇〇〇 | 二、〇九〇・〇〇〇 | 二〇、九〇〇・〇〇〇 | 八、〇三〇・〇〇〇 | 三、一五〇・〇〇〇 | 四、七二〇・〇〇〇 | 一〇一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 大正一二・一 | 一六、六一七、二四四・〇〇〇 | 一、一〇〇・〇〇〇 | 一、二一〇・〇〇〇 | 一二、一〇〇・〇〇〇 | 四、六二〇・〇〇〇 | 一、七一〇・〇〇〇 | 二、五二〇・〇〇〇 | 七六、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　二 | 二六、三〇九、八三二・五〇〇 | 一、一〇〇・〇〇〇 | 一、二一〇・〇〇〇 | 一二、一〇〇・〇〇〇 | 四、六二〇・〇〇〇 | 一、七一〇・〇〇〇 | 二、五二〇・〇〇〇 | 七六、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　三 | 四八、四三四、五一五・〇〇〇 | 二、一〇〇・〇〇〇 | 二、三一〇・〇〇〇 | 二三、一〇〇・〇〇〇 | 八、八二〇・〇〇〇 | 三、二三〇・〇〇〇 | 四、八一〇・〇〇〇 | 一四一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　四 | 六四、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、八〇〇・〇〇〇 | 三、〇八〇・〇〇〇 | 三〇、八〇〇・〇〇〇 | 一一、七二〇・〇〇〇 | 四、五四〇・〇〇〇 | 六、四七〇・〇〇〇 | 一八八、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　五 | 五五、八二七、四二七・五〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　六 | 四八、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　七 | 四六、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　八 | 四五、八二七、四二七・五〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　九 | 四四、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 四三、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一一 | 四二、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一二・一 | 四一、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　二 | 四〇、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　三 | 三九、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　四 | 三八、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　五 | 三七、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　六 | 三六、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　七 | 三五、一七七、七九八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 大正一四・五 | 三五、一三二、八三二・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　六 | 二四九、〇三七、八六八・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　七 | 一三三、七二五、九九九・五〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　八 | 一九四、八九九、一九五・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　九 | 一四四、五六六、一〇〇・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一〇 | 一七七、五二八、八四〇・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一一 | 二〇七、九七一、七三二・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 〃　一二 | 二三五、〇九五、〇七三・〇〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |
| 昭和元・一二 | 二五二、〇九九、七三九・五〇〇 | 二、四〇〇・〇〇〇 | 二、六四〇・〇〇〇 | 二六、四〇〇・〇〇〇 | 一〇、〇八〇・〇〇〇 | 三、八九〇・〇〇〇 | 五、五七〇・〇〇〇 | 一六一、四四六、五三二・〇〇〇 | 二〇七、九四四、一四四・〇〇〇 |



明治政府は、金貨の最小額は五圓となりしを以て、日本銀行の發行する兌換券も亦五圓以上のものに限るべしとせられ、當初政府も此の方針の下に一方一圓銀貨の回收を圖ると共に、一圓券も亦漸次之を回收して其の再發行を爲さしめざることとし、之に代へて補助銀貨を增鑄發行することに決定したり。斯くて日本銀行は著々一圓券の回收に努め、年々多きは一千七百餘萬圓少きも五百萬圓を下らざる回收を爲したるを以て、明治三十年末に六千八百萬圓を示せし其の流通額は、三十六年四月には約一千九百萬圓に迄減少したり。然るに當時各地方共補助貨幣の拂底を告げ、往々取引上の支障を生ずるに至りしが、之れ主として一圓券及一圓以下の各種紙幣を引揚げたる結果にして、補助貨幣の增鑄發行も充分に之を補充し得ざりしに因れり。卽ち明治三十年末に於ける各種小額通貨の總額は一億二千萬圓なりしが、三十五年末には尙ほ一圓銀貨の流通するもの約三千萬圓ありしを以て、彼此綜合すれば小額通貨の減少は實に顯著なりしと云ふべし。之を表示せば次の如し。

| 年末 | 兌換券及紙幣 | | | 補助貨幣 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一圓兌換券 | 政府紙幣及銀行紙幣一圓及五十錢以下 | 小計 | 補助銀貨 | 白銅貨 | 銅貨 | 小計 | | |
| 明治三〇 | 六八、〇〇〇千円 | 七、八二〇千円 | 七五、八二〇千円 | 二九、四二〇千円 | 六、七四〇千円 | 九、三三〇千円 | 四五、四二〇千円 | | 一三一、三三〇千円 |
| 同　三一 | 五〇、九〇〇 | 五、一四〇 | 五六、〇四〇 | 四五、八一〇 | 七、六五〇 | 九、三三〇 | 六二、八〇〇 | | 一一八、八四〇 |
| 同　三二 | 四三、一〇〇 | 三、七二〇 | 四六、八二〇 | 五四、六二〇 | 八、一八〇 | 九、四五〇 | 七二、二五〇 | | 一二九、二一〇 |
| 同　三三 | 三四、一〇〇 | — | 三四、一〇〇 | 五七、二一〇 | 八、三三〇 | 九、四八〇 | 七四、九二〇 | | 一〇九、〇二〇 |
| 同　三四 | 二五、八〇〇 | — | 二五、八〇〇 | 五八、七六〇 | 八、六二〇 | 九、四八〇 | 七六、三六〇 | | 一〇二、一六〇 |
| 同　三五 | 二〇、一〇〇 | — | 二〇、一〇〇 | 五九、一四〇 | 八、七八〇 | 九、四八〇 | 七七、四〇〇 | | 九七、五〇〇 |

而して從來の經驗に依れば、小額通貨の需要は金融繁忙の時期に於て最も多きを常とするものなるが、明治三十六年頃は恰も市場沈靜の際なりしに拘らず、尚ほ且補助貨幣缺乏の聲を聞くに於ては爾後一般の商況活氣を加へ、金融益〻繁忙となり、而も一方に於て我一圓兌換券の流通益〻減少するに至らば、補助貨の缺乏愈〻甚しく、到底圓滑なる取引を見ること能はざるべきを以て、日本銀行は之が救濟策として、明治三十六年四月二十五日大藏大臣に對し、當分の間約二千萬圓を限り一圓兌換券の流通を認め、右流通高の內損傷の分引換の爲め、新に一圓券を製造するの許可を與へられたき旨稟請し、同年五月五日に至り、追て相達候迄當分の內現在の引揚殘高凡そ二千萬圓以內を限度として据置くべしとの許可を得、且此の際一回を限り新に一圓兌換券二千萬圓以內を製造し、汚染損傷のものと交換すべく、尤も市場の景況等により一圓券の引揚を必要とする場合には、更に相達すべき旨の指令に接せり。斯くて日本銀行は右指令の趣旨に遵ひ、一圓券流通殘高二千萬圓以內に於て、小額通貨の流通高を按排し來りたるが、其の後日露の風雲漸く急にして、殆ど干戈を交ふるの境に達せしかば、小額通貨の需要は著しく增大し、今後萬一出師等のことあらんか、之が需要は更に一層激甚ならんとするの狀況を示すに至れり。仍て同行は明治三十七年二月六日大藏大臣に對し、當分の內一圓券の流通高を五百萬圓增加して、合計二千五百萬圓とし度き旨稟議に及びしが、同月八日大藏大臣は事情已むを得ざるものとして之を認可するも、市場の景況等により一圓券の引揚を必要とする場合には、更に令達する所あるべき旨指令したり。然るに幾許もなく遂に露國と干戈を交ふるに至るや、一圓券の需要は果して急激に增加し、右認可額のみを以てしては猶ほ不足を告ぐるに至りしを以て、日本銀行は同年十月二十八日更に五百萬圓を增加して當分總額三千萬圓を流通せしむべしと爲し、此の旨大藏大臣に稟請して、十一月二日前回と同樣の條件を以て其の認可を得、爾後一般需要の緩急に依り適宜流通高を伸縮し、以て世上の便益を圖れり。而して此の如く一圓券の發行額を增加するに從ひ、損傷券も亦自ら增加するは數の免れざる所なるも、必要に迫り俄に多額の一圓券を製造することは、到底及ぶべからざる所なるを以て、日本銀行は緩急を見計ひ適宜製造し、出來の都度之を上申することに改めたき旨、明治三十八年四月二十八日大藏大臣に稟請し、同年五月六日を以て認可せられしに依り以後同行に於て緩急を見計ひ、適宜之を製造することとなれり。

以上述べし所の如く一圓券は政府に於て夙に回收の計畫ありしに拘らず、經濟社會の實情は容易に之が回收を完了せしめざるものありしが、尋いで大正時代に入るや、世界大戰の影響に依り小額貨幣の需要著しく增加し、一般市場は補助貨の拂底を來し、小額取引の困難を生ずるに至りしが故に、日本銀行は大正五年五月九日又復一圓兌換券の殘高增加の件を上申して、六月八日大藏大臣の認可を得る所となり、茲に明治三十七年十一月二日附を以て認可せられたる右殘高三千萬圓は三千五百萬圓に增加せらるることとなれり。而も小額貨幣の需要は爾來增加の一途を辿り、補助貨の供給之に伴はず、小額取引の困難は一層甚だしきを加ふるのみなりしを以て、日本銀行は同年十月二十四日更に五百萬圓を增加し、合計四千萬圓迄の流通殘高認可方を申請するに至れり。今同年一月以降十月二十日に至る各月末に於ける一圓兌換券の流通殘高を見るに左の如し。以て其の需要增加の傾向頗る顯著なるものありしを知るべし。

| | 發行許可高三〇、〇〇〇、〇〇〇圓 |
|---|---|
| 大正五年一月末 | 二八、七八三、五〇三・〇〇 圓 |
| 二月末 | 二八、九一〇、二九九・五〇 |

| | |
|---|---|
| 大正五年三月末 | 二八、八一九、九二九・五〇 円 |
| 四月末 | 二八、七九九、一九二・〇〇 |
| 五月末 | 二九、〇〇二、一八九・五〇 |
| 六月末 | 二九、五六六、九九四・〇〇 |
| 七月末 | 三〇、二八三、七九二・〇〇 |
| 八月末 | 三一、八九八、〇九六・五〇 |
| 九月末 | 三三、九〇三、〇一七・〇〇 |
| 十月廿日 | 三三、五九七、三八八・五〇 |

六月八日より發行許可高三五、〇〇〇、〇〇〇圓

茲に於て大藏大臣は事情已むを得ざるものありとして、同月二十七日附を以て日本銀行稟申の趣を認可し、但し若し市場の狀況等に依り本券の回收を必要とするときは、更に指令することあるべきものとせり。斯くて一圓兌換券の需要は時局の影響を蒙りて次第に增加し、日本銀行に於ける其の發行高も亦漸く巨額に上りしが、此の勢は爾後益〻盛にして停止する所を知らず、日本銀行は數次に亙り之が發行殘高の增加を申請して其の許可を得たり。卽ち大正五年十二月四千五百萬圓に（十八日上申、二十一日認可）、大正六年六月五千五百萬圓に（二十五日上申、三十日認可）、大正八年十二月六千萬圓に（十一月二十九日上申、十二月八日認可）各增額せられ、而して政府は之が認可の場合には『市場の狀況等により本券の回收を必要とするときは更に指令すべし』との條件を附するを常とせり。

斯くの如くして曩に一旦回收整理の方針を採られし一圓兌換券は、一般社會經濟界の實情に基づき、一時の權宜として發行繼續を認められ、延々遂に大正末年に至れり。



# 第三節　準備及保證

## 第一款　種類及價格

兌換銀行券の發行に對する引換準備に就ては、當初兌換銀行券條例第二條に於て、發行高に對し相當の銀貨を置きて其の引換準備に充つべき旨を規定し、尙ほ發行手續第一條及第二條に於て、發行高を二百萬圓とし、之に對して相當の準備を置くべく、其の割合は大藏卿時々指定すべき旨を規定したり。其の後日本銀行の兌換銀行券處務規程を制定するや、其の第五條に於て上記の外本支店に保有する銀貨は、保護預りの外總て引換準備に充用し得ることと定めたるが、明治十八年五月前記發行手續第一條及第二條を改正し、發行高二百萬圓の制限を撤廢すると共に、發行高は融通の景況に依り大藏卿時々之を指定するものとせり。而して同月七日大藏卿より發行兌換券の員額は、當分の內引換準備金の現在高に應じ發行すべき旨を達示せられたるを以て、日本銀行は同日大藏卿に對し、同月九日より始めて兌換券を發行するに就ては、差當り二百萬圓の引換準備を置きて五百萬圓迄漸次發行し、爾後引換請求の景況に依りて其の割合を增減し、其の由上申すべき旨を屆出でたり。其の後明治二十一年八月・二十三年五月・三十年三月・三十二年三月に夫々準備保證及制限外發行に關して條例の改正ありしも、右に就ては第一節に於て詳述したるを以て茲に再敍せず。而して實際の發行に就て見るに、明治十八年五月九日より同年七月三十日迄は、發行高より本店手許有高を減じたる流通高に對し、同額以上の準備を（三回だけ例外あり）、同年七月三十一日より十九年三月末迄は流通高に對し同額

の準備保證を置き、更に二十四年三月以降は本店に手許有高を置かざるに至りしを以て、爾後に於ける發行高は卽ち流通高にして、其の間何等の差異なきこととなり、該發行高に對して同額の準備保證を置くこととなれり。後二十五年十二月十五日より二十六年十二月三十日迄は、官金勘定整理の爲め若干の手許有高を存したることありしも、發行高に對し同額の準備保證を置くことは從前と異なる所なかりき。準備保證の種類に就ては、當初は前記の如く總て銀貨なりしも、十八年八月よりは銀貨に交ふるに公債を以てし、次で十九年四月よりは金貨を、又同年八月よりは更に金塊を交へたるが要するに最初の二三箇月を除くの外金銀貨、地金銀を準備とし、公債證書、政府證券及手形等を以て保證に供したるものとす。

明治二十一年十二月二十一日、大藏大臣は日本銀行定款第八十八條乃至第九十一條の追加を命じたるが、右追加は第九十條を除くの外總て準備保證に關する條項にして、其の第八十八條竝に第八十九條に於て、兌換銀行券條例第二條第一項に依り、發行準備に充つる地金銀は舊金銀貨を除くの外、造幣相當以上の品位を有するものに限り、又同條第二項の保證に充つる證券は各種政府借入金證書、政府の保證に係る證券に限り、更に商業手形は正式の爲替手形、約束手形に限るべく、此等の準備及保證價格は重役集會に於て決議し、大藏大臣の許可を受くべき旨を規定せり。而して明治三十二年一月以降實施に係る內規第八十五條及第八十六條に於ては、準備及保證の價格は重役集會の決議、監事集會の承認を經て大藏大臣の認可を受くべく、又兌換銀行券を發行還收するときは、其の金額竝に準備保證の種類を重役集會に提出して、其の承認を受くべき旨を規定したり。次で兌換銀行券取扱順序を定め、同年七月一日より之を實施したるが、今該順序中準備保證に關する規定の要旨を摘錄すれば次の如し。

發行兌換券ニ對スル準備保證ノ價格割合標準竝ニ準備保證受授ノ數量ヲ左ノ通リ定メ其中價格割合ハ重役集會ノ決議監事集會ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

（一）金　貨　法定價格ニ據リ各種類ノ金額ヲ以テ受授ス

（二）金地金

甲、金貨證書　券面金額ニ據リ價格ヲ定メ枚數及ヒ券面金額ヲ以テ受授ス

乙、外國貨幣　各國貨幣ノ單位ニ據リ價格ヲ定メ各國別ノ貨幣面額ヲ以テ受授ス

丙、舊貨幣　各種類ニ據リ價格ヲ定メ各種類ノ個數ヲ以テ受授ス

丁　定型金塊　純金量目ニ據リ價格ヲ定メ個數及ヒ全量、含有物量、純金量ヲ以テ受授ス

戊、雜金塊　純金量目ニ據リ價格ヲ定メ全量、含有物量、純金量ヲ以テ受授ス

（三）公債證書　券面金額ニ據リ價格ヲ定メ各種類ノ枚數及ヒ金額ヲ以テ受授ス

（四）大藏省證券　券面金額ニ據リ價格ヲ定メ枚數及ヒ券面金額ヲ以テ受授ス

（五）政府證券　同　前

（六）證　券　同　前

（七）商業手形　券面金額ニ據リ價格ヲ定メ各種類ノ枚數及ヒ券面金額ヲ以テ受授ス

次に準備及保證價格の沿革を見るに、最初は總て買入値段を以て計算せしも、明治二十一年八月二十四日より之を改定したり。先づ準備に就て見るに、金貨は貨幣面百圓に付百三十圓、金地金は品位量目を定めて金貨準備價格の割とし、而して金貨及金地金共三箇月毎に重役集會の決議により、金貨相場の變動に從ひ其の價格を改定すべく、尤も金貨相場にして臨時非常の高低ある場合には時々臨時集會の決議を以て改定すべく、又銀地金は品位量目を定め、價格は銀貨鑄造の割と定めたり。而し

て右の内金銀地金には舊貨幣外國貨幣金銀塊の三種あるを以て、同年九月三日之が價格算出の方法を左の如く定めたり。

（一）舊貨幣　舊金銀貨幣價格表に據り金貨竝に銀貨に算出し、金貨には尚ほ準備保證價格を乘ずること。

（二）外國金銀貨　貨幣條例備考外國金銀貨幣價格表に據りて我金貨に算出し、之に尚ほ準備保證價格を乘ずること。

（三）金銀貨　大藏省布達第十五號造幣規則に據り金貨竝に銀貨に算出し、尚ほ金貨には準備保證價格を乘ずること。

其の後金貨貨幣面百圓に對する價格は、明治二十七年十一月三十日百七十圓に、同年十二月十五日百八十圓に、同月十七日百九十圓に、二十八年五月二十一日百八十圓に、三十年五月二十八日二百圓に改定したるが、同年十月一日以降貨幣法の實施せらるると共に、新金貨の價格は貨幣面と同一と爲し舊金貨の價格は從前の通り二百圓と定めたり。又地金は品位量目を定め、金貨と同一なる割合に依り其の價格を算出するの定なるを以て、上記金貨價格の改正に隨ひ、自然其の變更ありしは勿論なり。尋で明治三十二年七月一日左の如き詳細なる價格を定めたるが、右價格は爾後何等改正する所なく以て大正末年に及べるものとす。尚ほ在外正貨の準備價格に就ては次款を參照すべし。

金貨證券　證書面金額百圓ニ付價格百圓

外國貨幣

英國金貨

一磅ニ付價格九圓七十三錢五毛

米國金貨

佛國金貨

獨國金貨

露國金貨

一弗ニ付價格二圓三厘四毛

一法ニ付價格三十八錢四厘五毛

一馬ニ付價格四十七錢六厘一毛

一留ニ付價格一圓二錢七厘

舊貨幣

慶長武藏小判　一個ニ付價格二十圓二十四錢

同　一分判　一個ニ付價格五圓六錢

元祿小判　一個ニ付價格十三圓三十三錢

同　一分判　一個ニ付價格三圓三十三錢

元祿二朱判　一個ニ付價格一圓六十六錢

乾字小判　一個ニ付價格十圓三十五錢

同　一分判　一個ニ付價格二圓五十八錢

享保小判　一個ニ付價格二十圓三十六錢

享保一分判　一個ニ付價格五圓九錢

元文（眞文）小判　一個ニ付價格十一圓三十三錢

元文（眞文）一分判　一個ニ付價格二圓八十三錢

文政（同）二分判　一個ニ付價格四圓八十九錢

同（草文）小判　一個ニ付價格九圓七十五錢

同（同）一分判　一個ニ付價格二圓四十三錢

一朱金　一個ニ付價格二十二錢

文政（草文）二分判　一個ニ付價格四圓二十四錢

| | |
|---|---|
| 天保小判 | 一個ニ付價格八圓四十七錢 |
| 同　一分判 | 一個ニ付價格二圓十一錢 |
| 古二朱金 | 一個ニ付價格六十四錢 |
| 五　兩　判 | 一個ニ付價格三十七圓六十錢 |
| 安政小判 | 一個ニ付價格六圓八十一錢 |
| 同　一分判 | 一個ニ付價格一圓七十錢 |
| 同　二分判 | 一個ニ付價格一圓五十一錢 |
| 新　小　判 | 一個ニ付價格二圓五十三錢 |
| 新一分判 | 一個ニ付價格六十三錢 |
| 新一朱金 | 一個ニ付價格二十二錢 |
| 新（德）二分判 | 一個ニ付價格九十一錢 |
| 慶長大判 | 一個ニ付價格百四十七圓九十三錢 |
| 享保大判 | 一個ニ付價格百四十七圓九十三錢 |
| 天保吹增大判 | 一個ニ付價格百四十七圓九十三錢 |
| 元祿大判 | 一個ニ付價格百十四圓四十六錢 |
| 新　大　判 | 一個ニ付價格五十一圓五十七錢 |
| 金　塊 | 純金量目一匁ニ付價格五圓 |

次に保證價格中國債に對する價格算定方に就て述べんに、當初は日本銀行の買入値段と同一と爲し、尋で明治二十一年八月以降日本銀行貸出金の抵當價格と同一と定め、更に其の後或は時價を標準とし、或は所有價格の變更に伴ひて改正したることありしが、三十二年五月に至り日本銀行抵當價格若くはそれ以内と定め、尋で時價を標準として改定を行ひ來れり。然るに其の後抵當品擔保價格取扱方の改正等ありしに拘らず、保證價格の改定之に伴はざるものありしかば、國債の保證價格は抵當品擔保價格よりも、却て高位にある結果を招來するに至れり。茲に於て大正七年頃には日本銀行所有價格竝に或種の國債の時價等國債の保證價格算出方をも改正し、以後所有價格に大體の標準を置くこととし、尚ほ五分利附竝に四分利附國債に對しては銘柄を問はず、夫々一定價格を適用することに改めたり。而して爾來此等兩種の國債に就ては特別の事情に依り、特に價格を定むる場合を除き、從來の如く其の發行の都度一々價格を定めて認可を受くるの手續を要せざるに至りしものとす。

## 第二款　在外正貨準備

發行兌換券の準備は固より國內に於ける正貨及有價證券を以て原則とすべきは當然に屬すと雖も、我財政經濟の事情に依りては必ずしも此の原則に賴ることを得ず、一時の權宜として在外の正貨及有價證券を準備に充當せしことありしが、後ち此の變則は寧ろ常態と化し十數年の久しきに亙りて施行せられ、之に對する世論も少からざりしを以て、今玆に其の顚末を說述すべし。

抑日清戰後に於て、日本銀行の政府貸上金殘高は巨額に達して、保證準備發行の餘力殆ど盡き、正貨準備も亦著しく減少したりしを以て、同行は明治二十八年五月制限外發行の許可を得、以て戰後經營の爲に必要なる資金融通の途を開けり。而して戰後の財界好況と共に、資金の需要は益旺盛にして他方政府への貸上金も著しく增加したる爲め、同年末には五千五百萬圓なる未曾有の制限外發行を

見るに至りしが、若し此の際政府が倫敦に於て收受せる清國賠償金を國内に取寄せ、此の借入金を返濟するものとせば、兌換券の制限外發行も爾く巨額に上るを要せざりしなり。茲に於て政府は、翌二十九年三月頃より次第に償金を取寄せて其の借入金の返濟に充つることと爲し、日本銀行は之が到著と同時に正貨準備を增加せし爲め、制限外發行は漸次減少に傾きたり。然れども、他方國際金融の關係上、一擧に償金を回送し得ざる事情もありし爲め、同年五月償金特別會計法の規定に據り、始めて所謂預合勘定なるものを開き、在英國の償金五千萬圓を其の儘日本銀行の正貨準備に充つることとせり。之れ抑、在外正貨準備の嚆矢にして、其の結果日本銀行の正貨準備は俄然增加し、同時に制限外兌換券は之を全く回收することを得たり。而して元來預合勘定なるものは、政府が倫敦に於て貯藏する所の正貨を其の儘日本銀行に預入れ、日本銀行に於ては之を準備として兌換券を發行するものにして、斯かる準備方法により兌換券を發行するときは、世上往々金融界に於ける資金需要の實際狀況を辨別するに苦むことなきにあらず。仍て日本銀行は明治三十年三四月の頃より漸次政府預金を返濟することと爲し、從來政府預金の下に發行したる兌換券、換言すれば在外正貨を準備として發行したる兌換券は、保證準備の增加を以て補塡することに努めたり。斯くて日清戰後の在外正貨準備は其の後漸次消滅するに至りしと雖も、尋で明治三十六年末より大正十一年下半季に亙り、事情已むを得ざる場合に於ては、復た屢、在外正貨準備の方法により兌換券の發行を見るに至れり。卽ち明治三十六年十二月十四日には、年末金融に際し資金の需要增加せしを以て、三十日間の期限を付して倫敦代理店の保管英貨を準備として發行することの認可を受け、翌三十七年二月十日には更に同上英貨を準備とする發行を認可せられたり。而して同年日露の間戰端を開くに及び、政府は海外に於て公債を募集し、其の募債金を以て日本銀行に對する借入金の返還に充當することと爲したるを以て、日本銀行の在外資金は著しく增加したるも、直に同額の正貨を取寄するときは、歐米の金融市場を動搖するの虞ありしが爲め、政府は時局中の變通策として、六月二十九日英國大藏省證券（通知預金）を準備とする發行を許可し、翌三十八年二月四日には更に對外金融政策の資金に供する爲め、正金銀行倫敦支店への通知預金を準備とする發行をも許容したり。尤も前記英國大藏省證券は其の後現品少くして買入意の如くならざりしが、一方英蘭銀行に對する預金は追々增加せしを以て、政府は將來を慮りて明治三十八年五月十七日、別に英國國庫債券を準備とする發行を許可するに至れり。其の後三十九年三月五日に至り、日本銀行より三十七年六月二十九日付許可の件に關し、時局後となりたる今日如何に處理すべきやの伺出ありたるに對し、政府は財政經濟上の狀況常時に復するを見計ひ機宜を誤らざる樣圓滑に回收すべき旨示達する所あり、日本銀行亦其の趣旨に基きて處理し來りしが、大正三年歐洲大戰勃發し、在外正貨の漸次增加するに伴ひ、大正四年十二月二十日には日本銀行紐育代理店保有の定期預金を、同二十二日には同じく紐育代理店保有の當座預金を、各準備として兌換券を發行し、以て年末資金の需要に應ずることを許可せられ、大正七年十一月二十五日には米貨英國大藏省證券を、翌八年九月十五日には米貨佛國大藏省證券を各準備とする發行を許可せられたり。

斯くて大正三年以來日本銀行の在外正貨準備充當額は漸次增加したるが、由來在外正貨を正貨準備に充當するの可否に就ては世論紛々たるものあり、就中大正八年頃に至り在外正貨準備益增加しつつも當時物價騰貴に關聯して通貨收縮論盛に唱道せられしかば、茲に該問題を動機として、日本銀行

在外正貨準備繰入制限問題の擡頭を見るに至れり。尙ほ之と共に當時世上に最も多く論議せられしは、在外正貨の繰入に伴ふ日本銀行の二重利得論之なり。其の說に曰く、現時の如く在外正貨を準備に繰入れ、之を引當に兌換券を發行するに於ては、日本銀行は一方に於て在外正貨を銀行預金若くは短期證券等に放資して相當の利息を受取り得ると共に、他方內地に於ては右繰入額に相當する兌換券を發行し、之を民間に貸出して利得することとなり、明かに其の發行銀行たる特權を利用して二重の利を貪るものなるを以て、宜しく之を國庫に納付せしむるか又は特別課稅を爲すを至當とすと。斯かる二重利得論に對し日本銀行は、凡そ正貨準備に繰入れらるる在外正貨は正しく同行の所有に屬し、擔保又は預り金の如きものにあらず、同行が之を所有するに際して發行したる兌換券は、畢竟其の買入の爲に發行したる兌換券と異なり、之に對して毫も利子を取得せず、從て在外正貨の準備繰入を以て二重利得なりと主張する論者は、日本銀行の手を離るる兌換券の全部を以て、貸出又は割引なりとする誤解を抱けるものなりと爲したり。尤も日本銀行の庫中に收藏せらるる正貨は何等の利益をも生ぜざるも、海外に於て運用するものに收益の實あるべきは之を否むべからざる所なりと雖も、大正八年當時の如き英貨續落の狀態に在りては、日本銀行は曾て買入れたる英貨の所有價格を切下げざるを得ず、旁前記利息收入の如きも之が補塡に充當するの外なき事情に在りしを以て、實際問題としても二重利得論は必ずしも正鵠を得しものとは認め得べからざりしなり。然れども在外正貨準備のことたる、本來一の變則的方法にして、一日も早く之を常道に復歸せしむべきは論を俟たざる所なり。玆に於てか日本銀行は大藏大臣に申請の上、大正八年十月二十七日、其の總額を原則として英米を通じて二億五千萬圓を限度として、機會あらば、漸次減



少することとし、且其の內容は英國にありては英蘭銀行、米國にありては聯邦準備銀行竝に大都市の大銀行の當座預金、又は短時日間に隨時引出し得べき性質の預金と爲し置くこととし、從來準備に充當中の大藏省證券、紐育代理店の當座預金及通知預金等は、同年十二月末迄に全部整理することとせり。爾後在外正貨を準備とする兌換券は、前記の原則に基きて引續き發行せられしが、大正十二年八月十九日に至り、政府は兌換券發行額の膨脹を抑止せんが爲め、兌換券の發行準備として從來充當せる在外正貨は、同月三十一日限り解除することを命じたるを以て、日本銀行は同月三十日之が解除を了し、斯くて爾後復た此の種の發行を見ざるに至れり。

尙ほ在外正貨の準備充當價格は、從來倫敦代理店保管の英貨は純分比價より本邦への回送費を控除したる金額を基礎として、一磅に付九圓六十錢、紐育代理店保管米貨は便宜上一弗に付二圓と定め保證に充當する場合に於ても亦準備價格に準じて取扱ひたり。然るに大正七年頃に至り右充當價格は當時日本銀行に於ける英貨及米貨の所有價格に比し高位となり、從て若し海外資金の大部分を發行の準備又は保證に充當する場合に於ては、其の價格は日本銀行の資產額を超過するが如き結果を生ずるの虞ありたるを以て、同行は大正七年十一月大藏大臣の認可を經て、在外正貨の充當價格は同行の所有價格を標準として、右より幾分低位に之を見積ることと爲し、差當り英貨は一磅に付九圓米貨は一弗に付一圓九十錢に引下ぐることとせり。尋で同年十二月所有價格の引下に伴ひ、英貨を一磅八圓七十五錢に、米貨を一弗一圓八十錢に引下げしが、其の後に於ても之が引下は屢〻行はれたり。卽ち英貨は大正八年六月一磅八圓五十錢に、同年十二月同じく七圓八十錢に、大正九年六月同じく七圓五十五錢に、同年十二月同じく七圓二十四錢に引下げられ、米貨は大正八年十二月一弗二圓に復し

たるも、翌九年六月再び一圓九十五錢に引下げられしが如し。

## 第三款　正貨及保證準備額

既記の如く兌換券の發行に對しては正貨準備及保證準備の兩種あり、正貨準備は金銀貨及地金銀より成り（但し銀貨及地銀は準備總額の四分の一を超過することを得ず）、保證準備は政府發行の公債證書・大藏省證券其の他確實なる證券又は商業手形より成る。而して正貨準備に對しては同額の兌換券を發行し得るものにして、保證準備に對しては一億二千萬圓を限りて發行し得べく、尙ほ市場の景況に依り通貨の增發を必要と認むるときは、大藏大臣の許可を得て、更に制限外發行を爲し得るものとす。而して正貨・地金銀及保證有價證券の價額算定方は第一款に述べたる如くなるが、此等の數額中には自然圓位以下の端數を生ずる場合なきにあらず。然るに明治四十二年六月一日以降準備の內舊貨幣新大判の一箇、倫敦代理店保管英國金貨の一磅、及保證の內商業手形の一部分を、所定の價格以內に於て夫々屆伸計算して、準備及保證の內譯及合計を圓位に止め、又若し發行高に五十錢の端數を存する場合には、保證商業手形に右同額の端數を存し、以て發行高に吻合せしむることと爲し、尋いで大正七年十二月十三日紐育代理店保管米國金貨をも右の例に倣ひ取扱ふこととせり。

今明治十八年五月の初發行以後大正末年に至る兌換準備及保證準備額、在外正貨準備の存在したる明治二十九年五月以降大正十二年八月迄の內外所在地別準備額、及正貨準備の兌換券總發行額に對する割合を表示すれば左の如し。

（一）　正貨準備及保證準備種類別表

| 期末 | | 正貨準備 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金貨 | 金塊 | 銀貨 | 銀塊 | 小計 | 金貨 | 金塊 | 銀貨 | 銀塊 | 小計 |
| 年 | 月 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 明治一八 | 六 | — | — | 四、〇五七、九九六・一四七 | — | 四、〇五七、九九六・一四七 | — | — | 三、三一一、四六一・〇〇〇 | — | 三、三一一、四六一・〇〇〇 |
| | 一二 | — | — | 三、三一一、四六一・〇〇〇 | — | 三、三一一、四六一・〇〇〇 | — | — | 一一、〇一〇、八九四・七〇〇 | — | 一一、〇六〇、八九四・七〇〇 |
| 一九 | 六 | 五〇、〇〇〇・〇〇〇 | — | 一一、〇一〇、八九四・七〇〇 | — | 一一、〇六〇、八九四・七〇〇 | — | — | 二三、五六〇、〇一四・三〇〇 | — | 二三、八五五、二三七・三〇〇 |
| | 一二 | 六一、九九四・〇〇〇 | 二三三、二二九・〇〇〇 | 二三、五六〇、〇一四・三〇〇 | — | 二三、八五五、二三七・三〇〇 | 二四、〇九七、四四五・一〇〇 | 二四、〇九七、四四五・一〇〇 | 二四、〇九七、四四五・一〇〇 | — | 二四、三九二、六六八・一〇〇 |
| 二〇 | 六 | 六一、九九四・〇〇〇 | 二三三、二二九・〇〇〇 | 二四、〇九七、四四五・一〇〇 | — | 二四、三九二、六六八・一〇〇 | 三〇、九三四、六八一・二〇〇 | 三〇、九三四、六八一・二〇〇 | 三〇、九三四、六八一・二〇〇 | — | 三一、五七九、九〇四・二〇〇 |
| | 一二 | 六一、九九四・〇〇〇 | 五八三、二二九・〇〇〇 | 三〇、九三四、六八一・二〇〇 | — | 三一、五七九、九〇四・二〇〇 | 二九、二五八、五九五・四〇〇 | 二九、二五八、五九五・四〇〇 | 二九、二五八、五九五・四〇〇 | — | 三〇、五〇八、八一八・四〇〇 |
| 二一 | 六 | 六一、九九四・〇〇〇 | 一、一八八、二二九・〇〇〇 | 二九、二五八、五九五・四〇〇 | — | 三〇、五〇八、八一八・四〇〇 | 三〇、二四四、八三四・〇〇〇 | 三〇、二四四、八三四・〇〇〇 | 三〇、二四四、八三四・〇〇〇 | 二六、二四九・〇〇〇 | 四五、〇二三、八七一・〇〇〇 |
| | 一二 | 七一、五三七・〇〇〇 | 一四、六八〇、二五一・〇〇〇 | 三〇、二四四、八三四・〇〇〇 | 二六、二四九・〇〇〇 | 四五、〇二三、八七一・〇〇〇 | 二九、六七九、八三〇・〇〇〇 | 二九、六七九、八三〇・〇〇〇 | 二九、六七九、八三〇・〇〇〇 | 二六、二四九・〇〇〇 | 四六、〇二八、四九六・〇〇〇 |
| 二二 | 六 | 五一、五三七・〇〇〇 | 一六、二七〇、八八〇・〇〇〇 | 二九、六七九、八三〇・〇〇〇 | 二六、二四九・〇〇〇 | 四六、〇二八、四九六・〇〇〇 | 三一、七八四、四一八・〇〇〇 | 三一、七八四、四一八・〇〇〇 | 三一、七八四、四一八・〇〇〇 | 七四、一五九・〇〇〇 | 五七、四〇九、二九九・〇〇〇 |
| | 一二 | 五一、五三七・〇〇〇 | 二五、四九九、一八五・〇〇〇 | 三一、七八四、四一八・〇〇〇 | 七四、一五九・〇〇〇 | 五七、四〇九、二九九・〇〇〇 | 二六、三五一、九五六・〇〇〇 | 二六、三五一、九五六・〇〇〇 | 二六、三五一、九五六・〇〇〇 | 七九、六三四・〇〇〇 | 五〇、七二六、八三七・〇〇〇 |
| 二三 | 六 | 三一、五三七・〇〇〇 | 二四、二六三、七一〇・〇〇〇 | 二六、三五一、九五六・〇〇〇 | 七九、六三四・〇〇〇 | 五〇、七二六、八三七・〇〇〇 | 一九、五四九、〇六九・〇〇〇 | 一九、五四九、〇六九・〇〇〇 | 一九、五四九、〇六九・〇〇〇 | 七九、六三四・〇〇〇 | 四四、六二三、四一三・〇〇〇 |
| | 一二 | 三〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二四、九六三、七一〇・〇〇〇 | 一九、五四九、〇六九・〇〇〇 | 七九、六三四・〇〇〇 | 四四、六二三、四一三・〇〇〇 | 二三、〇八六、四八三・〇〇〇 | 二三、〇八六、四八三・〇〇〇 | 二三、〇八六、四八三・〇〇〇 | 三、四一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 五三、二二四、一七五・〇〇〇 |
| 二四 | 六 | 八〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二六、六四七、六九二・〇〇〇 | 二三、〇八六、四八三・〇〇〇 | 三、四一〇、〇〇〇・〇〇〇 | 五三、二二四、一七五・〇〇〇 | 二九、八五一、一四一・〇〇〇 | 二九、八五一、一四一・〇〇〇 | 二九、八五一、一四一・〇〇〇 | 六、〇三八、〇〇〇・〇〇〇 | 六三、一七八、三三三・〇〇〇 |
| | 一二 | 五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二七、二三九、一九二・〇〇〇 | 二九、八五一、一四一・〇〇〇 | 六、〇三八、〇〇〇・〇〇〇 | 六三、一七八、三三三・〇〇〇 | 三三、〇四六、三五六・〇〇〇 | 三三、〇四六、三五六・〇〇〇 | 三三、〇四六、三五六・〇〇〇 | 九、三一九、四九二・〇〇〇 | 六五、一〇六、〇四八・〇〇〇 |
| 二五 | 六 | 五〇、〇〇〇・〇〇〇 | 二三、六九〇、二〇〇・〇〇〇 | 三三、〇四六、三五六・〇〇〇 | 九、三一九、四九二・〇〇〇 | 六五、一〇六、〇四八・〇〇〇 | 四一、四六八、五七三・〇〇〇 | 四一、四六八、五七三・〇〇〇 | 四一、四六八、五七三・〇〇〇 | 一七、八八三、四九二・〇〇〇 | 八一、一五八、二六五・〇〇〇 |
| | 一二 | — | 二一、八〇六、二〇〇・〇〇〇 | 四一、四六八、五七三・〇〇〇 | 一七、八八三、四九二・〇〇〇 | 八一、一五八、二六五・〇〇〇 | 四三、七六六、三三二・〇〇〇 | 四三、七六六、三三二・〇〇〇 | 四三、七六六、三三二・〇〇〇 | 二一、九三三、四九二・〇〇〇 | 八七、五〇六、〇二四・〇〇〇 |
| 二六 | 六 | — | 二一、八〇六、二〇〇・〇〇〇 | 四三、七六六、三三二・〇〇〇 | 二一、九三三、四九二・〇〇〇 | 八七、五〇六、〇二四・〇〇〇 | 四〇、四五八、三九九・〇〇〇 | 四〇、四五八、三九九・〇〇〇 | 四〇、四五八、三九九・〇〇〇 | 二三、六六三、九一七・〇〇〇 | 八五、九二八、五一六・〇〇〇 |
| | 一二 | — | 二一、八〇六、二〇〇・〇〇〇 | 四〇、四五八、三九九・〇〇〇 | 二三、六六三、九一七・〇〇〇 | 八五、九二八、五一六・〇〇〇 | 三四、八六二、三一〇・〇〇〇 | 三四、八六二、三一〇・〇〇〇 | 三四、八六二、三一〇・〇〇〇 | 二三、九六四、四七八・〇〇〇 | 七九、六三二、九八八・〇〇〇 |
| 二七 | 六 | — | 二一、八〇六、二〇〇・〇〇〇 | 三四、八六二、三一〇・〇〇〇 | 二三、九六四、四七八・〇〇〇 | 七九、六三二、九八八・〇〇〇 | 三二、六〇九、二七三・〇〇〇 | 三二、六〇九、二七三・〇〇〇 | 三二、六〇九、二七三・〇〇〇 | 二六、七六四、〇六四・〇〇〇 | 八一、七一八、二九一・〇〇〇 |
| | 一二 | — | 三二、三四四、九五四・〇〇〇 | 三二、六〇九、二七三・〇〇〇 | 二六、七六四、〇六四・〇〇〇 | 八一、七一八、二九一・〇〇〇 | 三二、三四四、九五四・〇〇〇 | 三二、三四四、九五四・〇〇〇 | 三二、三四四、九五四・〇〇〇 | 二六、七六四、〇六四・〇〇〇 | 八一、七一八、二九一・〇〇〇 |